

坂出市
障がい者福祉計画および障がい福祉計画
当事者、一般市民アンケート調査
結果報告書

令和5年8月
坂出市

目次

I 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査設計	1
3 報告書の見方	1
II 調査結果（当事者）	2
1 回答者について	2
2 対象者について	3
(1) 性別	3
(2) 年齢	3
(3) 居住地区	4
3 心身の状況について	5
(1) 障がい者手帳について	5
(2) 障がい区分について	10
(3) 各種認定等について	12
(4) 医療について	14
(5) 支援について	20
4 あなたの生活のことについて	24
(1) 同居人について	24
(2) 暮らしの場所について	26
(3) 日中の過ごし方について	30
(4) 団体活動について	32
(5) 暮らしの中で大事にしていること	34
(6) 自由時間の過ごし方について	36
5 福祉サービスについて	42
(1) 各種サービスの利用状況と利用希望	42
(2) 情報の入手について	47
(3) サービスの利用について	51
6 仕事などについて	53
(1) 世帯収入について	53
(2) 経済状況について	55
(3) 就労について	56
(4) 就労支援について	71
7 障がい児への療育や教育について	73
(1) 通所・通学をされていて感じること	73
(2) 療育や教育について	75
(3) 発達支援について	79
8 生活全般について	81
(1) 困りごとや相談について	81
(2) 外出について	87

(3) コミュニケーションについて	92
(4) 障がい者差別について	95
(5) 成年後見制度について	103
(6) 災害時の行動について	106
(7) 地域共生社会について	110
(8) 障がい者にとって住みよいまちづくり	111
9 自由記述	113
Ⅲ 調査結果（一般市民）	116
1 回答者について	116
(1) 回答者の属性	116
(2) 身近な障がい者について	118
(3) 障がいのある人との関わりについて	120
2 障がいがある人の福祉への関心などについて.....	124
(1) 障がい福祉への関心度	124
3 障がいがある人の雇用について	126
(1) 障がい者の就労について	126
4 障がいがある子どもについて	129
(1) 障がい児の就学機会について	129
(2) 障がい児の教育環境について	130
5 障がいがある人に対する差別について	131
(1) 坂出市における差別や偏見の有無	131
(2) 「障害者差別解消法」について	133
6 まちづくりについて	135
(1) 地域共生社会について	135
(2) 障がい者にとって住みよいまちづくりについて	136
7 自由記述	137

I 調査概要

1 調査目的

市民の福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向等を把握し、坂出市障がい者福祉計画の中間見直し、および第7期障がい福祉計画の策定や施策推進に役立てるための基礎資料とするために実施するものです。

2 調査設計

(1) 調査対象

調査種別	調査対象者	抽出方法
当事者調査	坂出市在住の身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳の所持者	無作為抽出
一般市民調査	坂出市在住の18歳以上の方	無作為抽出

(2) 実施期間 令和5年6月27日～令和5年7月18日

(3) 調査方法 郵送による配布・回収（Webによる回答可）

(4) 配布・回収状況

調査種別	配布数	有効回収数	有効回答率
当事者調査	1,200	617	51.4%
一般市民調査	1,000	463	46.3%

3 報告書の見方

(1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示し、各比率はすべてを100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が100%にならないことがあります。

(2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は調査数を上回る場合があります。

(3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。また、グラフ中の数値が0.0%の項目は表示を省略しています。

(4) 身体・知的・精神の障がい種別クロス集計では、手帳の複数所持者や手帳所持不明者も含まれており、各障がい者別の合計値は全体の合計値と合いません。

Ⅱ 調査結果（当事者）

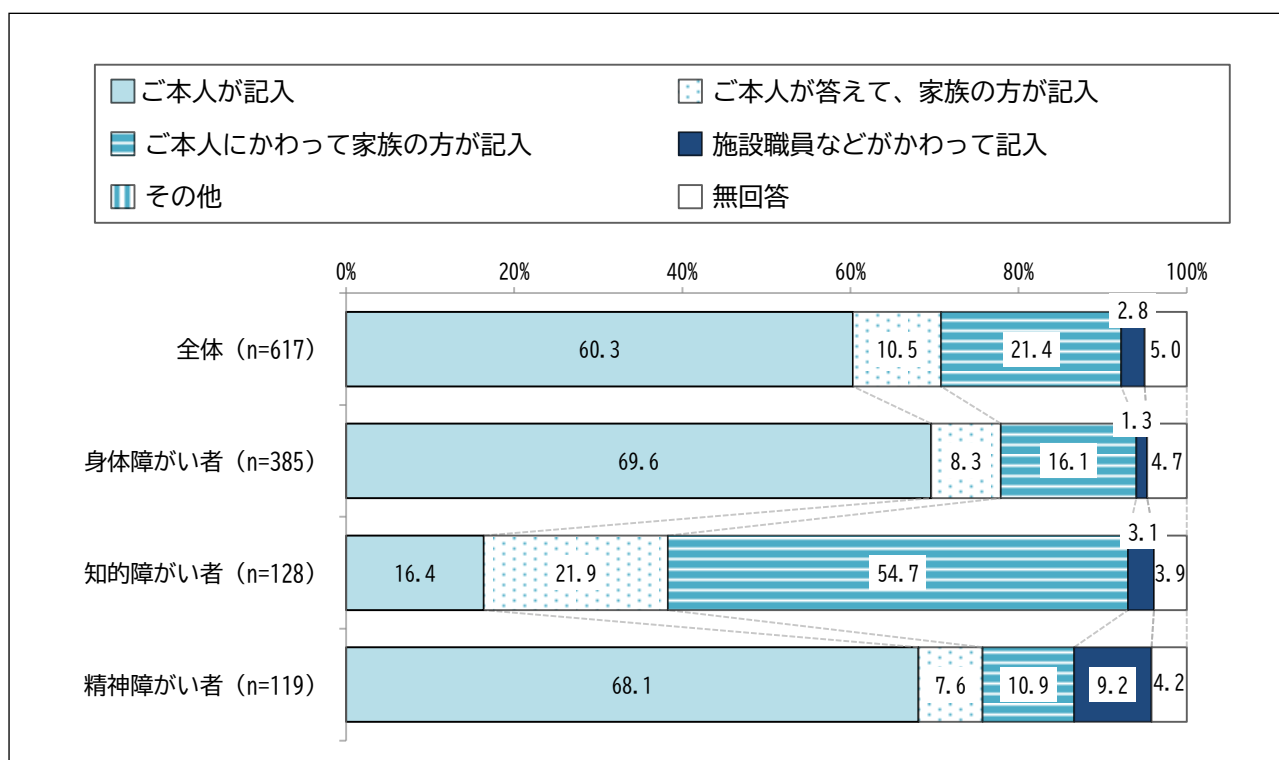
1 回答者について

調査に回答されるのはどなたですか。（1つに〇）

調査の回答者は、「ご本人が記入」（60.3%）が最も高くなっています。次いで、「ご本人にかわって家族の方が記入」（21.4%）、「ご本人が答えて、家族の方が記入」（10.5%）と続いています。

障がい別にみると、身体障がい者、精神障がい者では、「ご本人が記入」が6割以上を占めていますが、知的障がい者では、「ご本人にかわって家族の方が記入」が54.7%を占めています。

図表 1 回答者について（全体、障がい別）



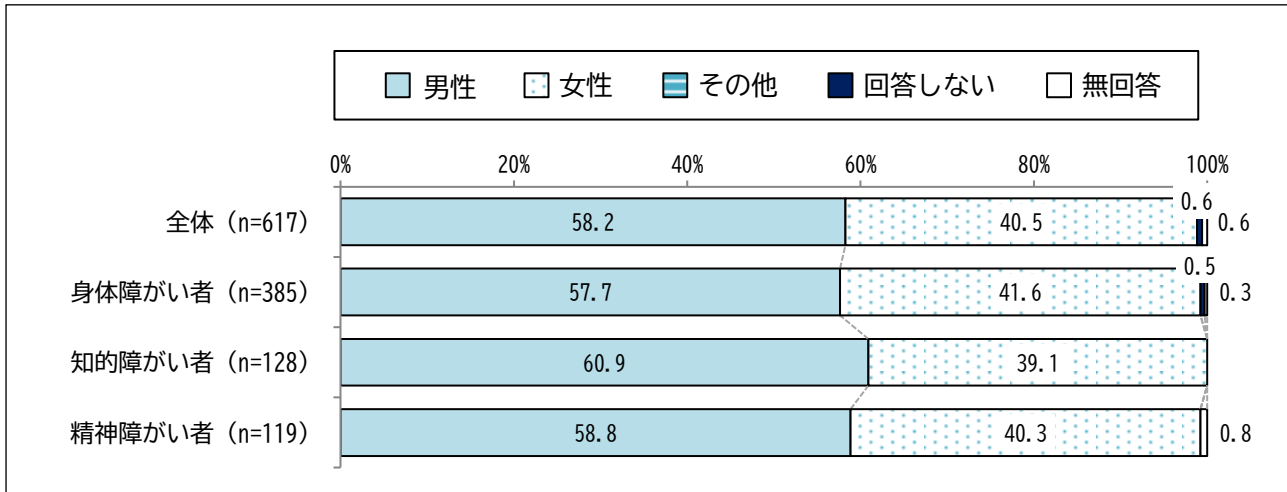
2 対象者について

(1) 性別

問1 あなたの性別を、おうかがいします。(1つに○)

対象者の男女比をみると、男性が58.2%、女性が40.5%となっています。また、障がい別にみても、いずれも同様の傾向がみられ、男性の割合が女性の割合を上回っています。

図表 2 本人の性別（全体、障がい別）

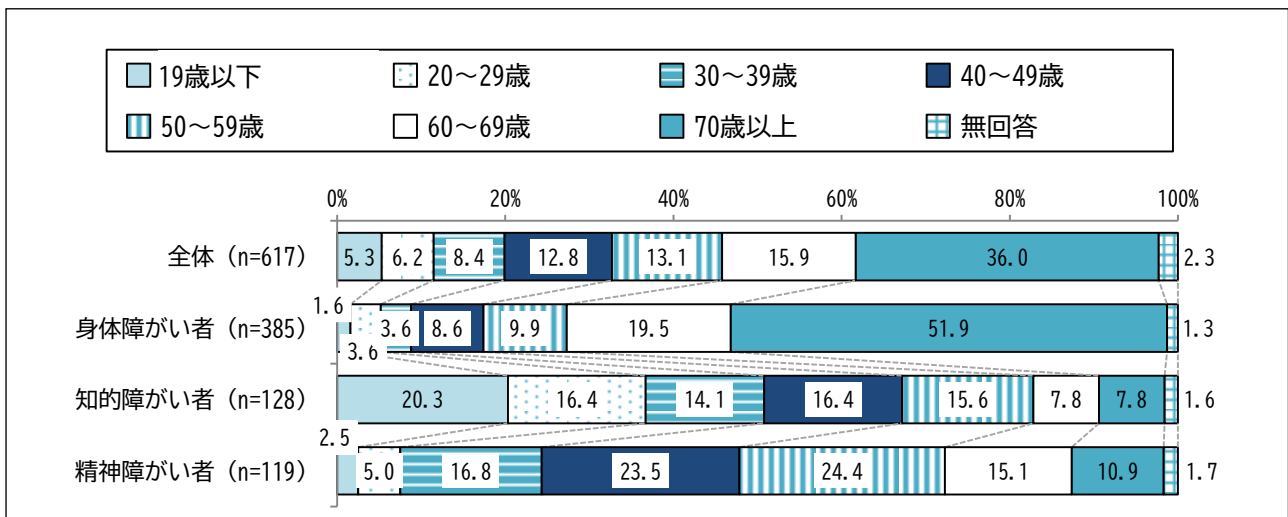


(2) 年齢

問2 あなたの年齢は、6月1日現在、満何歳ですか。

年齢をみると、身体障がい者では、「70歳以上」が最も高くなっています。一方、知的障がい者では、「19歳以下」、精神障がい者では、「50～59歳」が最も高くなっています。

図表 3 本人の年齢（全体、障がい別）

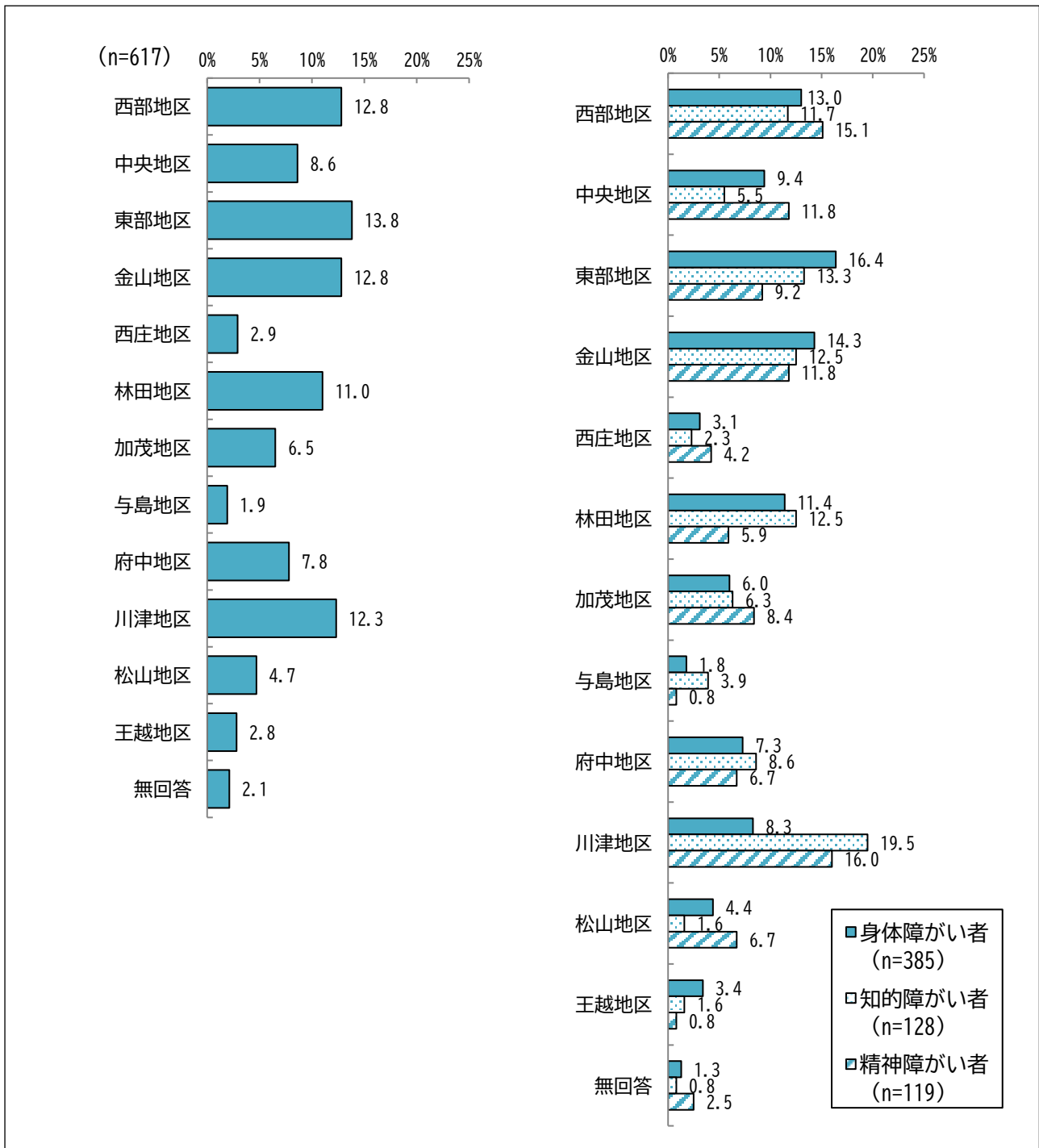


(3) 居住地区

問3 あなたのお住まいはどちらの地区ですか。(1つに○)

居住地区をみると、「東部地区」(13.8%)が最も高く、次いで「西部地区」「金山地区」(ともに12.8%)、「川津地区」(12.3%)、「林田地区」(11.0%)と続いています。

図表4 居住地区(全体、障がい別)



3 心身の状況について

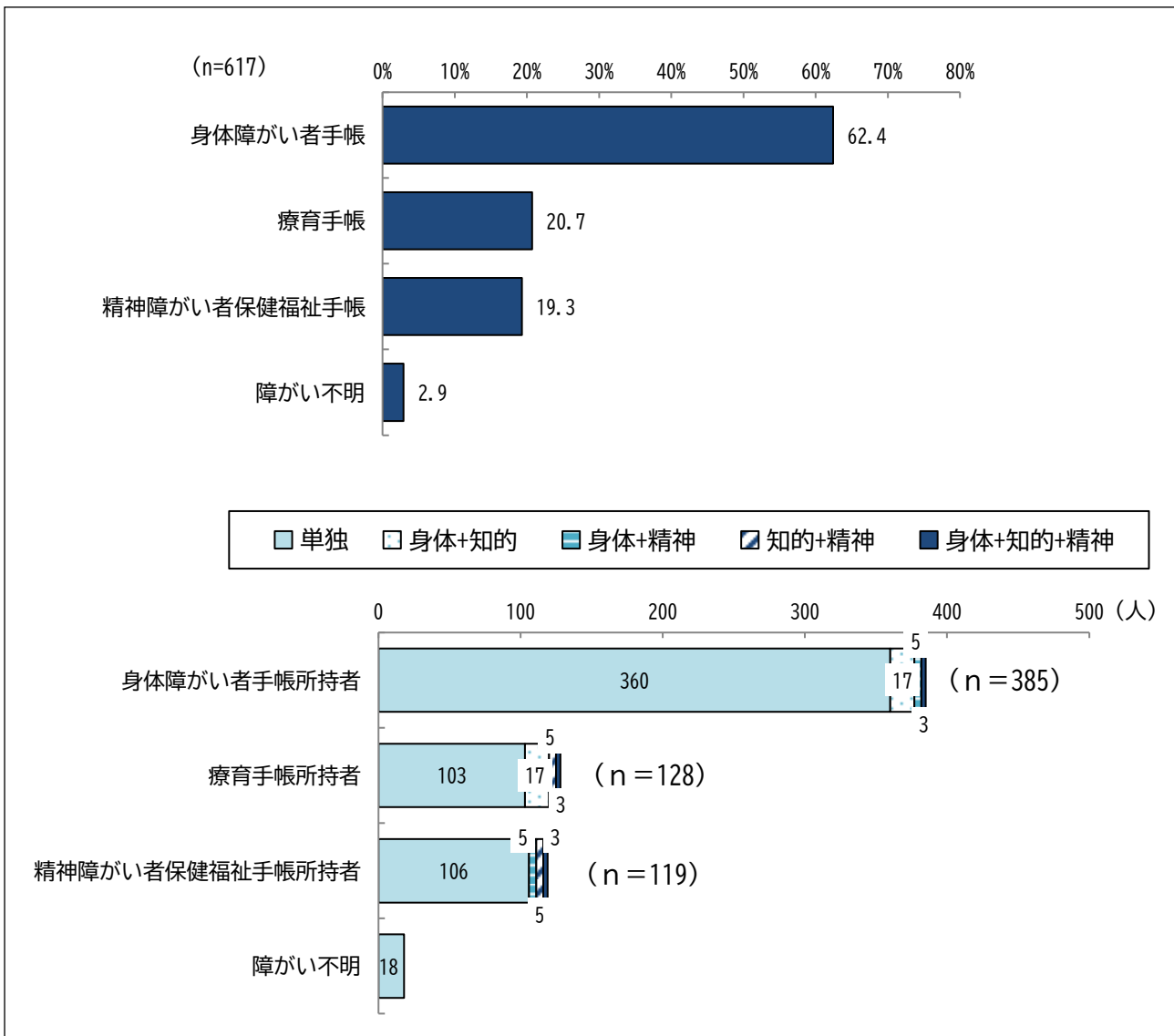
(1) 障がい者手帳について

問4 あなたは次の手帳をお持ちですか。お持ちの手帳の種類に○をつけてください。さらにお持ちの場合は手帳の等級もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

障がい者手帳の所持状況をみると、身体障がい者手帳所持者が 385 人 (62.4%)、療育手帳所持者が 128 人 (20.7%)、精神障がい者保健福祉手帳所持者が 119 人 (19.3%) となっています。

図表 5 障がい者手帳の所持状況 (全体/複数回答)



「※身体障がい者手帳について」

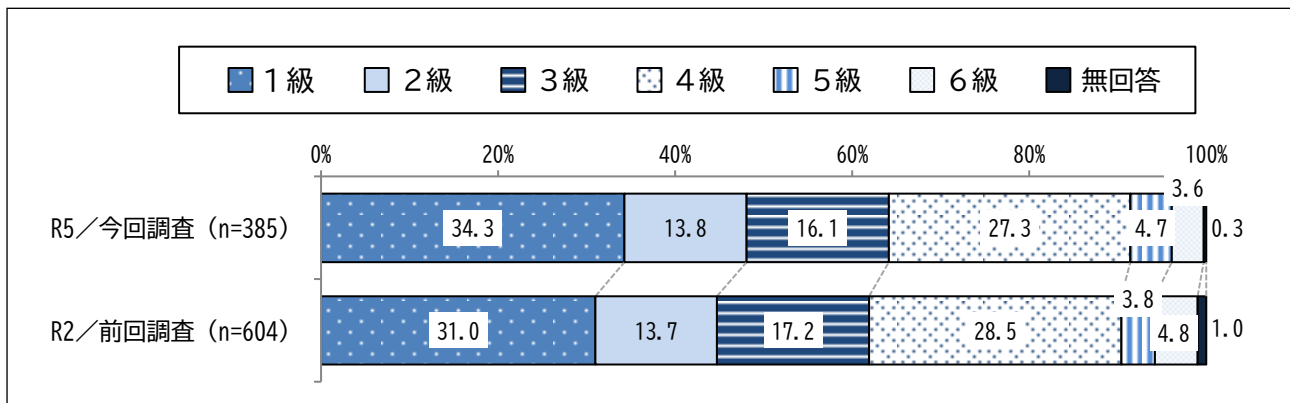
【全体の傾向】

身体障がい者手帳所持者では、「1級」(34.3%)が最も高くなっています。
 前回調査と比較すると、「1級」所持者が3.3ポイント増加しています。

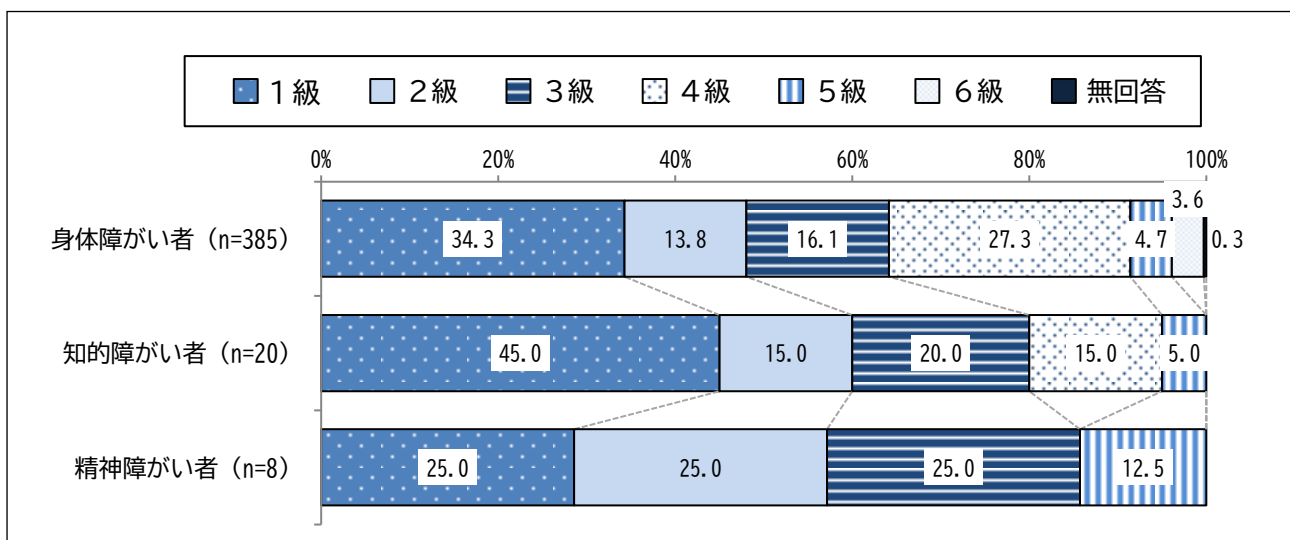
【属性別の傾向】

障がい別にみると、知的障がい者で身体障がい者手帳を所持している人では、「1級」(45.0%)が最も高く、精神障がい者で身体障がい者手帳を所持している人では「1級」から「3級」がそれぞれ25.0%を占めています。

図表 6 身体障がい者手帳の所持状況 (全体、前回比較)



図表 7 身体障がい者手帳の所持状況 (障がい別)



「※療育手帳について」

【全体の傾向】

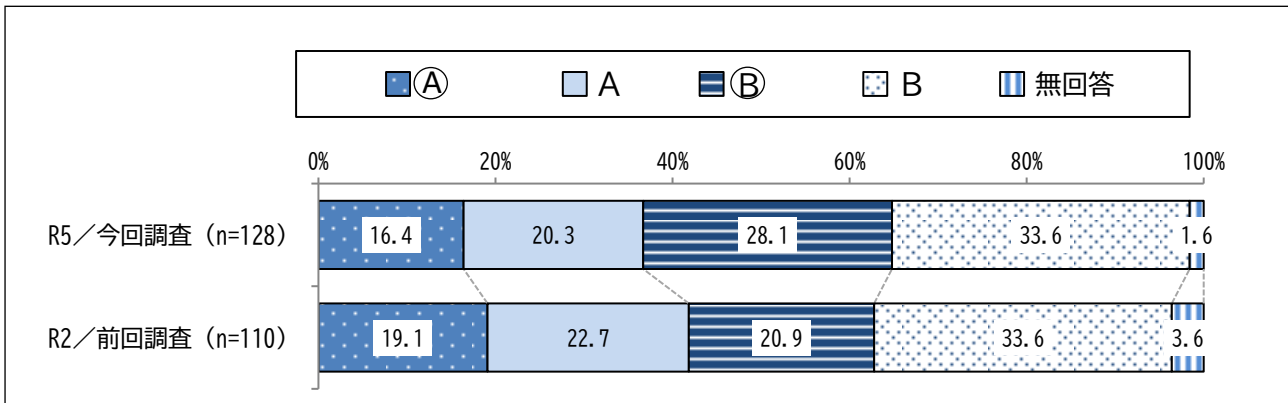
療育手帳所持者では、「B」(33.6%)が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「A」所持者が2.7ポイント、「A」が2.4ポイント減少し、「B」が7.2ポイント増加しています。

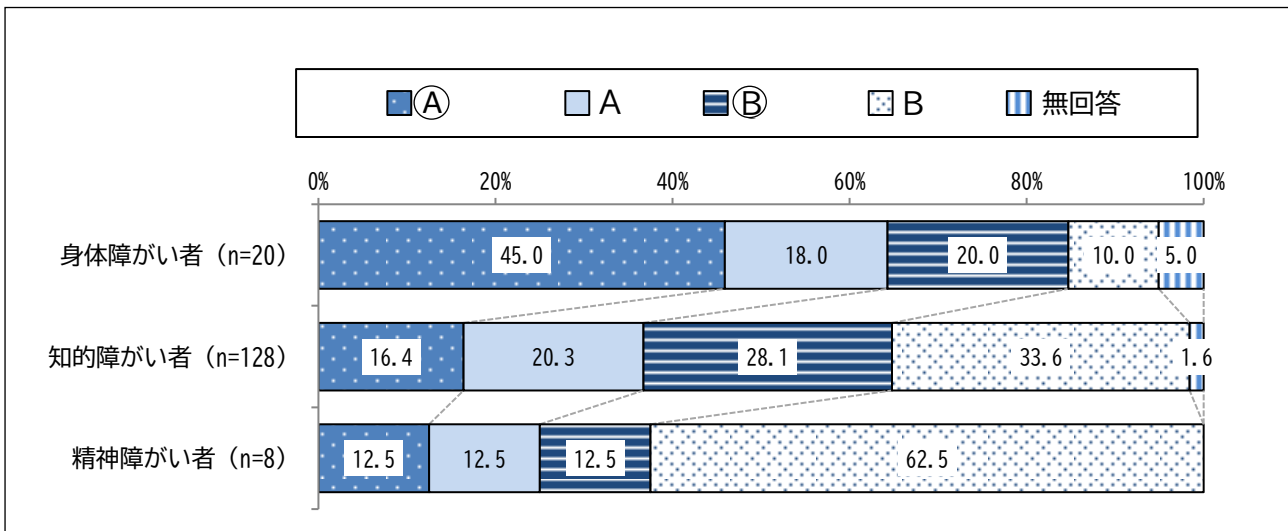
【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者で療育手帳を所持している人では、「A」(45.0%)が最も高く、精神障がい者で療育手帳を所持している人では、「B」が62.5%と最も高くなっています。

図表 8 療育手帳の所持状況（全体、前回比較）



図表 9 療育手帳の所持状況（障がい別）



「※精神障がい者保健福祉手帳について」

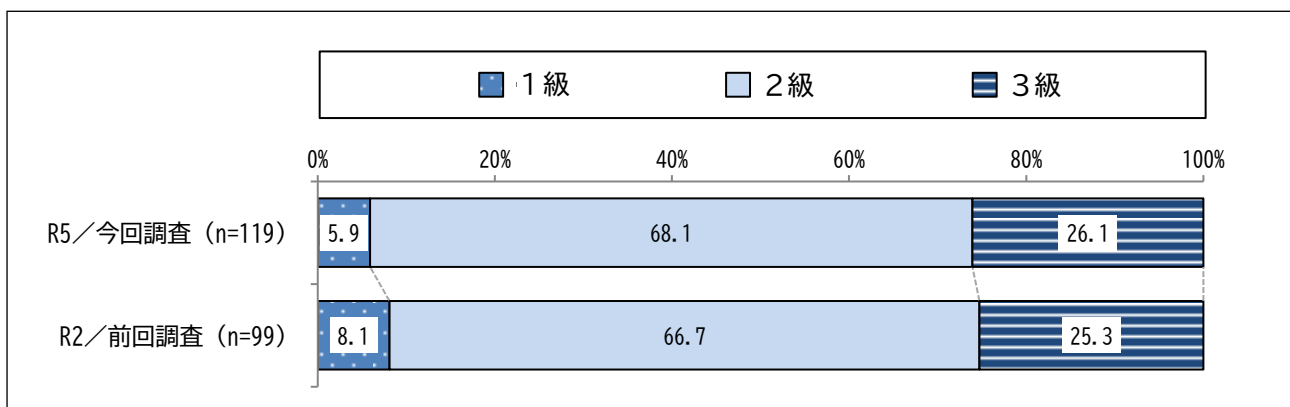
【全体の傾向】

精神障がい者保健福祉手帳所持者では、「2級」(68.1%)が最も高くなっています。前回調査と比較すると、「1級」所持者は2.2ポイント減少しています。

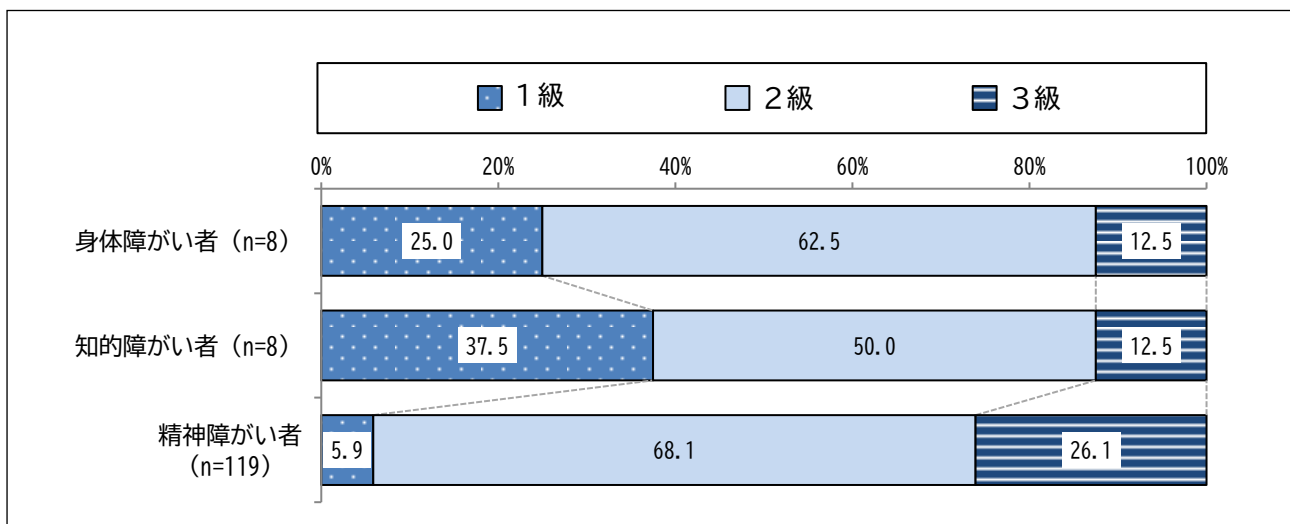
【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者、知的障がい者で精神障がい者保健福祉手帳を所持している人では、「2級」が最も高くなっています。また、知的障がい者では「1級」所持者も3割を超えています。

図表 10 精神障がい者保健福祉手帳の所持状況（全体、前回比較）



図表 11 精神障がい者保健福祉手帳の所持状況（障がい別）



※身体障がい者手帳をお持ちの方

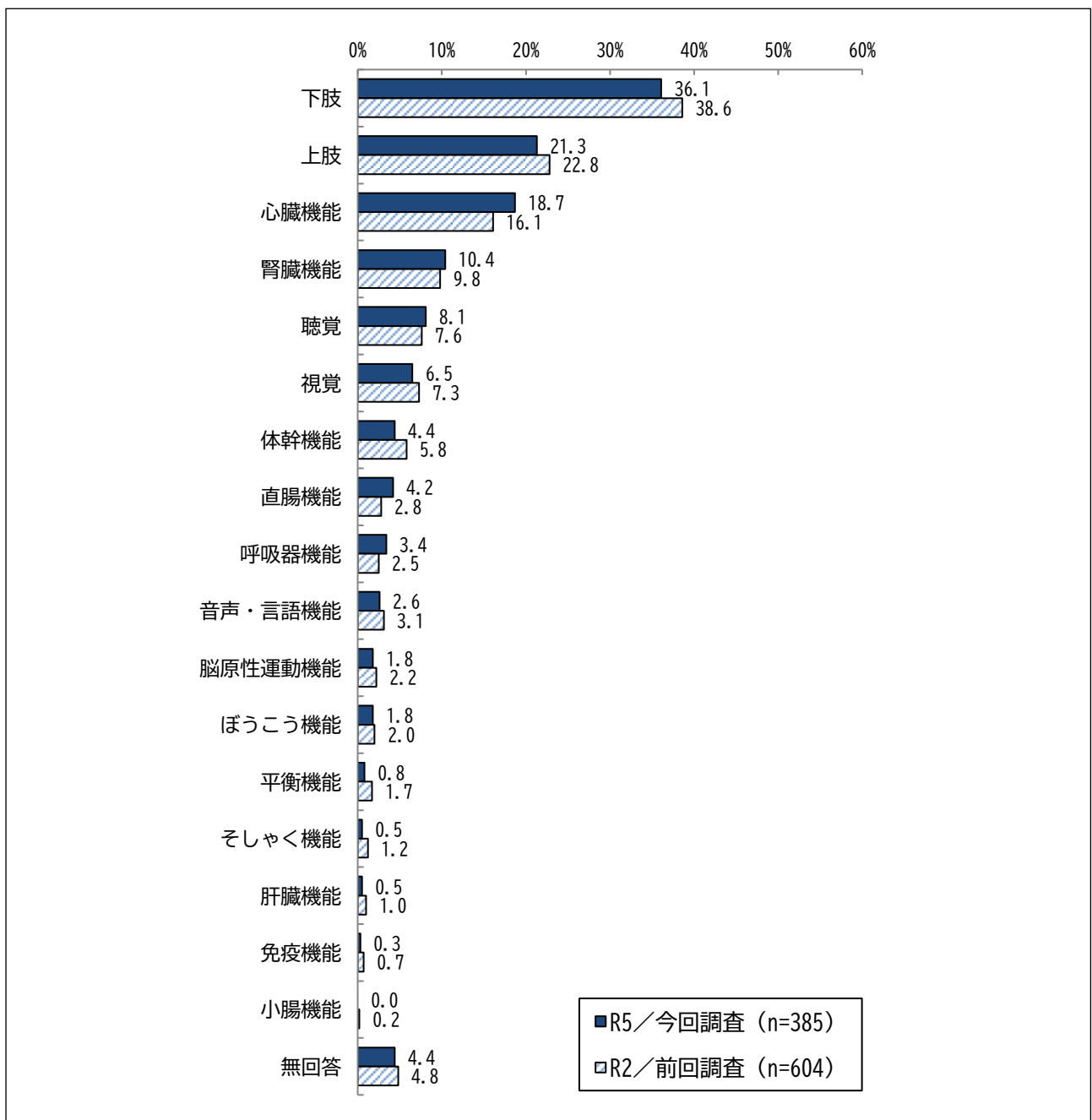
問5 身体障がい者手帳に記載された障がいの種類・部位は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

障がいの部位をみると、「下肢」(36.1%)が最も多く、次いで「上肢」(21.3%)、「心臓機能」(18.7%)、「腎臓機能」(10.4%)、「聴覚」(8.1%)と続いています。

前回調査と比較すると、「心臓機能」は2.6ポイント増加しています。

図表 12 障がいの種類・部位について(全体、前回比較/複数回答)



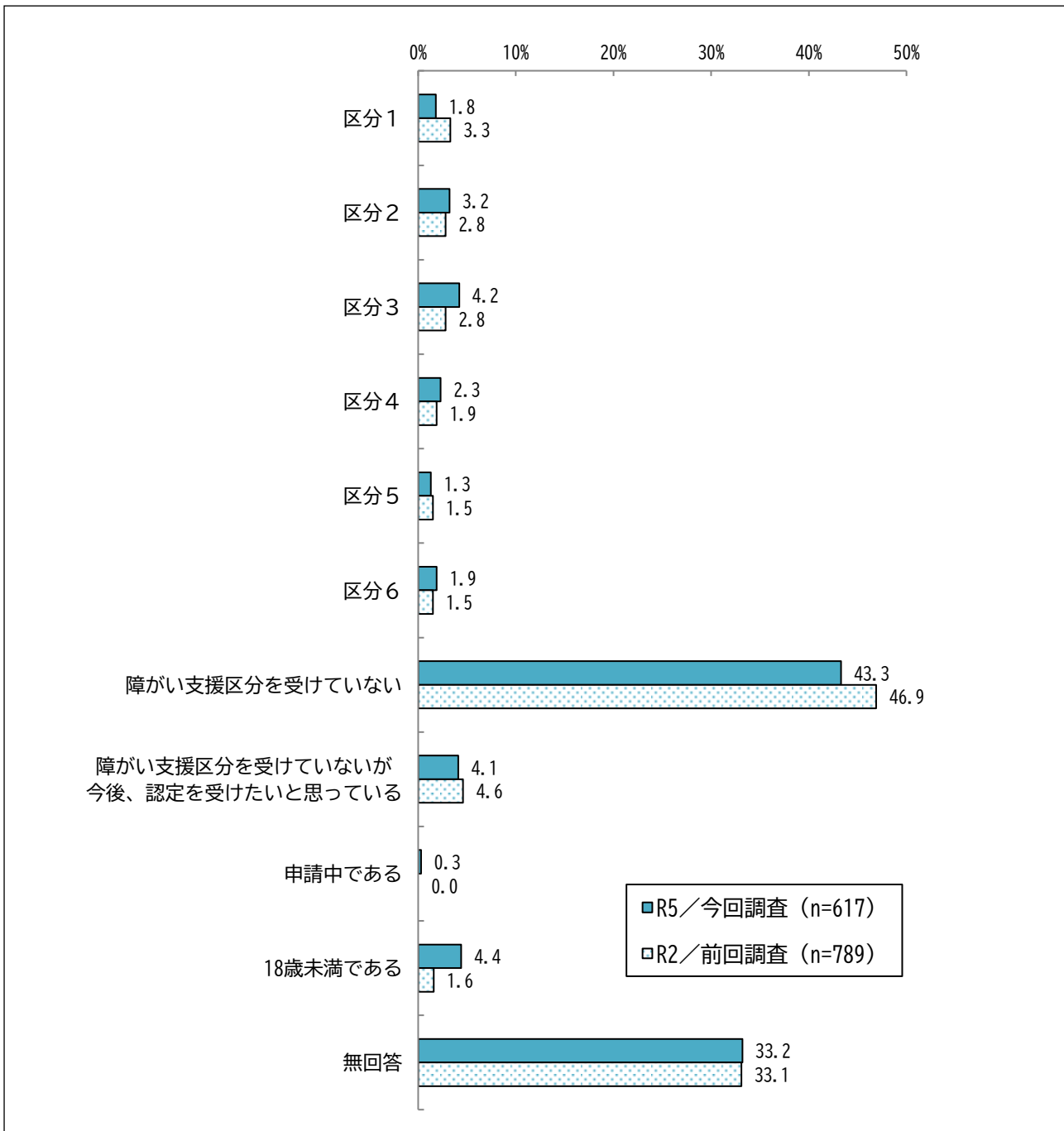
(2) 障がい区分について

問6 あなたは、障がい支援区分認定を受けていますか。(1つに○)

【全体の傾向】

障がい区分認定の状況をみると、「障がい支援区分を受けていない」(43.3%)が最も高く、その割合は突出しています。一方、区分認定を受けている人では「区分3」(4.2%)が最も高くなっています。前回調査と比較すると、「障がい支援区分を受けていない」が3.6ポイント減少しています。

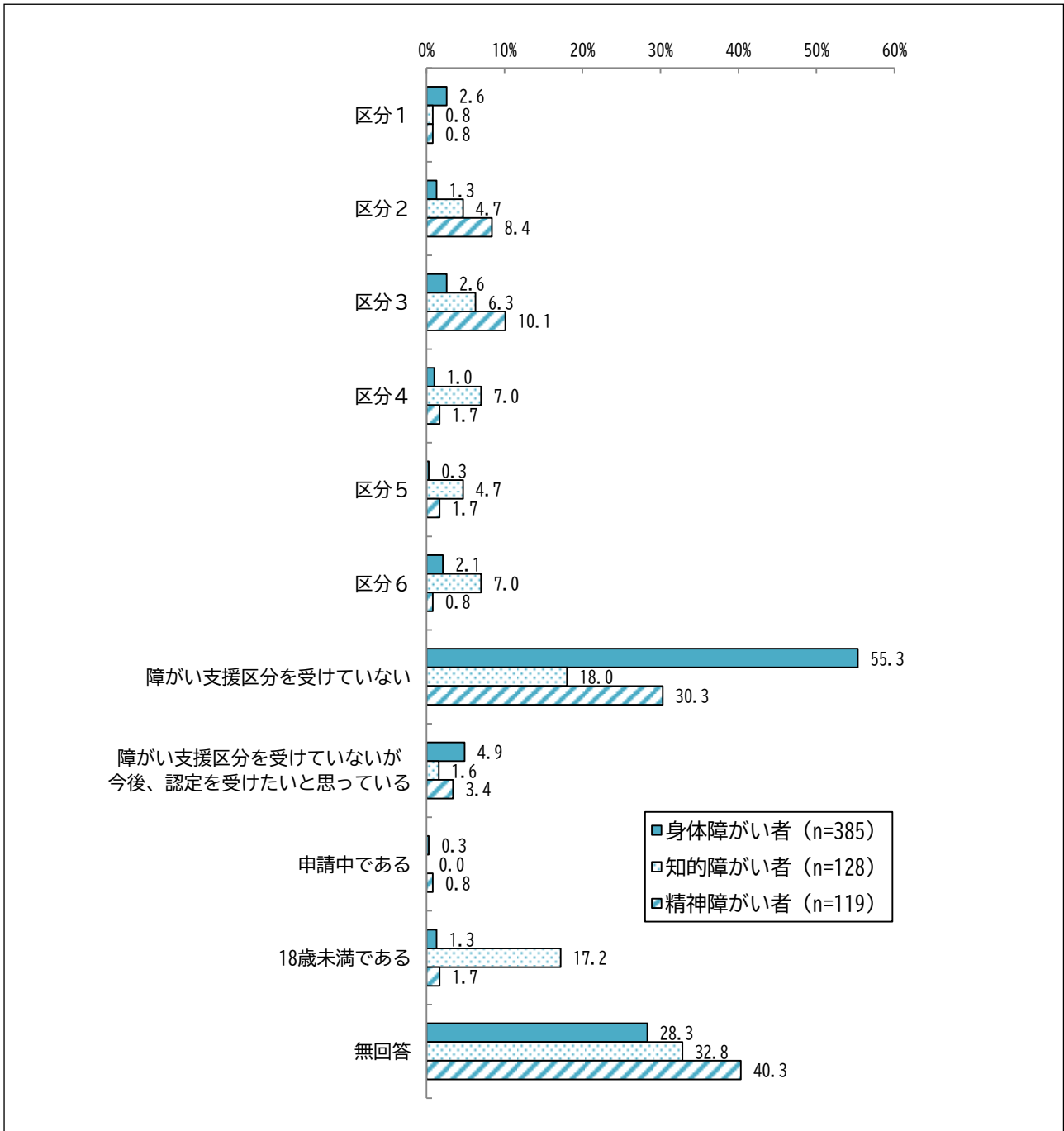
図表 13 障がい支援区分認定（全体、前回比較）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者、精神障がい者では「障がい支援区分を受けていない」が最も高くなっており、特に身体障がい者でその割合が突出しています。また、知的障がい者では「障がい支援区分を受けていない」が18.0%と最も高く、次いで「18歳未満である」が17.2%となっています。一方、区分認定を受けている人では、身体障がい者で「区分1」「区分3」、知的障がい者で「区分4」「区分6」、精神障がい者で「区分3」がそれぞれ高くなっています。

図表 14 障がい支援区分認定（障がい別）



(3) 各種認定等について

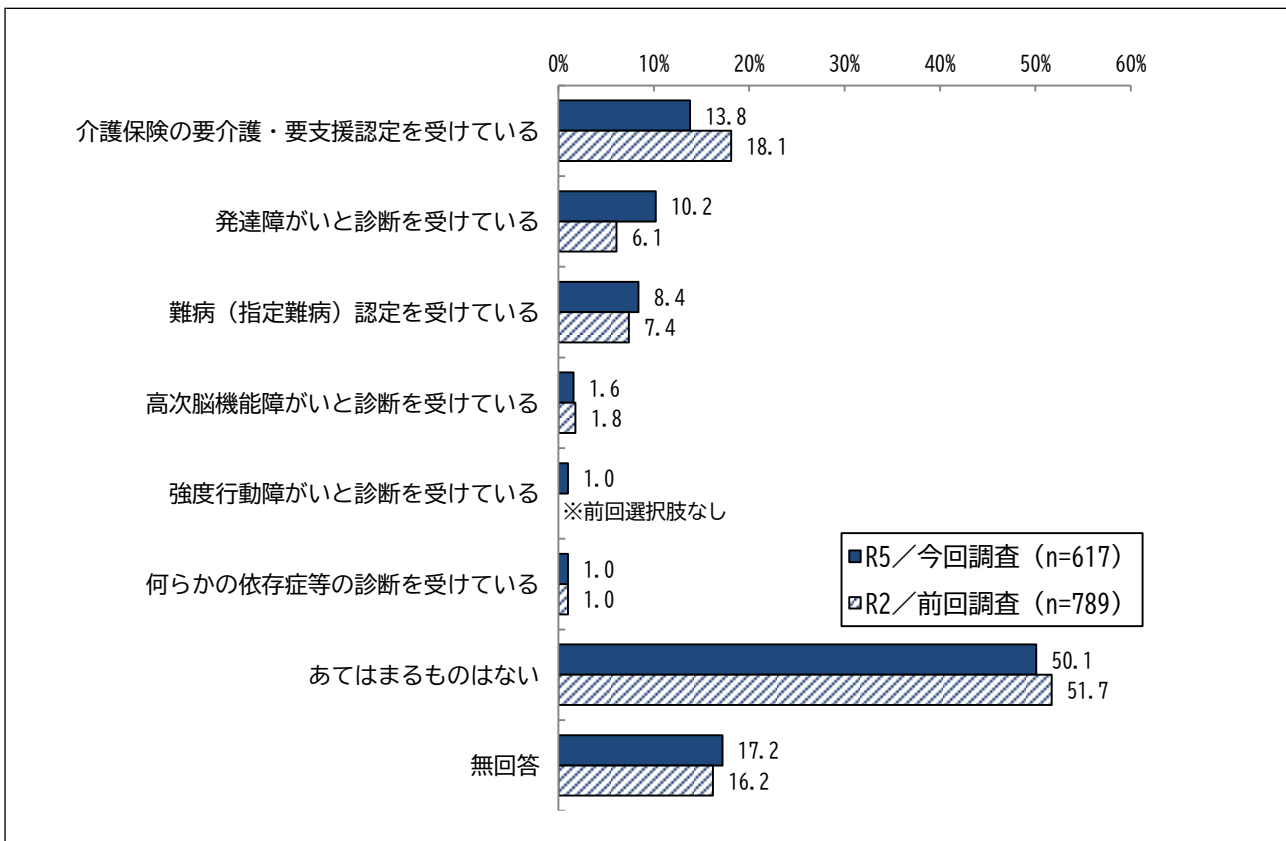
問7 あなたは、下記のどちらにあてはまりますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

各種認定状況等をみると、「あてはまるものはない」は50.1%と最も多く、その割合は突出しています。次いで「介護保険の要介護・要支援認定を受けている」(13.8%)、「発達障がいと診断を受けている」(10.2%)、「難病(指定難病)認定を受けている」(8.4%)、「高次脳機能障がいと診断を受けている」(1.6%)、「強度行動障がいと診断を受けている」「何らかの依存症等の診断を受けている」(ともに1.0%)となっています。

前回調査と比較すると、「介護保険の要介護・要支援認定を受けている」が4.3ポイント減少しています。

図表 15 各種認定等について(全体、前回比較/複数回答)

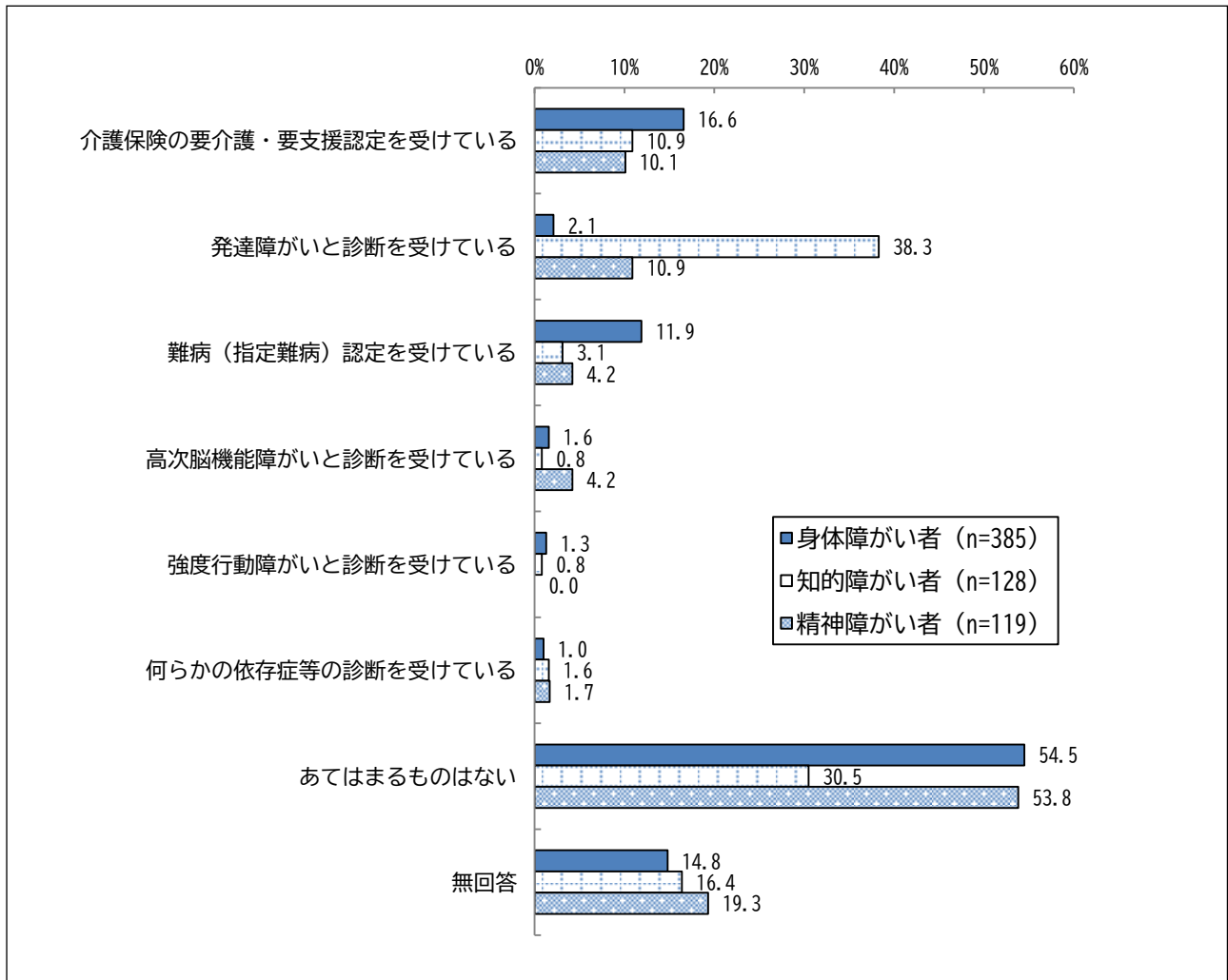


【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者、精神障がい者では「あてはまるものはない」が最も多く、5割を超えています。次いで身体障がい者では「介護保険の要介護・要支援認定を受けている」(16.6%)、「難病(指定難病)認定を受けている」(11.9%)となっており、精神障がい者では「発達障がいと診断を受けている」(10.9%)、「介護保険の要介護・要支援認定を受けている」(10.1%)となっています。

一方、知的障がい者では「発達障がいと診断を受けている」が38.3%と最も多く、次いで「あてはまるものはない」(30.5%)、「介護保険の要介護・要支援認定を受けている」(10.9%)となっています。

図表 16 各種認定等について(障がい別/複数回答)



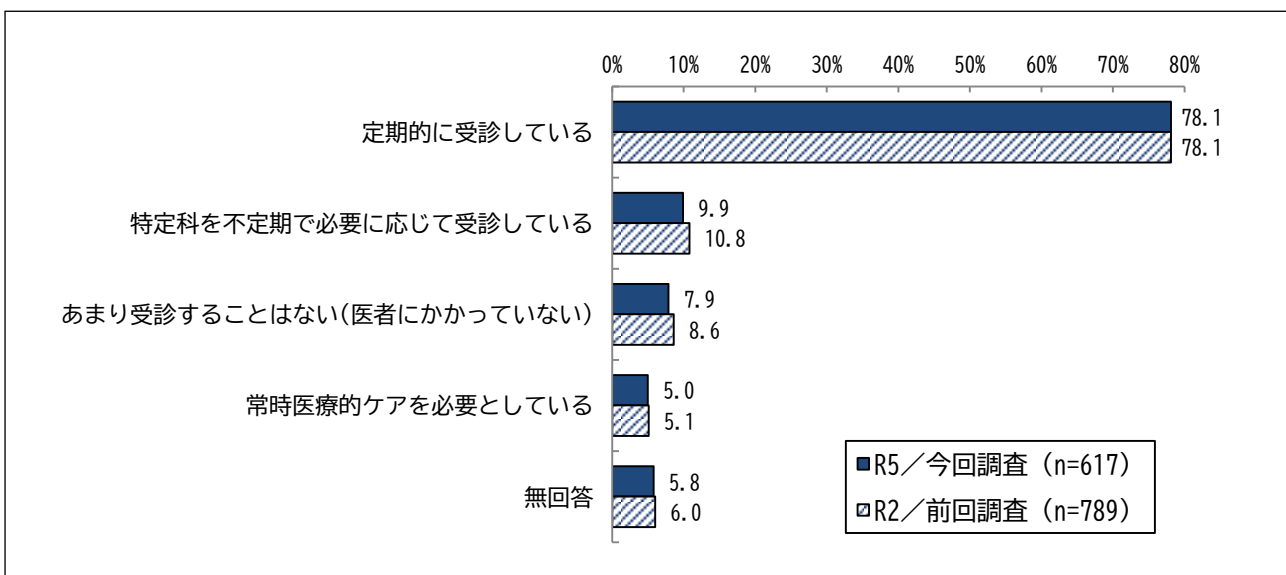
(4) 医療について

問8 あなたは、定期的に医療機関での受診をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

医療機関の受診状況を見ると、「定期的に受診している」(78.1%)が最も多く、その割合は突出しています。次いで、「特定科を不定期で必要に応じて受診している」(9.9%)、「あまり受診することはない(医者にかかっていない)」(7.9%)、「常時医療的ケアを必要としている」(5.0%)と続いています。前回調査と比較すると、概ね同様の結果となっています。

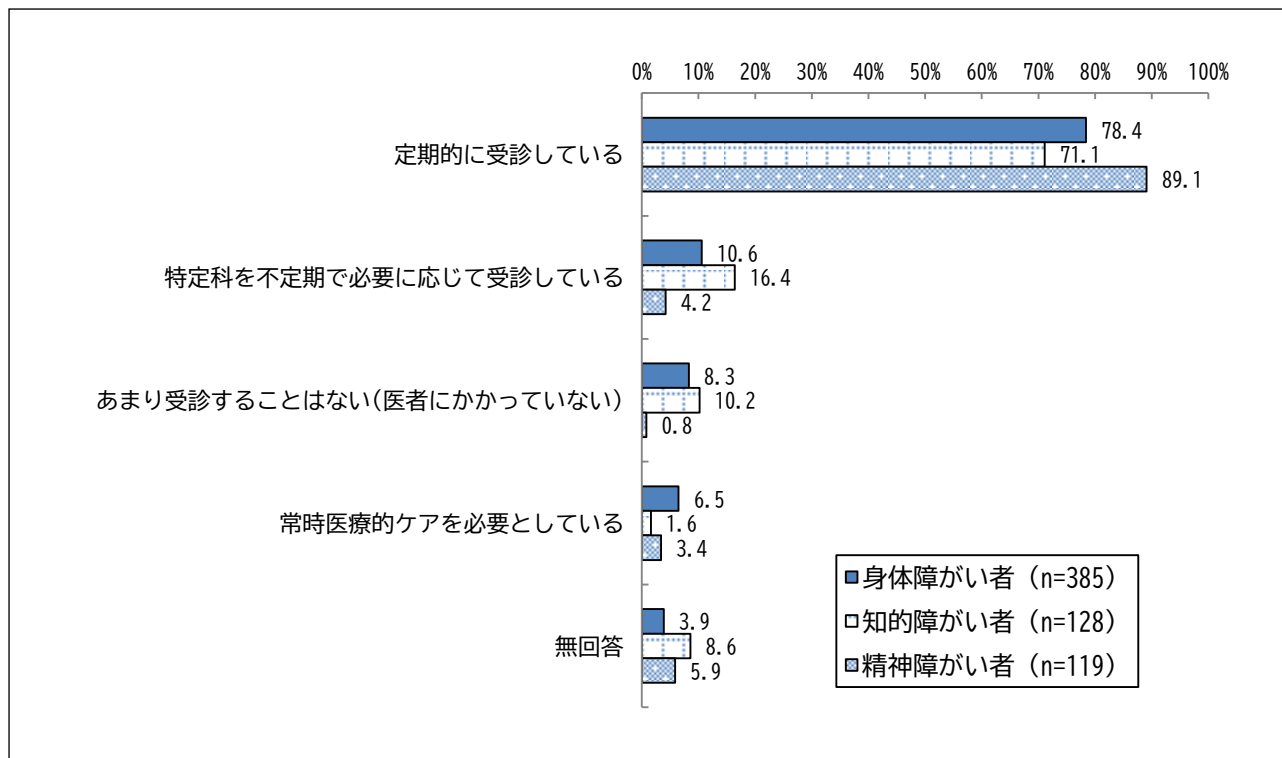
図表 17 定期的な医療機関の受診について (全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種類に関わらず「定期的に受診している」が最も多く、7割を超えています。特に精神障がい者では89.1%と8割を超えています。

図表 18 定期的な医療機関の受診について（障がい別／複数回答）



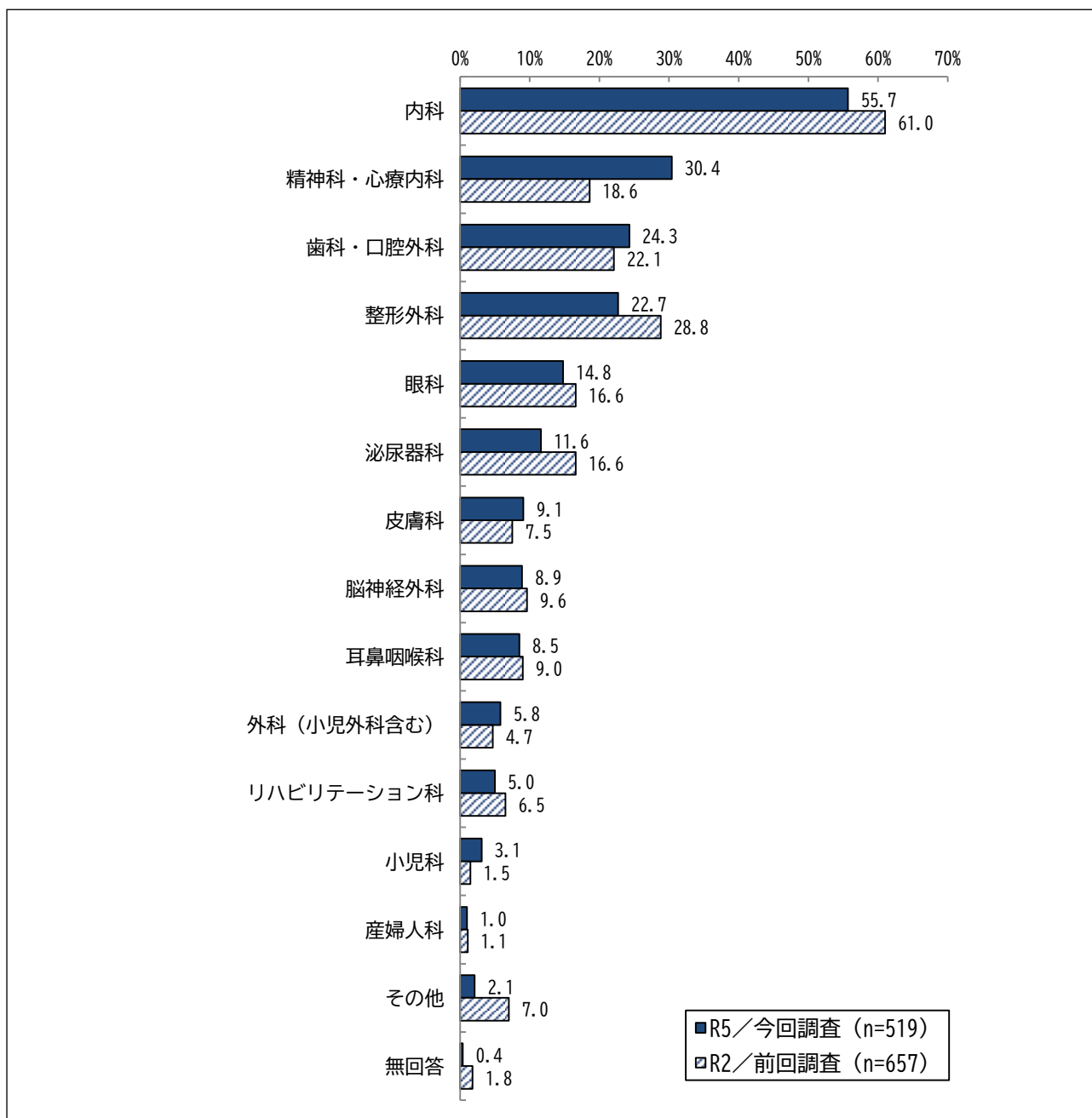
※問8で「定期的に受診している」「特定科を不定期で必要に応じて受診している」と回答した方
 問9 あなたがよく受診する診療科は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

よく受診する診療科をみると、「内科」(55.7%)が最も多くなっています。次いで、「精神科・心療内科」(30.4%)、「歯科・口腔外科」(24.3%)、「整形外科」(22.7%)、「眼科」(14.8%)、「泌尿器科」(11.6%)と続いています。

前回調査と比較すると、「精神科・心療内科」が11.8ポイント増加しています。

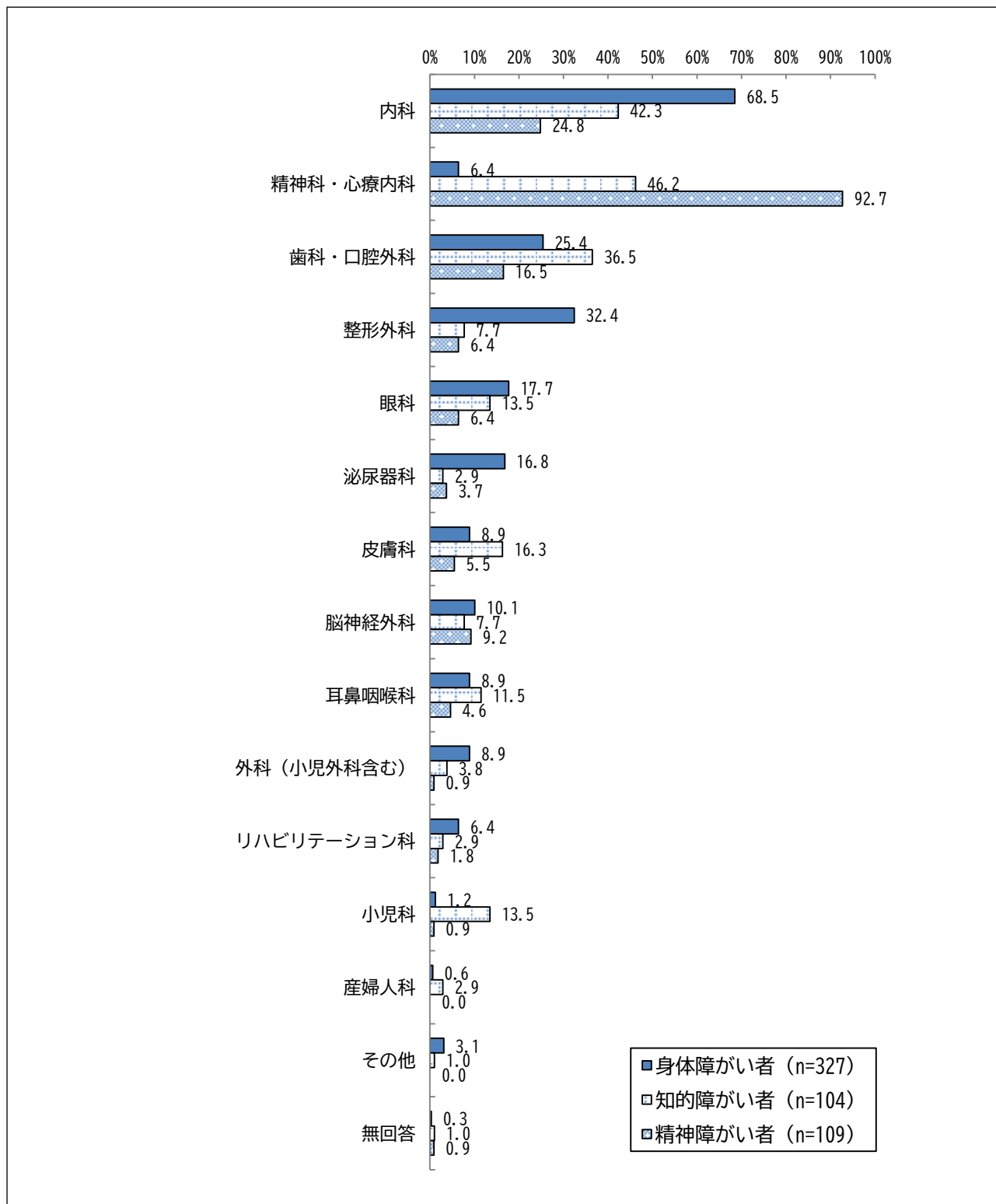
図表 19 よく受診する診療科 (全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「内科」(68.5%)が最も多く、知的障がい者、精神障がい者では「精神科・心療内科」(知的46.2%、精神92.7%)の割合が突出しています。また、身体障がい者では「整形外科」(32.4%)、知的障がい者、精神障がい者では、「内科」(知的42.3%、精神24.8%)、「歯科・口腔外科」(知的36.5%、精神16.5%)も多くなっています。

図表 20 よく受診する診療科 (障がい別/複数回答)



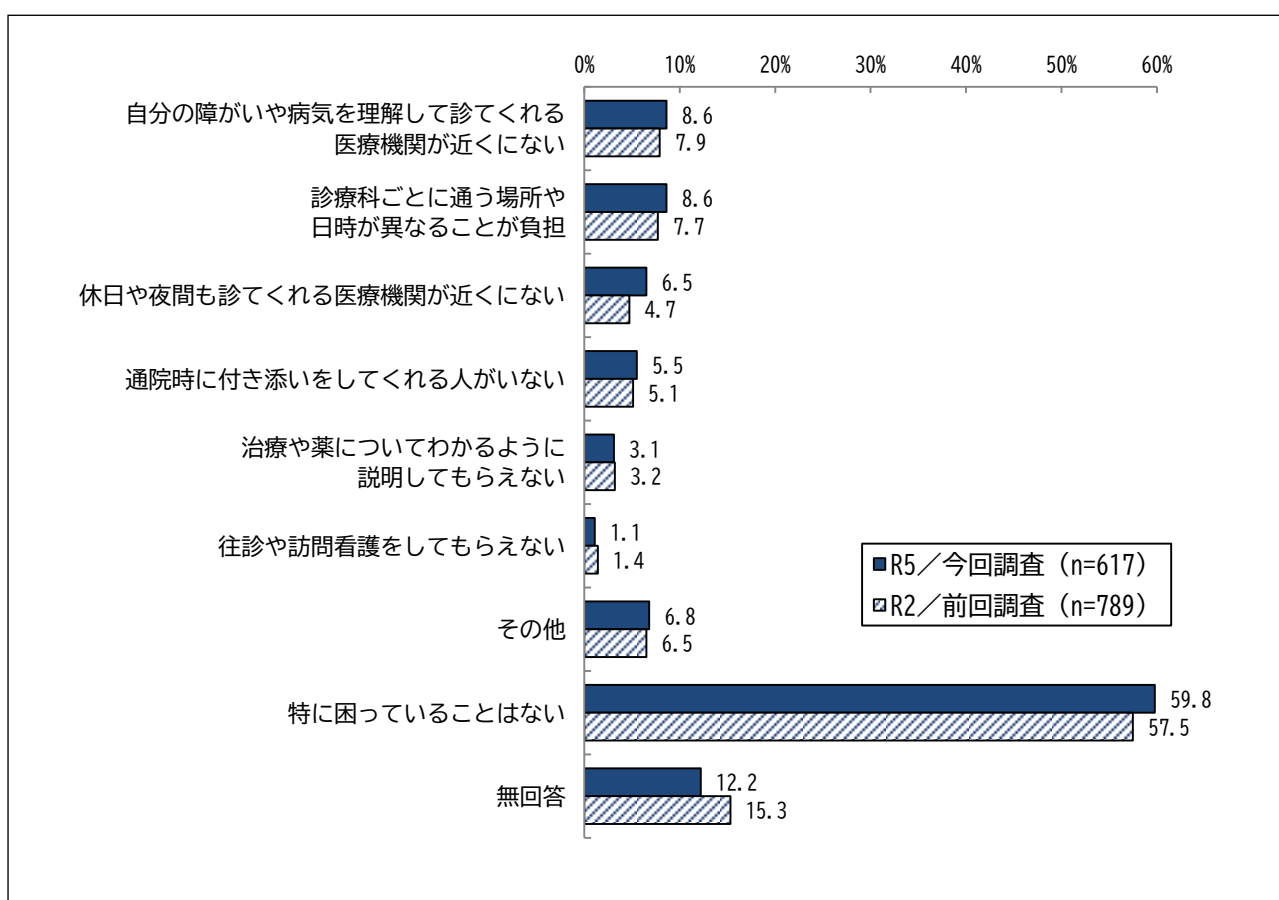
問 10 あなたが、医療について困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

医療について困っていることをみると、「特に困っていることはない」が 59.8%と最も多くなっています。次いで「自分の障がいや病気を理解して診てくれる医療機関が近くにない」、「診療科ごとに通う場所や日時が異なることが負担」（ともに 8.6%）、「休日や夜間も診てくれる医療機関が近くにない」（6.5%）、「通院時に付き添いをしてくれる人がいない」（5.5%）、「治療や薬についてわかるように説明してもらえない」（3.1%）、「往診や訪問看護をしてもらえない」（1.1%）となっています。

前回調査と比較すると、「特に困っていることはない」が 2.3 ポイント増加しています。

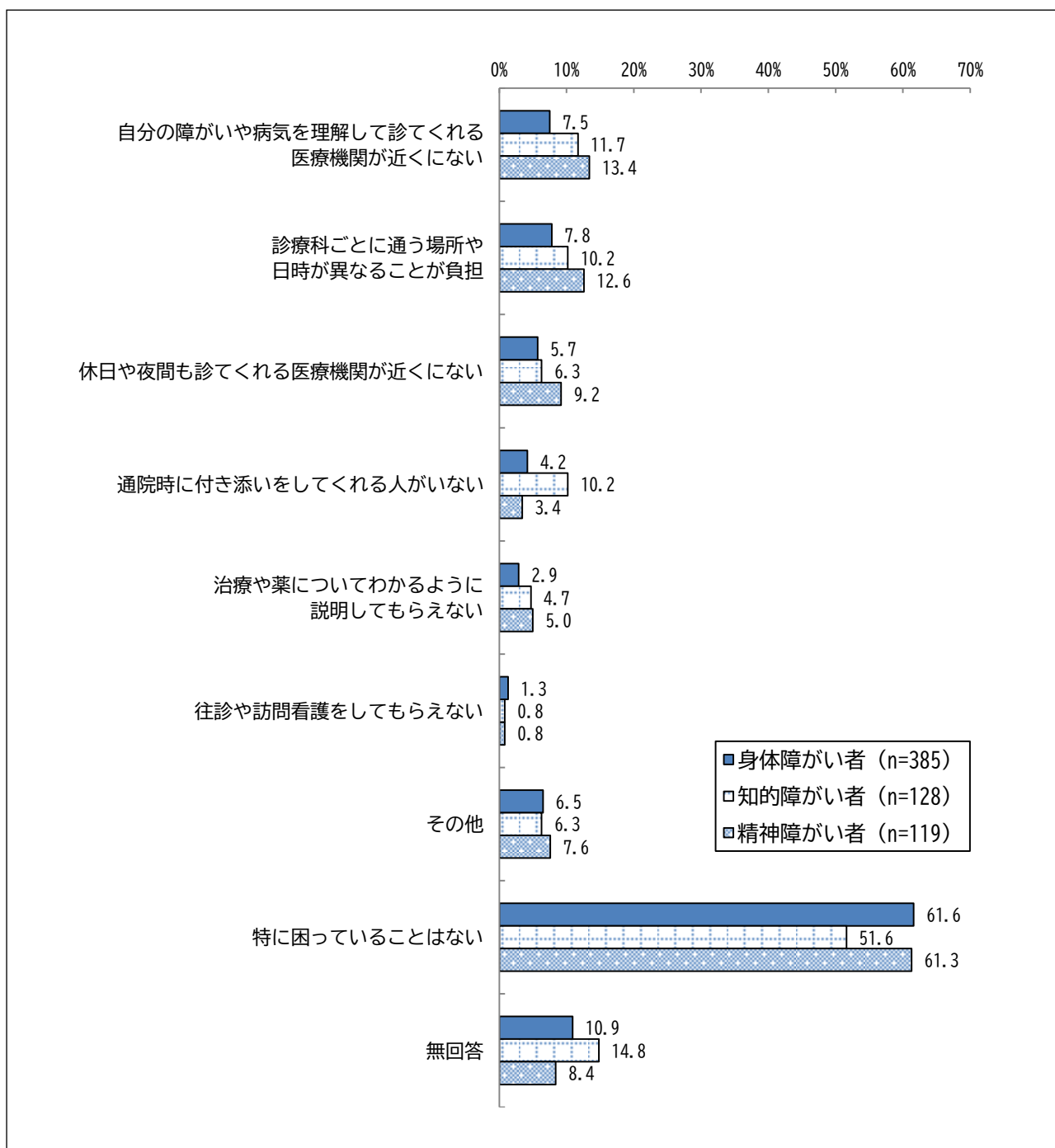
図表 21 医療について困っていること（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別に困っていることについての内容をみると、身体障がい者では「診療科ごとに通う場所や日時が異なることが負担」(7.8%)、知的障がい者、精神障がい者では「自分の障がいや病気を理解して診てくれる医療機関が近くにない」(知的11.7%、精神13.4%)がそれぞれ多くなっています。

図表 22 医療について困っていること（障がい別／複数回答）



(5) 支援について

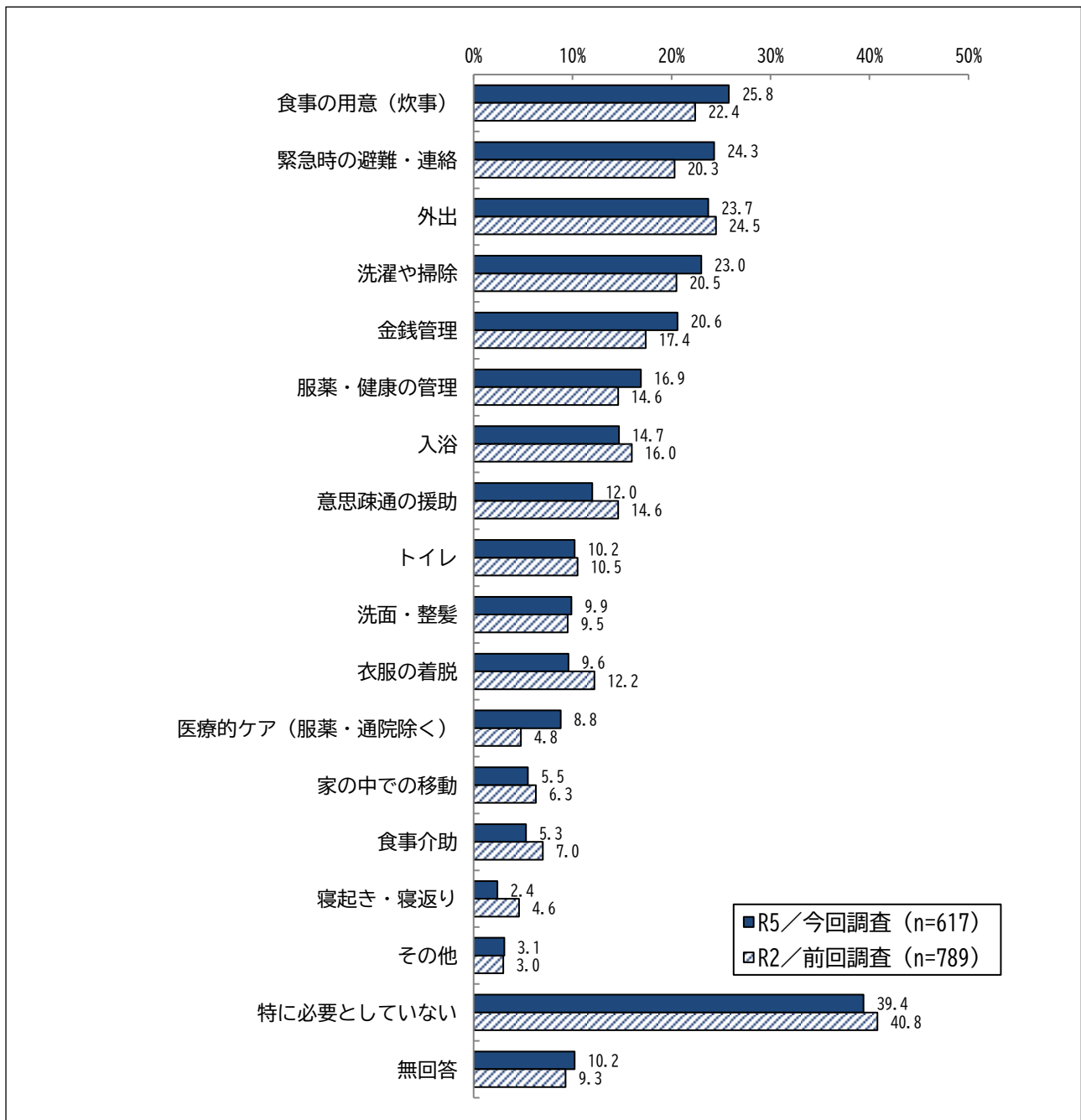
問 11 あなたが支援を必要とすることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

必要とする支援をみると、「特に必要としていない」が 39.4%と最も多く、次いで「食事の用意（炊事）」（25.8%）、「緊急時の避難・連絡」（24.3%）、「外出」（23.7%）、「洗濯や掃除」（23.0%）、「金銭管理」（20.6%）と続いています。

前回調査と比較すると、「緊急時の避難・連絡」、「医療的ケア（服薬・通院除く）」が 4.0 ポイント、「食事の用意（炊事）」が 3.4 ポイント増加しています。

図表 23 必要な支援について（全体、前回比較／複数回答）

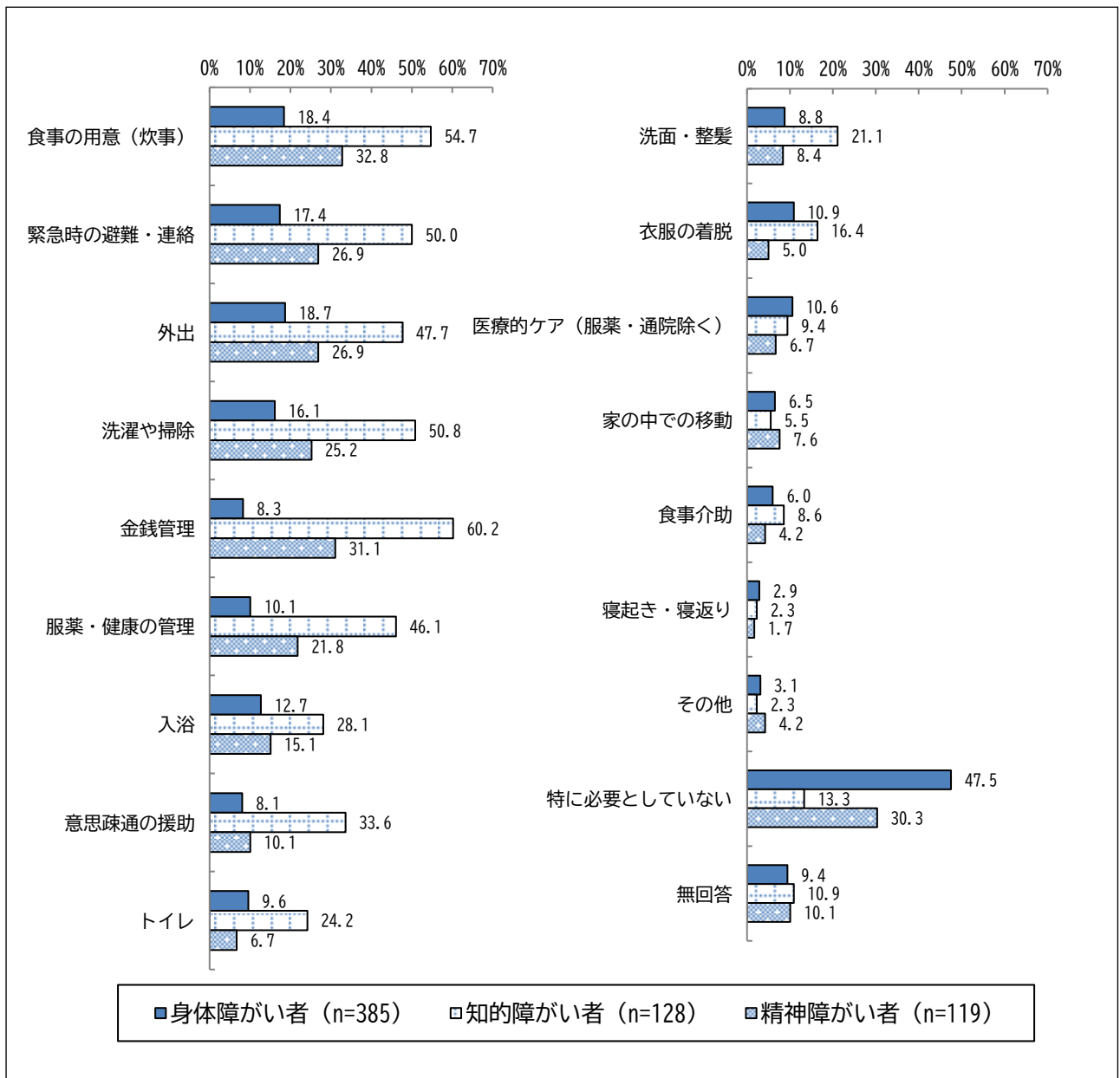


【属性別の傾向】

障がい別に必要な支援についての内容をみると、身体障がい者では「食事の用意（炊事）」（18.4%）や「外出」（18.7%）、知的障がい者、精神障がい者では「食事の用意（炊事）」（知的 54.7%、精神 32.8%）、「金銭管理」（知的 60.2%、精神 31.1%）などが多くなっています。

また、知的障がい者は、必要としている支援それぞれの割合が、身体障がい者、精神障がい者よりも多い傾向がみられ、「食事の用意（炊事）」、「緊急時の避難・連絡」、「洗濯や掃除」、「金銭管理」などは5割を超えています。

図表 24 必要な支援について（障がい別／複数回答）



※問11で「医療的ケア（服薬・通院を除く）」と回答した方

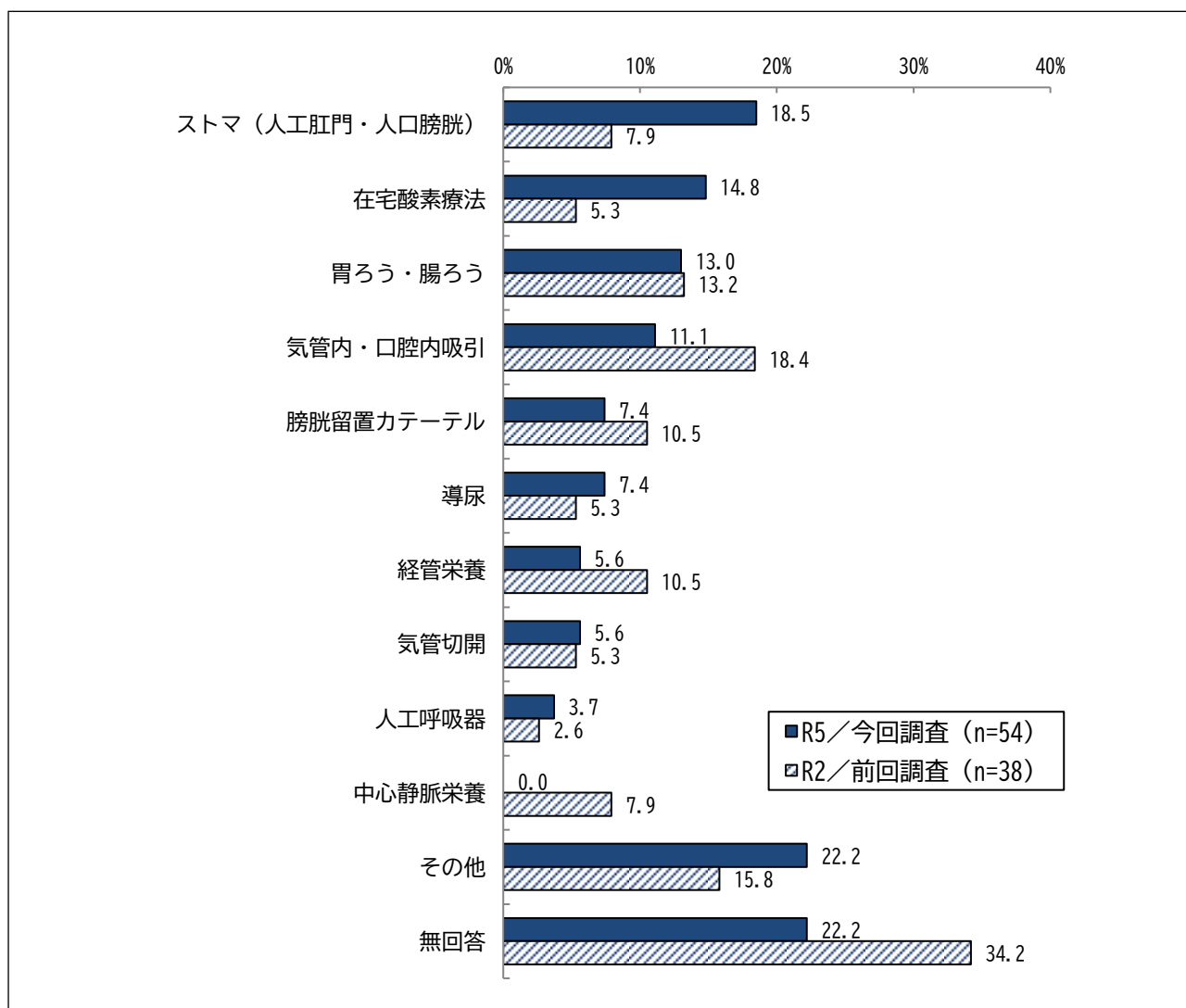
問12 あなたは、具体的にどのような医療的ケア（服薬や通院を除く）が必要ですか。
（あてはまるものすべてに○）

【全体の傾向】

必要とする医療的ケアをみると、「ストマ（人工肛門・人口膀胱）」（18.5%）が最も多く、次いで「在宅酸素療法」（14.8%）、「胃ろう・腸ろう」（13.0%）、「気管内・口腔内吸引」（11.1%）、「膀胱留置カテーテル」「導尿」（ともに7.4%）などとなっています。

前回調査と比較すると、「ストマ（人工肛門・人口膀胱）」が10.6ポイント、「在宅酸素療法」が9.5ポイント増加し、「気管内・口腔内吸引」が7.3ポイント減少しています。

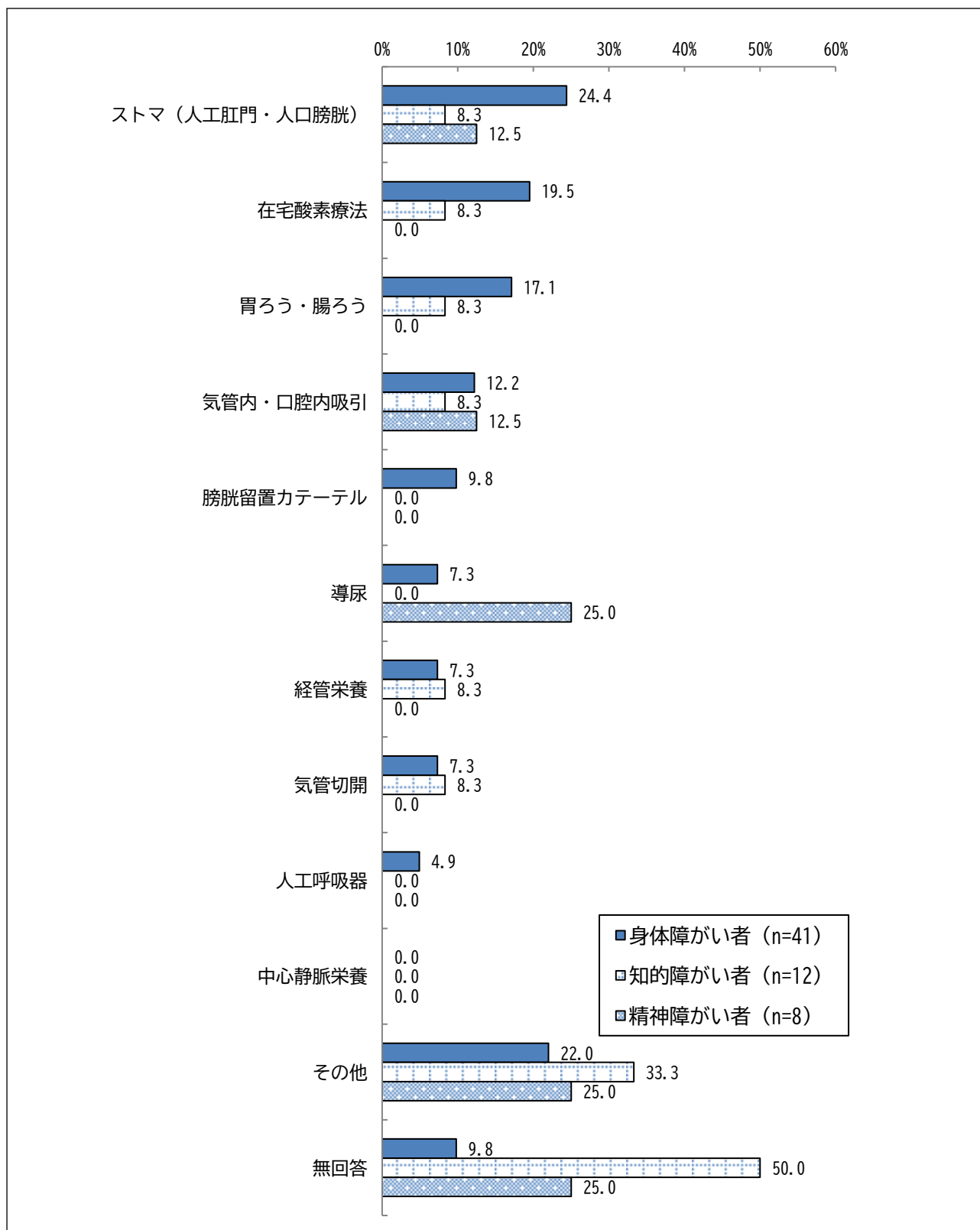
図表 25 必要な医療的ケアについて（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「ストマ（人工肛門・人口膀胱）」（24.4%）や「在宅酸素療法」（19.5%）、「胃ろう・腸ろう」（17.1%）などが多く、精神障がい者では「導尿」（25.0%）が多くなっています。

図表 26 必要な医療的ケアについて（障がい別／複数回答）



4 あなたの生活のことについて

(1) 同居人について

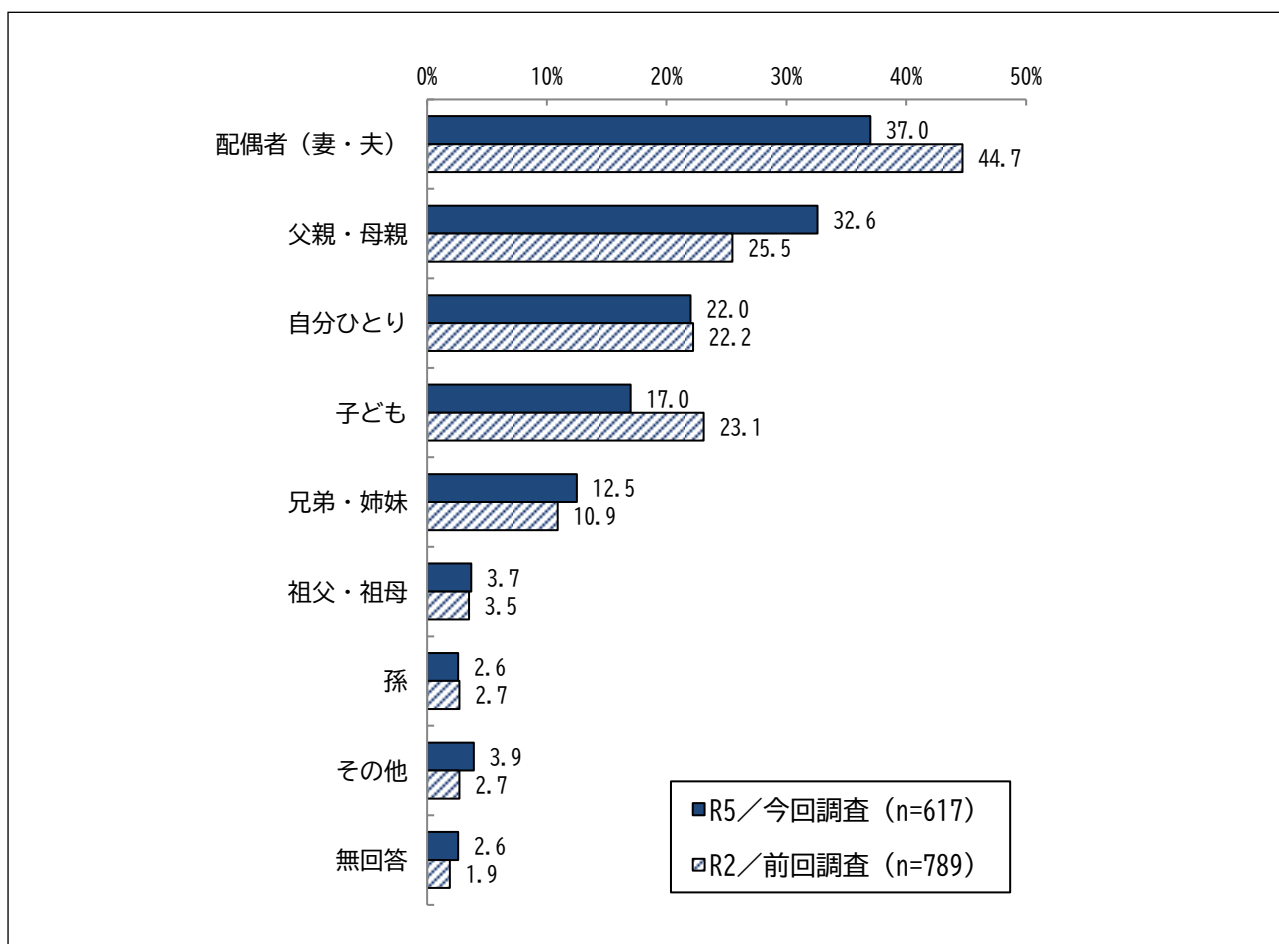
問 13 現在、一緒に暮らしている人は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

同居人をみると、「配偶者（妻・夫）」(37.0%) が最も多く、次いで「父親・母親」(32.6%)、「自分ひとり」(22.0%)、「子ども」(17.0%)、「兄弟・姉妹」(12.5%)と続いています。

前回調査と比較すると、「配偶者（妻・夫）」が7.7ポイント、「子ども」が6.1減少し、「父親・母親」が7.1ポイント増加しています。

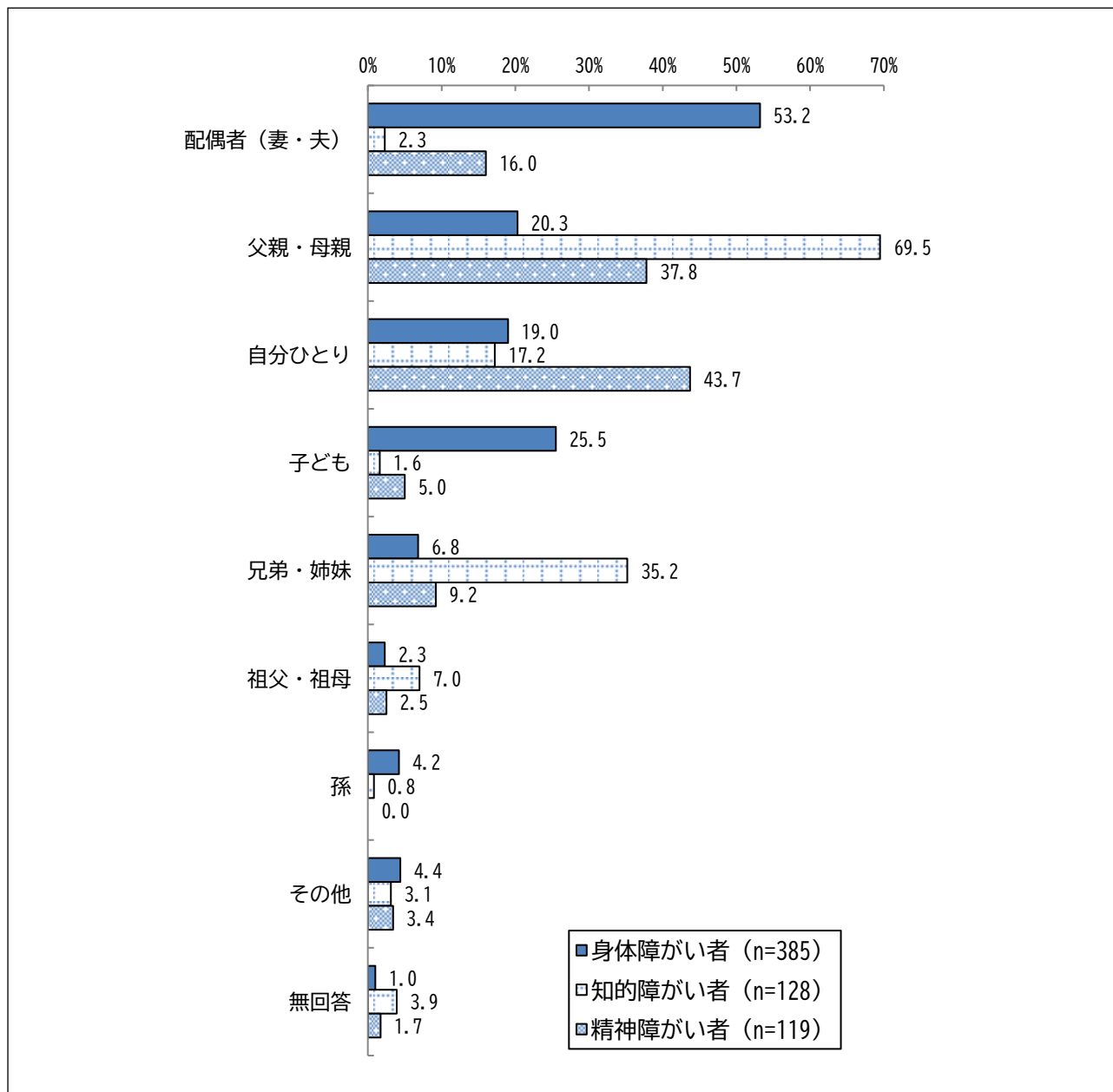
図表 27 同居人について（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「配偶者（妻・夫）」（53.2%）、「子ども」（25.5%）、知的障がい者では、「父親・母親」（69.5%）、「兄弟・姉妹」（35.2%）、精神障がい者では「自分ひとり」（43.7%）、「父親・母親」（37.8%）などとの同居がそれぞれ多くなっています。

図表 28 同居人について（障がい別／複数回答）



(2) 暮らしの場所について

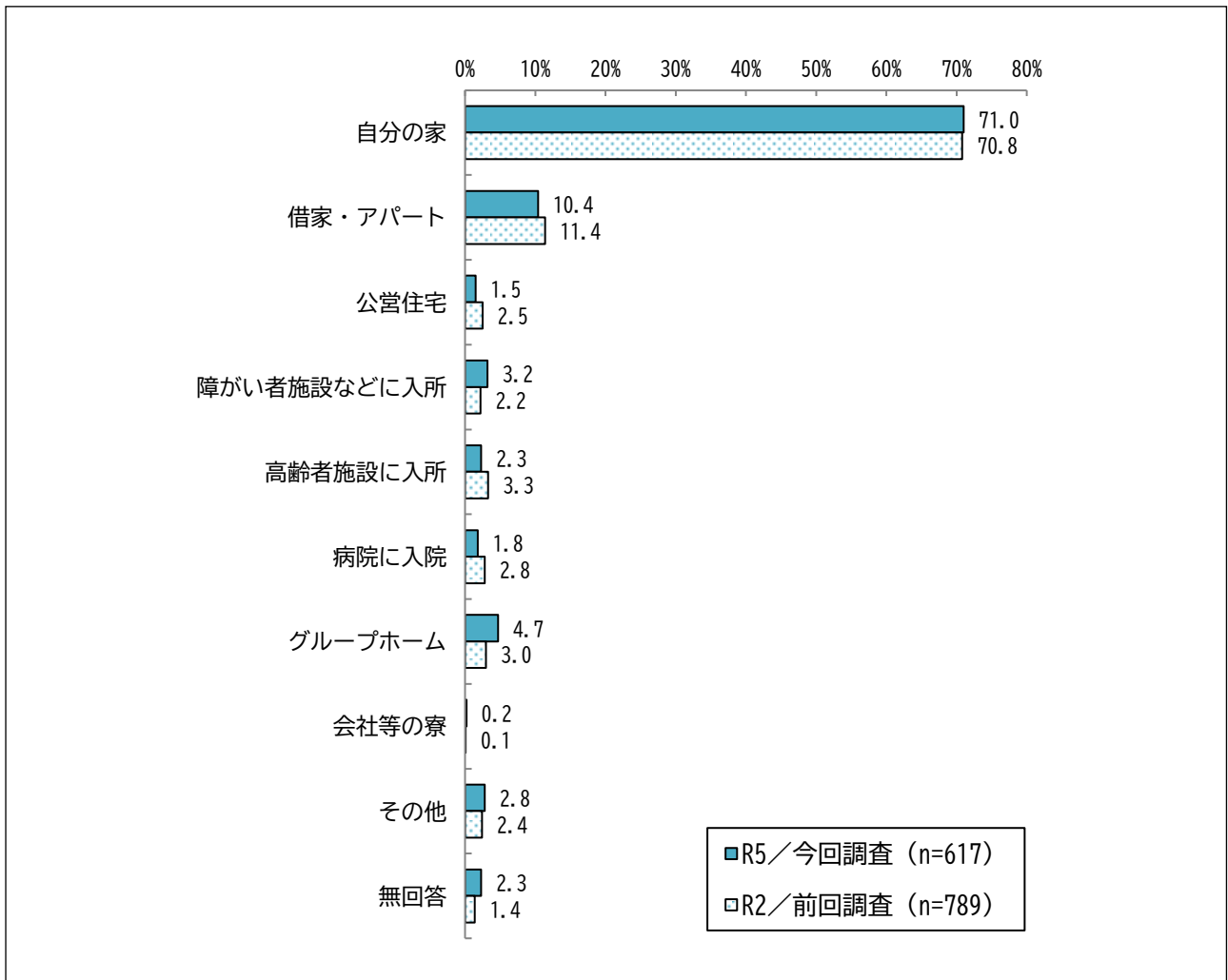
問 14 現在のお住まいとして過ごされている場所はどこですか。(1つに〇)

【全体の傾向】

現在、居住している場所をみると、「自分の家」(71.0%)が最も高く、その割合は突出しています。次いで、「借家・アパート」(10.4%)、「グループホーム」(4.7%)となっています。

前回調査と比較すると、概ね同様の結果となっています。

図表 29 現在の居住場所（全体、前回比較）

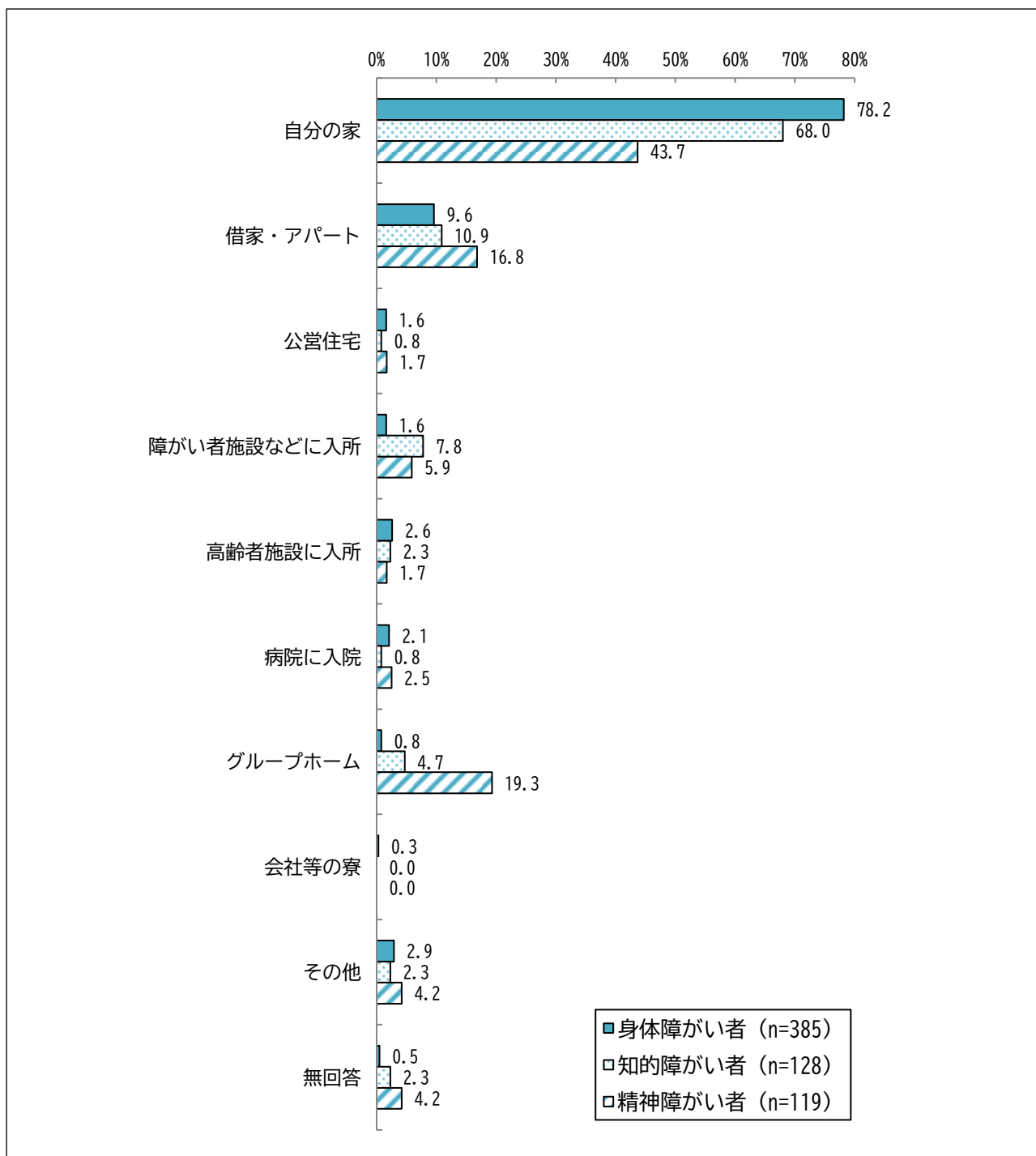


【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種別に関わらず「自分の家」が最も高くなっており、身体障がい者では78.2%、知的障がい者では68.0%、精神障がい者では43.7%となっています。

また、精神障がい者では「グループホーム」、「借家・アパート」の割合が、身体障がい者、知的障がい者と比較して高くなっていきます。

図表 30 現在の居住場所（障がい別）



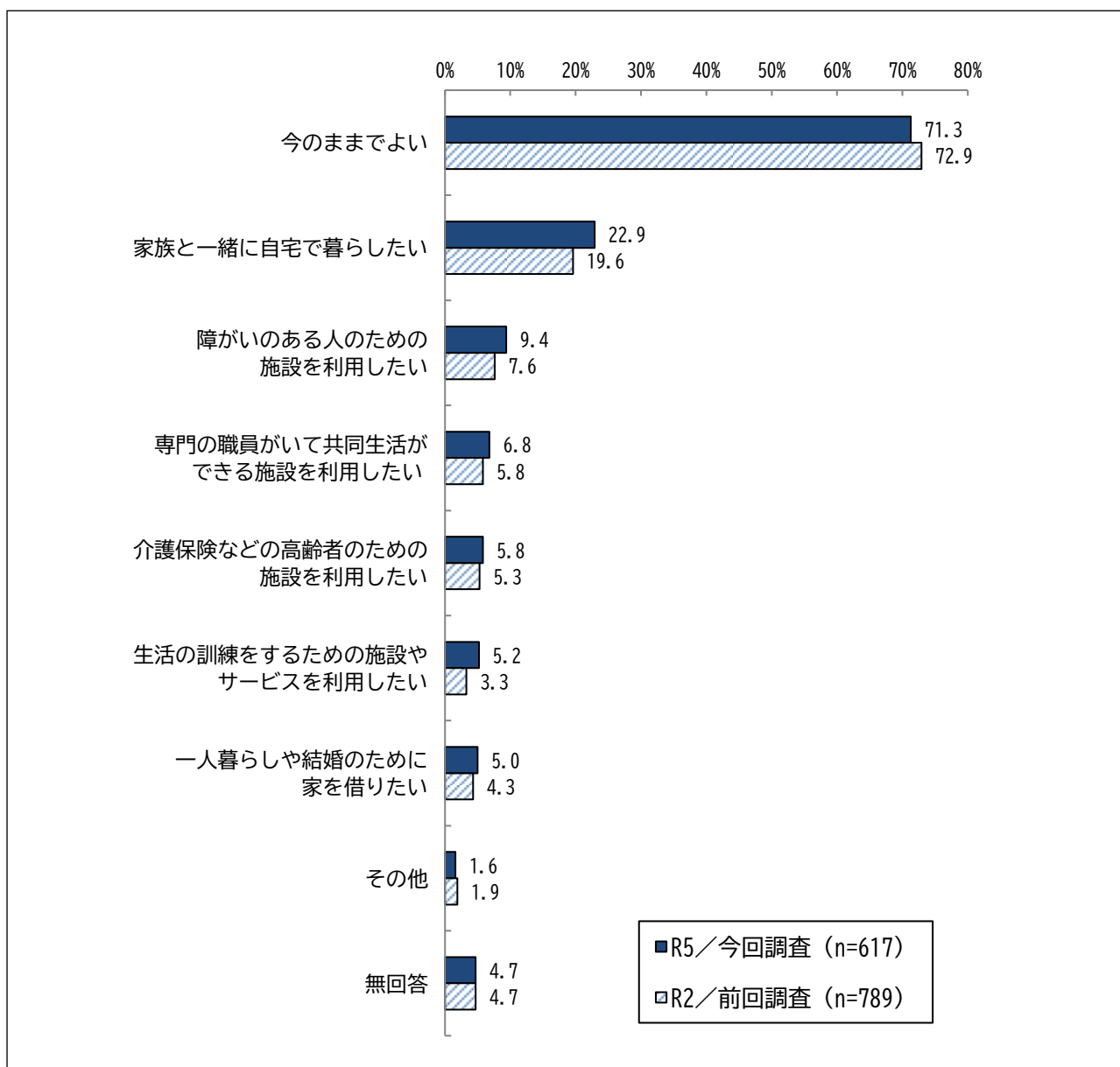
問 15 次にあげるいろいろなお住まいのうち、今後、暮らしたいと思うのはどれですか。
 (あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

今後希望する居住場所をみると、「今のままでよい」(71.3%)が最も多くなっています。次いで、「家族と一緒に自宅で暮らしたい」(22.9%)、「障がいのある人のための施設を利用したい」(9.4%)と続いています。

前回調査と比較すると、「家族と一緒に自宅で暮らしたい」が3.3ポイント増加しています。

図表 31 今後希望する居住場所（全体、前回比較／複数回答）

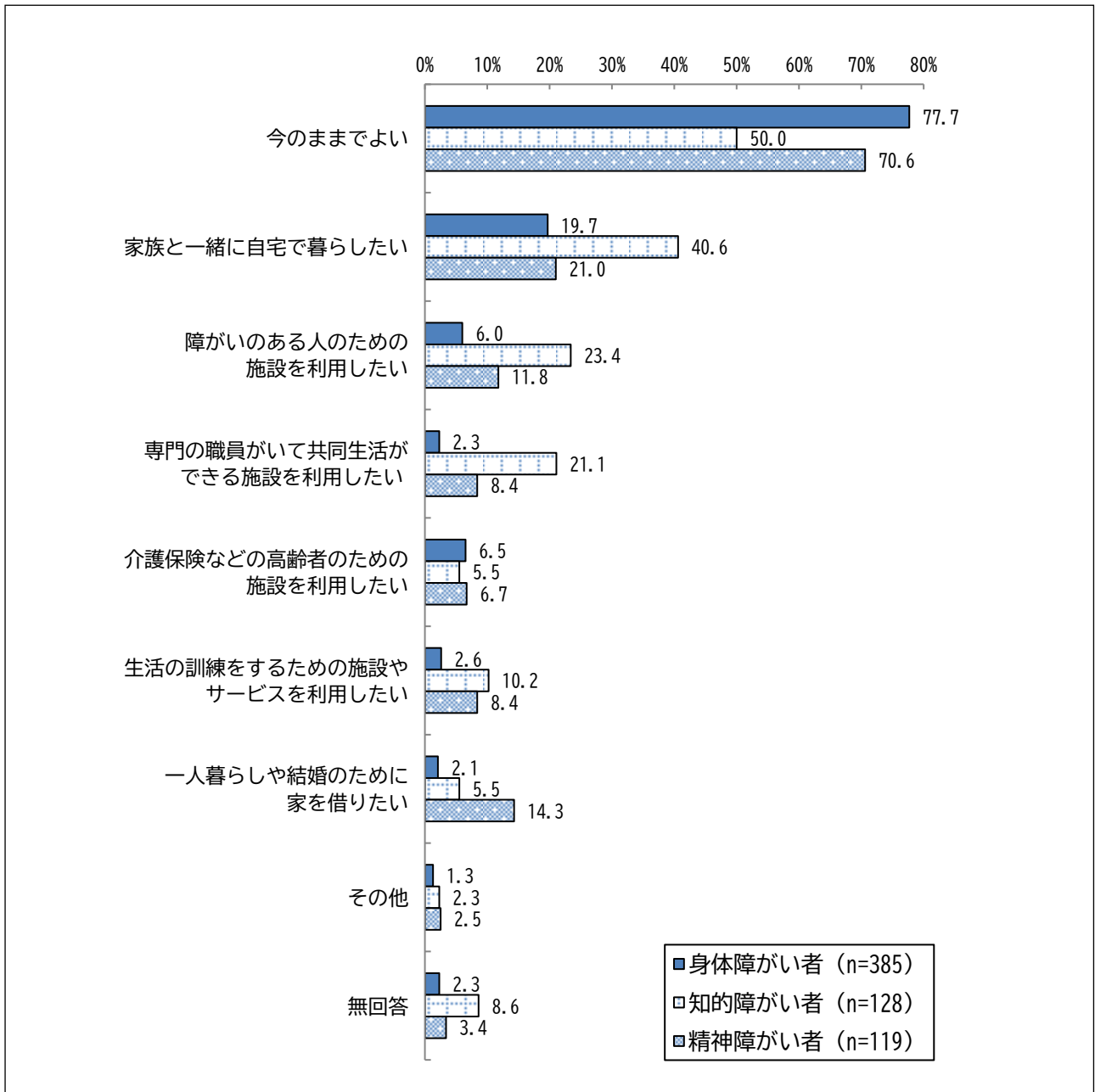


【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種別に関わらず「今のままでよい」が最も多くなっています。

一方、知的障がい者では、「家族と一緒に自宅で暮らしたい」(40.6%)、「障がいのある人のための施設を利用したい」(23.4%)、「専門の職員がいて共同生活ができる施設を利用したい」(21.1%)などの割合が、身体障がい者、精神障がい者に比べて多くなっています。

図表 32 今後希望する居住場所（障がい別／複数回答）



(3) 日中の過ごし方について

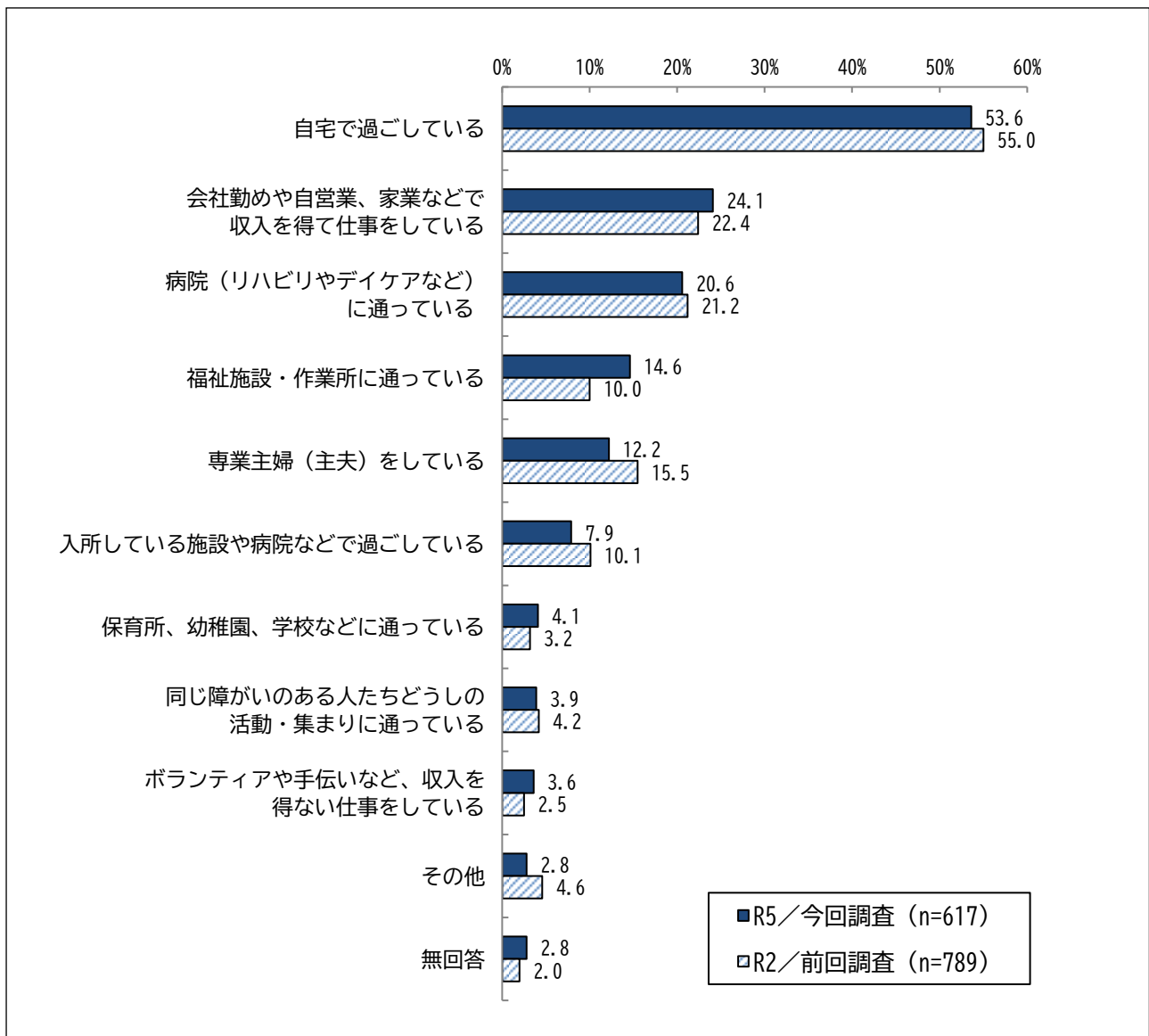
問 16 あなたは、日中をどのように過ごしていますか。(〇は3つまで)

【全体の傾向】

日中の過ごし方をみると、「自宅で過ごしている」(53.6%)が最も多く、次いで「会社勤めや自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」(24.1%)、「病院(リハビリやデイケアなど)に通っている」(20.6%)、「福祉施設・作業所に通っている」(14.6%)、「専業主婦(主夫)をしている」(12.2%)と続いています。

前回調査と比較すると、「福祉施設・作業所に通っている」が4.6ポイント増加し、「専業主婦(主夫)をしている」が3.3ポイント減少しています。

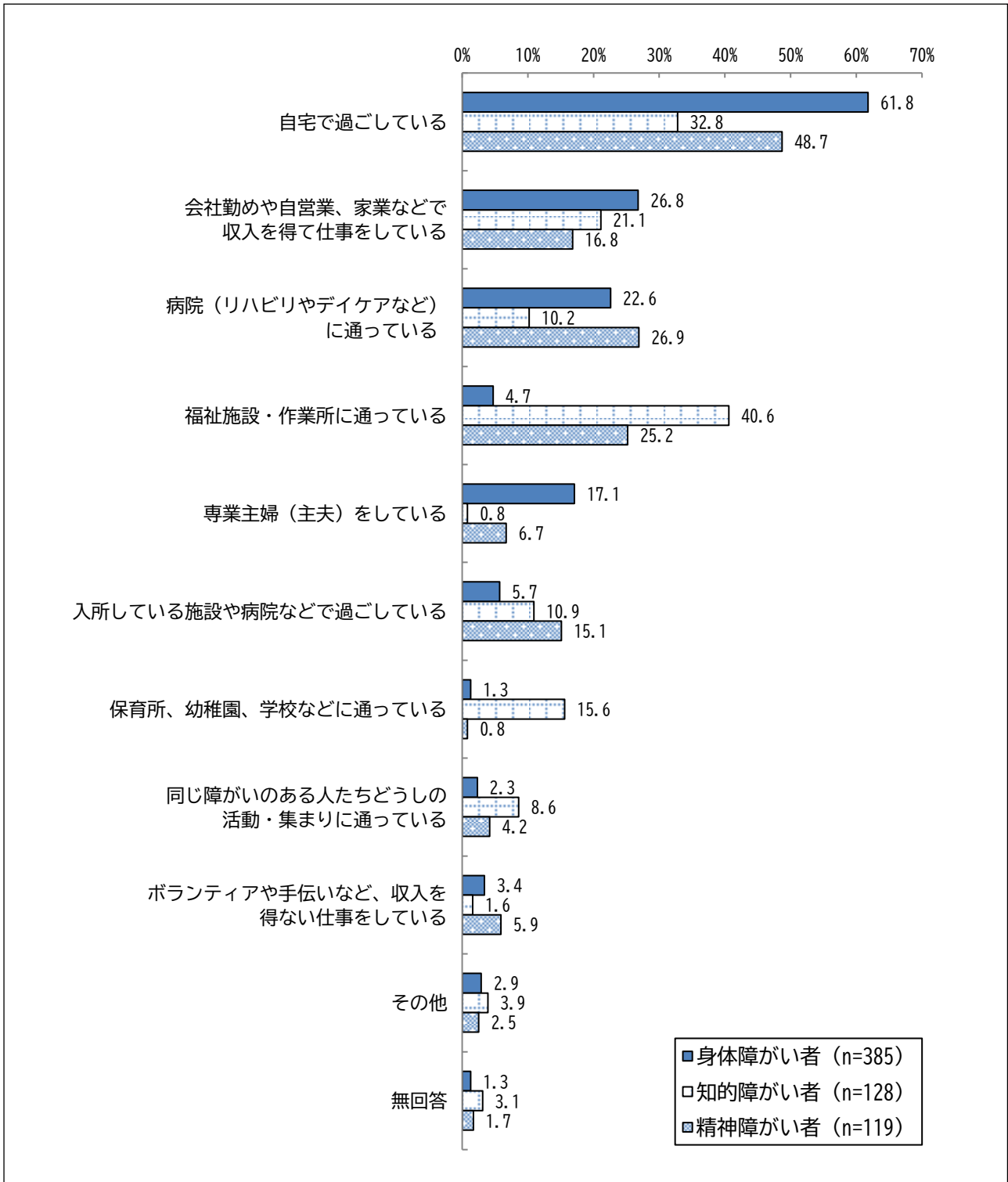
図表 33 日中活動について(全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者、精神障がい者では「自宅で過ごしている」が最も多く、身体障がい者は61.8%、精神障がい者は48.7%となっています。一方、知的障がい者では、「福祉施設・作業所に通っている」(40.6%)が最も多くなっています。

図表 34 日中活動について（障がい別／複数回答）



(4) 団体活動について

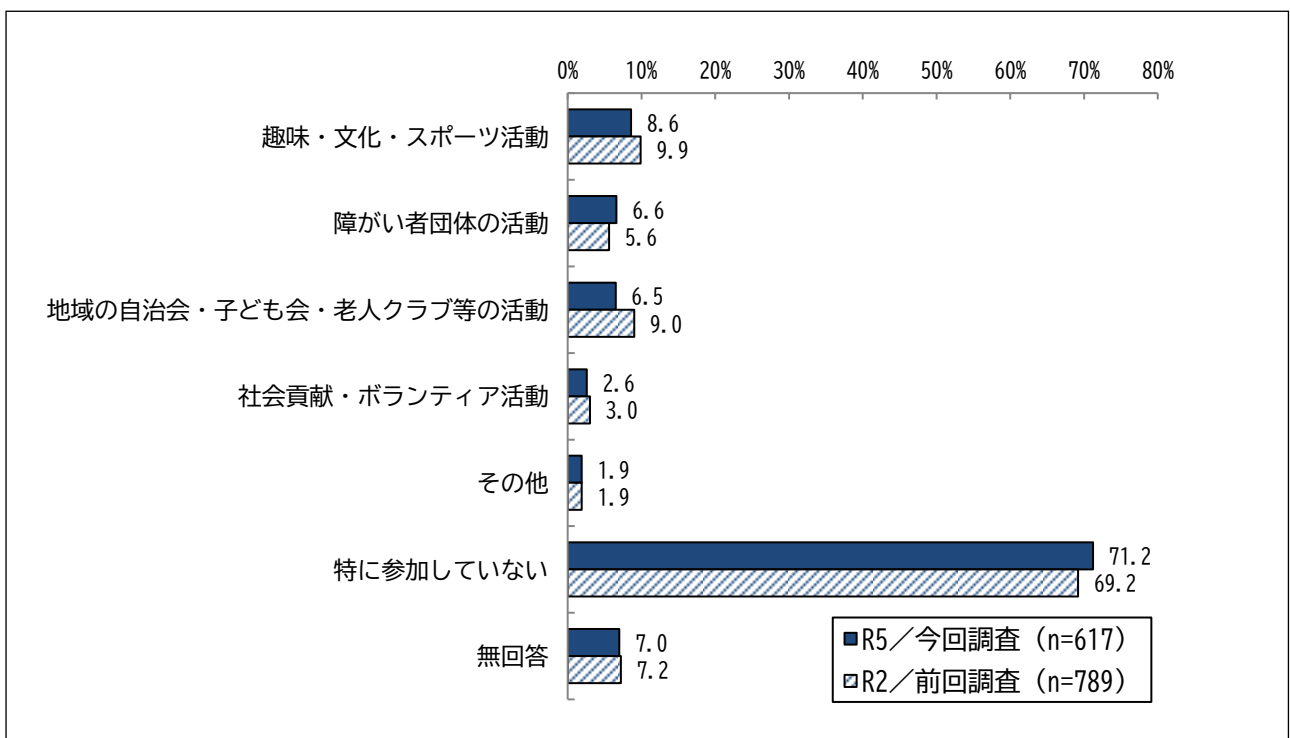
問 17 あなたが、仕事以外で参加している団体活動等は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

仕事以外で参加している団体活動を見ると「特に参加していない」が71.2%と最も多くなっています。

参加活動の内容としては、「趣味・文化・スポーツ活動」(8.6%)が多く、次いで、「障がい者団体の活動」(6.6%)、「地域の自治会・子ども会・老人クラブ等の活動」(6.5%)、「社会貢献・ボランティア活動」(2.6%)と続いています。

図表 35 団体活動について（全体、前回比較／複数回答）

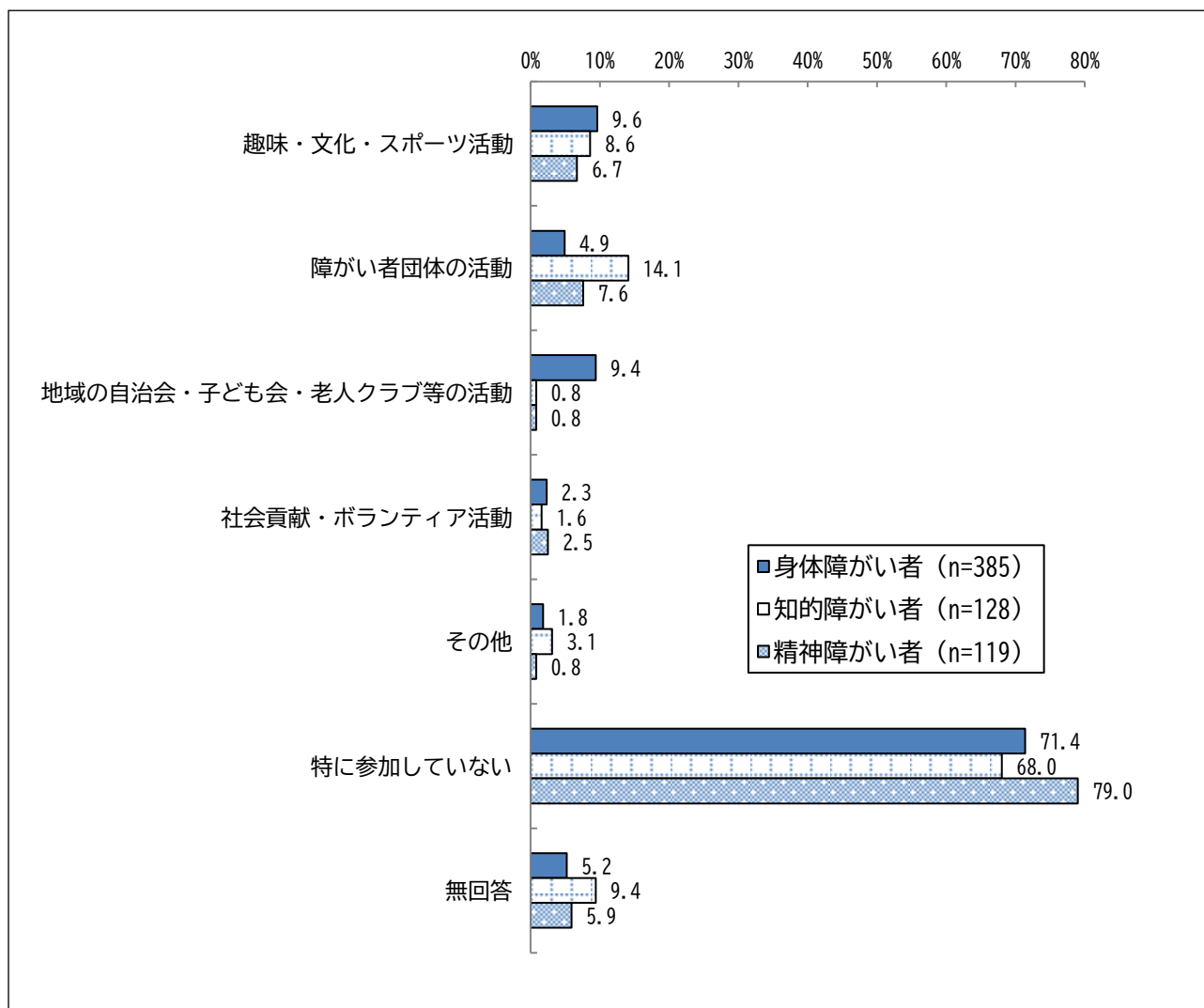


【属性別の傾向】

障がい別に参加している団体活動をみると、身体障がい者では「趣味・文化・スポーツ活動」(9.6%)、知的障がい者、精神障がい者では「障がい者団体の活動」(知的 14.1%、精神 7.6%) がそれぞれ多くなっています。

また、「特に参加していない」は身体障がい者、精神障がい者では7割を超えています。

図表 36 団体活動について（障がい別／複数回答）



(5) 暮らしの中で大事にしていること

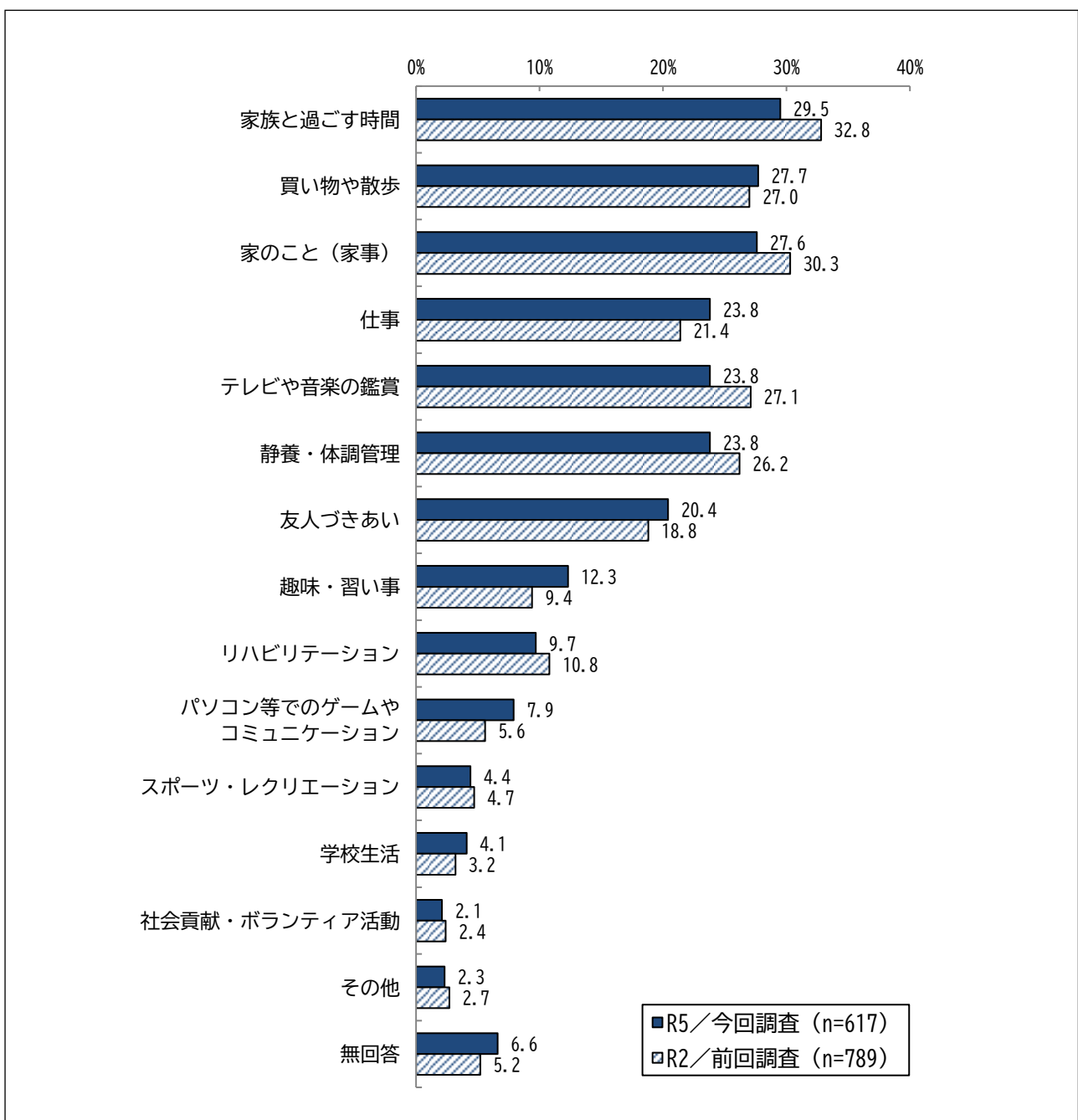
問 18 現在、あなたが暮らしの中で特に大事にしていること何ですか。(〇は3つまで)

【全体の傾向】

暮らしの中で大事にしていることをみると、「家族と過ごす時間」(29.5%)が最も多く、次いで「買い物や散歩」(27.7%)、「家のこと(家事)」(27.6%)、「仕事」「テレビや音楽の鑑賞」「静養・体調管理」(いずれも23.8%)と続いています。

前回調査と比較すると、「家族と過ごす時間」や「テレビや音楽の鑑賞」は3.3ポイント減少し、「趣味・習い事」が2.9ポイント増加しています。

図表 37 暮らしの中で特に大事にしていること(全体、前回比較/複数回答)



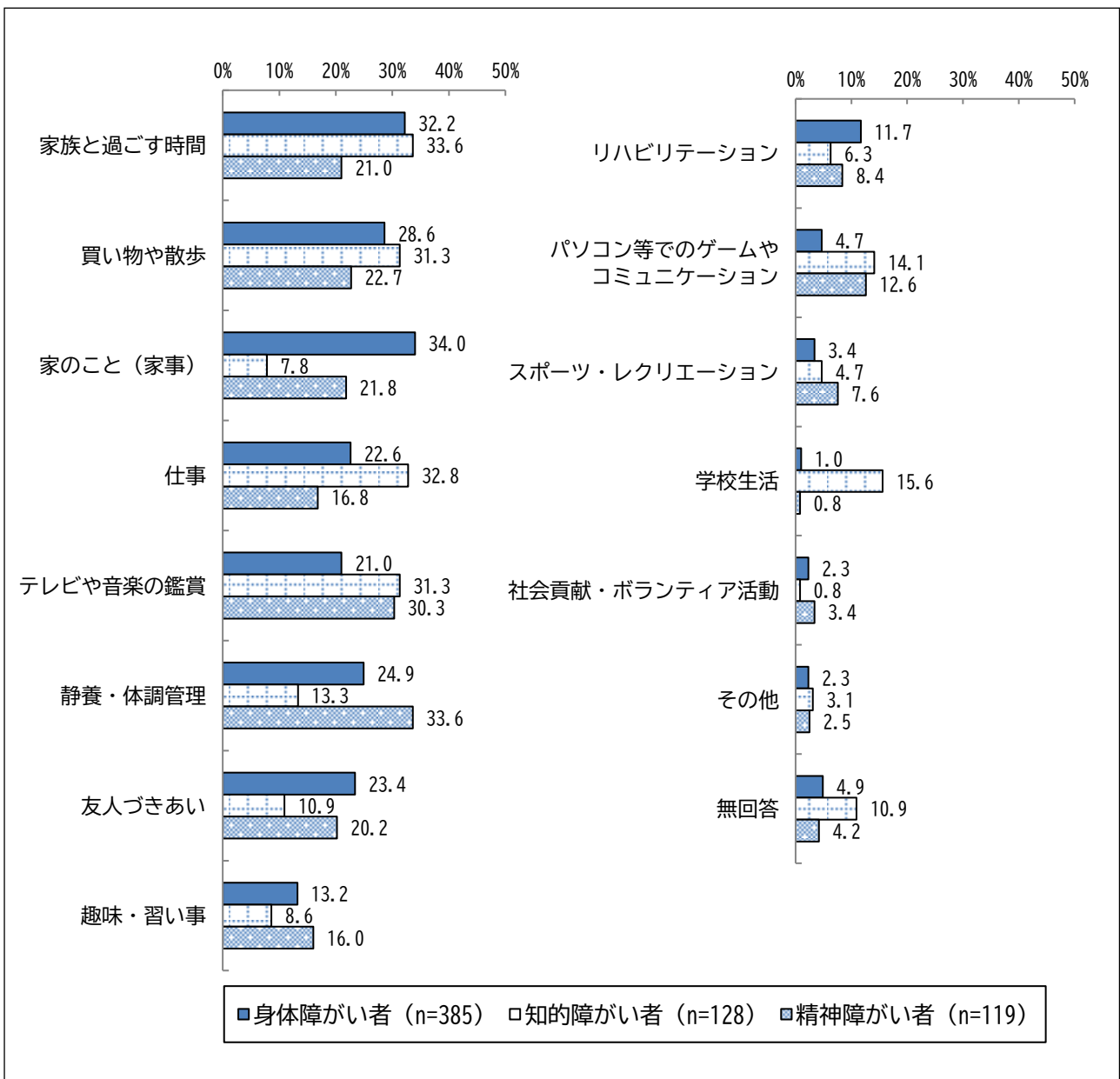
【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「家のこと（家事）」（34.0%）、「家族と過ごす時間」（32.2%）、「買物や散歩」（28.6%）などを大事にする人が多くなっています。

知的障がい者では、「家族と過ごす時間」（33.6%）、「仕事」（32.8%）、「買物や散歩」「テレビや音楽の鑑賞」（ともに 31.3%）なども多くなっています。また、「学校生活」（15.6%）の割合が、身体障がい者や精神障がい者と比較すると高くなっています。

精神障がい者では、「静養・体調管理」（33.6%）、「テレビや音楽の鑑賞」（30.3%）、「買物や散歩」（22.7%）が多くなっています。

図表 38 暮らしの中で特に大事にしていること（障がい別／複数回答）



(6) 自由時間の過ごし方について

問 19 あなたは、自由時間をどのように過ごしていますか。また、どのように過ごしたいですか。
(それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

【全体の傾向】

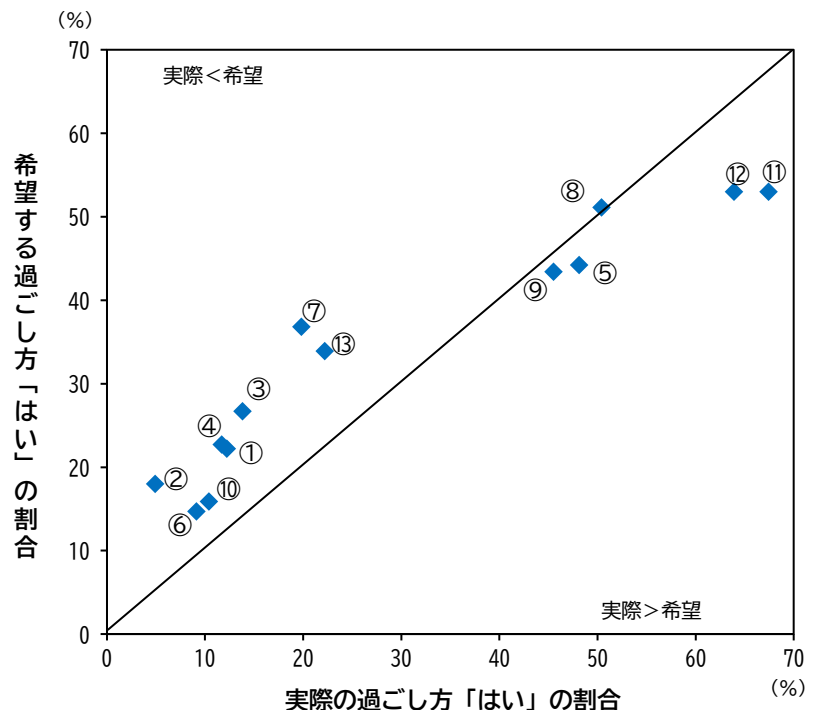
自由時間の過ごし方の実際と希望を比較すると、実際の「はい」の割合よりも、希望の「はい」の割合が大きい（実際<希望）ものは、「①習い事やサークル、趣味の集まりなどに参加する」、「②資格取得やパソコン講座などの勉強をする」、「③ジョギングや球技、水泳など、運動をする」、「④釣りやキャンプ、ドライブなど屋外の趣味をして過ごす」、「⑥遊興施設（カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど）へ出かける」、「⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける」、「⑩地域の集まりやボランティアなどに参加する」、「⑬友人や知人と集まって過ごす」などとなっています。

特に実際の割合よりも希望の割合の方が高い（対角線上からの距離が遠い）項目は、差が大きい順に「⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける」（17.0 ポイント差）、「②資格取得やパソコン講座などの勉強をする」（13.1 ポイント差）、「③ジョギングや球技、水泳など、運動をする」（12.9 ポイント差）などとなっており、これらの項目については、特に希望通りに過ごせていないことがうかがえます。

前回調査と比較すると、特に実際の割合と希望の割合差が大きい項目に変化はみられません。

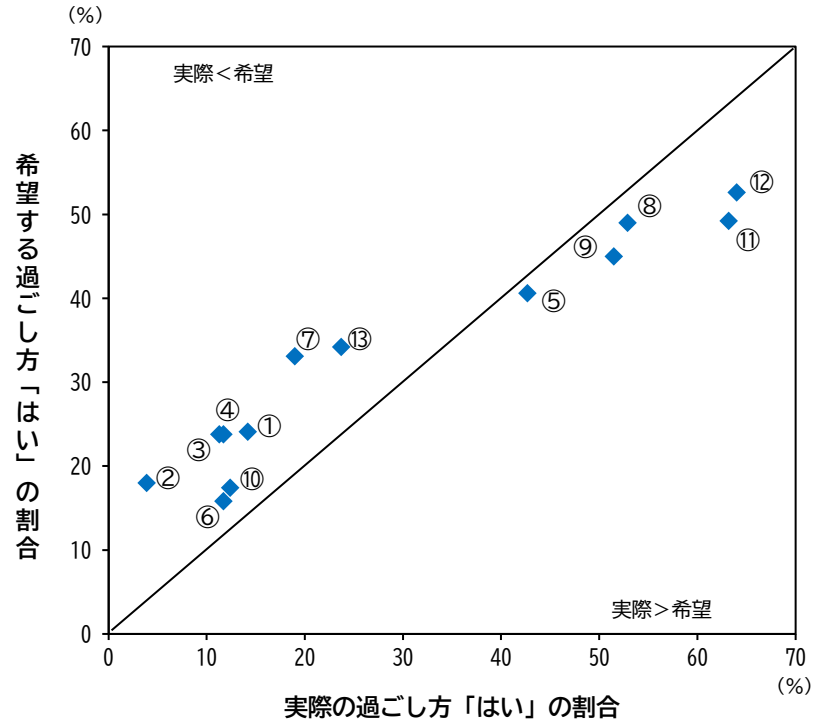
図表 39 自由時間の過ごし方の実際と希望（全体）

項目	実際 (%)	希望 (%)
①習い事やサークル、趣味の集まりなどに参加する	11.7	22.7
②資格取得やパソコン講座などの勉強をする	4.9	18.0
③ジョギングや球技、水泳など、運動をする	13.8	26.7
④釣りやキャンプ、ドライブなど、屋外の趣味をして過ごす	12.2	22.2
⑤読書やゲーム、パソコンなど、家の中でできる趣味をして過ごす	48.1	44.2
⑥遊興施設（カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど）へ出かける	10.4	15.9
⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける	19.8	36.8
⑧買い物や食事、飲み会などに出かける	50.4	51.1
⑨美容、身だしなみ、健康のため、理髪店・美容院、エステ・マッサージなどへ行く	45.5	43.4
⑩地域の集まりやボランティアなどに参加する	9.1	14.7
⑪家で、一人でゆっくり過ごす	67.4	53.0
⑫家で家族と過ごす	63.9	53.0
⑬友人や知人と集まって過ごす	22.2	33.9



図表 40 自由時間の過ごし方の実際と希望（前回）

項目	実際 (%)	希望 (%)
①習い事やサークル、趣味の集まりなどに参加する	14.2	24.1
②資格取得やパソコン講座などの勉強をする	3.9	18.0
③ジョギングや球技、水泳など、運動をする	11.3	23.8
④釣りやキャンプ、ドライブなど、屋外の趣味をして過ごす	11.7	23.8
⑤読書やゲーム、パソコンなど、家の中でできる趣味をして過ごす	42.7	40.6
⑥遊興施設（カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど）へ出かける	11.7	15.8
⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける	19.0	33.1
⑧買い物や食事、飲み会などに出かける	52.9	49.0
⑨美容、身だしなみ、健康のため、理髪店・美容院、エステ・マッサージなどへ行く	51.5	45.0
⑩地域の集まりやボランティアなどに参加する	12.4	17.4
⑪家で、一人でゆっくり過ごす	63.2	49.2
⑫家で家族と過ごす	64.0	52.6
⑬友人や知人と集まって過ごす	23.7	34.2



【属性別の傾向】

障がい別にみると、「①習い事やサークル、趣味の集まりなどに参加する」、「②資格取得やパソコン講座などの勉強をする」、「③ジョギングや球技、水泳など、運動をする」、「④釣りやキャンプ、ドライブなど屋外の趣味をして過ごす」、「⑥遊興施設（カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど）へ出かける」、「⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける」、「⑩地域の集まりやボランティアなどに参加する」、「⑬友人や知人と集まって過ごす」などは、いずれの障がい種別においても実際に希望の領域にあり、希望通りに過ごせていない人が多くみられる項目です。

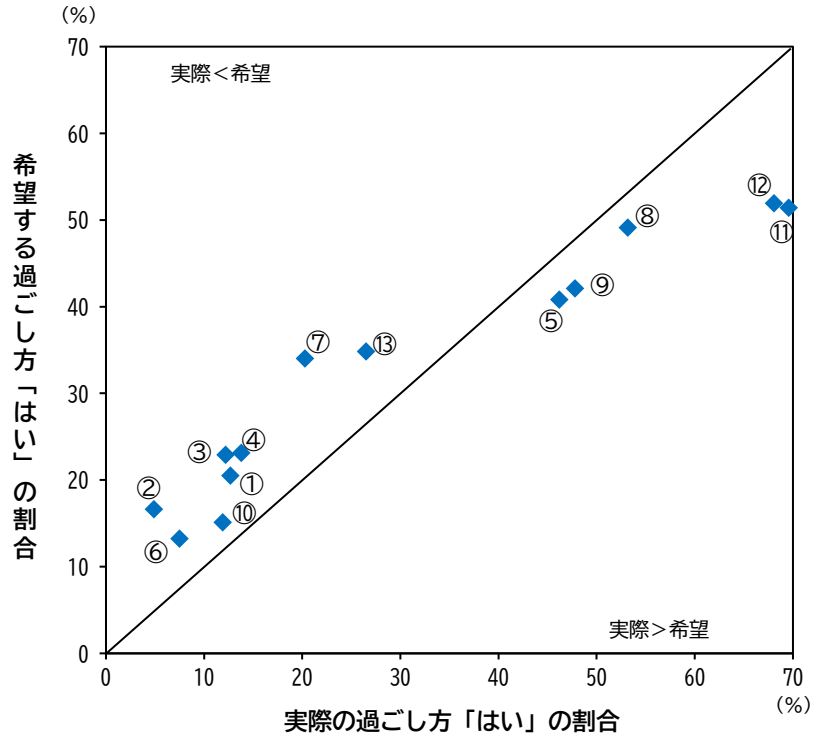
特に実際と希望の割合差が大きいものは、差が大きい順にみると、身体障がい者では「⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける」（13.7 ポイント差）、「②資格取得やパソコン講座などの勉強をする」（11.7 ポイント差）、「③ジョギングや球技、水泳など、運動をする」（10.7 ポイント差）となっています。

知的障がい者では、「⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける」（20.3 ポイント差）、「⑬友人や知人と集まって過ごす」（18.0 ポイント差）、「③ジョギングや球技、水泳など、運動をする」（17.2 ポイント差）となっています。

精神障がい者では「②資格取得やパソコン講座などの勉強をする」（27.7 ポイント差）、「⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける」（26.9 ポイント差）、「①習い事やサークル、趣味の集まりなどに参加する」（22.7 ポイント差）となっています。

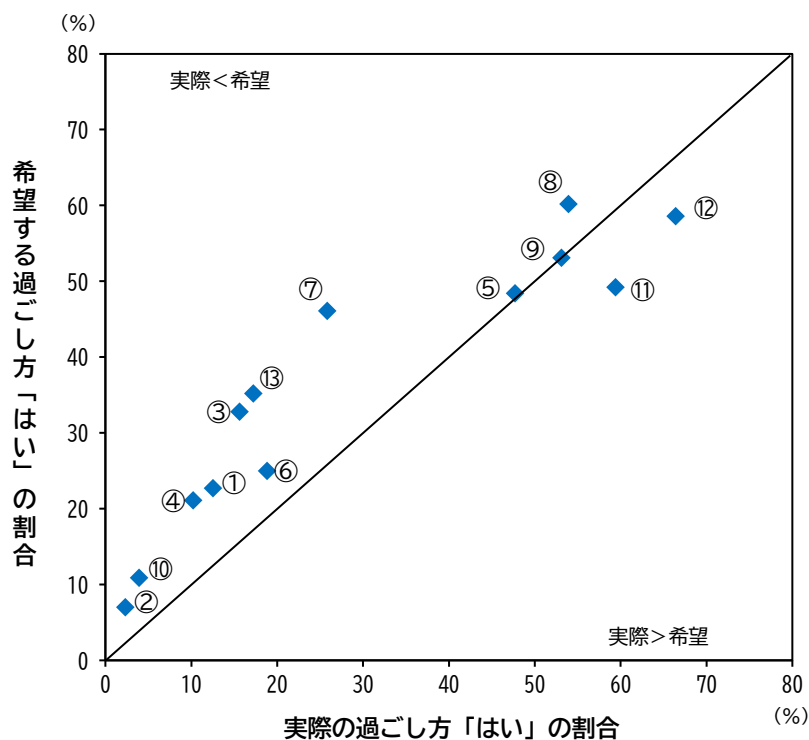
図表 41 自由時間の過ごし方の実際と希望（身体障がい者）

項目	実際 (%)	希望 (%)
①習い事やサークル、趣味の集まりなどに参加する	12.7	20.5
②資格取得やパソコン講座などの勉強をする	4.9	16.6
③ジョギングや球技、水泳など、運動をする	12.2	22.9
④釣りやキャンプ、ドライブなど、屋外の趣味をして過ごす	13.8	23.1
⑤読書やゲーム、パソコンなど、家の中でできる趣味をして過ごす	46.2	40.8
⑥遊興施設（カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど）へ出かける	7.5	13.2
⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける	20.3	34.0
⑧買い物や食事、飲み会などに出かける	53.2	49.1
⑨美容、身だしなみ、健康のため、理髪店・美容院、エステ・マッサージなどへ行く	47.8	42.1
⑩地域の集まりやボランティアなどに参加する	11.9	15.1
⑪家で、一人でゆっくり過ごす	69.6	51.4
⑫家で家族と過ごす	68.1	51.9
⑬友人や知人と集まって過ごす	26.5	34.8



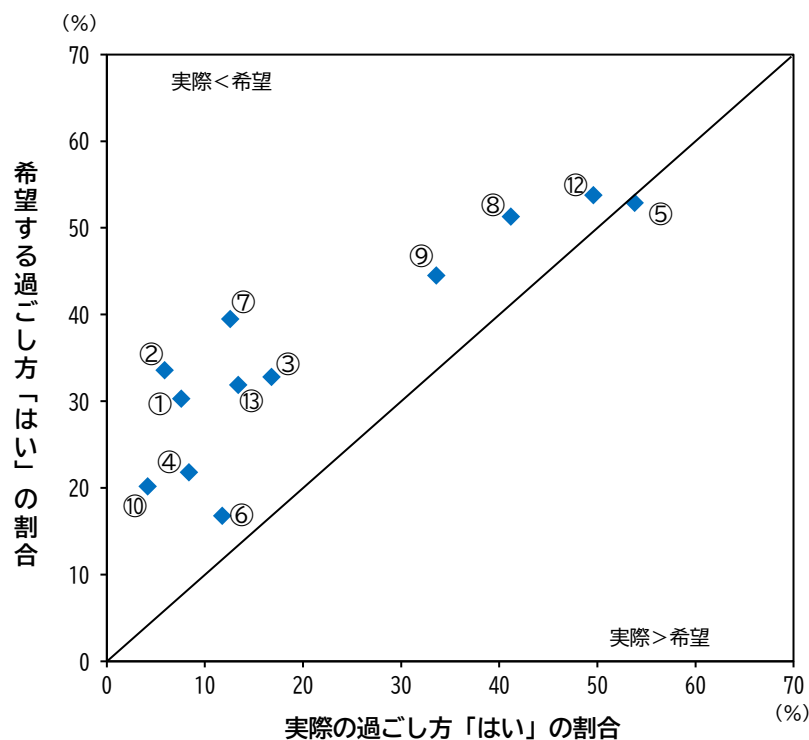
図表 42 自由時間の過ごし方の実際と希望（知的障がい者）

項目	実際 (%)	希望 (%)
① 習い事やサークル、趣味の集まりなどに参加する	12.5	22.7
② 資格取得やパソコン講座などの勉強をする	2.3	7.0
③ ジョギングや球技、水泳など、運動をする	15.6	32.8
④ 釣りやキャンプ、ドライブなど、屋外の趣味をして過ごす	10.2	21.1
⑤ 読書やゲーム、パソコンなど、家の中でできる趣味をして過ごす	47.7	48.4
⑥ 遊興施設（カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど）へ出かける	18.8	25.0
⑦ 美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける	25.8	46.1
⑧ 買い物や食事、飲み会などに出かける	53.9	60.2
⑨ 美容、身だしなみ、健康のため、理髪店・美容院、エステ・マッサージなどへ行く	53.1	53.1
⑩ 地域の集まりやボランティアなどに参加する	3.9	10.9
⑪ 家で、一人でゆっくり過ごす	59.4	49.2
⑫ 家で家族と過ごす	66.4	58.6
⑬ 友人や知人と集まって過ごす	17.2	35.2



図表 43 自由時間の過ごし方の実際と希望（精神障がい者）

項目	実際 (%)	希望 (%)
① 習い事やサークル、趣味の集まりなどに参加する	7.6	30.3
② 資格取得やパソコン講座などの勉強をする	5.9	33.6
③ ジョギングや球技、水泳など、運動をする	16.8	32.8
④ 釣りやキャンプ、ドライブなど、屋外の趣味をして過ごす	8.4	21.8
⑤ 読書やゲーム、パソコンなど、家の中でできる趣味をして過ごす	53.8	52.9
⑥ 遊興施設（カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど）へ出かける	11.8	16.8
⑦ 美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける	12.6	39.5
⑧ 買い物や食事、飲み会などに出かける	41.2	51.3
⑨ 美容、身だしなみ、健康のため、理髪店・美容院、エステ・マッサージなどへ行く	33.6	44.5
⑩ 地域の集まりやボランティアなどに参加する	4.2	20.2
⑪ 家で、一人でゆっくり過ごす	74.8	68.9
⑫ 家で家族と過ごす	49.6	53.8
⑬ 友人や知人と集まって過ごす	13.4	31.9



※実際に、希望通りに過ごすために必要だと思うこと（代表的な意見を抜粋して掲載しています。）

・健康・障がいの特性上の問題の解決 57件

No.	意見
1	臓器移植をしないと希望する過ごし方ができない。
2	障がい部位の回復。
3	歩くこと。ころばないように気を付けること。
4	障がいの完治
5	外出しても体調をくずさず過ごせる体力をつける。
6	体調と気分的に良ければできる。
7	常時、付き添いが必要になる。車いす移動にも介助がいる。
8	足が悪い為
9	病気の回復が必要
10	障がいがあることを理解して1回無理だったとしても何回かチャレンジできるとありがたいと思う。
11	外出はできるが、一人で行動するのは恥ずかしい為、同判者がいれば問題ないが県外・市外に行くなど遠方への行動は難しい。
12	1人での外出時に痛みが出た場合の対応に困る。
13	少しでも散歩して体を動かす事
14	日常の体調管理
15	リハビリで精一杯な為、もっと体力が必要だと思う。
16	外や大勢の人の中での話が聞きとれない。周囲の理解がないと会話ができにくい。
17	下肢、その他の筋力アップ
18	知的障がい者は自分から発信することができないので買物や食事、散歩に連れ出し、発散している。両親が元気であること。
19	急に視力が悪くなった為、どうしたらいいかわからない。視力の悪い仲間がいる施設があれば参加したいと思います。
20	心身的な健康

・福祉サービスの充実 42件

No.	意見
1	施設の外出制限が解除されること・送迎の家族支援があること。
2	介護できる人がいる。(24h)
3	友達が欲しいので、障がい者の集まりなどに行きたいです。
4	ボランティアやヘルパーさんの確保・情報の提供
5	通所リハビリを利用しているが、体調不良時は訪問リハビリ希望。
6	施設では日中、作業が主であり、レクリエーションなどに参加する時間もないし、支援内容に同行してることが含まれていないので週末、自宅に帰った時に親が連れて行ける場所だけに限られる。
7	体力を回復する為のリハビリに通いたいが、介護施設を重複して利用できないのが困っている。
8	参加するにあたって、市や組織団体等の紹介や後押しが必要と思う。
9	1ヶ月に2回趣味に通うために、デマンドタクシーを利用していますが、1時間毎の運行にしてほしい。300円の利用額を値上げしないでほしい。
10	何でも気兼ねなく相談できる人物が必要
11	習い事やサークルに行きたくても曜日が合わない事が多く、参加しづらい。
12	一緒に行って行動を援助してくれる人が居ると良い。
13	在宅、入所の垣根なく介護をしてほしい。
14	障がい者への理解、障がい者が利用しやすい施設を増やす。

・金銭、時間の余裕 37件

No.	意見
1	足が不自由な為、あまり買物以外は出かけない。又、金銭的にも余裕がなく生活するのが精一杯である。医療費に沢山支払いをしている。
2	経済的な余裕・自由な時間
3	お金。やる気。
4	お金、時間、家族の許可
5	仕事以外に使う時間
6	お金が必要。電車やバス利用では行けるが、そうでないところは行けないため。
7	お金、友達
8	お金と車などの援助
9	お金、就職
10	お金と体力
11	気持ちの余裕と金銭
12	足が悪いので、スポーツするためには、特別な車いすが必要で、金額がかかると思われます。

・本人の意識の問題 30件

No.	意見
1	障がいの特性から希望はあるが、行動に移す気力、体力は無い。
2	他人と比べない。自己満足の気持ちを大切に。又、様々な方の趣味を尊重する。等が必要不可欠であると思います。
3	前向きな気持ち
4	自分が何をしたいのかしたい習い事などが近くにあるか調べ近くにあれば参加する。自分で行動する事が大事。
5	行きたいと思うけれど、どうすればよいか、わからない。
6	子ども自身が必要としない。
7	好奇心、行動力、体力、精神力
8	目標や目的
9	ルールなどを守れるようになる。
10	1歩踏み出す勇気

・人間関係 27件

No.	意見
1	知人が訪問してくれること。
2	友人、知人がいない
3	人とのつながり
4	周りの人との交流を大切にしてい。少しでも自分に自信が持てるように頑張ってみる。
5	家族の理解
6	変な行動をしても許してもらえ周囲の理解が必要です。
7	気の合う、理解ある友人をつくる。
8	コミュニケーション能力の向上
9	会社の人とレクリエーション

5 福祉サービスについて

(1) 各種サービスの利用状況と利用希望

問 20 以下の各種サービスについて、利用していますか、また今後利用したいですか。
(それぞれについてあてはまるもの1つに○)

【全体の傾向】

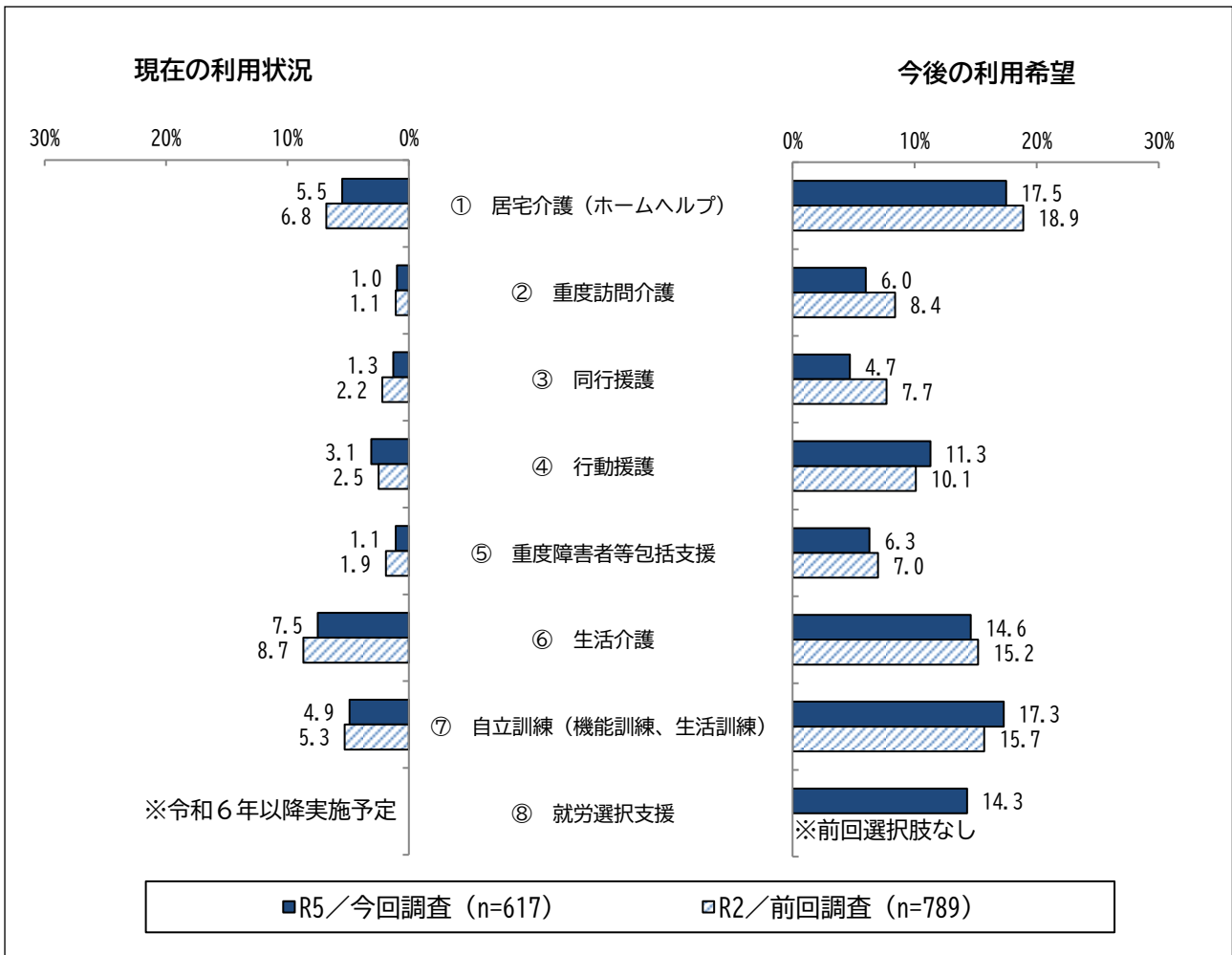
現在のサービスの利用状況についてみると、「㉑相談支援」が12.0%と最も高く、次いで「㉒就労継続支援（A型、B型）」（9.4%）、「㉓生活介護」（7.5%）となっています。

今後の利用希望については、「㉑相談支援」が29.0%と最も高く、次いで「㉒移動支援」（17.8%）、「㉓居宅介護」（17.5%）となっています。

前回調査と比較すると、現在の利用状況、今後の利用希望ともに「㉔共同生活援助」が4ポイント以上増加しています。

また、現在の利用状況に比べて、今後の利用希望の割合が大きく上回っているサービスは、差が大きい順に「㉑相談支援」（17.0ポイント）、「㉕自立生活援助」（12.8ポイント）、「㉖自立訓練」（12.4ポイント）などとなっています。

図表 44 現在の利用状況と今後の利用希望（全体、前回比較）



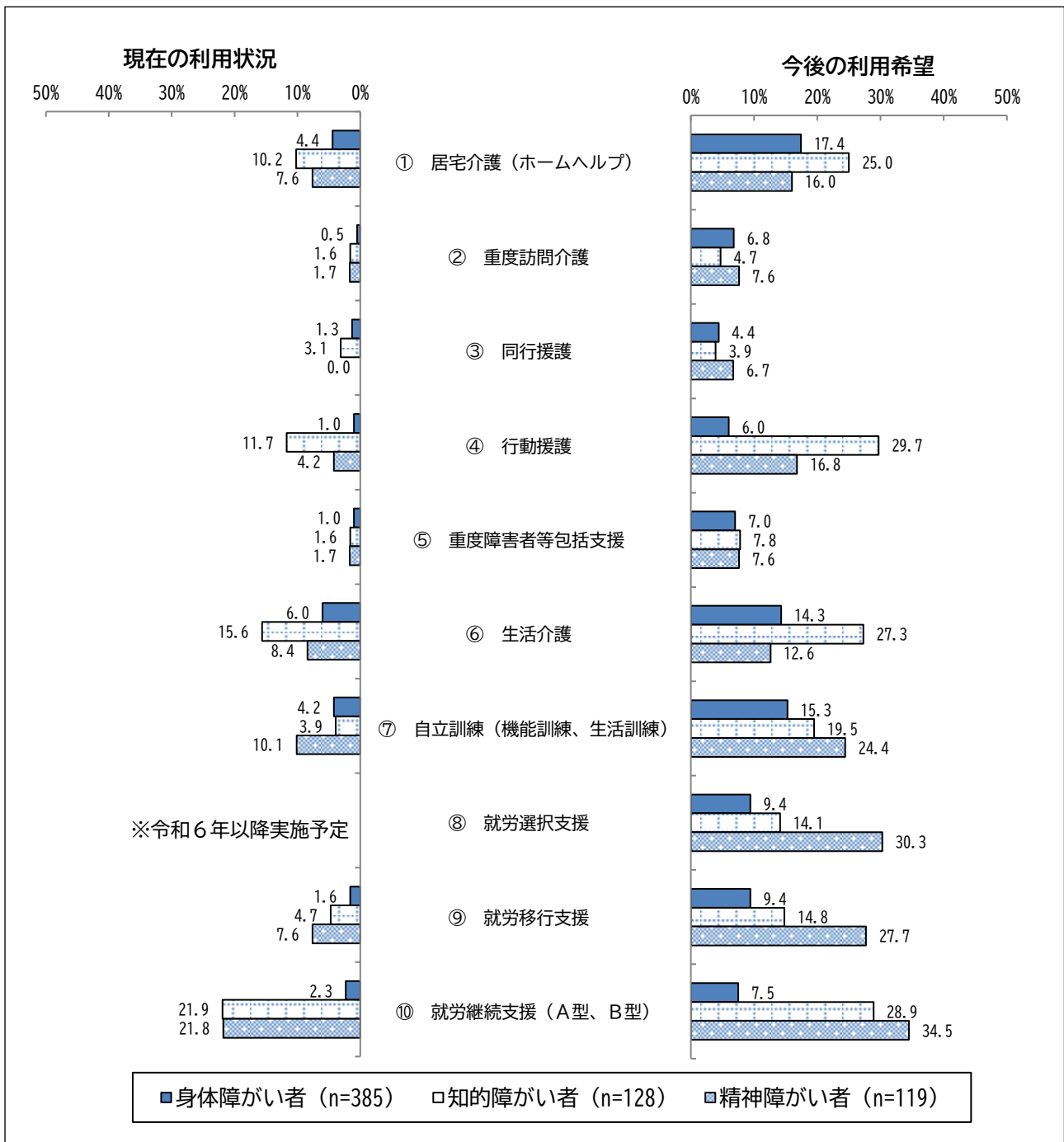
【属性別の傾向】

障がい別にみると、現在利用者が多いサービスは、身体障がい者では、「⑥生活介護」、知的障がい者では「②相談支援」、精神障がい者では「⑭共同生活援助」となっています。

今後の利用希望者が最も多いサービスは、いずれの障がい種別においても「⑫相談支援」となっています。また、知的障がい者では「⑭共同生活援助」、「⑫移動支援」、「⑬短期入所」、精神障がい者では「⑩就労継続支援（A型、B型）」、「⑭共同生活援助」、「⑧就労選択支援」などの利用希望者も多くなっています。

現在の利用状況と今後の利用希望の割合の差が最も大きいサービスは、身体障がい者では「⑫相談支援」、知的障がい者では「⑭共同生活援助」、精神障がい者では「⑨就労移行支援」となっています。

図表 45 現在の利用状況と今後の利用希望（障がい別）

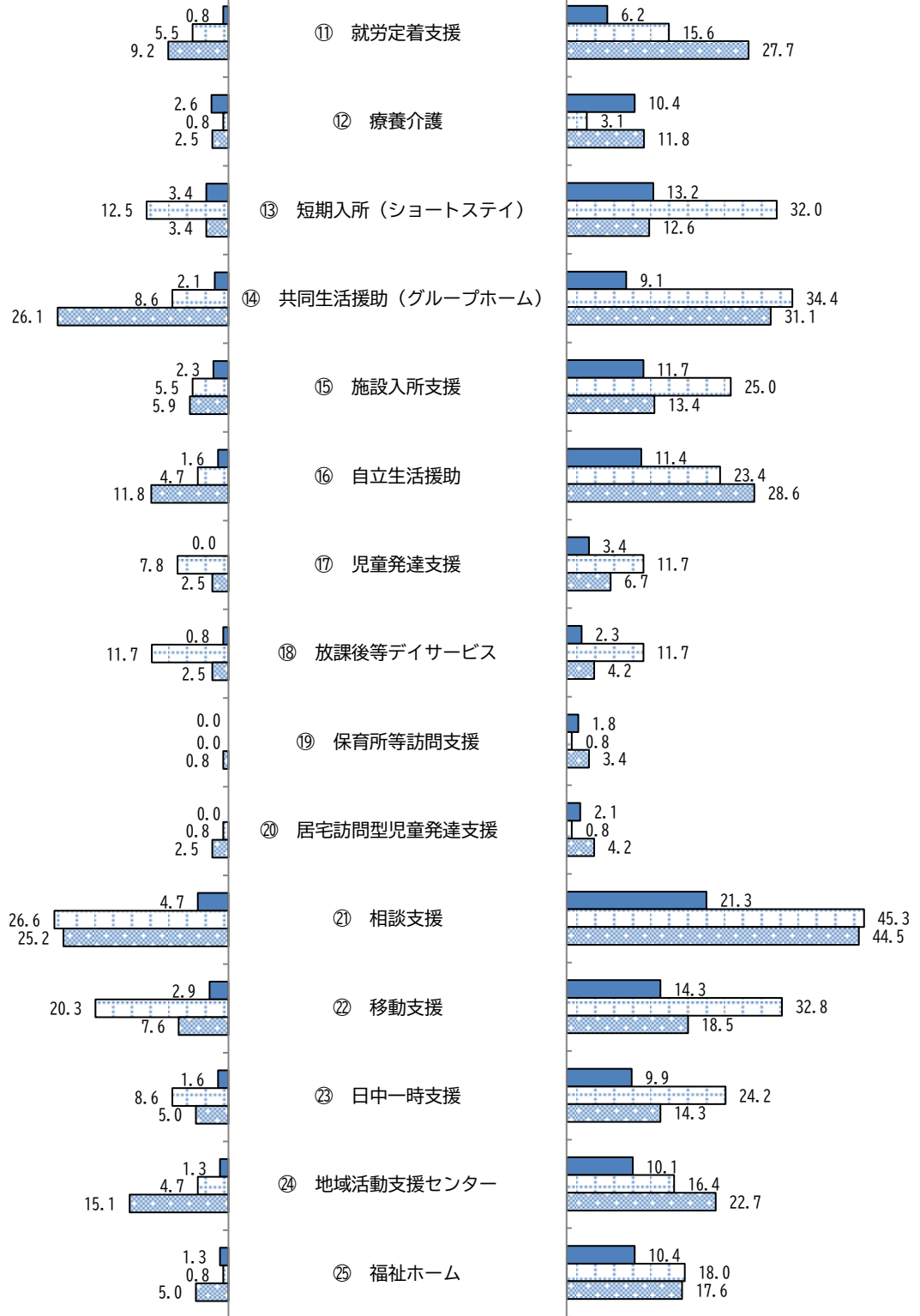


現在の利用状況

50% 40% 30% 20% 10% 0%

今後の利用希望

0% 10% 20% 30% 40% 50%

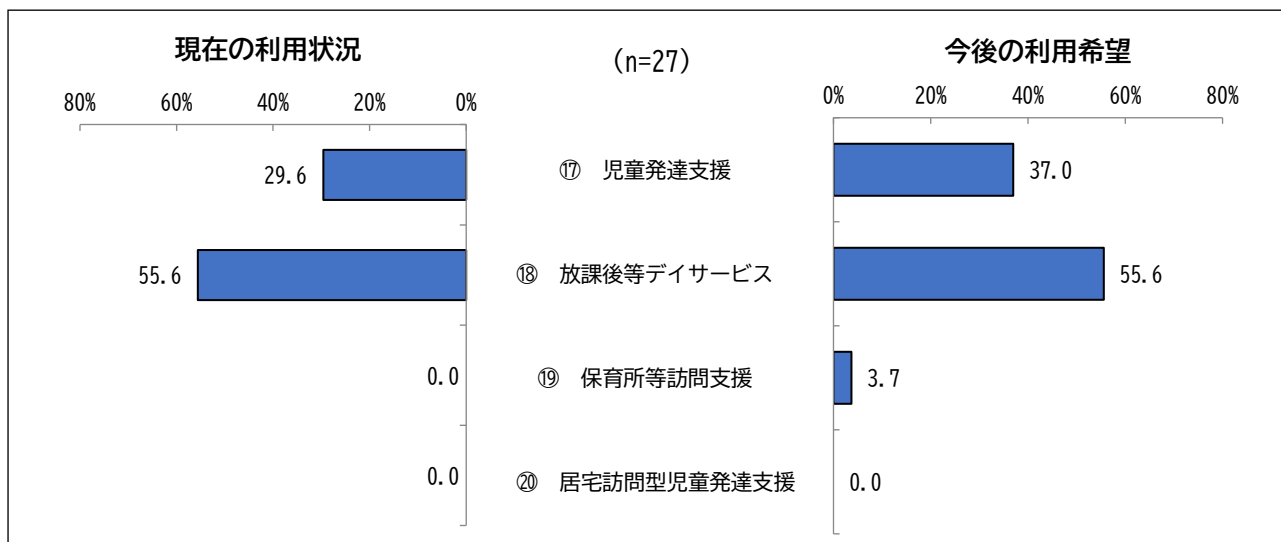


■身体障がい者 (n=385) □知的障がい者 (n=128) ▨精神障がい者 (n=119)

【全体の傾向：18歳未満の回答者のみ】

18歳未満の回答者における、利用状況等については、「⑰児童発達支援」については、現在の利用者よりも今後の利用希望者の割合が上回っていますが、「⑱放課後等デイサービス」については、現在の利用者、今後の利用希望ともに55.6%となっており、希望通りに利用できていることがうかがえます。

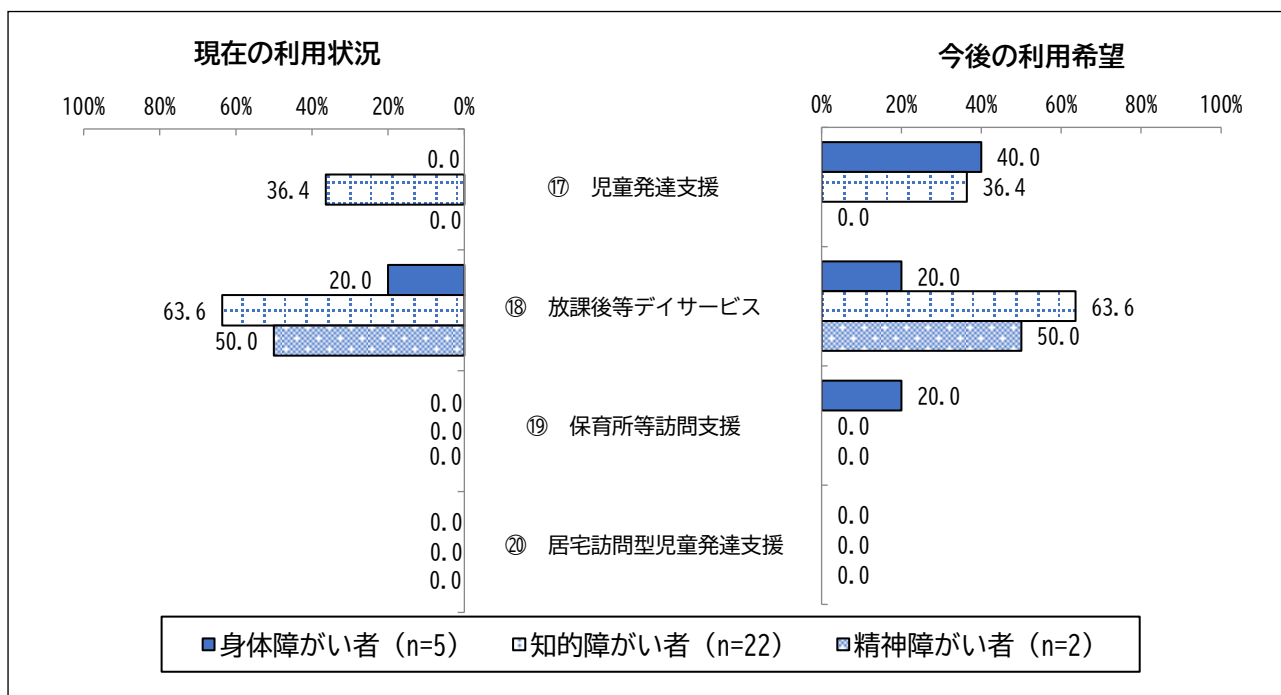
図表 46 現在の利用状況と今後の利用希望（全体：18歳未満のみ）



【属性別の傾向：18歳未満の回答者のみ】

障がい別にみると、知的障がい者、精神障がい者では、現在の利用状況と今後の利用希望割合に大差はみられません。一方、身体障がい者では、「⑰児童発達支援」、「⑲保育所等訪問支援」などで、今後の利用希望の割合が大きく上回っています。

図表 47 現在の利用状況と今後の利用希望（障がい別：18歳未満のみ）



(2) 情報の入手について

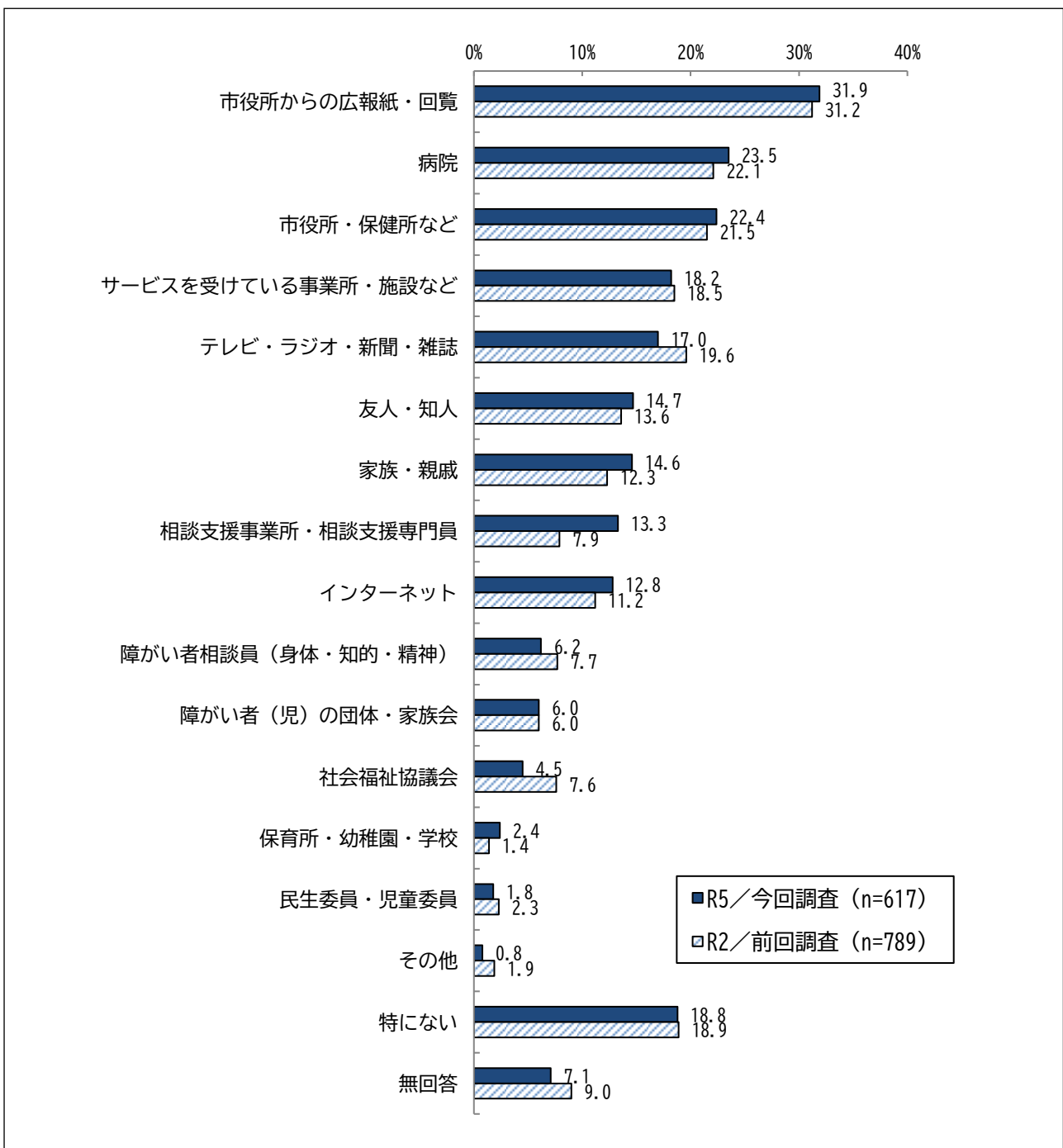
問 21 サービスに関する情報をどこから入手していますか。(〇は5つまで)

【全体の傾向】

サービスに関する情報の入手先をみると、「市役所からの広報紙・回覧」(31.9%)が最も多く、次いで、「病院」(23.5%)、「市役所・保健所など」(22.4%)、「特にない」(18.8%)、「サービスを受けている事業所・施設など」(18.2%)、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」(17.0%)と続いています。

前回調査と比較すると、「相談支援事業所・相談支援専門員」が5.4ポイント増加しています。

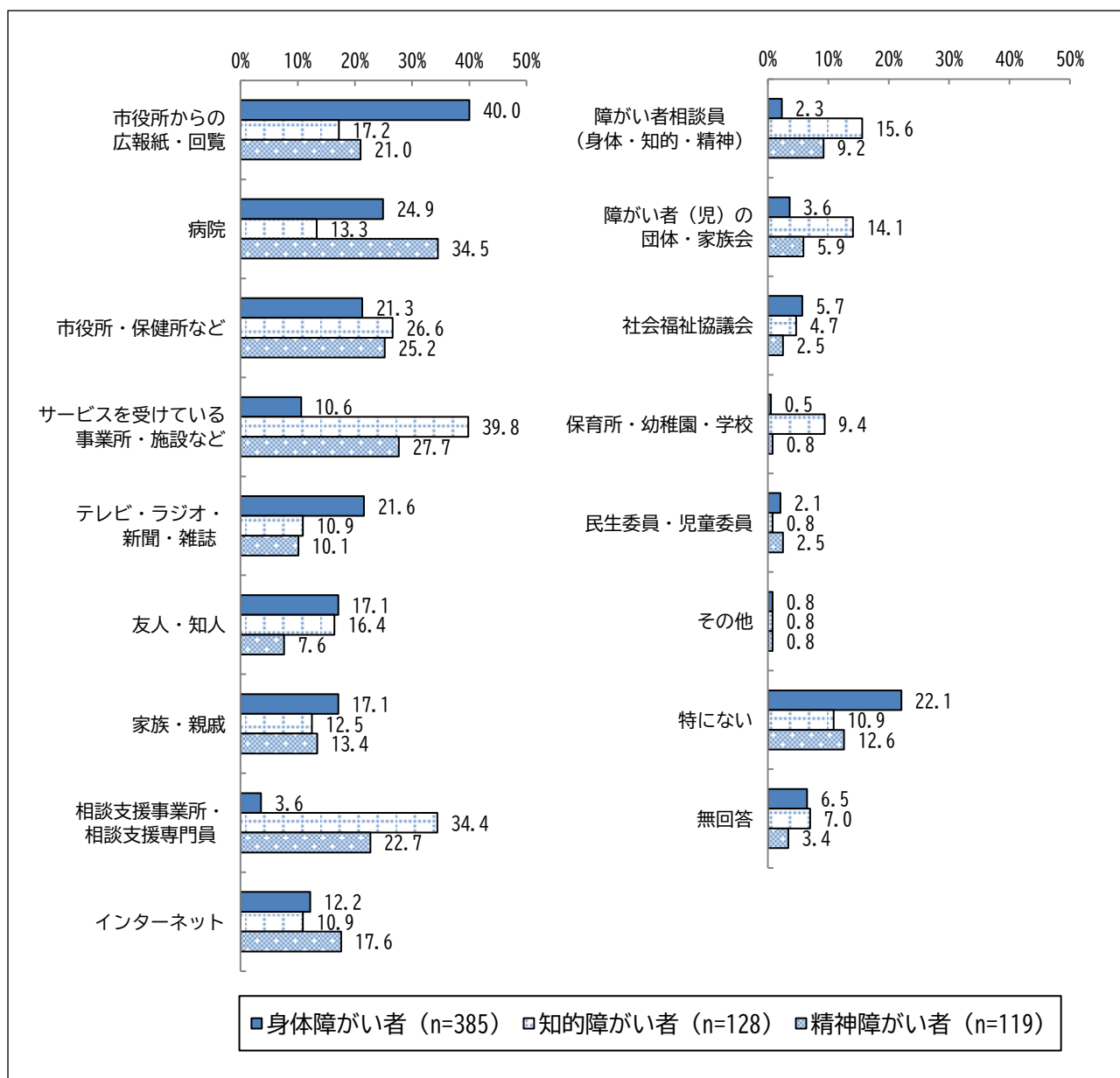
図表 48 サービスに関する情報の入手先（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「市役所からの広報紙・回覧」(40.0%)、知的障がい者では「サービスを受けている事業所・施設など」(39.8%)、精神障がい者では「病院」(34.5%)がそれぞれ最も多くなっています。

図表 49 サービスに関する情報の入手先 (障がい別/複数回答)

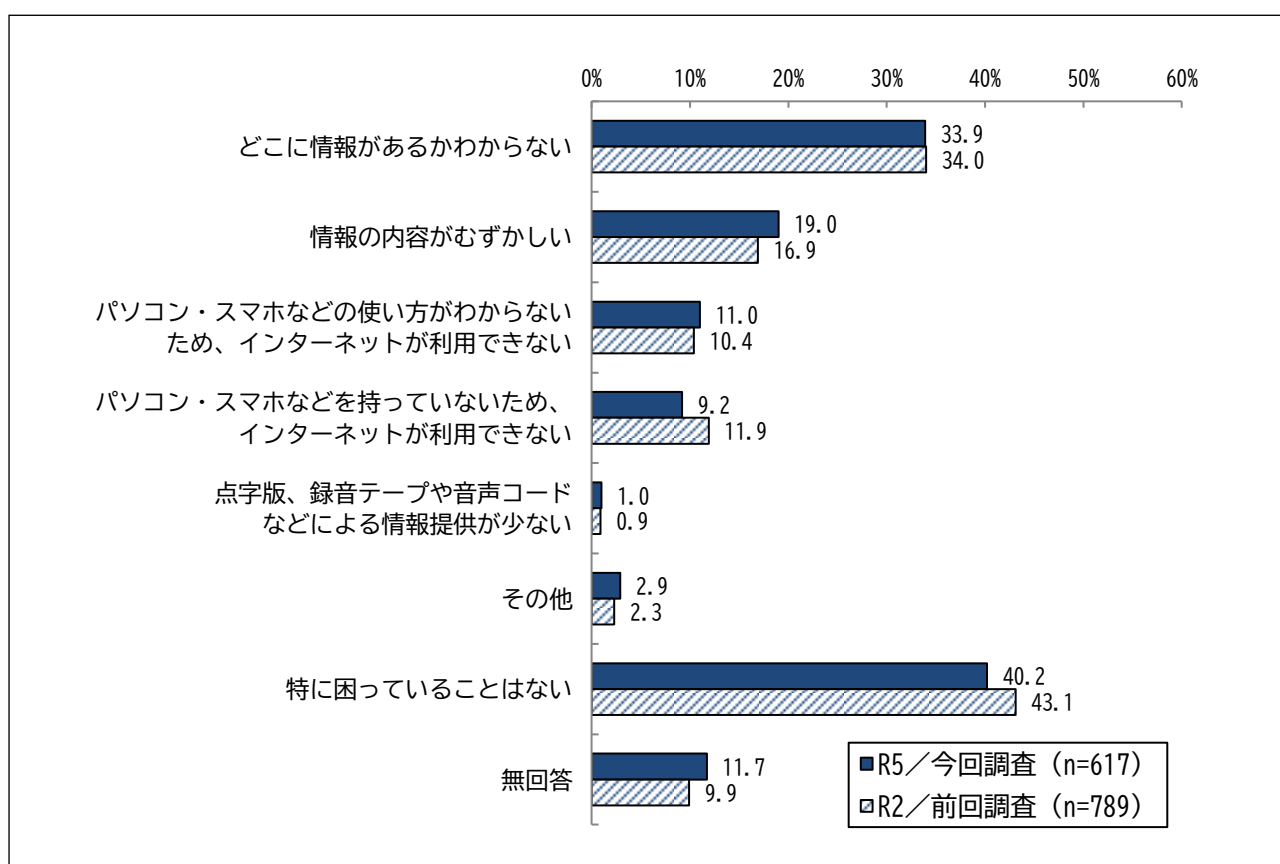


問 22 福祉に関する情報の入手についてあなたが困っていることはありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

情報を入手する際に困っていることをみると、「特に困っていることはない」(40.2%)が最も多く、次いで「どこに情報があるかわからない」(33.9%)、「情報の内容がむずかしい」(19.0%)、「パソコン・スマホなどの使い方がわからないため、インターネットが利用できない」(11.0%)、「パソコン・スマホなどを持っていないため、インターネットが利用できない」(9.2%)、「点字版、録音テープや音声コードなどによる情報提供が少ない」(1.0%)と続いています。

図表 50 福祉に関する情報の入手で困っていること (全体、前回比較/複数回答)

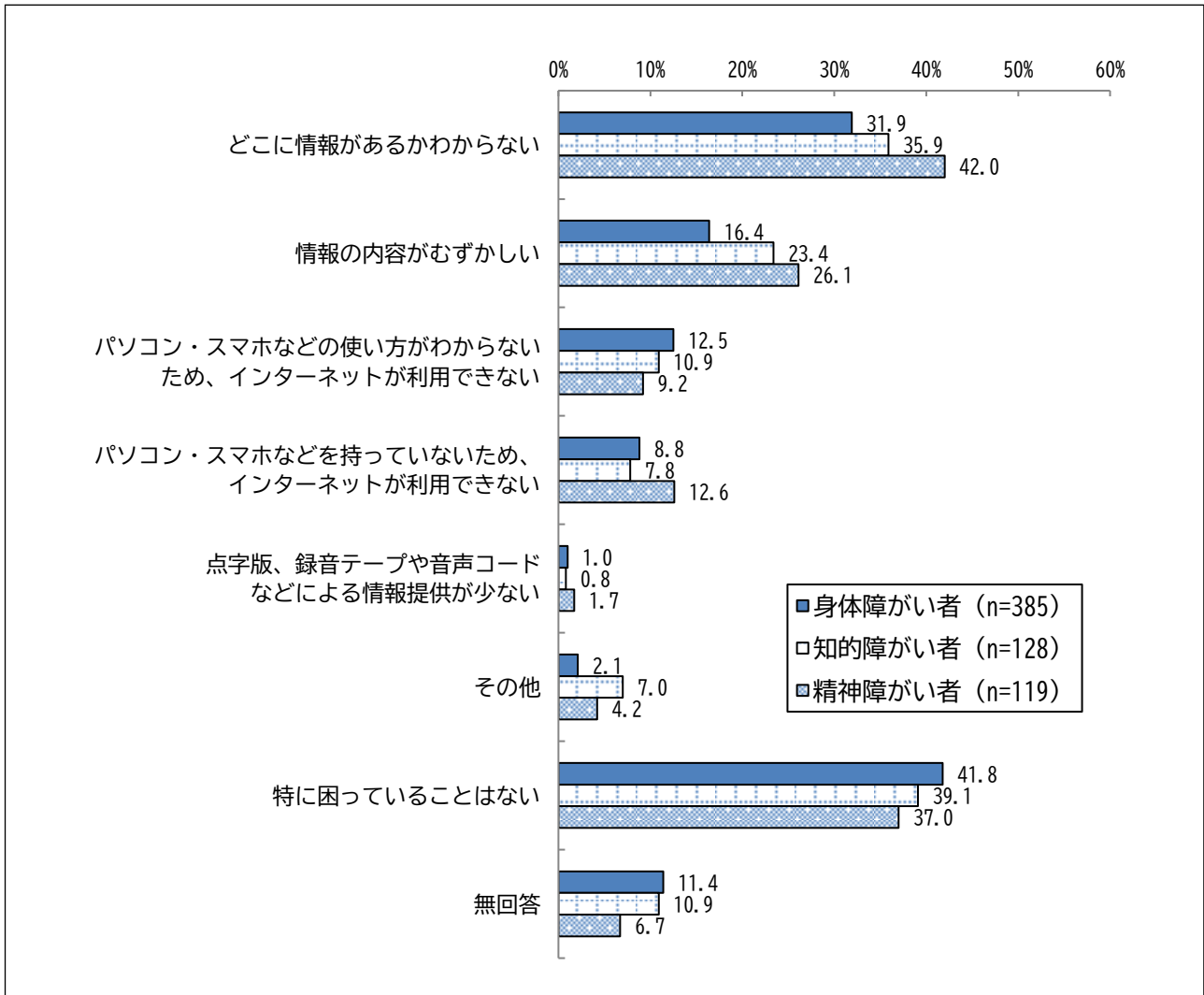


【属性別の傾向】

障がい別に情報を入手する際に困っていることをみると、障がいの種別に関わらず、「どこに情報があるかわからない」が多く、特に精神障がい者では4割を超えています。

また、「特に困っていることはない」は身体障がい者で41.8%、知的障がい者で39.1%、精神障がい者で37.0%となっています。

図表 51 福祉に関する情報の入手で困っていること（障がい別／複数回答）



(3) サービスの利用について

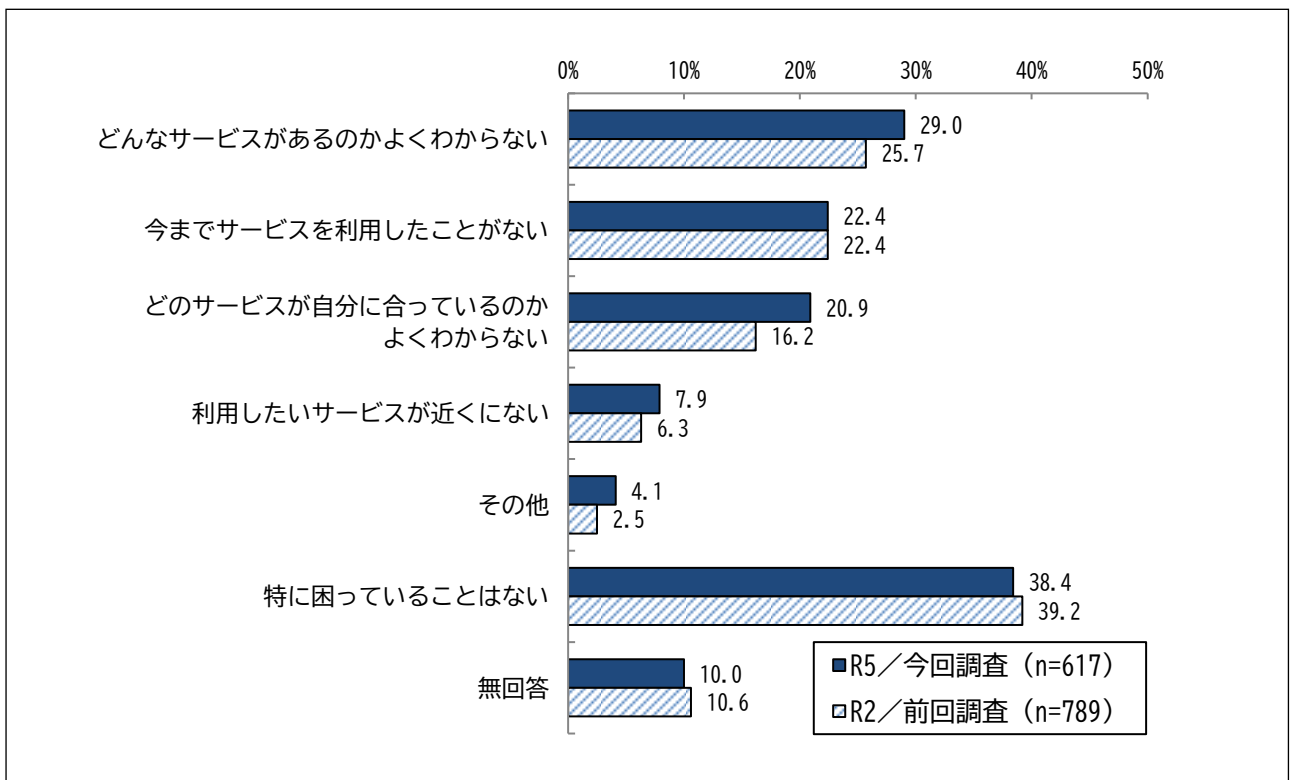
問 23 これまでサービスの利用について不満や困ったことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

サービスの利用について不満や困ったことがあったかをみると、「特に困っていることはない」(38.4%)が最も多く、次いで「どんなサービスがあるのかよくわからない」(29.0%)、「今までサービスを利用したことがない」(22.4%)、「どのサービスが自分に合っているのかよくわからない」(20.9%)、「利用したいサービスが近くにない」(7.9%)と続いています。

前回調査と比較すると、「どのサービスが自分に合っているのかよくわからない」が4.7ポイント増加しています。

図表 52 サービス利用についての不満など (全体、前回比較/複数回答)



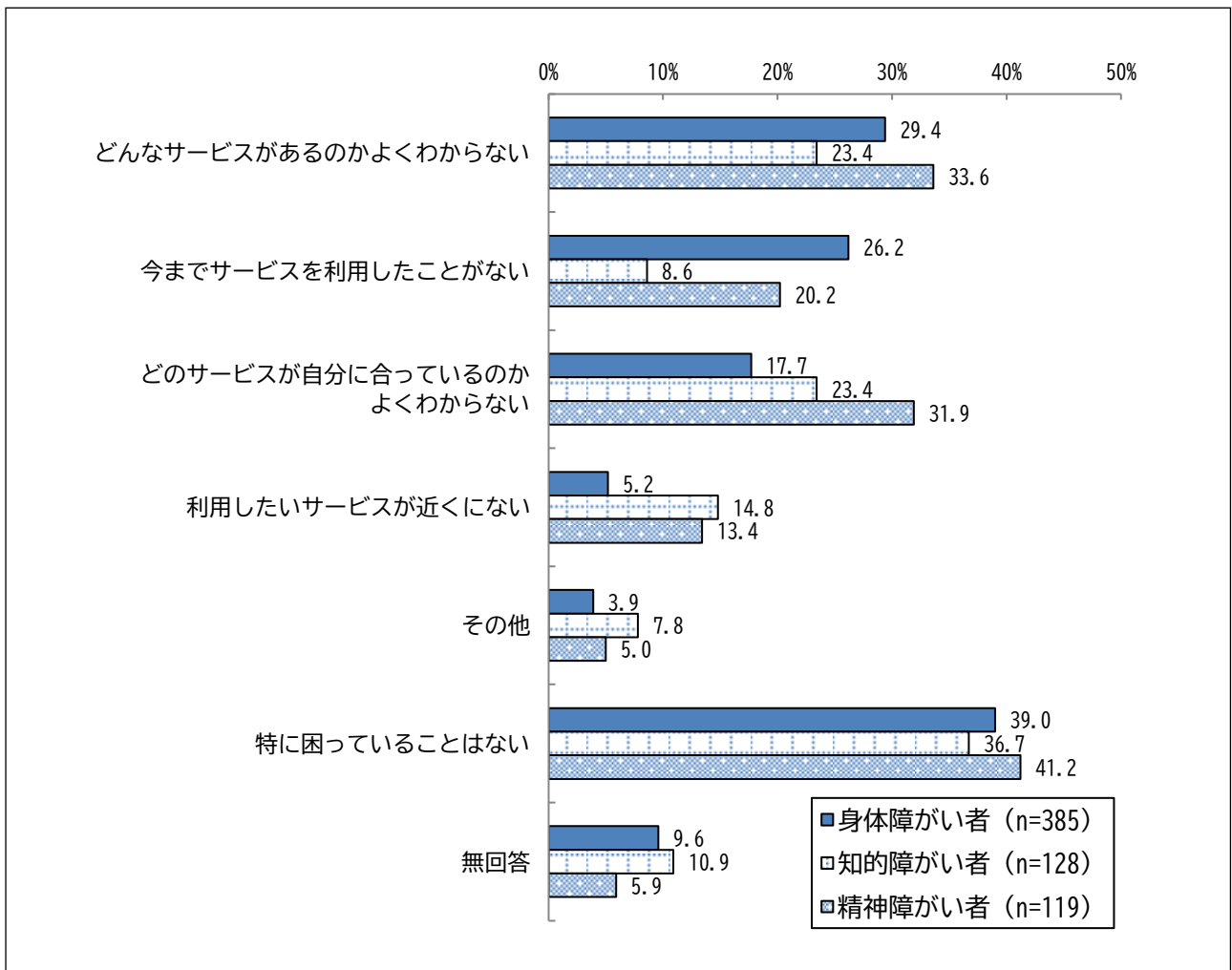
【属性別の傾向】

障がい別にサービス利用に関する不満についてみると、障がいの種別に関わらず「どんなサービスがあるのかよくわからない」が多く、特に精神障がい者で33.6%と3割を超えています。

また、知的障がい者では、「どのサービスが自分に合っているのかよくわからない」も23.4%と同率で多くなっています。

また、「特に困っていることはない」は身体障がい者で39.0%、知的障がい者で36.7%、精神障がい者で41.2%となっています。

図表 53 サービス利用についての不満など（障がい別／複数回答）



6 仕事などについて

(1) 世帯収入について

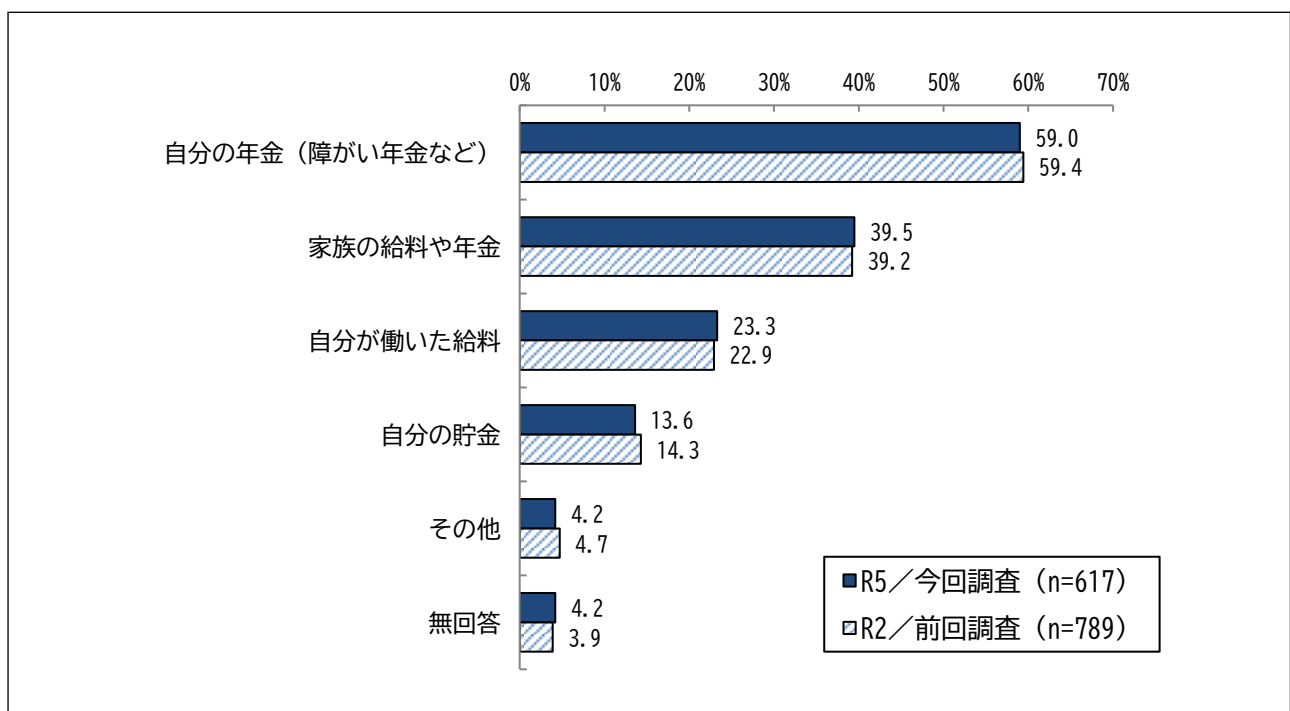
問 24 あなたの世帯の主な収入源は何ですか。(〇は2つまで)

【全体の傾向】

世帯の主な収入源をみると、「自分の年金（障がい年金など）」（59.0%）が最も多く、次いで「家族の給料や年金」（39.5%）、「自分が働いた給料」（23.3%）、「自分の貯金」（13.6%）と続いています。

前回調査と比較すると、概ね同様の結果となっています。

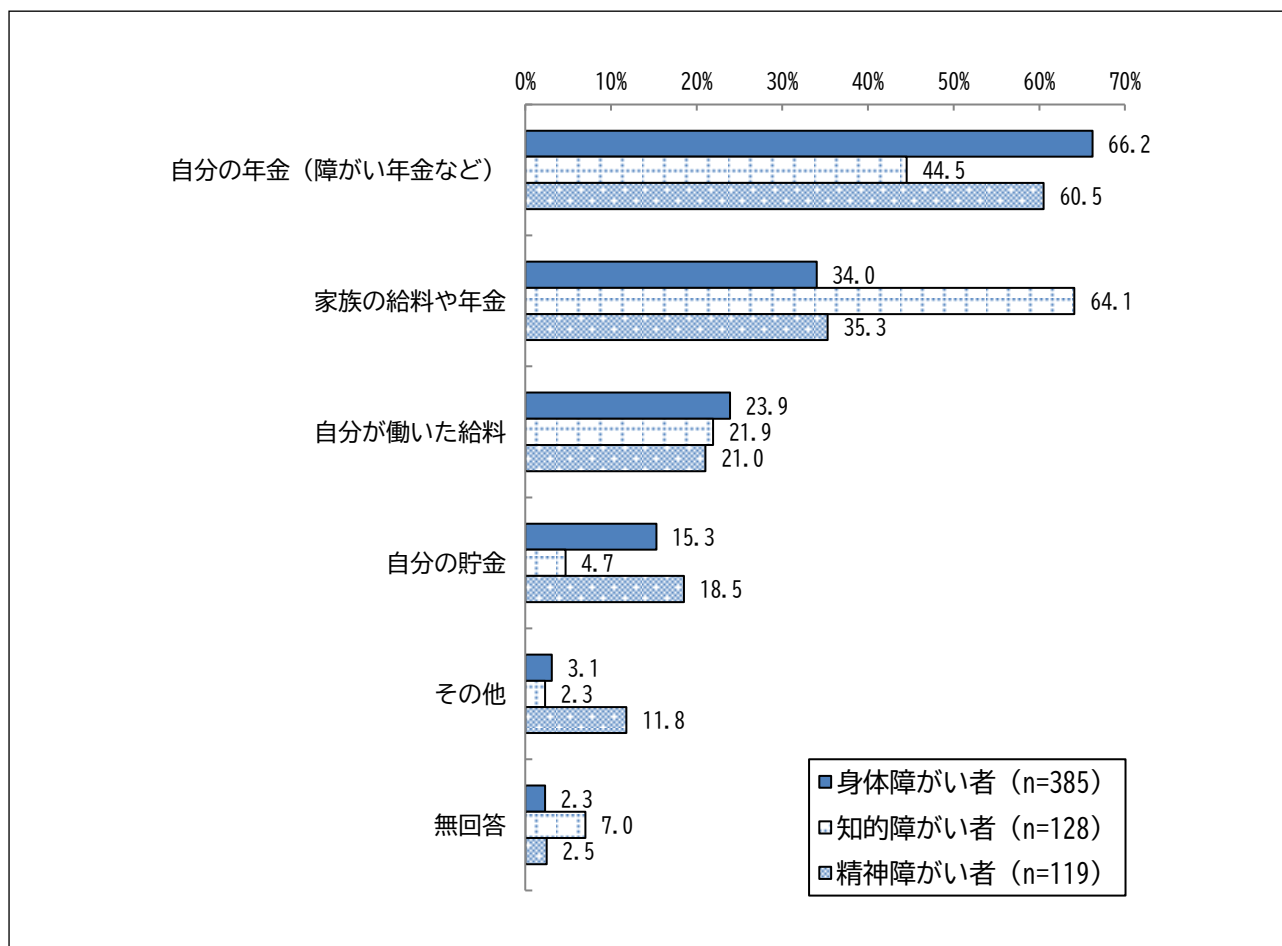
図表 54 世帯の収入源について（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者及び精神障がい者では「自分の年金(障がい年金など)」(身体 66.2%、精神 60.5%)、知的障がい者では「家族の給料や年金」(64.1%) がそれぞれ最も多くなっています。

図表 55 世帯の収入源について(障がい別/複数回答)



(2) 経済状況について

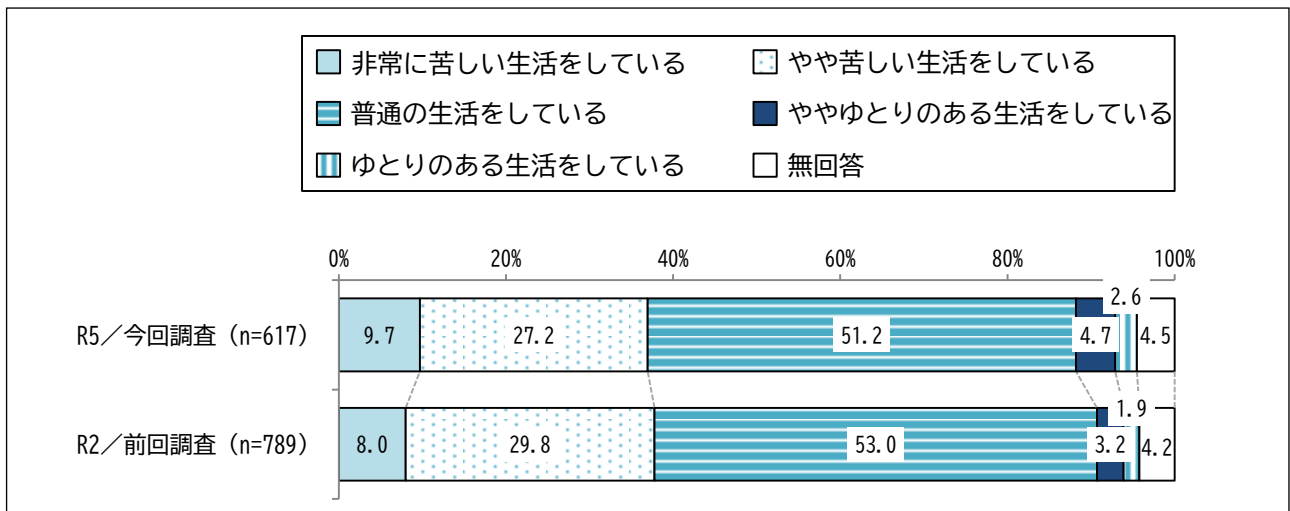
問 25 あなたの経済的な生活状況は、次のどれに近いと思いますか。(1つに○)

【全体の傾向】

生活状況についてみると、「普通の生活をしている」(51.2%)が最も高く、次いで「やや苦しい生活をしている」(27.2%)、「非常に苦しい生活をしている」(9.7%)と続いています。

また、「やや苦しい生活をしている」と「非常に苦しい生活をしている」を合わせた『苦しい生活をしている』人は36.9%となっています。

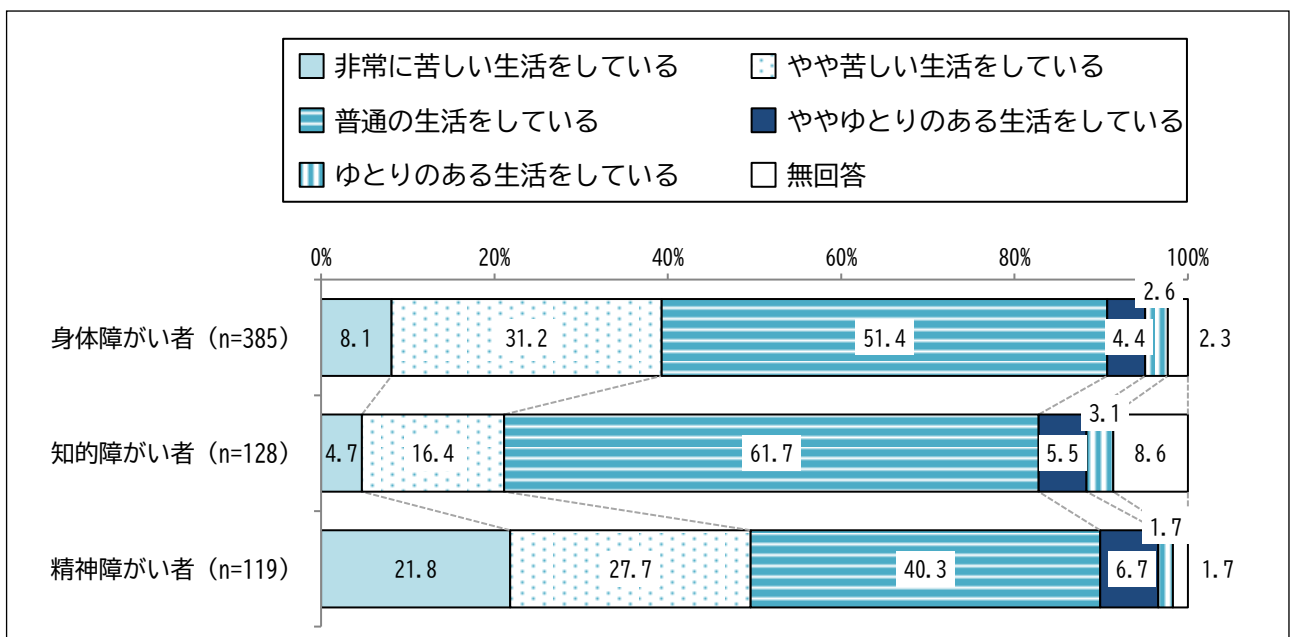
図表 56 現在の生活状況について (全体、前回比較)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、『苦しい生活をしている』の割合は、精神障がい者で49.5%、身体障がい者で39.3%、知的障がい者で21.1%となっており、精神障がい者で最も高くなっています。

図表 57 現在の生活状況について (障がい別)



(3) 就労について

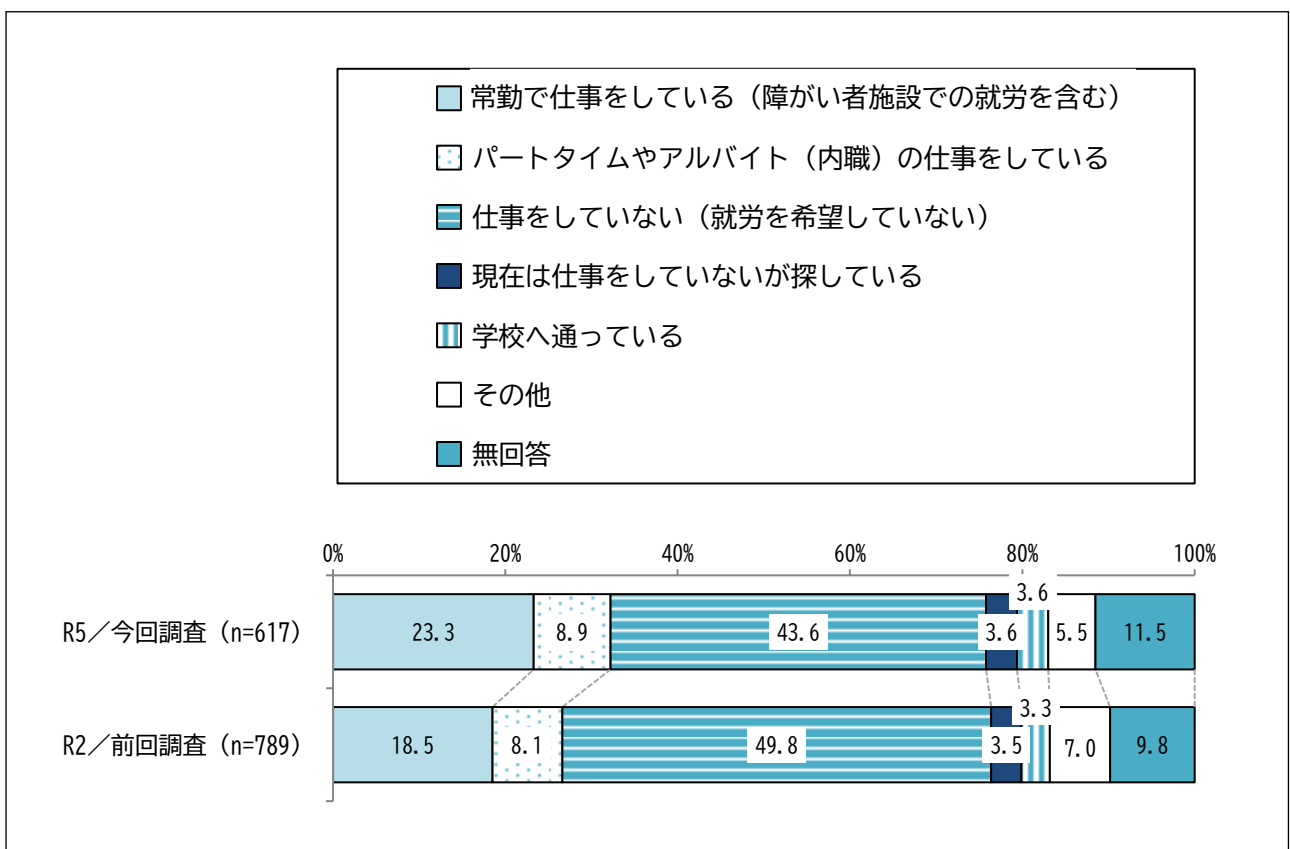
問 26 就労の状況や形態は次のどれですか。(1つに○)

【全体の傾向】

就労状況や形態をみると、「仕事をしていない（就労を希望していない）」(43.6%)が最も高く、次いで、「常勤で仕事をしている（障がい者施設での就労を含む）」(23.3%)、「パートタイムやアルバイト（内職）の仕事をしている」(8.9%)と続いており、何らかの形で『就労している』人は全体の32.2%を占めています。

前回調査と比較すると、『就労している』人の割合5.6ポイントが増加しています。

図表 58 就労状況について（全体、前回比較）

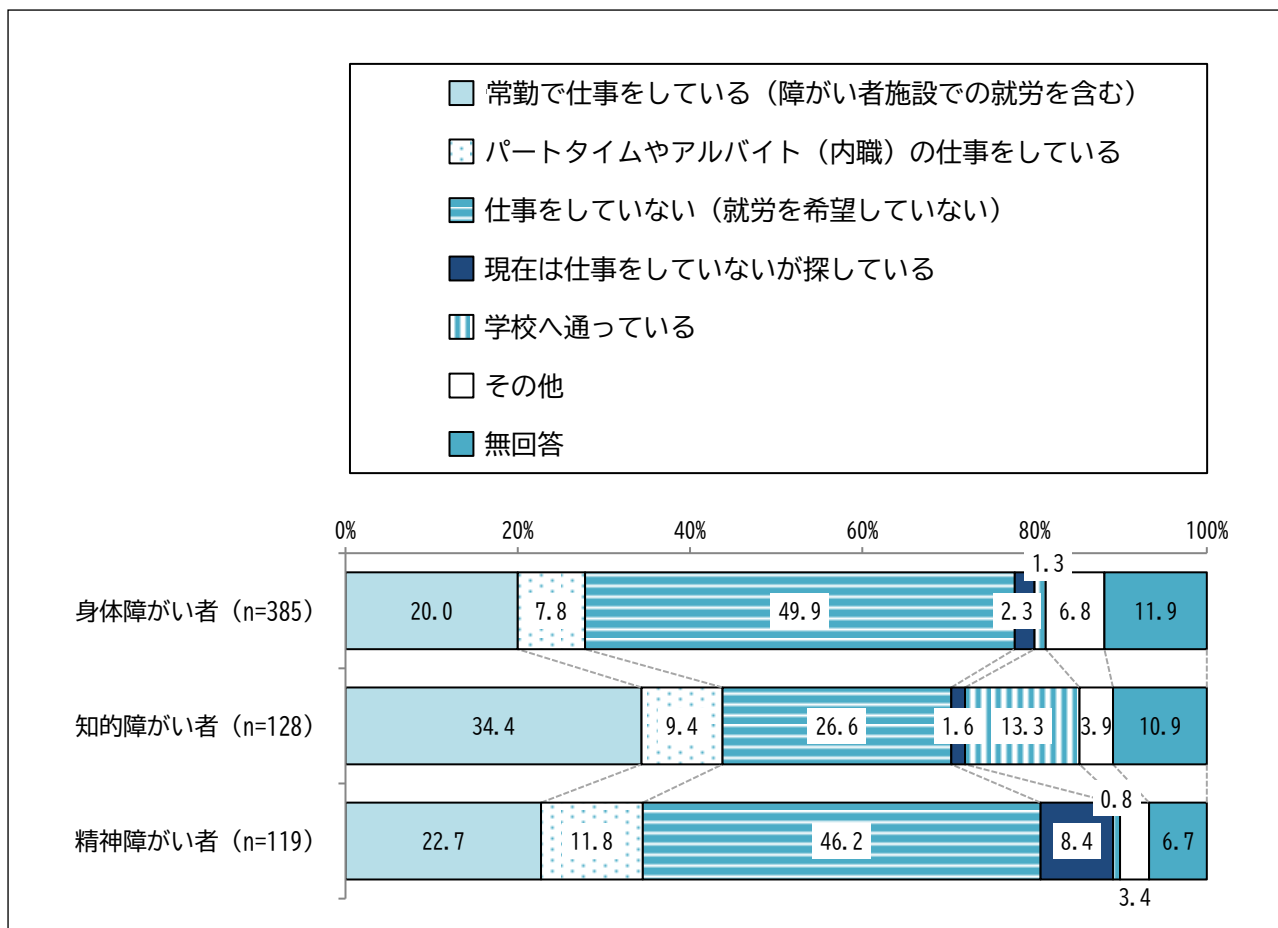


【属性別の傾向】

障がい別にみると、『就労している』人の割合は、身体障がい者では、27.8%、知的障がい者では43.8%、精神障がい者では34.5%となっており、知的障がい者で最も高くなっています。

また、常勤で仕事をしている人は、知的障がい者では34.4%と3割を超えています。

図表 59 就労状況について（障がい別）



※問 26 で「常勤で仕事をしている」、「パートタイムやアルバイトの仕事をしている」と回答した方

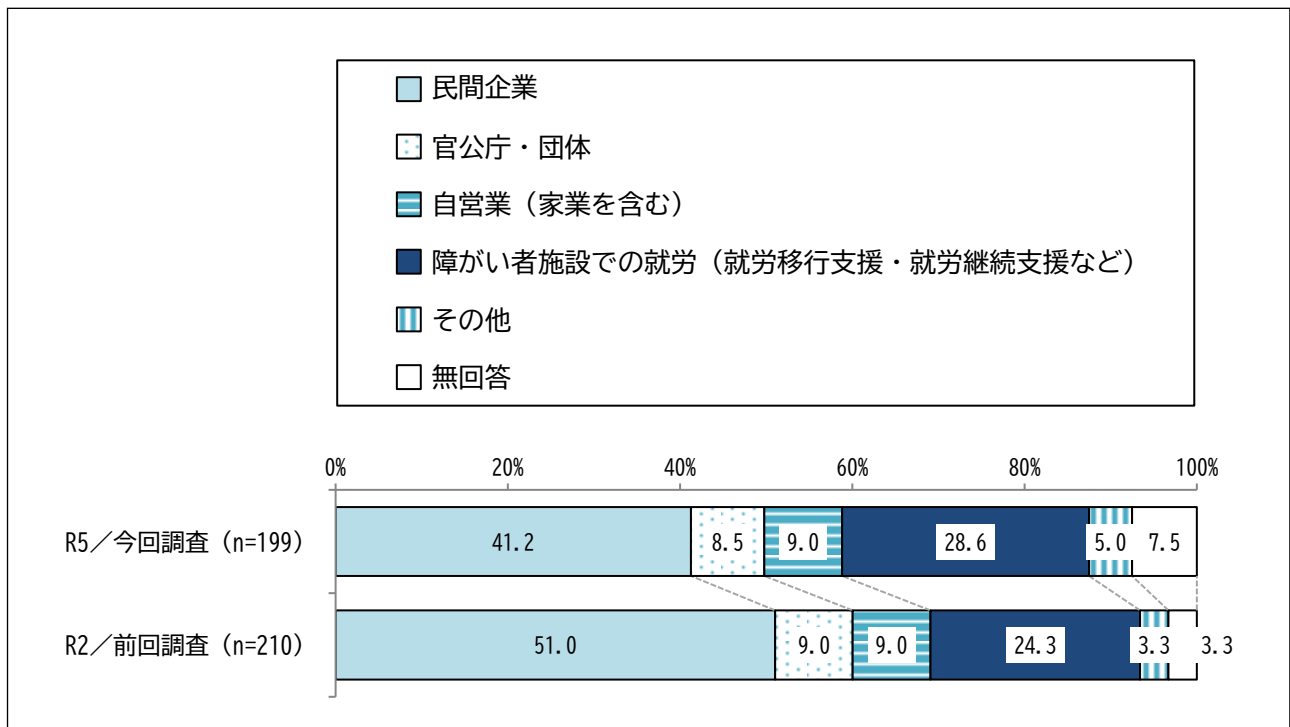
問 26-1 就労先は次のどれですか。(1つに○)

【全体の傾向】

就労者の就労先をみると、「民間企業」が 41.2%と最も高く、次いで「障がい者施設での就労（就労移行支援・就労継続支援など）」（28.6%）、「自営業（家業を含む）」（9.0%）と続いています。

前回調査と比較すると、「民間企業」が 9.8 ポイント減少しています。

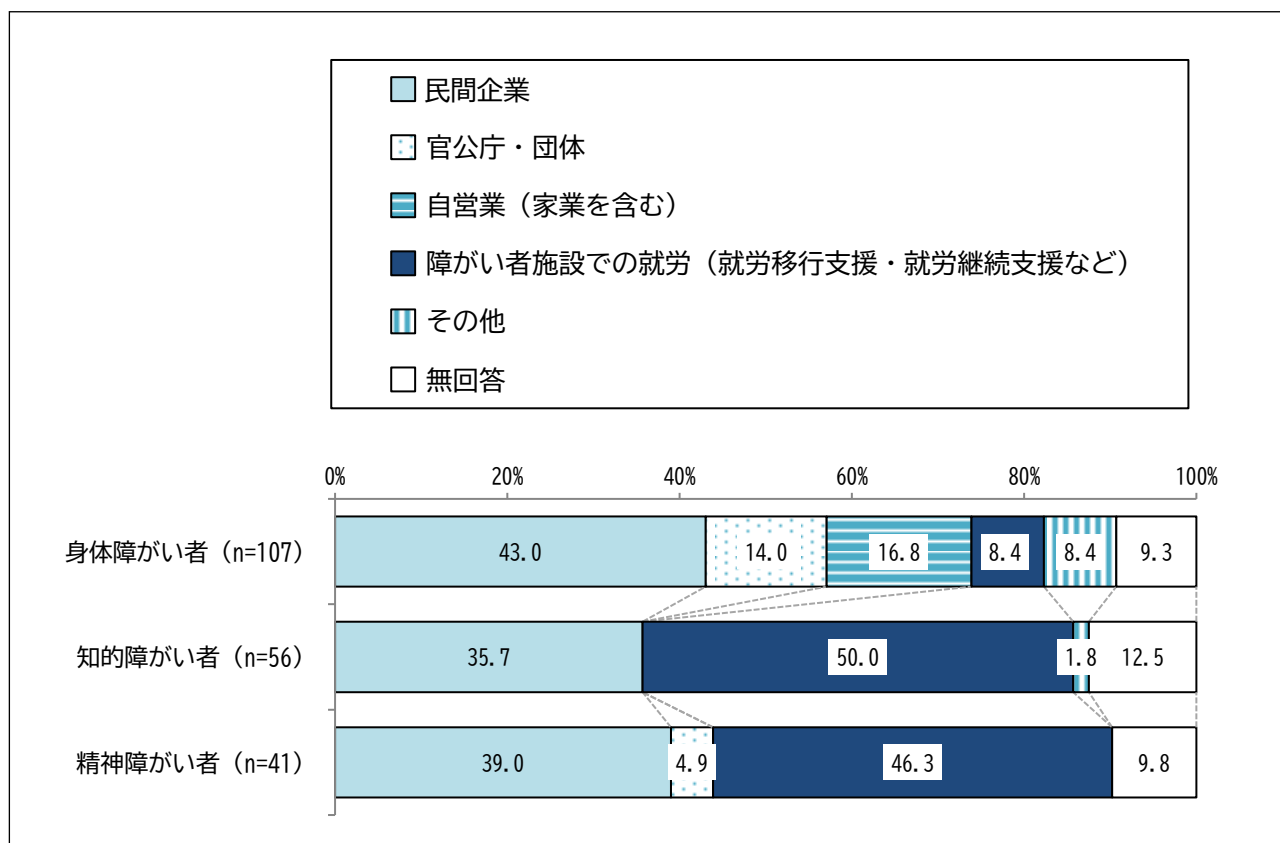
図表 60 就労先について（全体、前回比較）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「民間企業」(43.0%)、知的障がい者、精神障がい者では「障がい者施設での就労(就労移行支援・就労継続支援など)」(知的 50.0%、精神 46.3%)がそれぞれ最も高くなっています。また、知的障がい者、精神障がい者では「官公庁・団体」「自営業(家業を含む)」が身体障がい者より低くなっています。

図表 61 就労先について(障がい別)

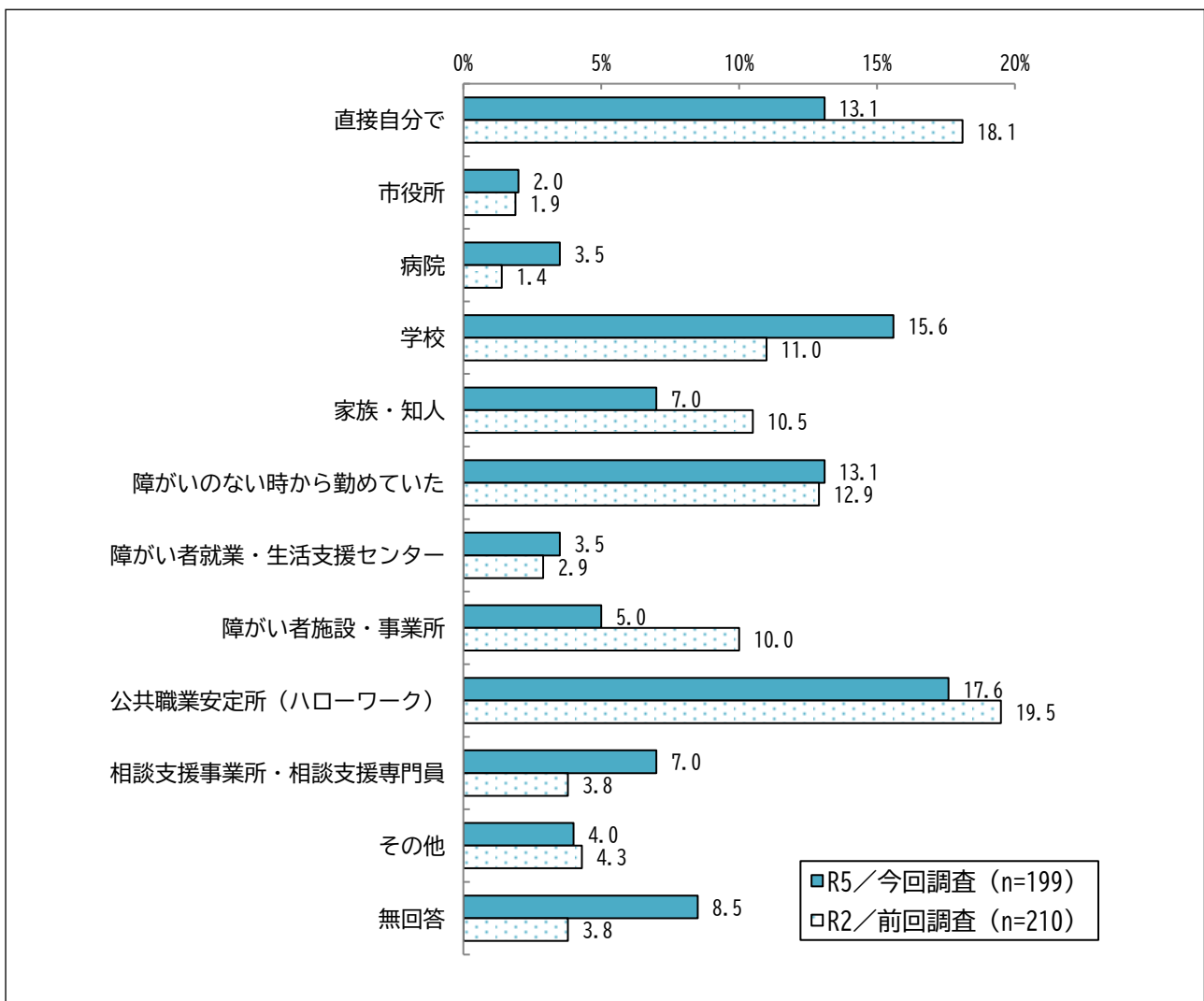


※問 26 で「常勤で仕事をしている」、「パートタイムやアルバイトの仕事をしている」と回答した方
 問 26-2 あなたは、今の仕事はどのようにして探しましたか。(1つに○)

【全体の傾向】

今の仕事を探した方法をみると、「公共職業安定所（ハローワーク）」（17.6％）が最も高く、次いで「学校」（15.6％）、「直接自分で」「障がいのない時から勤めていた」（ともに 13.1％）と続いています。前回調査と比較すると、「直接自分で」「障がい者施設・事業所」がともに 5.0 ポイント減少しています。

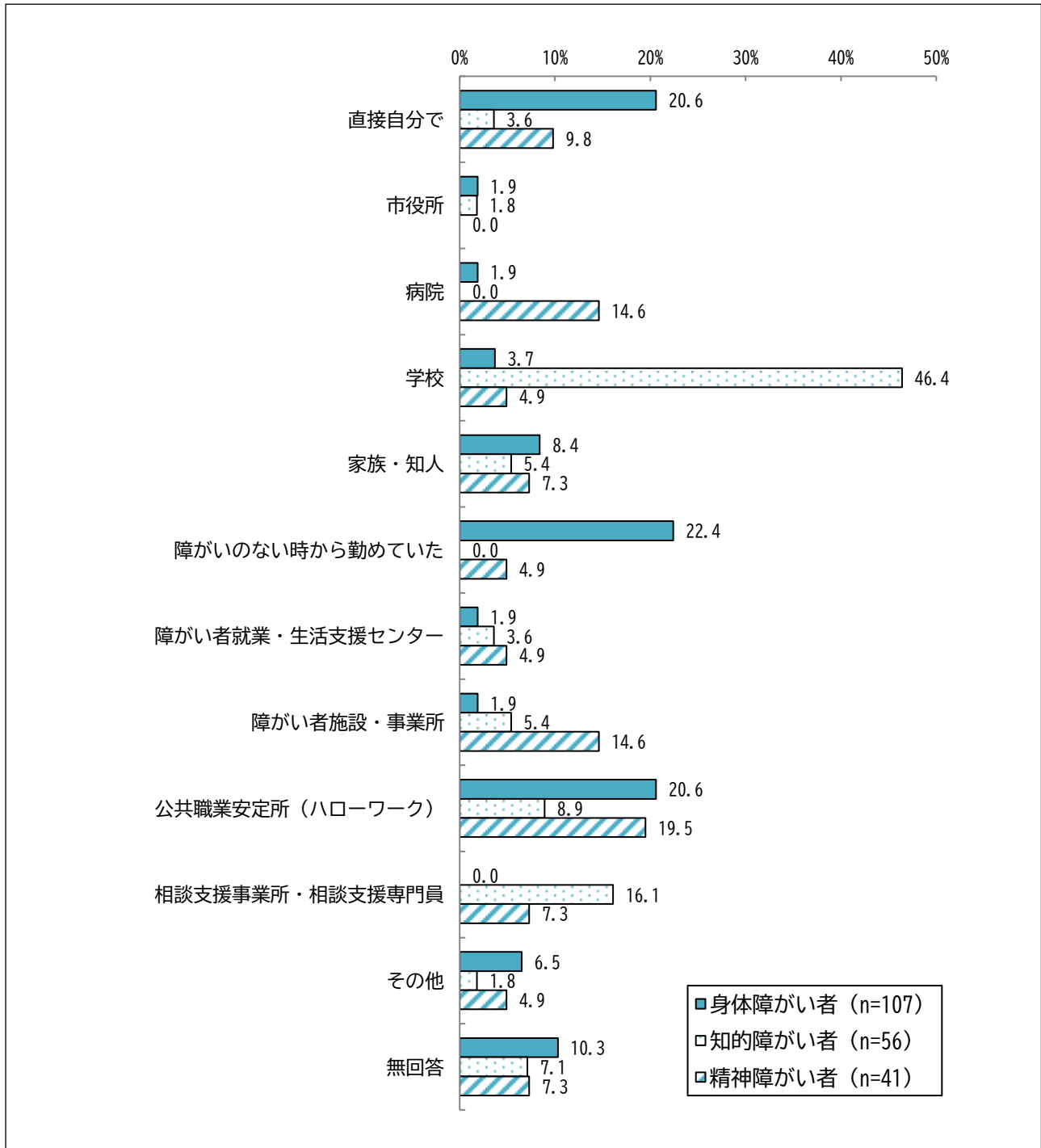
図表 62 仕事を探した方法（全体、前回比較）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「障がいのない時から勤めていた」(22.4%)、知的障がい者では「学校」(46.4%)、精神障がい者では「公共職業安定所(ハローワーク)」(19.5%)がそれぞれ最も高くなっています。

図表 63 仕事を探した方法(障がい別)



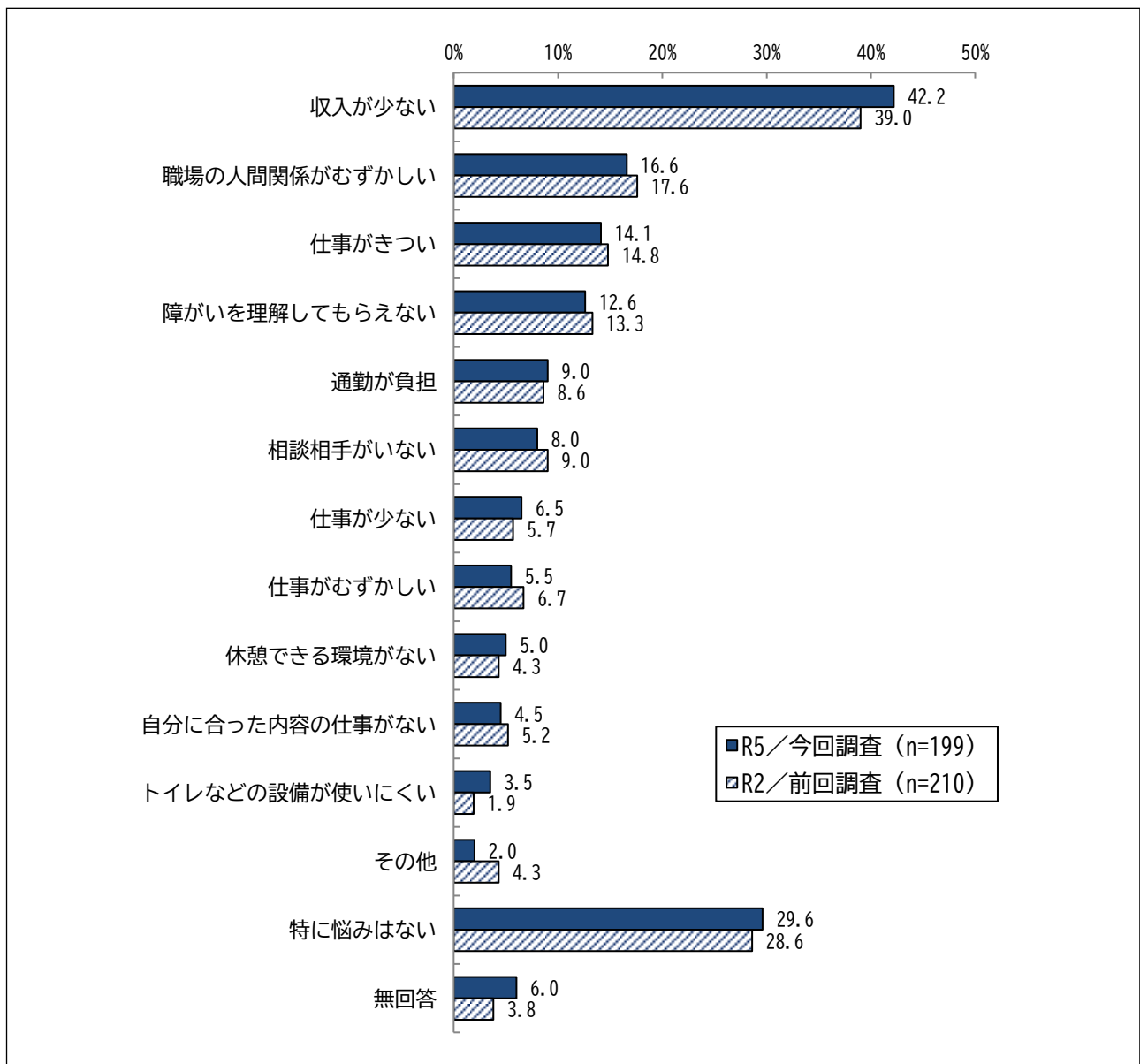
※問 26 で「常勤で仕事をしている」、「パートタイムやアルバイトの仕事をしている」と回答した方
 問 26-3 仕事をする上での悩みはありますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

仕事をする上での悩みをみると、「収入が少ない」が 42.2%と最も多く、次いで「特に悩みはない」(29.6%)、「職場の人間関係がむずかしい」(16.6%)、「仕事がつい」(14.1%)、「障がいを理解してもらえない」(12.6%)と続いています。

前回調査と比較すると、「収入が少ない」が 3.2 ポイント増加しています。

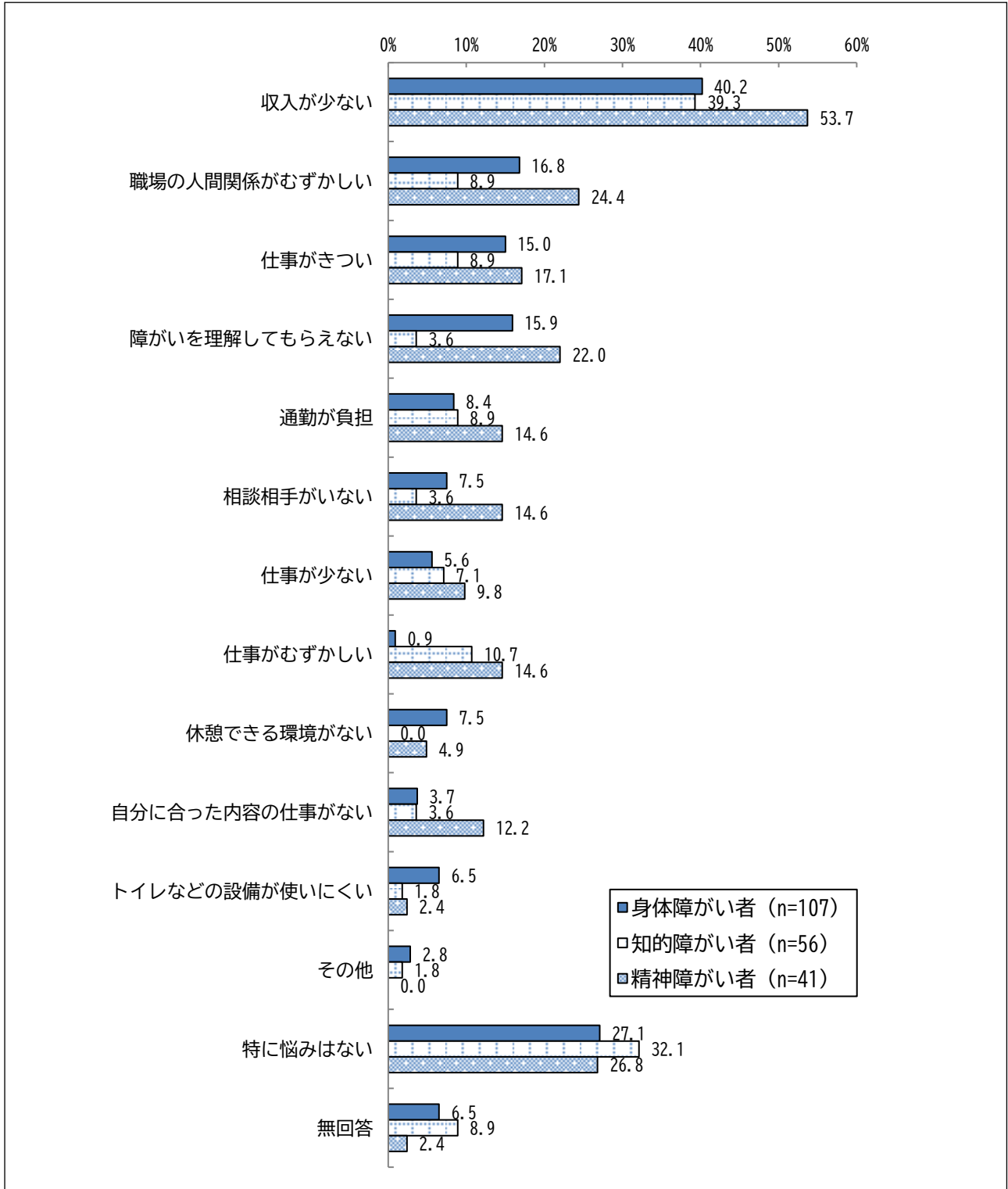
図表 64 仕事での悩みについて (全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種別に関わらず、「収入が少ない」(身体40.2%、知的39.3%、精神53.7%)が最も多く、特に精神障がい者で多くなっています。

図表 65 仕事での悩みについて（障がい別／複数回答）



※問 26 で「仕事をしていない」と回答した方

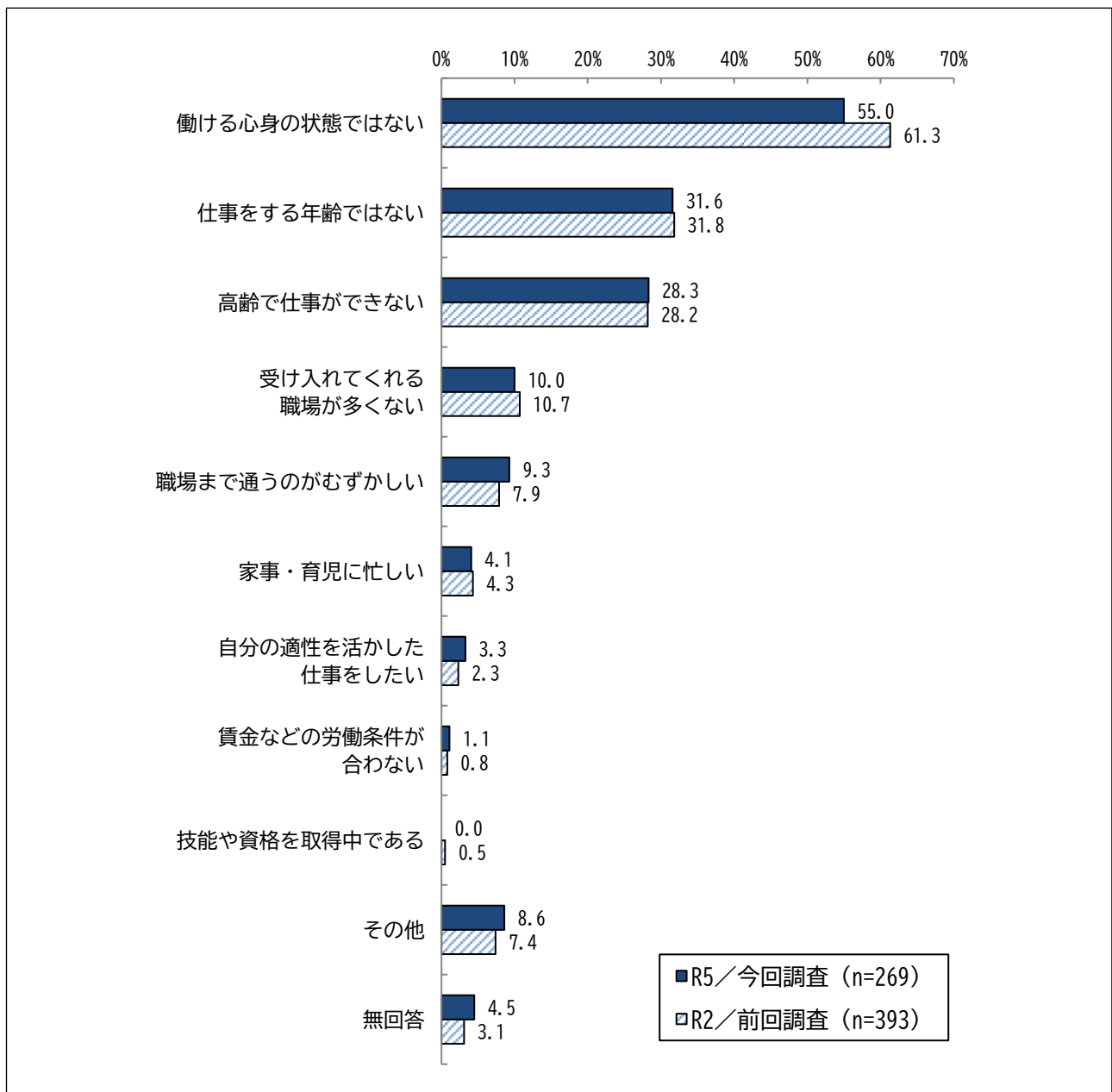
問 26-4 現在仕事をしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

現在仕事をしていない理由をみると、「働ける心身の状態ではない」が55.0%と最も多く、次いで「仕事をする年齢ではない」(31.6%)、「高齢で仕事ができない」(28.3%)、「受け入れてくれる職場が多くない」(10.0%)、「職場まで通うのがむずかしい」(9.3%)と続いています。

前回調査と比較すると、「働ける心身の状態ではない」が6.3ポイント減少しています。

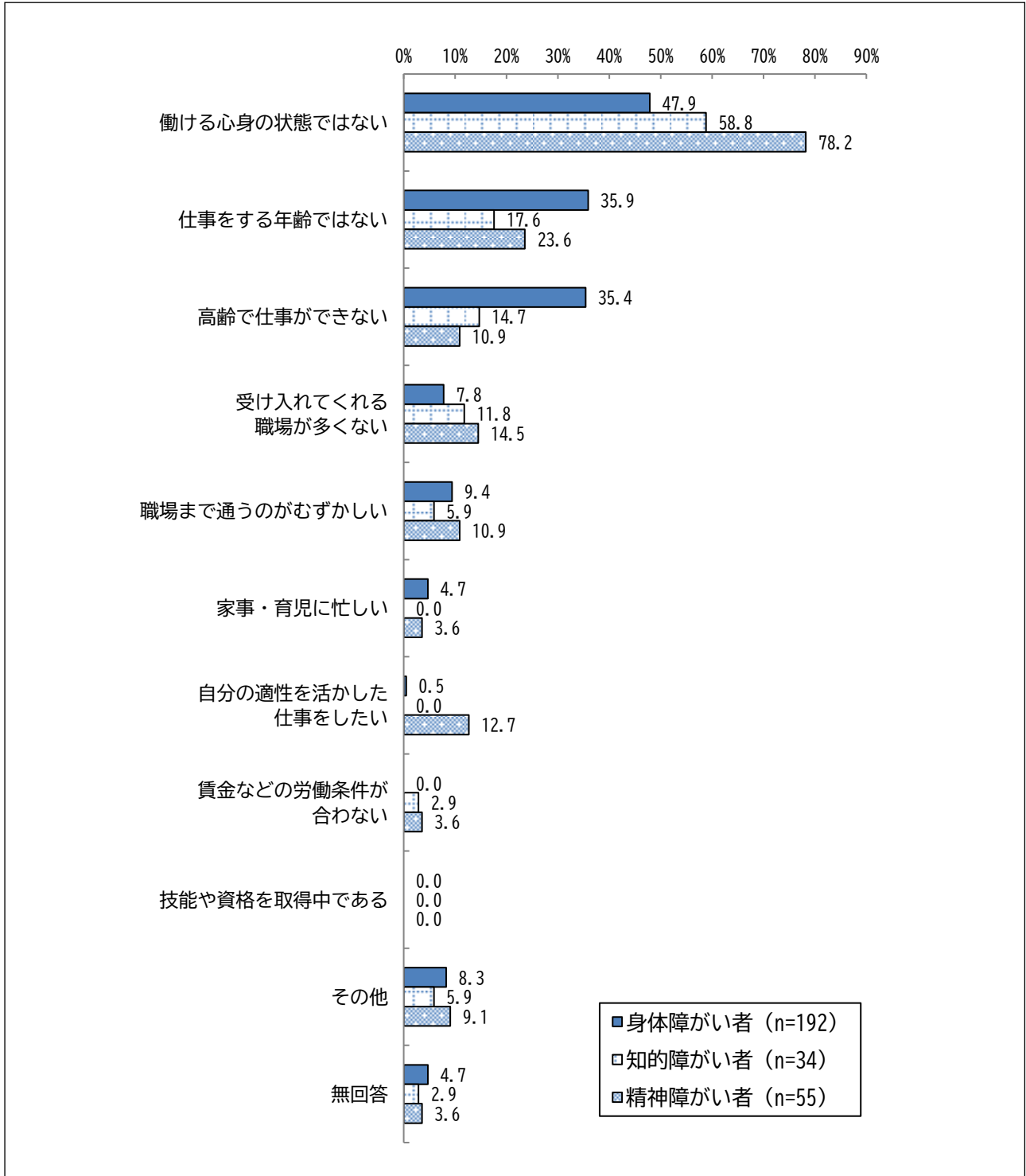
図表 66 仕事をしていない理由（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種別に関わらず、「働ける心身の状態ではない」(身体47.9%、知的58.8%、精神78.2%)が最も多く、特に精神障がい者で多くなっています。また、身体障がい者では「仕事をする年齢ではない」(35.9%)や「高齢で仕事ができない」(35.4%)も比較的多く、3割を超えています。

図表 67 仕事をしていない理由（障がい別／複数回答）



※問 26 で「現在は仕事をしていないが探している」、「学校へ通っている」と回答した方
 問 26-5 あなたはどのような就労形態で仕事をしたいですか。(1つに○)

【全体の傾向】

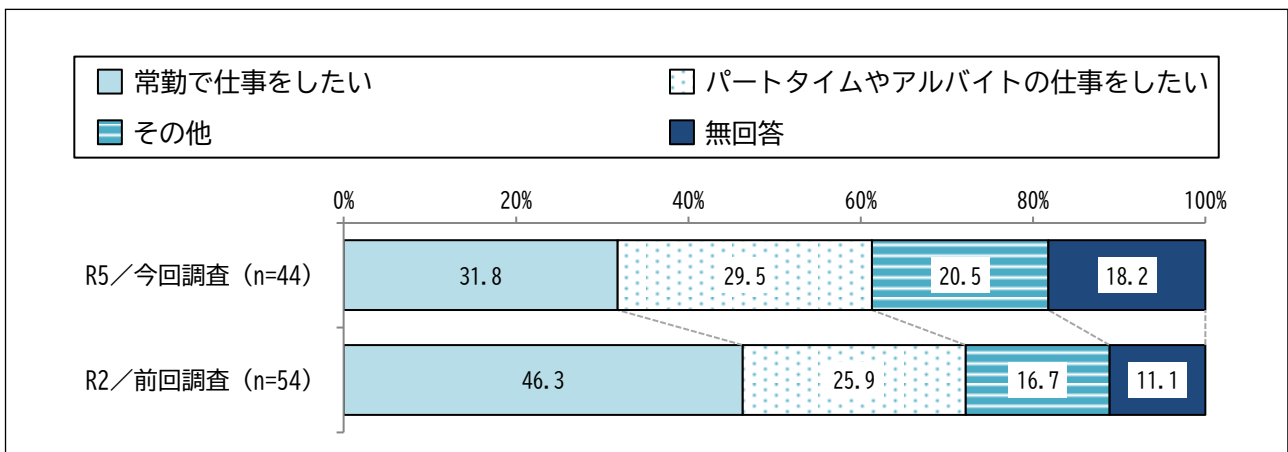
現在仕事を探している、または、通学中の人が希望する就労形態をみると、「常勤で仕事をしたい」が31.8%、「パートタイムやアルバイトの仕事をしたい」が29.5%となっています。

前回調査と比較すると、「常勤で仕事をしたい」が14.5ポイント減少しています。

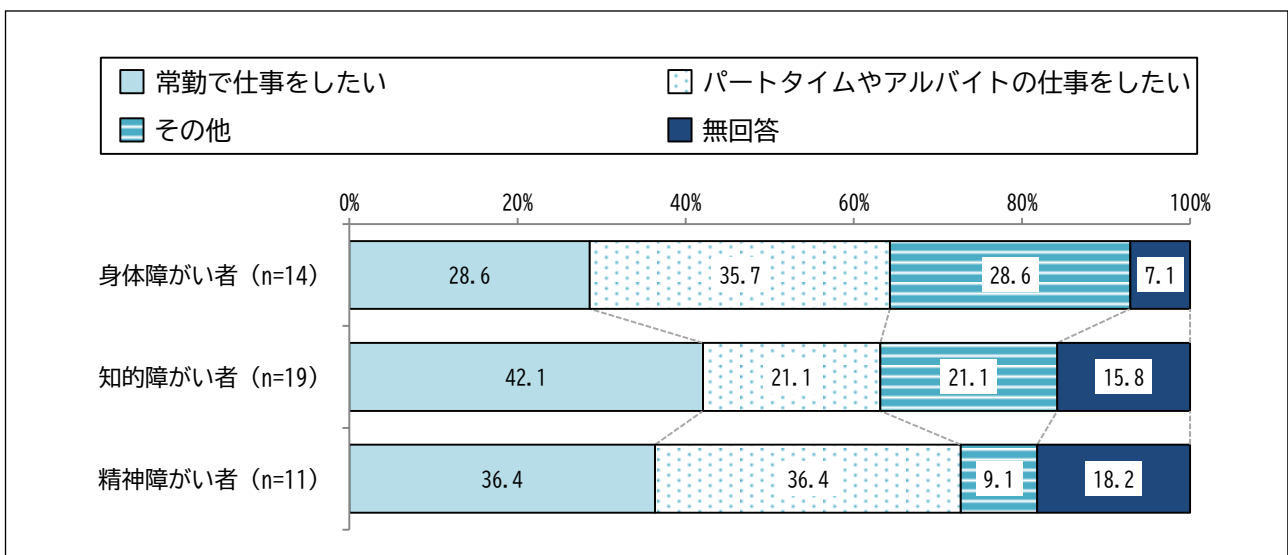
【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「パートタイムやアルバイトの仕事をしたい」(35.7%)、知的障がい者では「常勤で仕事をしたい」(42.1%)がそれぞれ最も高くなっています。一方、精神障がい者では「常勤で仕事をしたい」「パートタイムやアルバイトの仕事をしたい」(ともに36.4%)が同率となっています。

図表 68 希望就労形態（全体、前回比較）



図表 69 希望就労形態（障がい別）



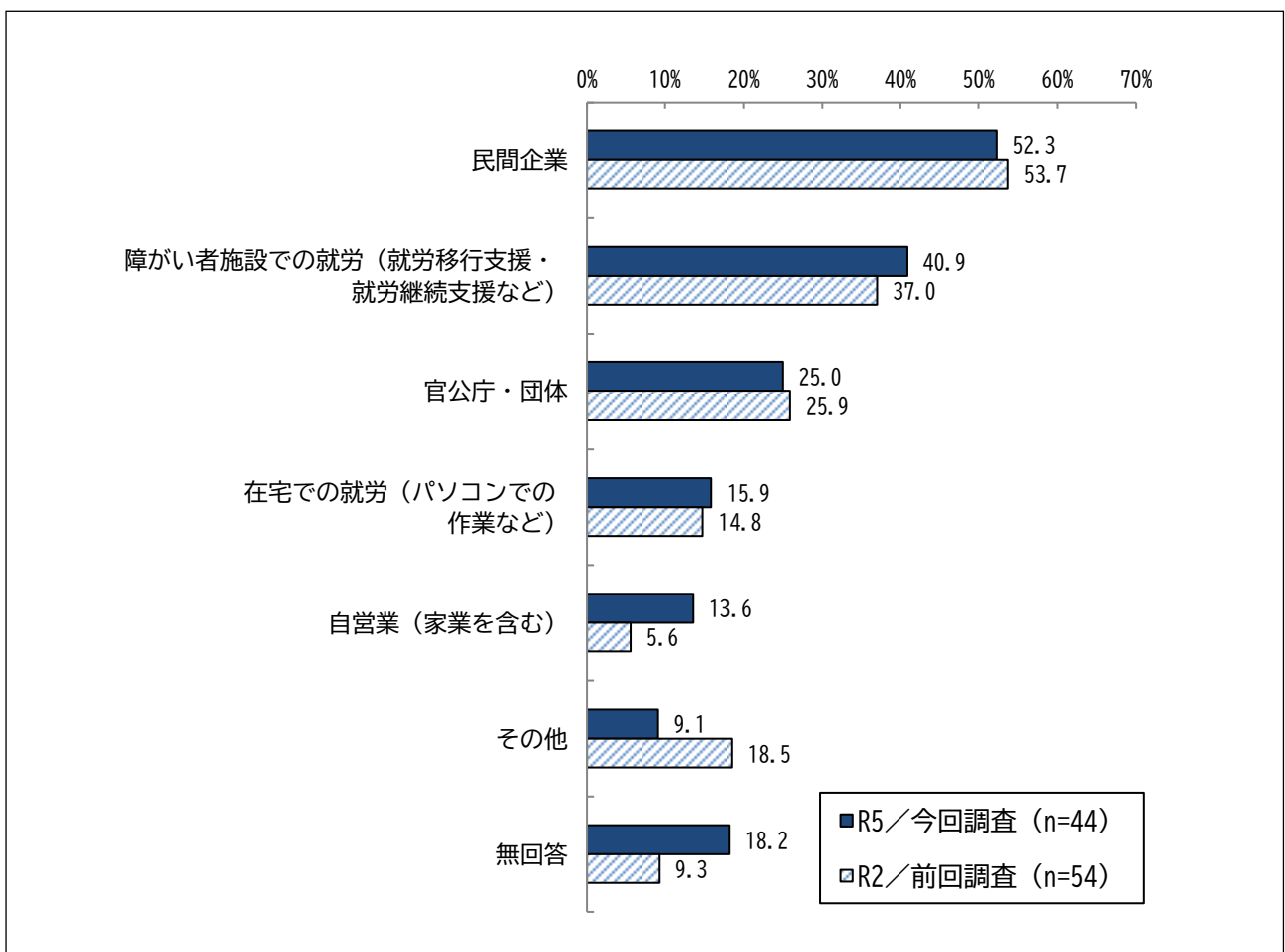
※問 26 で「現在は仕事をしていないが探している」、「学校へ通っている」と回答した方
 問 26-6 あなたはどのような就労先を希望しますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

現在仕事を探している、または、通学中の人が希望する就労先をみると、「民間企業」が 52.3%と最も多く、次いで「障がい者施設での就労（就労移行支援・就労継続支援など）」(40.9%)、「官公庁・団体」(25.0%)、「在宅での就労（パソコンでの作業など）」(15.9%)、「自営業（家業を含む）」(13.6%)と続いています。

前回調査と比較すると、「自営業（家業を含む）」が 8.0 ポイント増加しています。

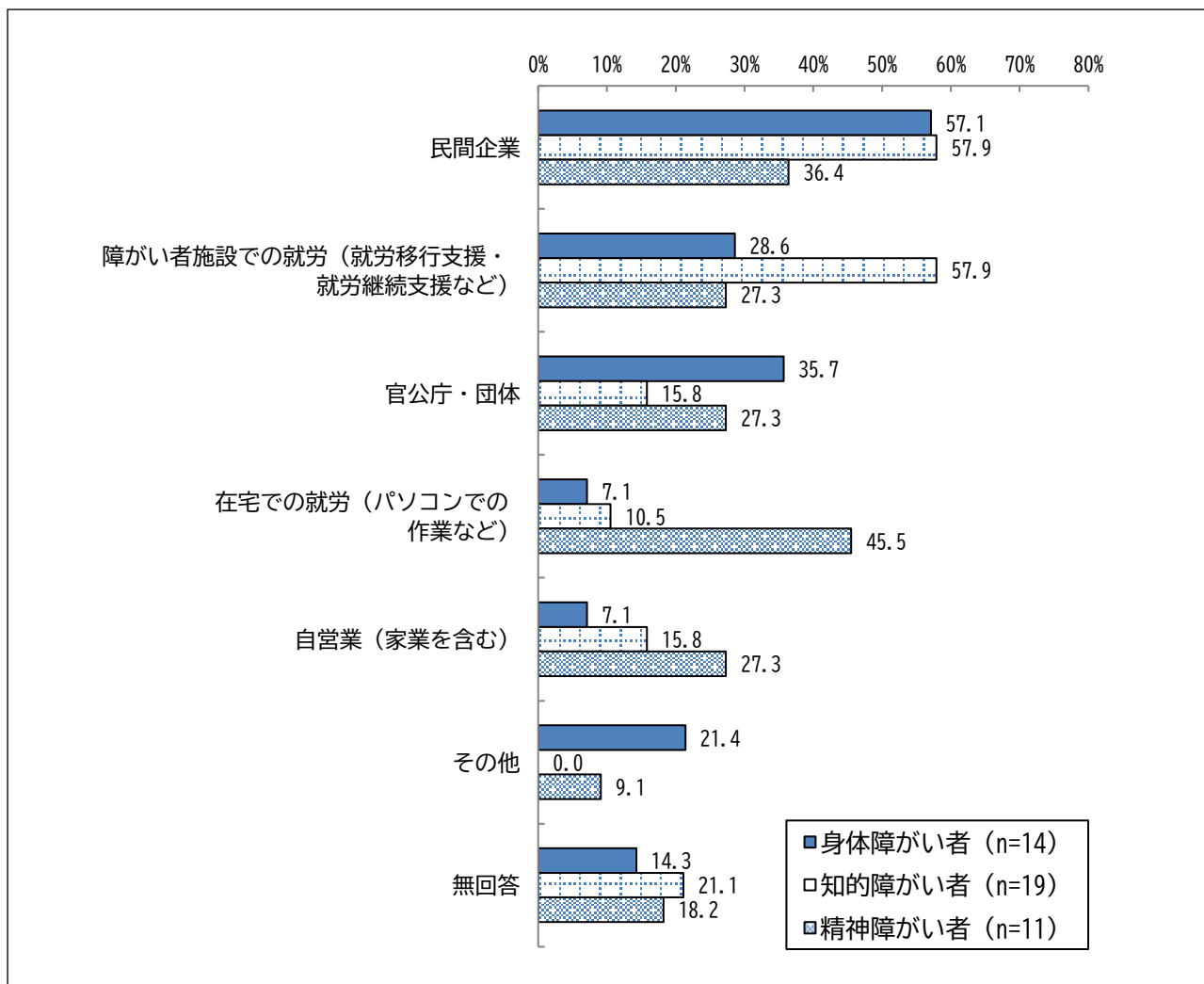
図表 70 就労先の希望（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「民間企業」(57.1%)、知的障がい者では「民間企業」「障がい者施設での就労(就労移行支援・就労継続支援など)」(ともに57.9%)、精神障がい者では「在宅での就労(パソコンでの作業など)」(45.5%)がそれぞれ最も多くなっています。

図表 71 就労先の希望(障がい別/複数回答)



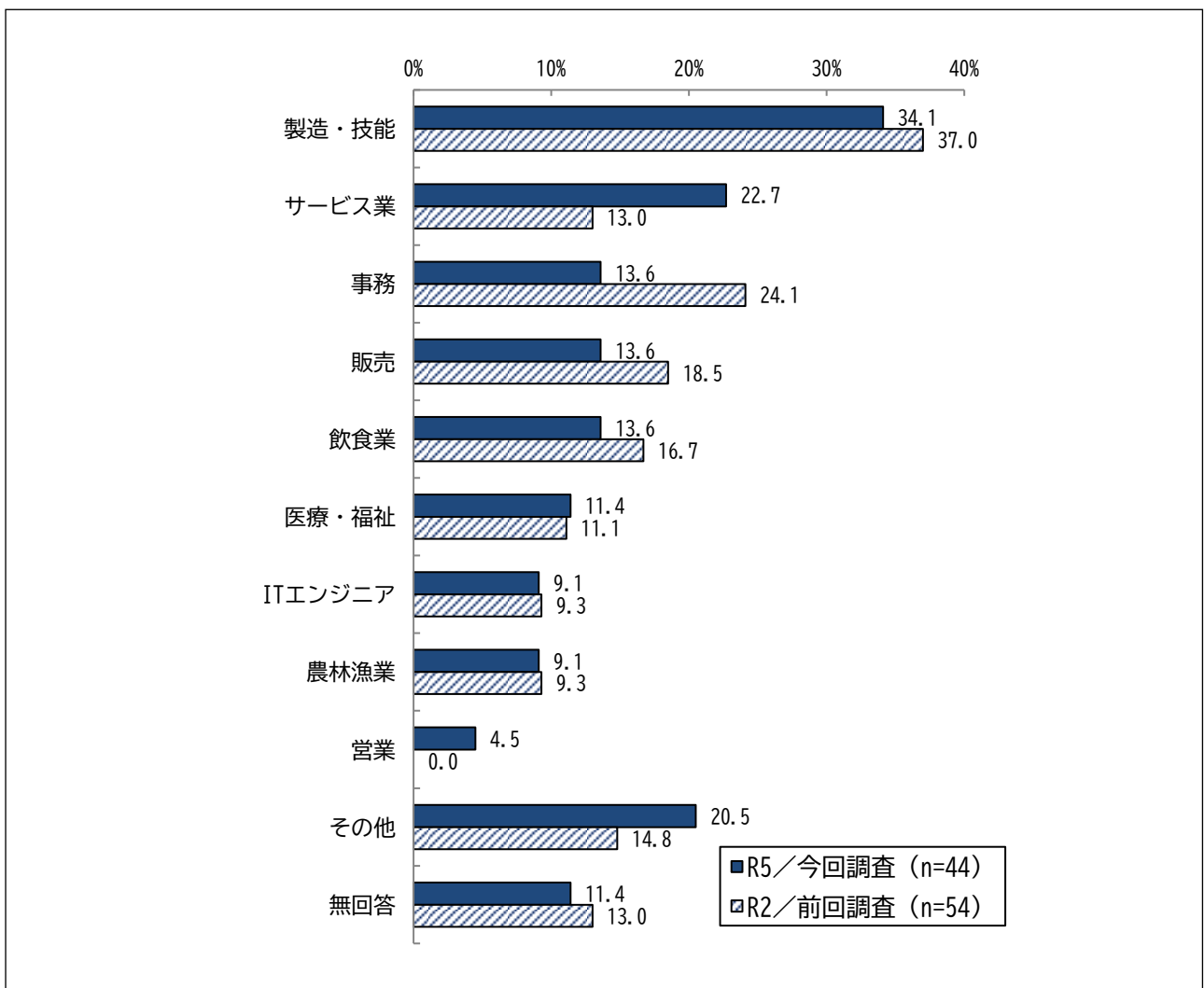
※問 26 で「現在は仕事をしていないが探している」、「学校へ通っている」と回答した方
 問 26-7 あなたはどのような職種・分野を希望しますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

現在仕事を探している、または、通学中の人が、希望する職種・分野をみると、「製造・技能」が34.1%と最も多く、次いで「サービス業」(22.7%)、「事務」「販売」「飲食業」(いずれも13.6%)と続いています。

前回調査と比較すると、「事務」が10.5ポイント減少しています。

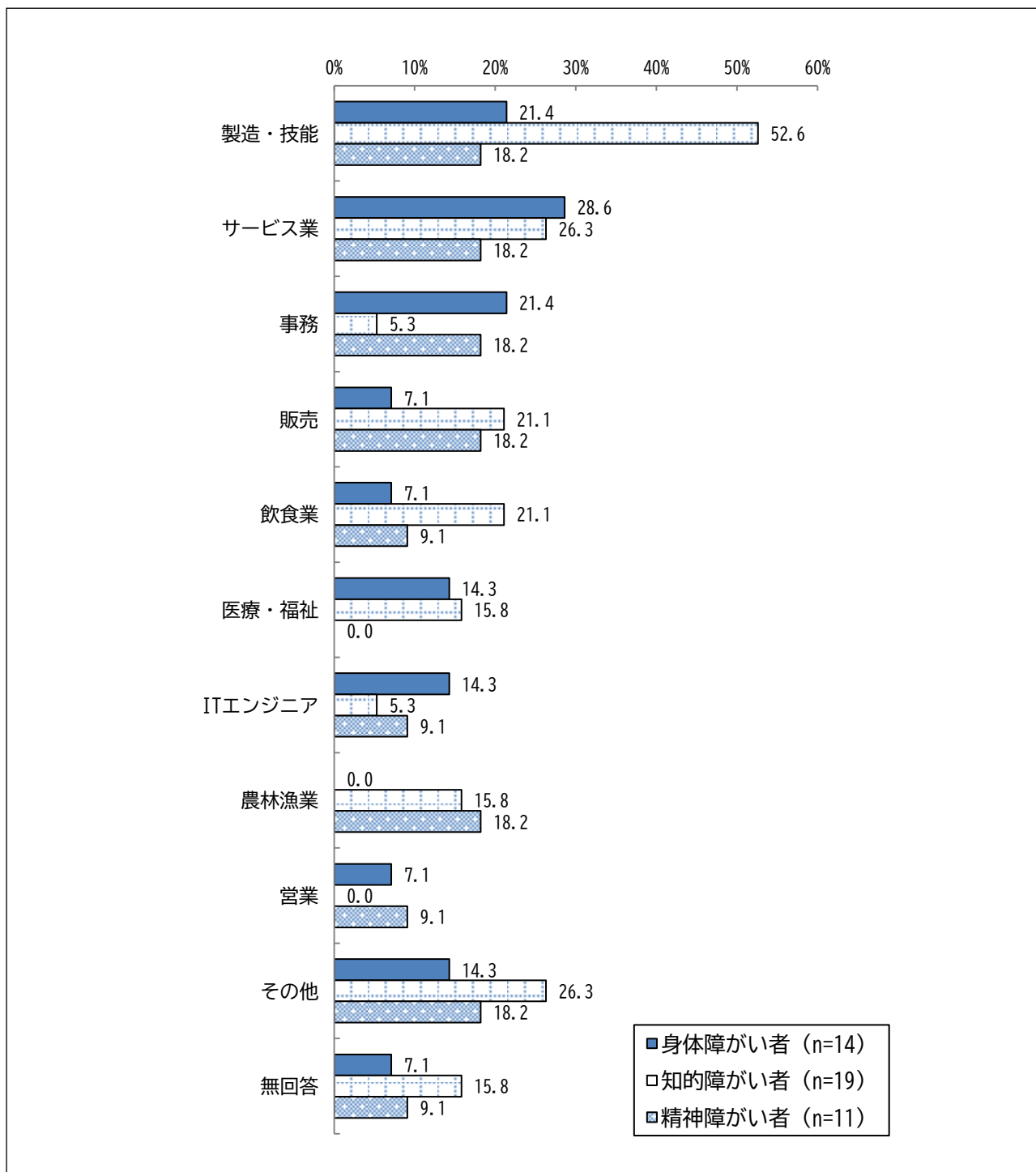
図表 72 職種・分野の希望 (全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「サービス業」（28.6％）を希望する人が最も多くなっています。また、知的障がい者では「製造・技能」（52.6％）を希望する人が最も多く、身体障がい者、精神障がい者に比べてその割合は突出しています。

図表 73 職種・分野の希望（障がい別／複数回答）



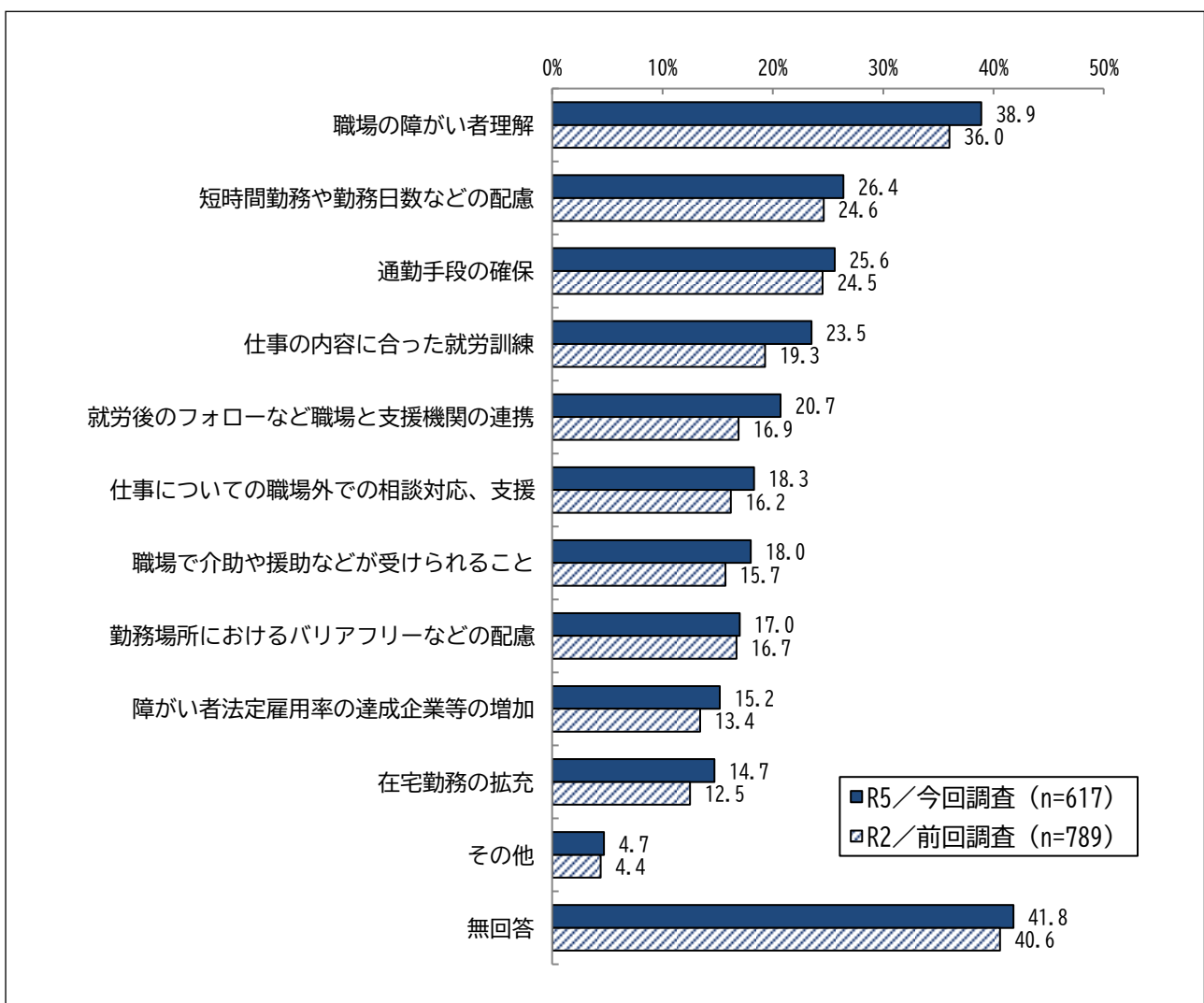
(4) 就労支援について

問 27 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

障がい者の就労支援として必要だと思うことをみると、「職場の障がい者理解」が38.9%と最も多く、次いで「短時間勤務や勤務日数などの配慮」(26.4%)、「通勤手段の確保」(25.6%)、「仕事の内容に合った就労訓練」(23.5%)、「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」(20.7%)と続いています。前回調査と比較すると、「仕事の内容に合った就労訓練」が4.2ポイント増加しています。

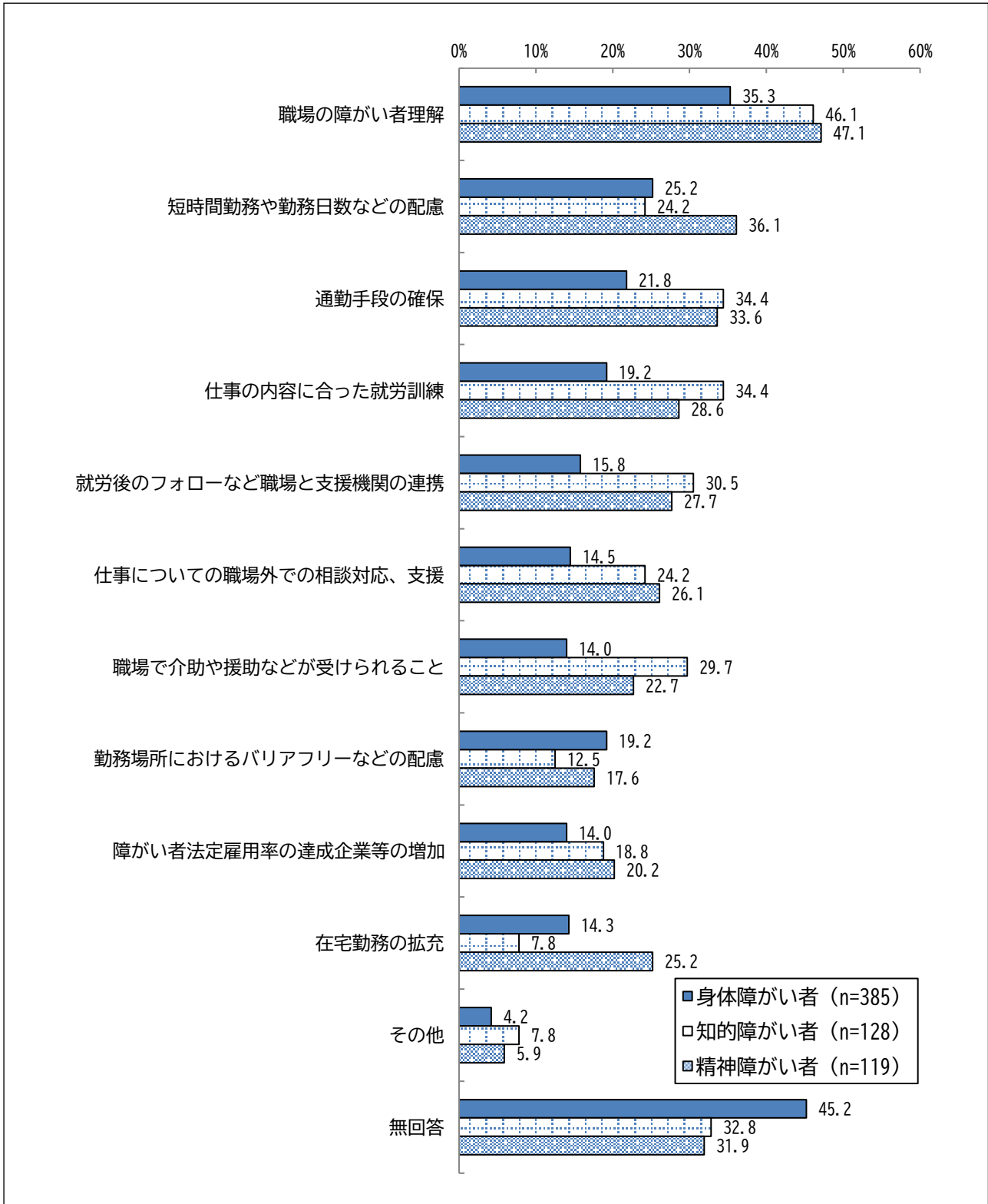
図表 74 就労支援として必要だと思うもの(全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種別に関わらず、「職場の障がい者理解」（身体 35.3%、知的 46.1%、精神 47.1%）がそれぞれ最も多くなっています。

図表 75 就労支援として必要だと思うもの（障がい別／複数回答）



7 障がい児への療育や教育について

(1) 通所・通学をしていて感じること

※宛名のご本人が18歳未満の方のみ

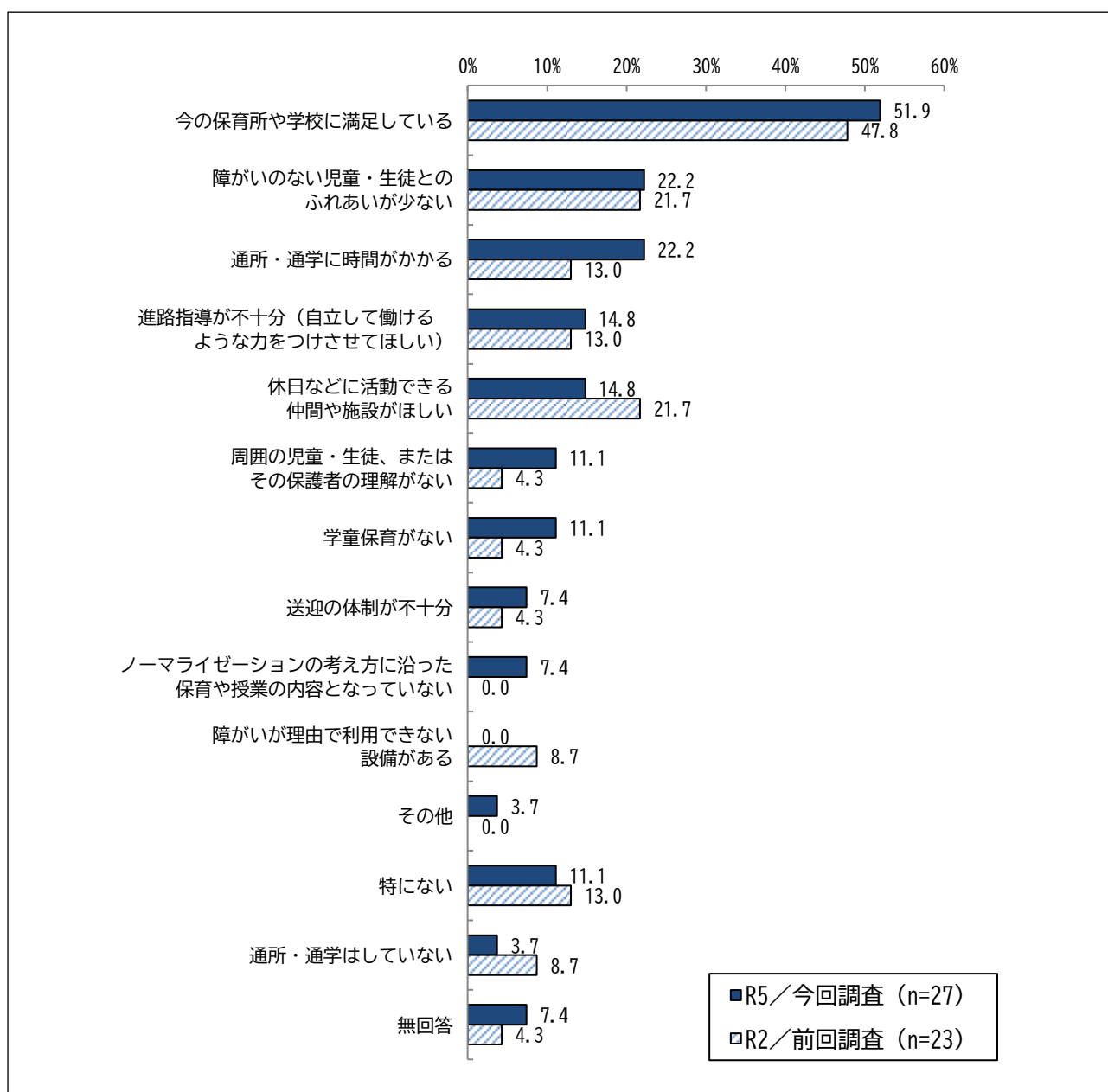
問 28 通所・通学をしていて、感じていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

通所・通学をしていて感じることをみると、「今の保育所や学校に満足している」(51.9%)が最も多く、その割合は突出しています。

前回調査と比較すると、「通所・通学に時間がかかる」が9.2ポイント増加しています。

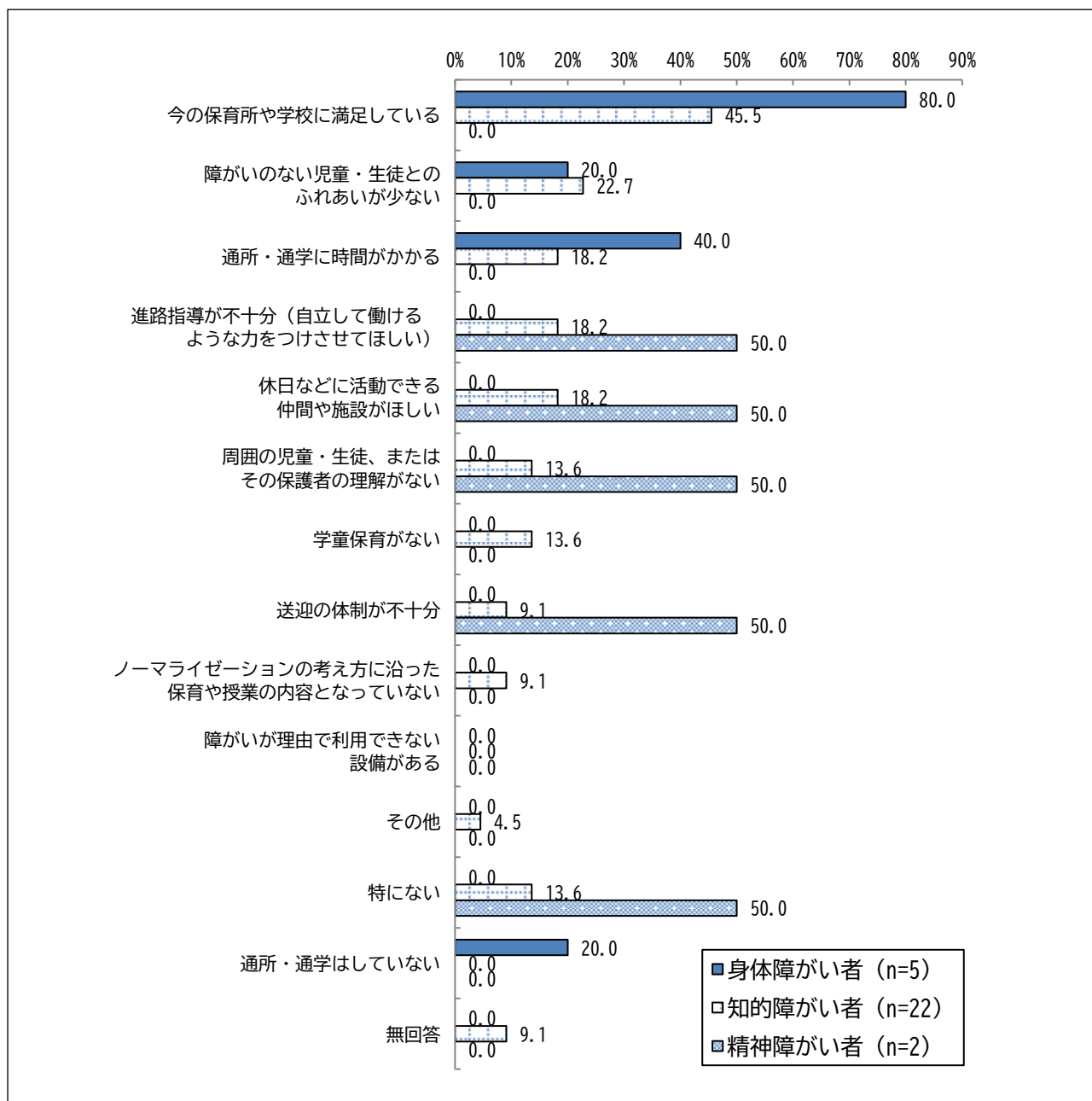
図表 76 通所・通学をしていて感じること (全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では80.0%が「今の保育所や学校に満足している」と回答している一方で、「通所・通学に時間がかかる」(40.0%)、「障がいのない児童・生徒とのふれあいが少ない」(20.0%)という回答もみられます。また、知的障がい者では「今の保育所や学校に満足している」(45.5%)が最も多く、次いで「障がいのない児童・生徒とのふれあいが少ない」(22.7%)となっています。

図表 77 通所・通学していて感じること（障がい別／複数回答）



(2) 療育や教育について

※宛名のご本人が18歳未満の方のみ

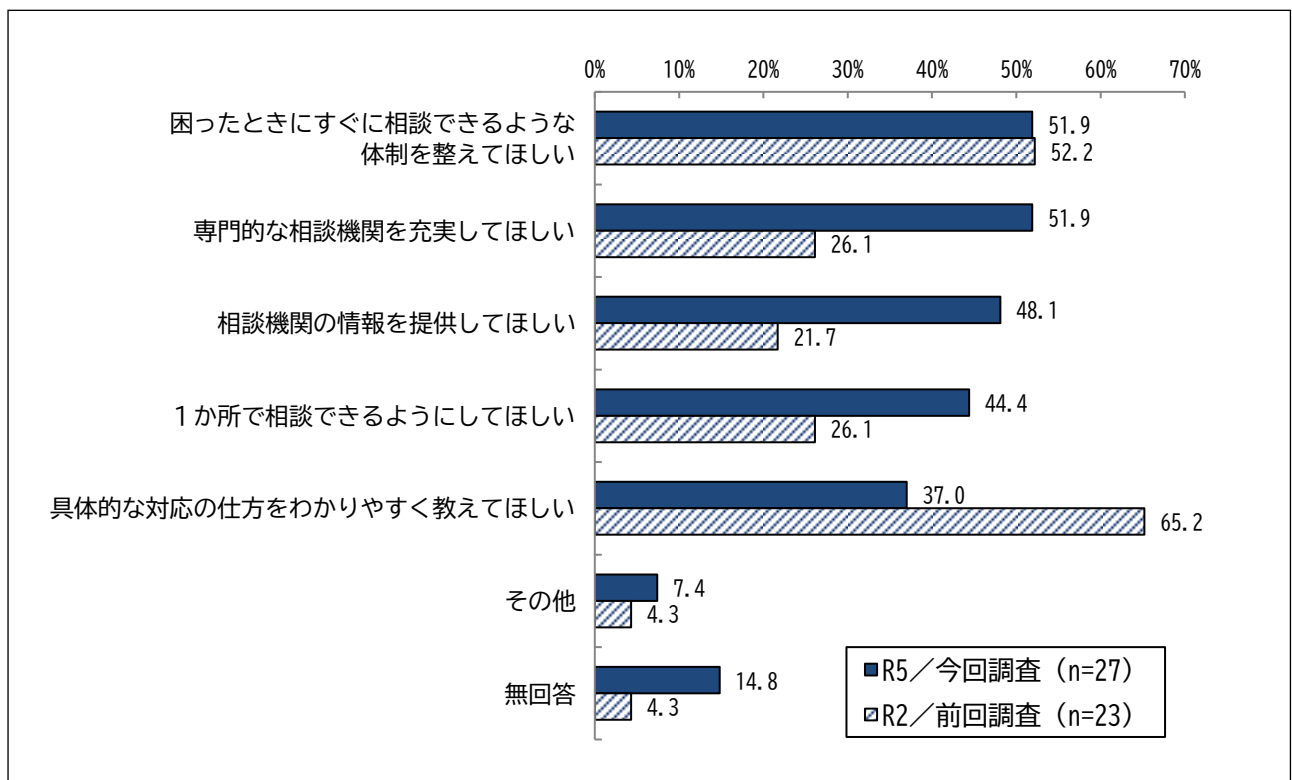
問 29 あなたは療育や教育に関する相談について望むことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

療育や教育に関する相談で望むことをみると、「困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい」「専門的な相談機関を充実してほしい」(ともに51.9%)が最も多く、次いで「相談機関の情報を提供してほしい」(48.1%)、「1か所で相談できるようにしてほしい」(44.4%)、「具体的な対応の仕方をわかりやすく教えてほしい」(37.0%)と続いています。

前回調査と比較すると、「具体的な対応の仕方をわかりやすく教えてほしい」が28.2ポイント減少しています。

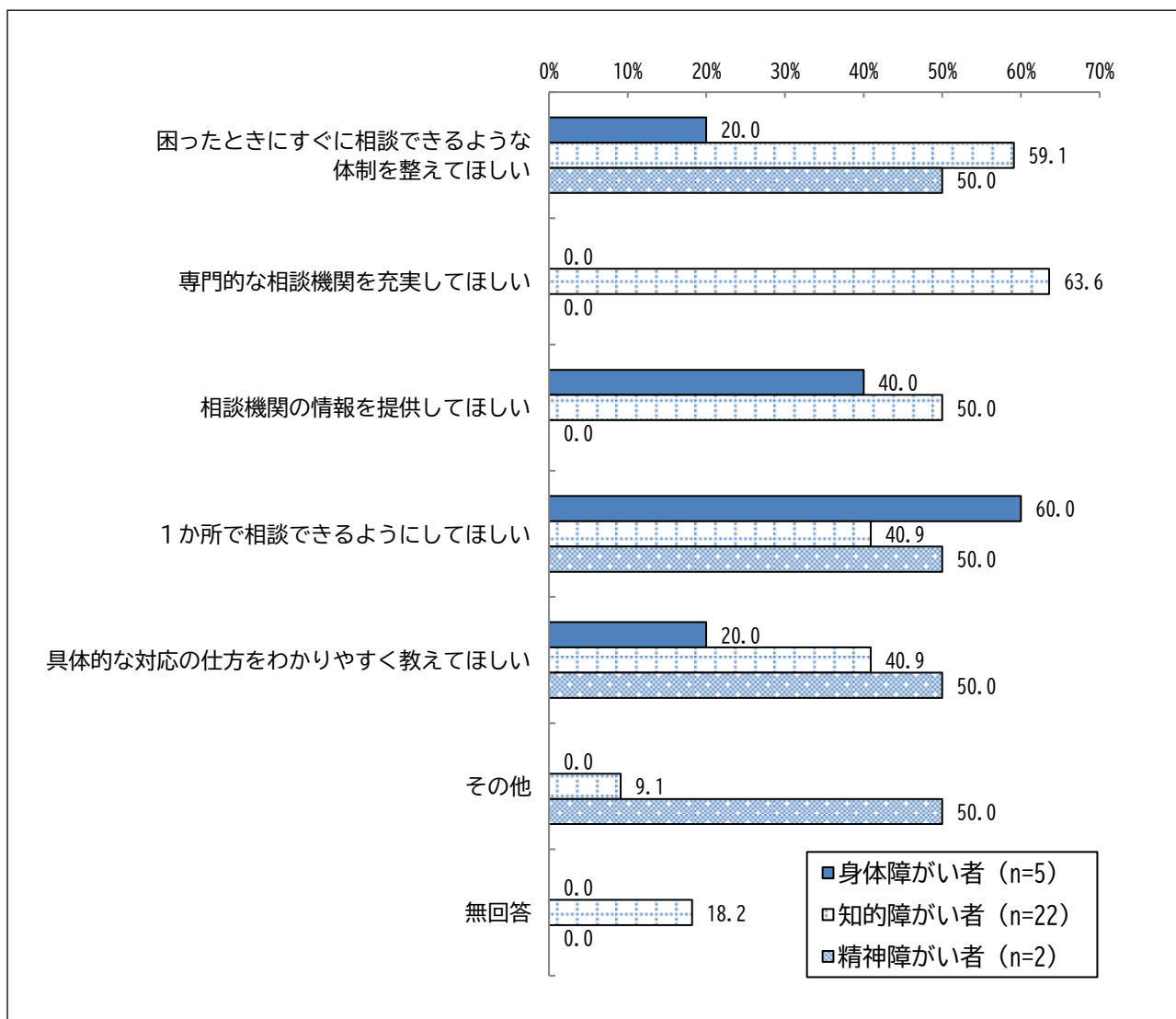
図表 78 療育や教育に関する相談について望むこと(全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「1か所で相談できるようにしてほしい」(60.0%)、知的障がい者では「専門的な相談機関を充実してほしい」(63.6%)がそれぞれ最も多くなっています。

図表 79 療育や教育に関する相談について望むこと（障がい別／複数回答）



※宛名のご本人が18歳未満の方のみ

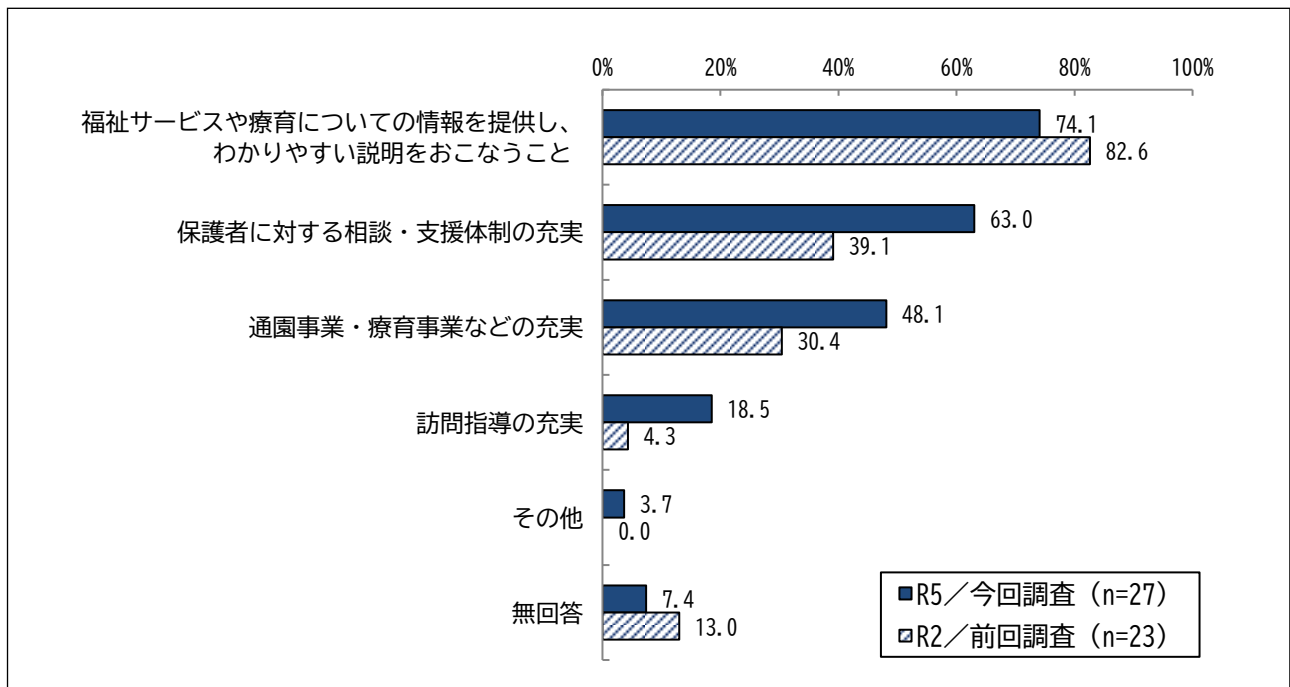
問 30 あなたは乳幼児期における母子保健や療育に関わることでどのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

乳幼児期における母子保健や療育に関わることで望むことをみると、「福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をおこなうこと」(74.1%)が最も多く、次いで「保護者に対する相談・支援体制の充実」(63.0%)、「通園事業・療育事業などの充実」(48.1%)、「訪問指導の充実」(18.5%)、と続いています。

前回調査と比較すると、「保護者に対する相談・支援体制の充実」が23.9ポイント増加しています。

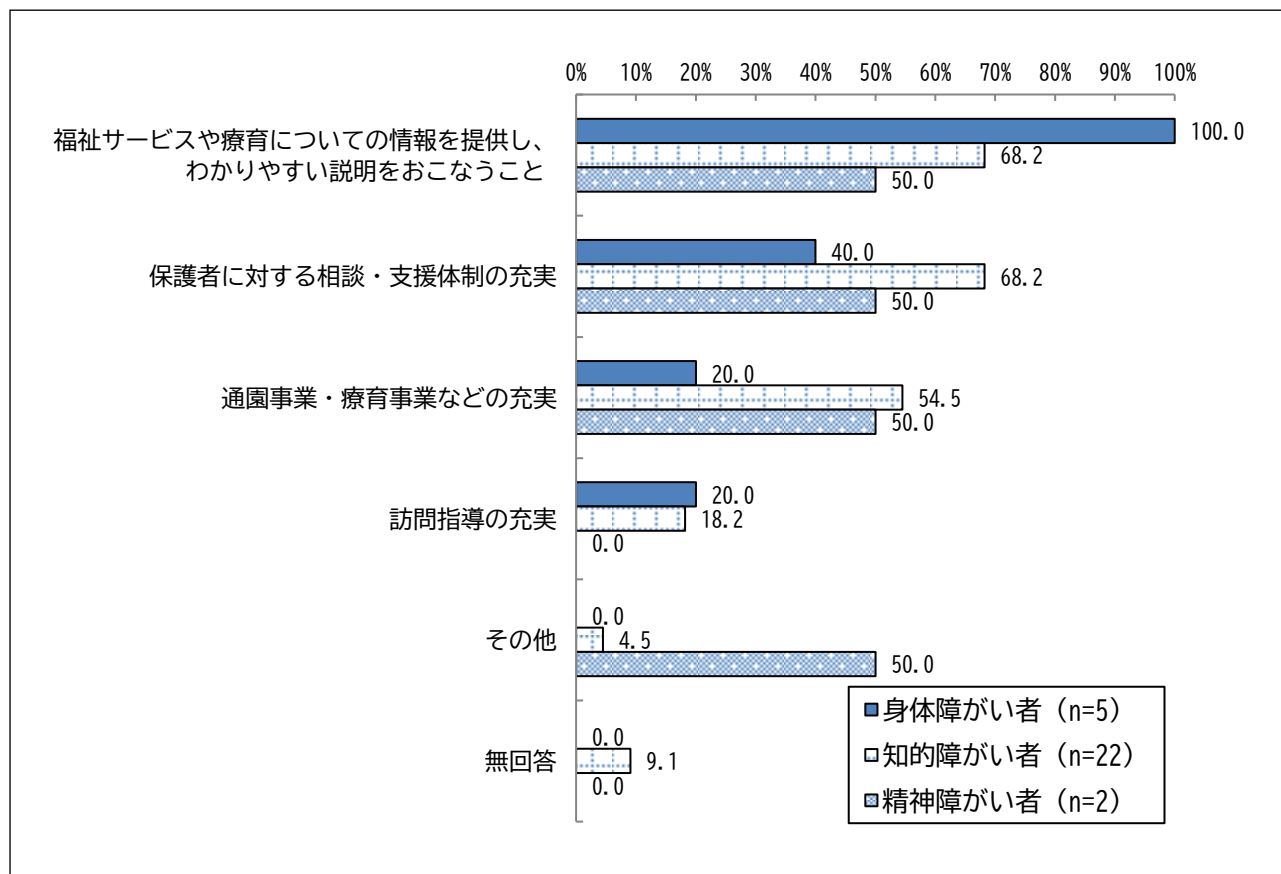
図表 80 母子保健や療育に関わることで望むこと（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をおこなうこと」が100.0%となっており、対象者全員が望んでいると回答しています。

図表 81 母子保健や療育に関わることで望むこと（障がい別／複数回答）



(3) 発達支援について

※宛名のご本人が18歳未満の方のみ

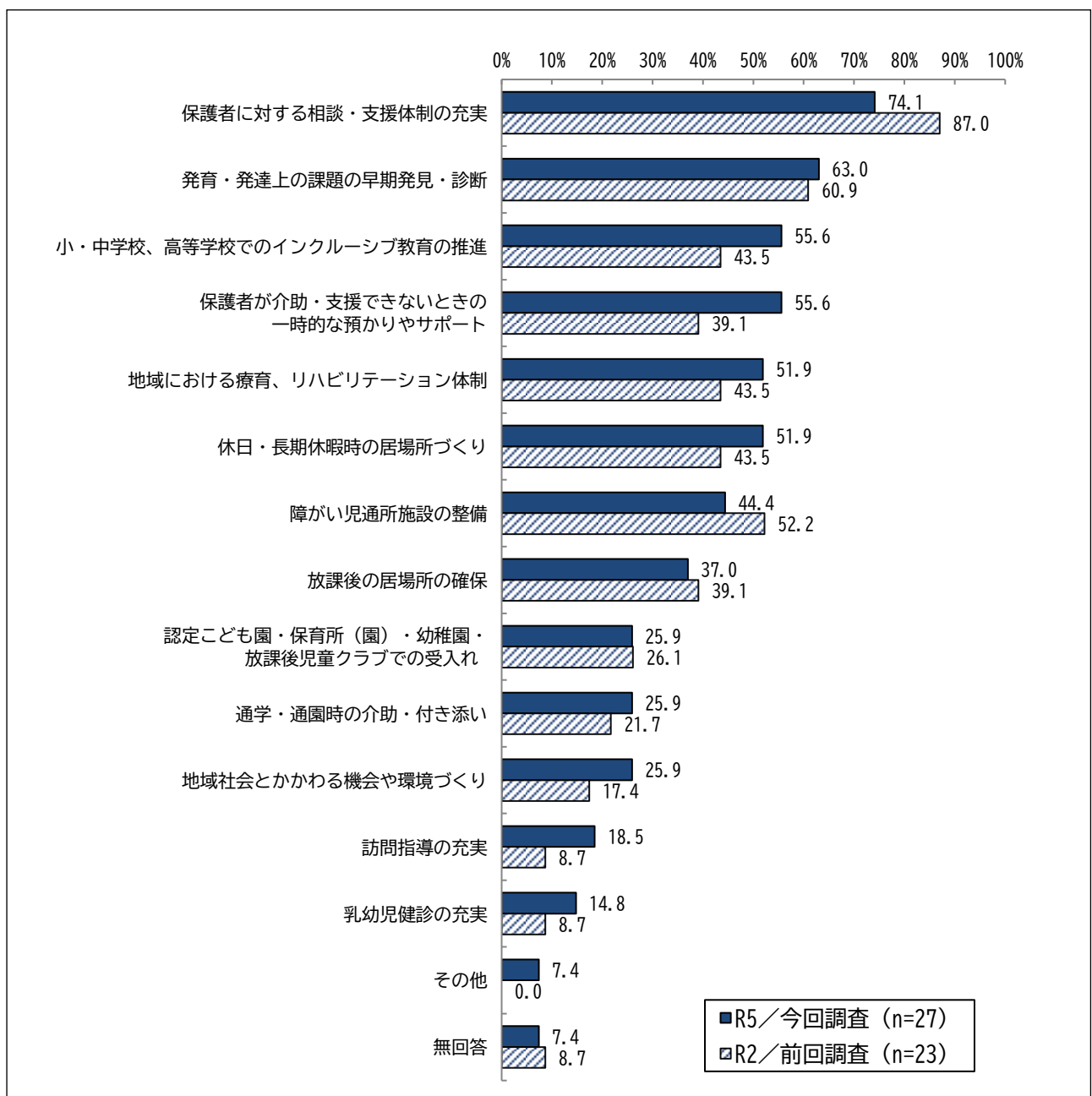
問 31 発達に課題のある子どものための施策やサービスなどで、あなたが特に重要と思うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

発達に課題のある子どものための施策等で重要だと思うものについてみると、「保護者に対する相談・支援体制の充実」が74.1%と最も多く、次いで「発育・発達上の課題の早期発見・診断」(63.0%)、「小・中学校、高等学校でのインクルーシブ教育の推進」(55.6%)と続いています。

前回調査と比較すると、「保護者が介助・支援できないときの一時的な預かりやサポート」が16.5ポイント増加しています。

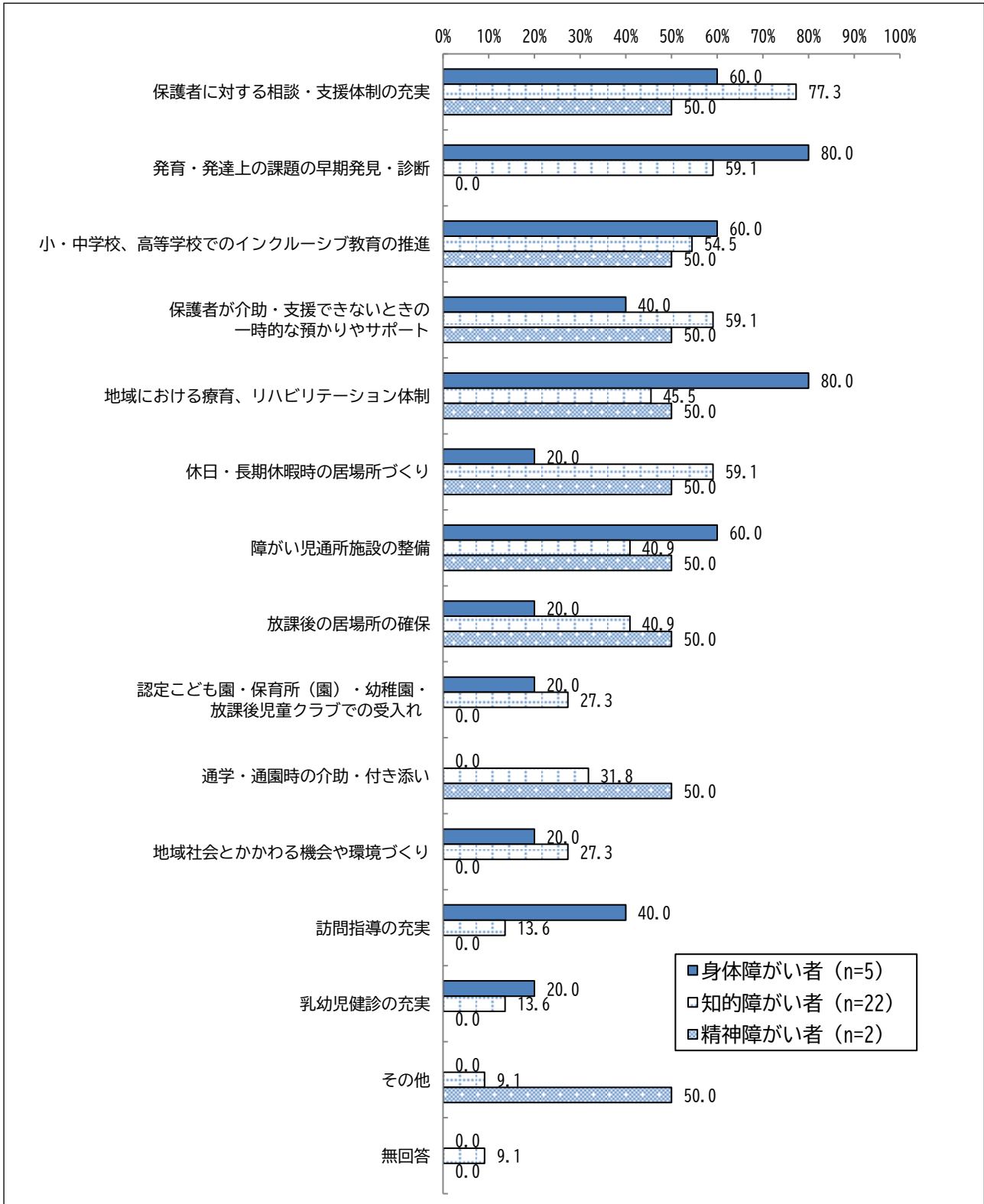
図表 82 発達支援の施策・サービスで重要と思うもの(全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「発育・発達上の課題の早期発見・診断」「地域における療育、リハビリテーション体制」（ともに 80.0%）、知的障がい者では「保護者に対する相談・支援体制の充実」（77.3%）がそれぞれ最も多くなっています。

図表 83 発達支援の施策・サービスで重要と思うもの（障がい別／複数回答）



8 生活全般について

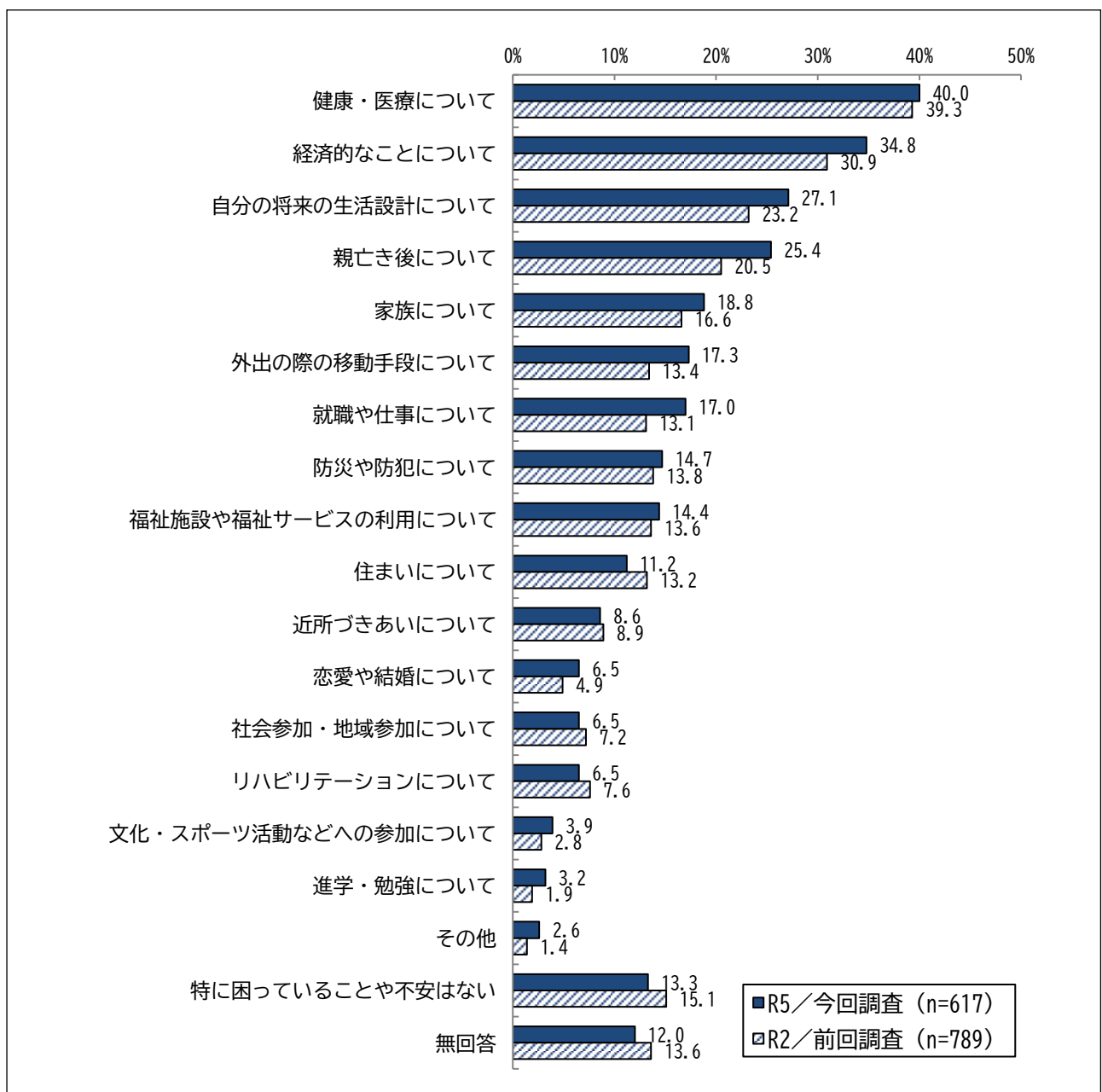
(1) 困りごとや相談について

問 32 現在あなたが困ったり、不安に思っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

困ったり、不安に思っていることについてみると、「健康・医療について」が40.0%と最も多く、次いで「経済的なことについて」(34.8%)、「自分の将来の生活設計について」(27.1%)と続いています。前回調査と比較すると、「親亡き後について」が4.9ポイント増加しています。

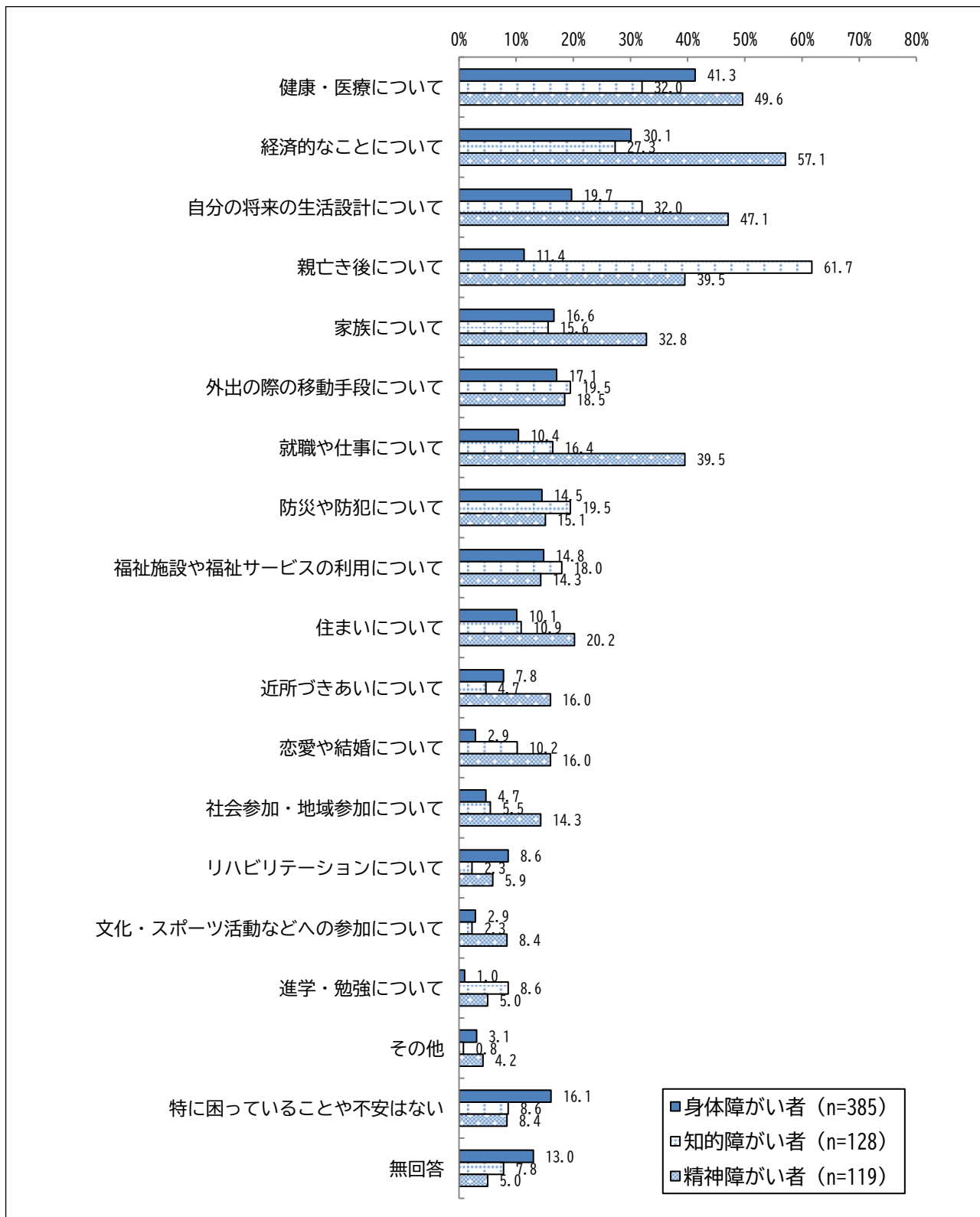
図表 84 困りごとや不安に思っていること (全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「健康・医療について」(41.3%)、知的障がい者では「親亡き後について」(61.7%)、精神障がい者では「経済的なことについて」(57.1%)がそれぞれ最も多くなっており、障がいの種別によって差がみられます。

図表 85 困りごとや不安に思っていること（障がい別／複数回答）



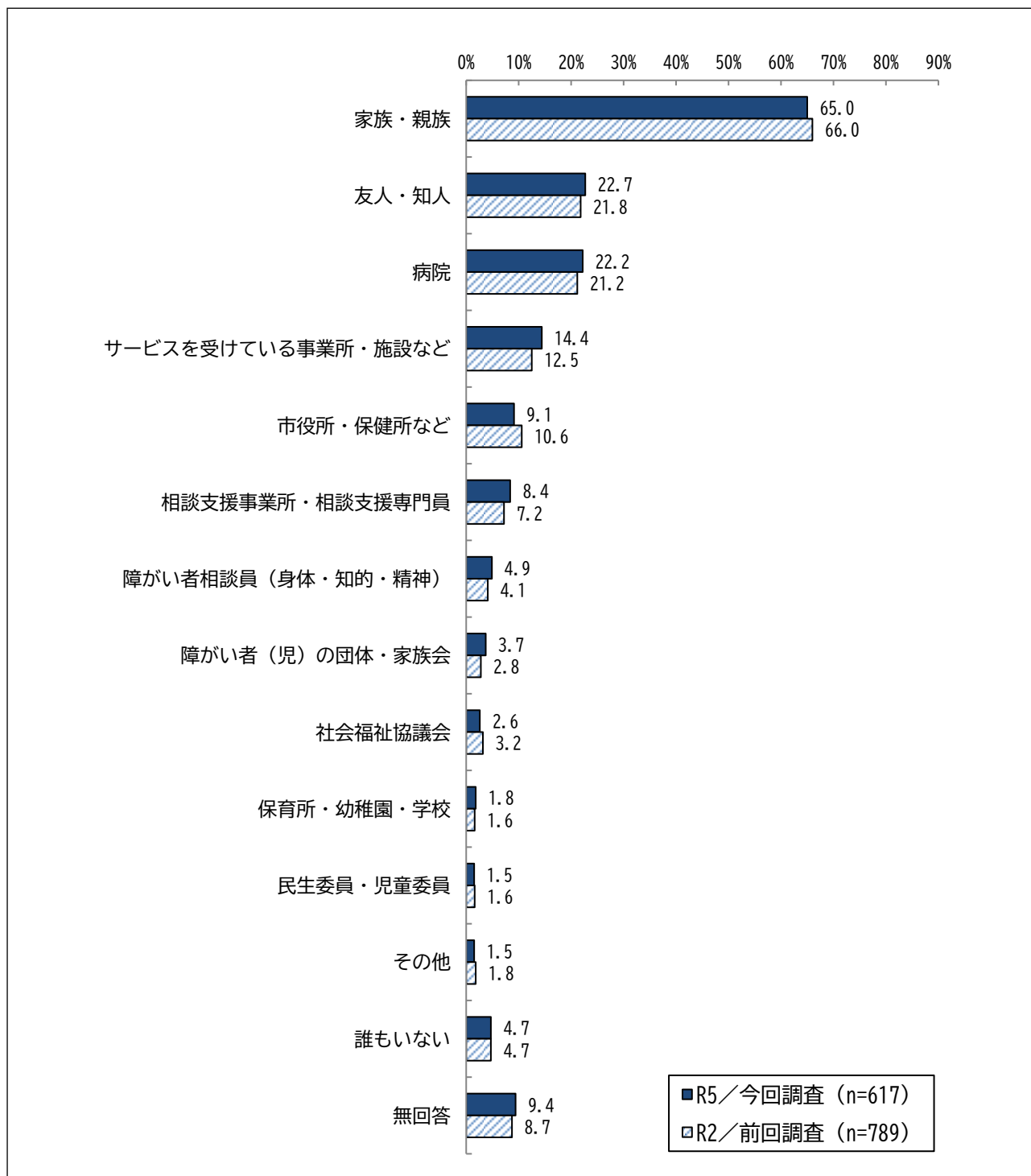
問 33 悩みや困ったことを相談するのは誰ですか。(〇は3つまで)

【全体の傾向】

悩みや困ったことを相談する相手についてみると、「家族・親族」が65.0%と最も多く、その割合は突出しています。次いで「友人・知人」(22.7%)、「病院」(22.2%)となっています。

前回調査と比較すると、概ね同様の結果となっています。

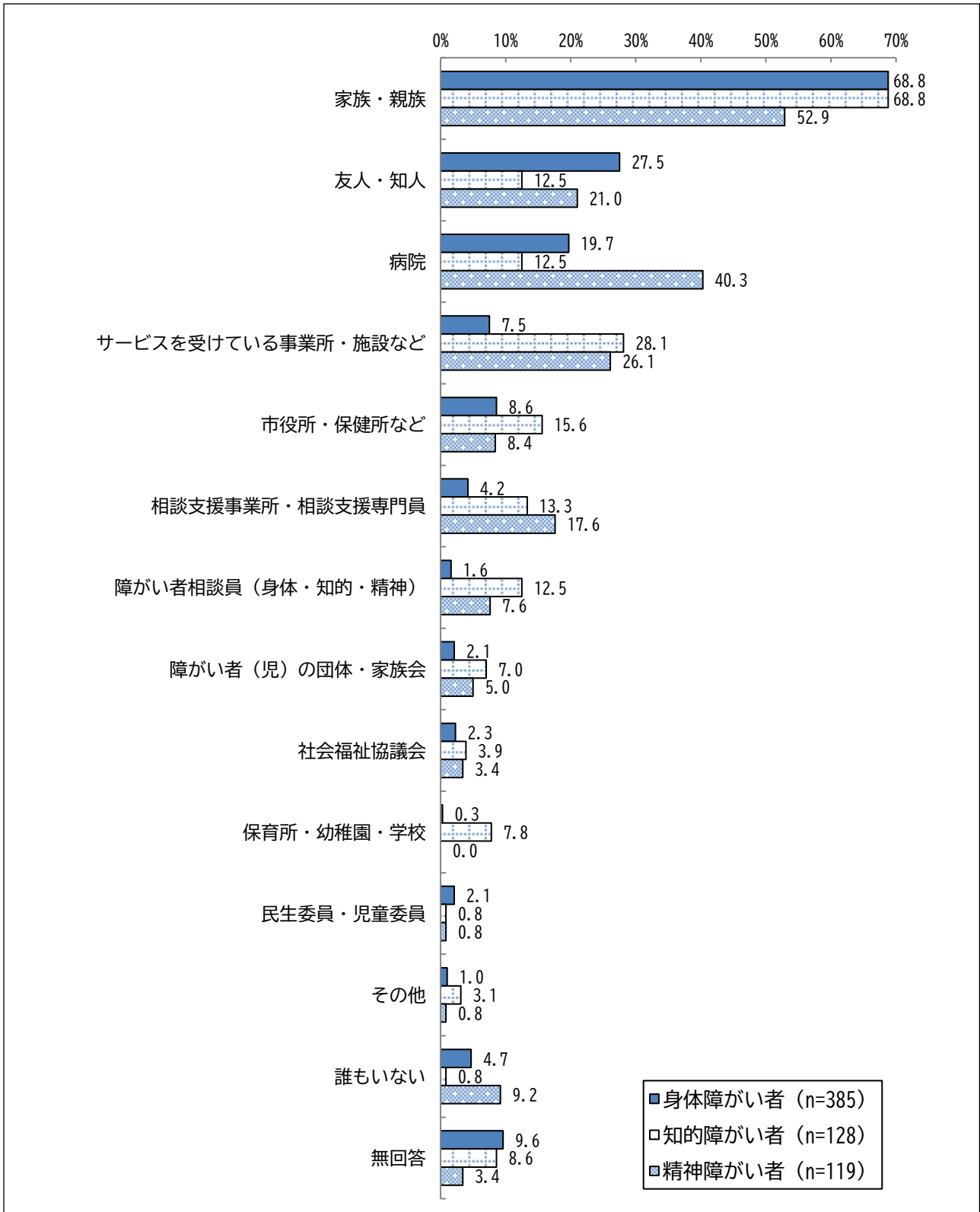
図表 86 悩みごとの相談相手（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種別に関わらず、「家族・親族」（身体 68.8%、知的 68.8%、精神 52.9%）がそれぞれ最も多くなっています。また、精神障がい者では「病院」（40.3%）も他に比べて多くなっています。

図表 87 悩みの相談相手（障がい別／複数回答）



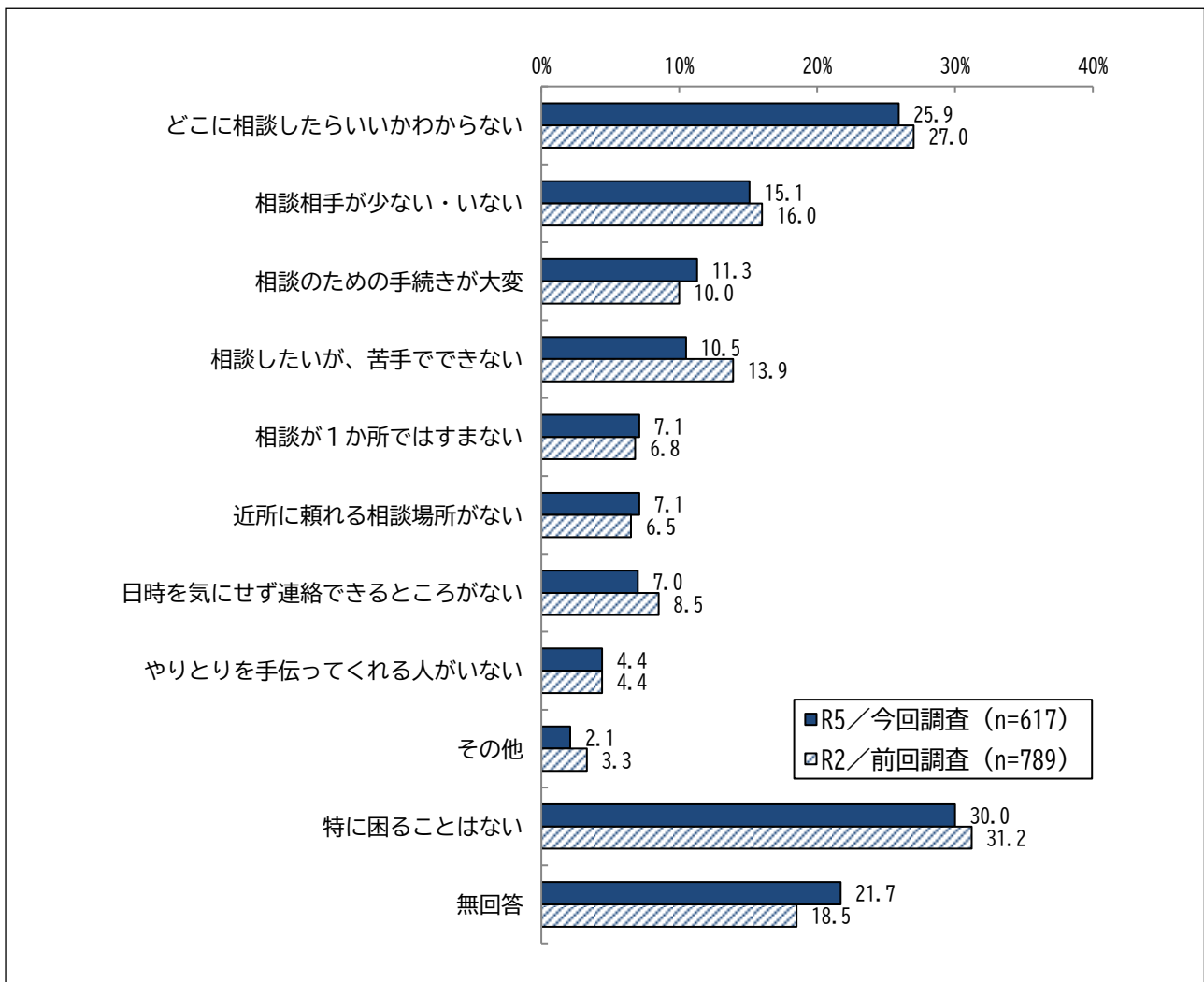
問 34 あなたが相談したい時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

相談時に困ることについてみると、「特に困ることはない」が30.0%と最も多く、次いで「どこに相談したらいいかわからない」(25.9%)、「相談相手が少ない・いない」(15.1%)、「相談のための手続きが大変」(11.3%)、「相談したいが、苦手でできない」(10.5%)と続いています。

前回調査と比較すると、「相談したいが、苦手でできない」が3.4ポイント減少しています。

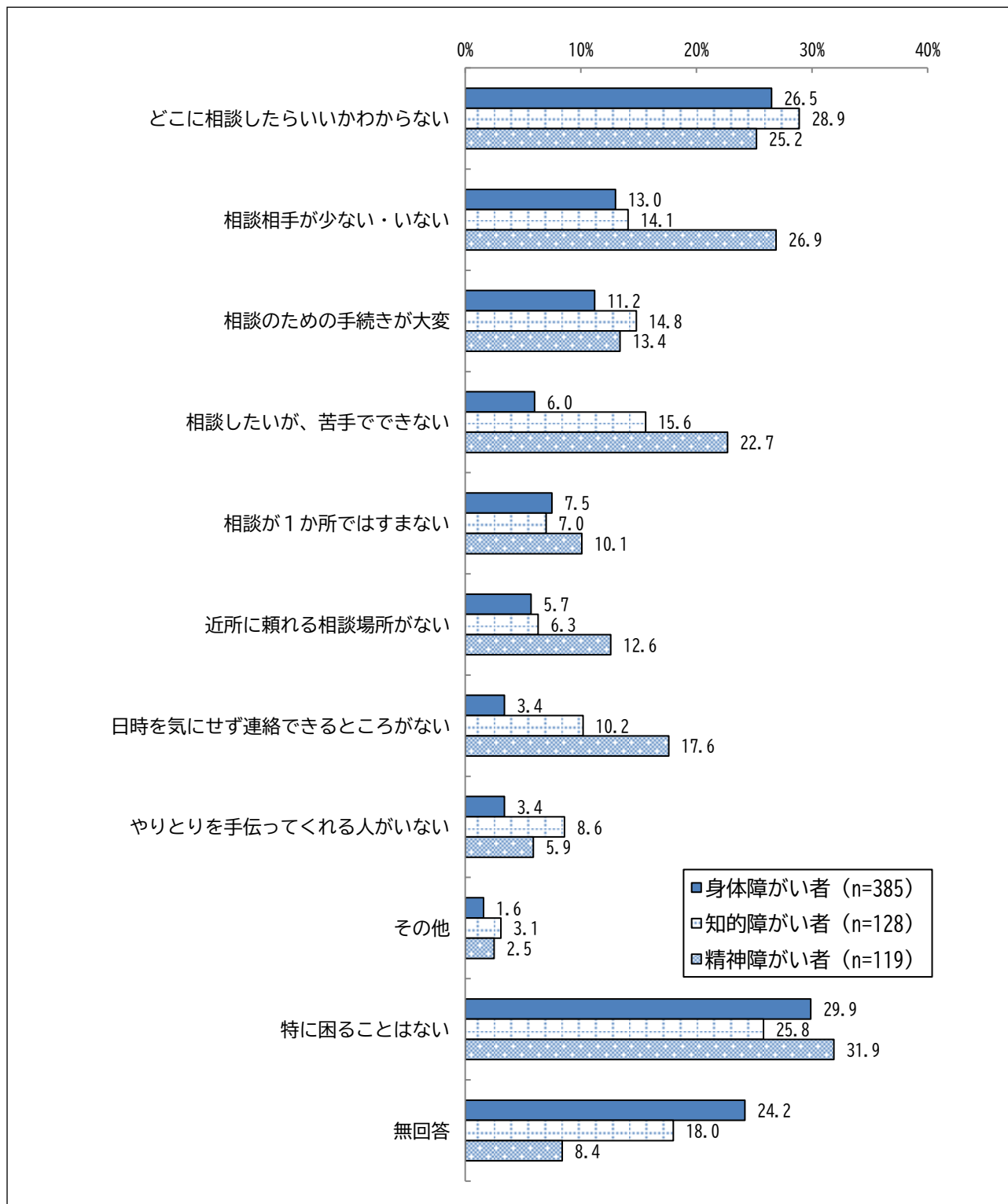
図表 88 相談時に困ること（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別に相談時に困ることの内容をみると、身体障がい者、知的障がい者では「どこに相談したらいいかわからない」(身体26.5%、知的28.9%)、精神障がい者では「相談相手が少ない・いない」(26.9%)が多くなっています。

図表 89 相談時に困ること（障がい別／複数回答）



(2) 外出について

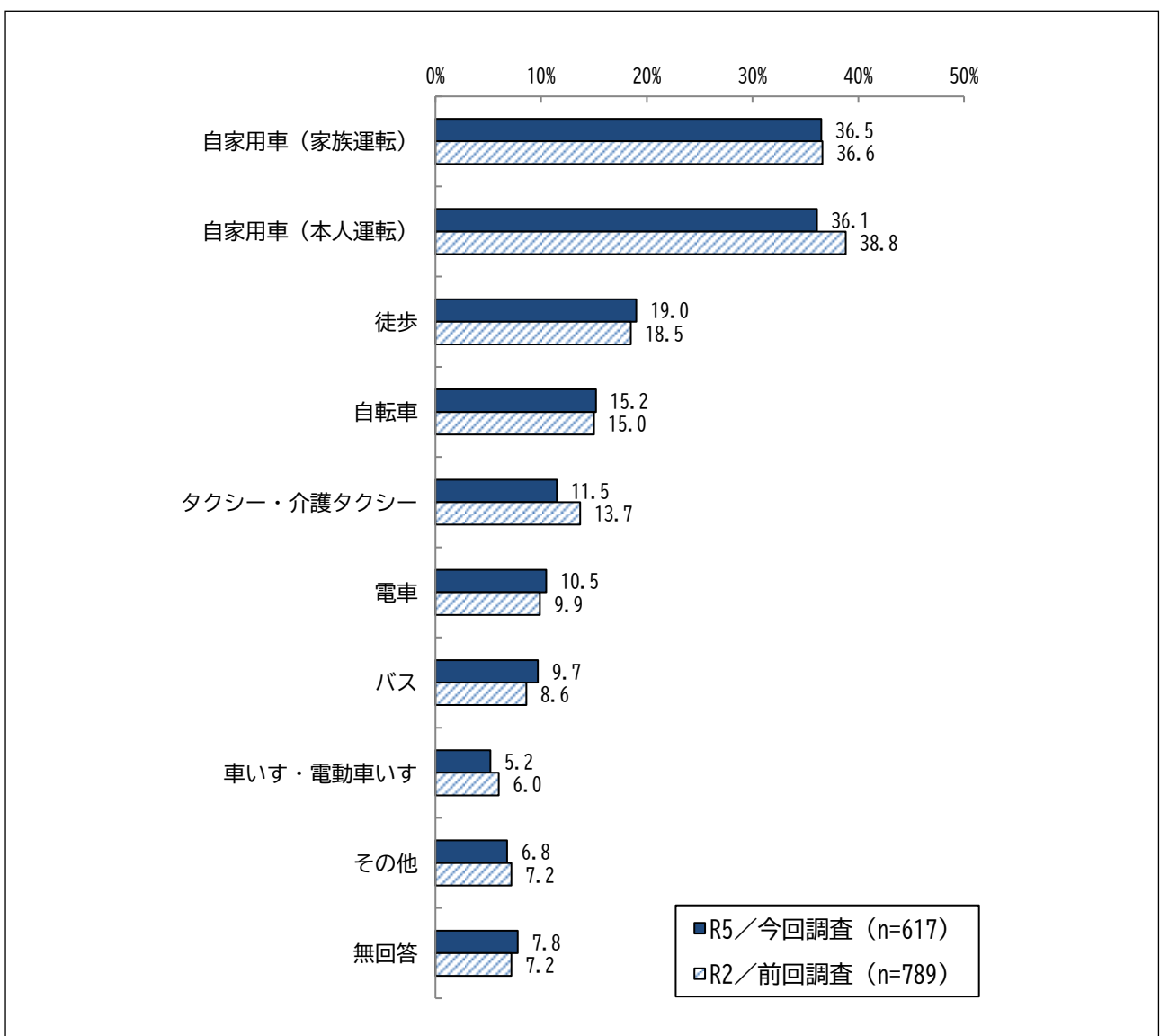
問 35 通勤や通学、施設や病院への通院など、外出する際の交通手段は何ですか。(〇は3つまで)

【全体の傾向】

通勤や通学、通院等の外出する際の交通手段についてみると、「自家用車（家族運転）」が36.5%と最も多く、次いで「自家用車（本人運転）」(36.1%)となっており、自家用車での移動が多くなっています。続いて、「徒歩」(19.0%)、自転車(15.2%)、「タクシー・介護タクシー」(11.5%)となっています。

前回調査と比較すると、「自家用車（本人運転）」が2.7ポイント減少しています。

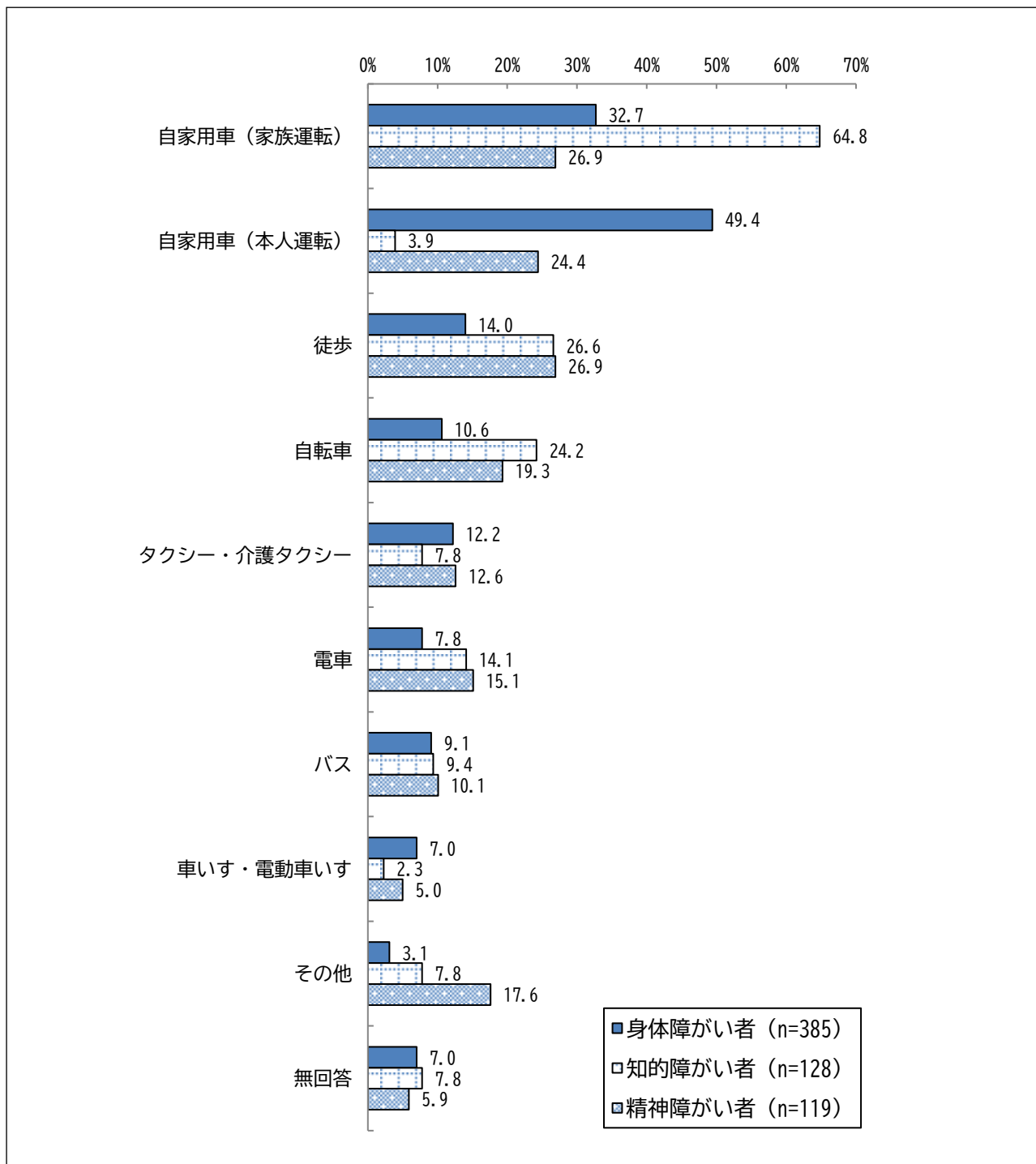
図表 90 外出時の交通手段（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「自家用車（本人運転）」（49.4%）、知的障がい者では「自家用車（家族運転）」（64.8%）、精神障がい者では「自家用車（家族運転）」「徒歩」（ともに26.9%）がそれぞれ最も多くなっています。

図表 91 外出時の交通手段（障がい別／複数回答）



問 36 現在どのくらいの頻度で外出していますか。(1つに○)

【全体の傾向】

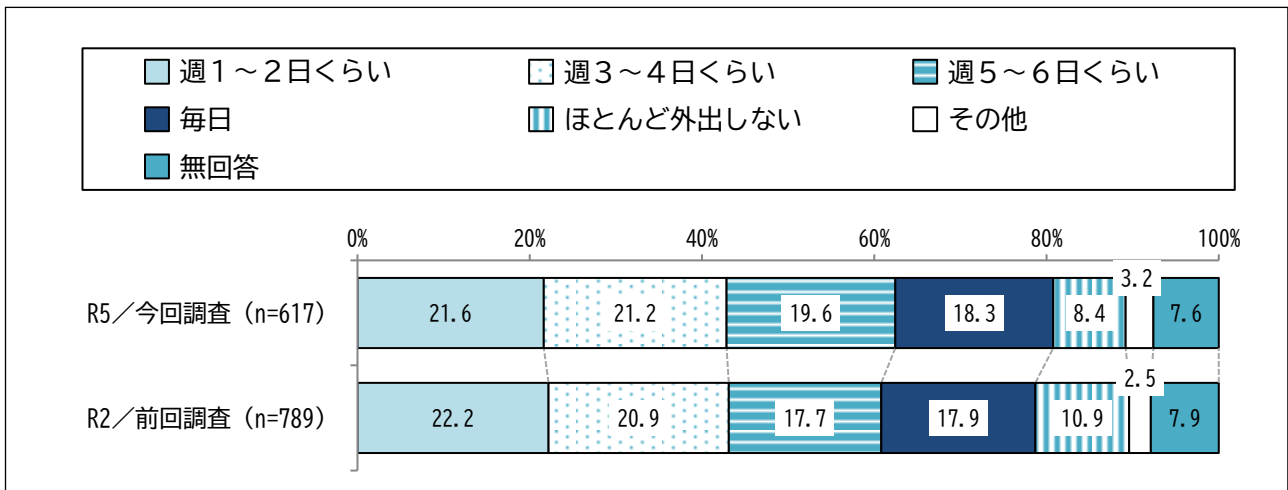
外出の頻度をみると、「週1～2日くらい」が21.6%と最も高く、次いで「週3～4日くらい」(21.2%)、「週5～6日くらい」(19.6%)となっています。

前回調査と比較すると、「ほとんど外出しない」が2.5ポイント減少しています。

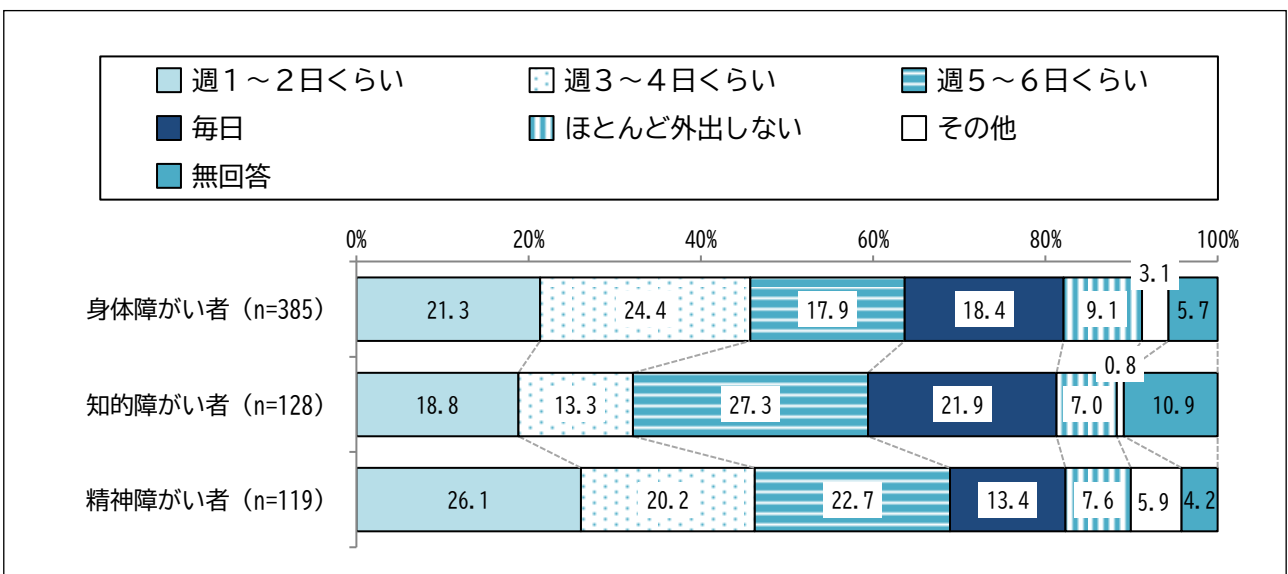
【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「週3～4日くらい」、知的障がい者では「週5～6日くらい」、精神障がい者では「週1～2日くらい」が最も高くなっています。

図表 92 外出の頻度について (全体、前回比較)



図表 93 外出の頻度について (障がい別)



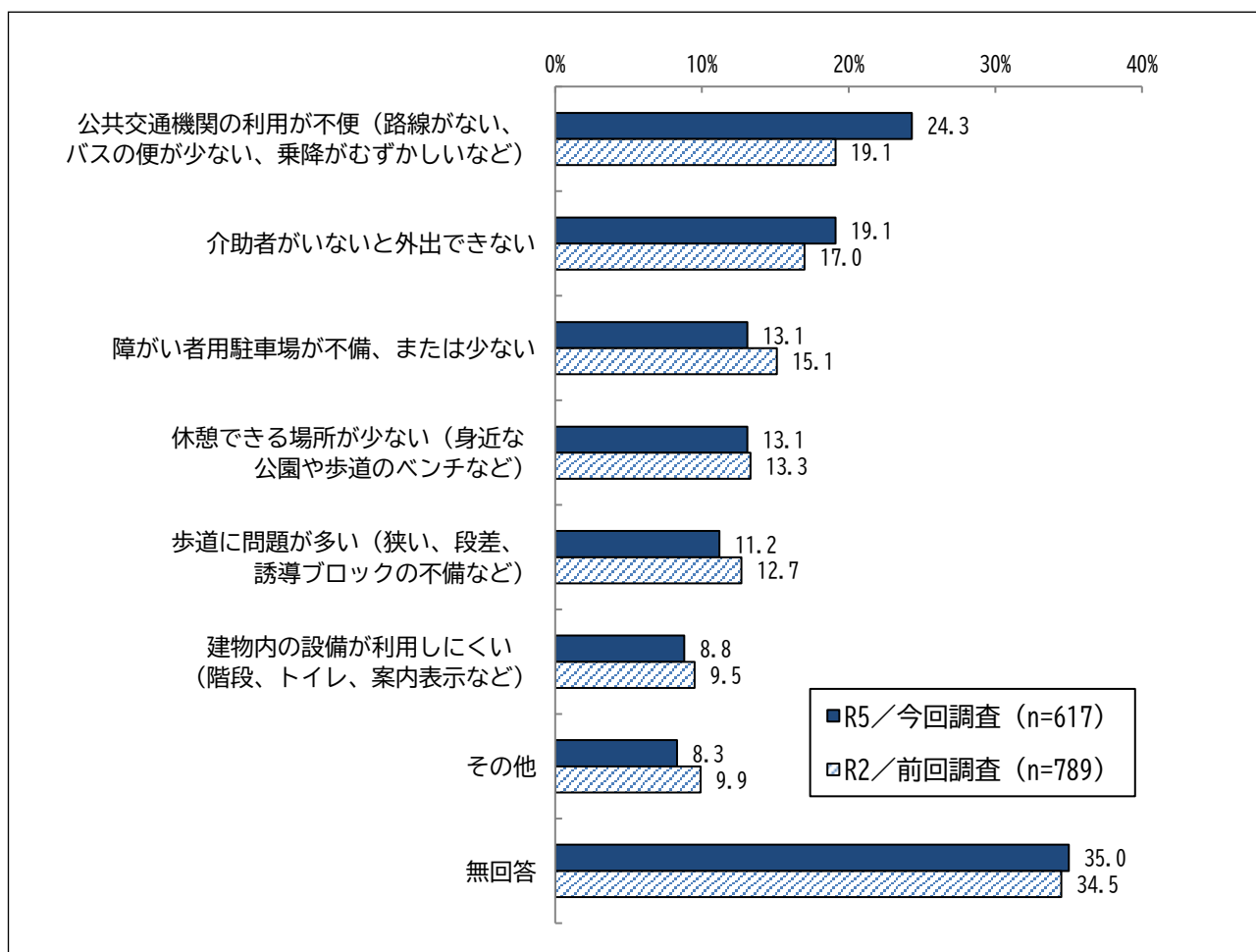
問 37 外出のとき、不便に感じたり困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

外出時に不便に感じたり、困ることについてみると、「公共交通機関の利用が不便（路線がない、バスの便が少ない、乗降がむずかしいなど）」が 24.3%と最も多く、次いで「介助者がいないと外出できない」（19.1%）、「障がい者用駐車場が不備、または少ない」（13.1%）と続いています。

前回調査と比較すると、「公共交通機関の利用が不便（路線がない、バスの便が少ない、乗降がむずかしいなど）」が 5.2 ポイント増加しています。

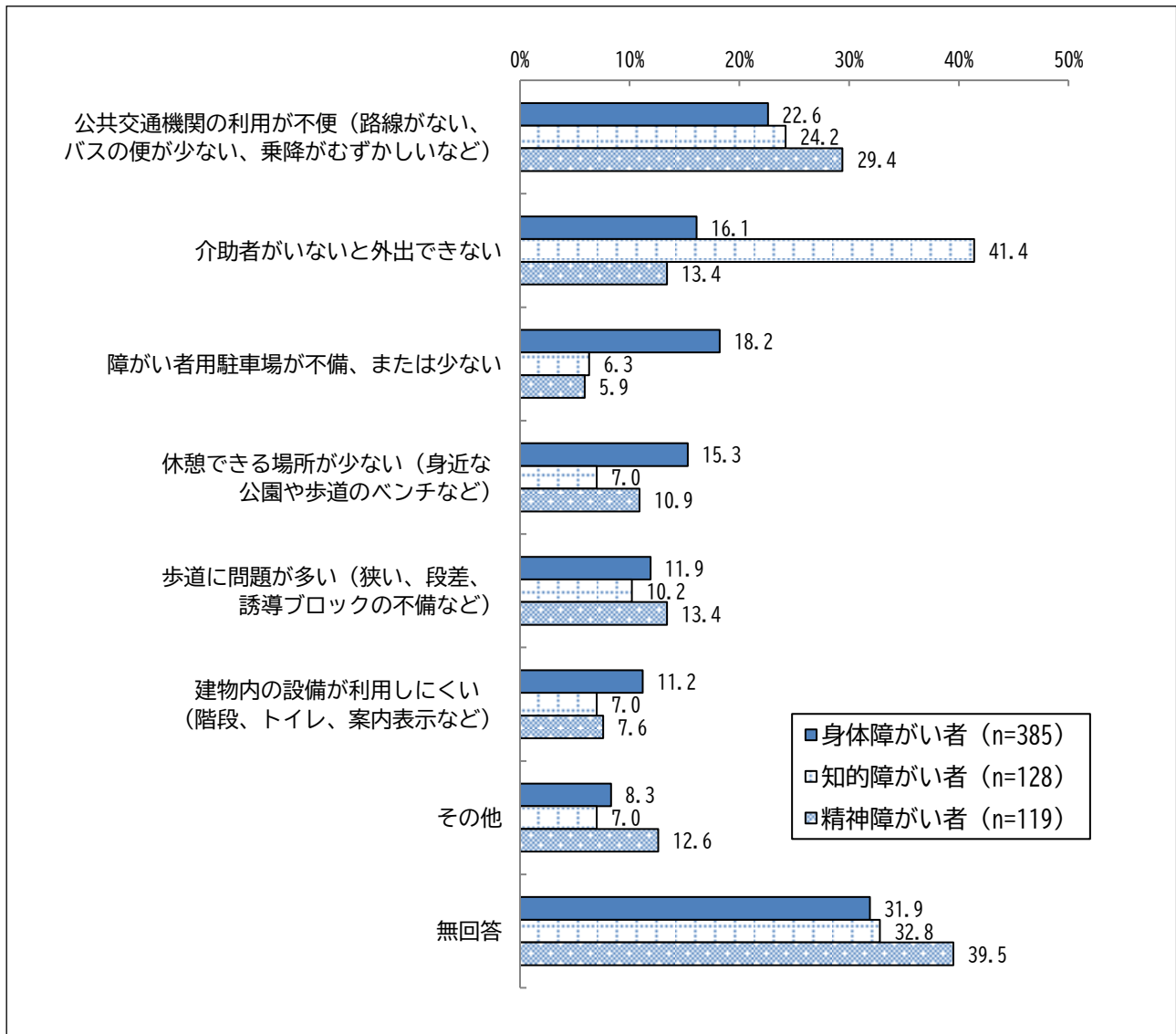
図表 94 外出時に不便に感じる事（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「公共交通機関の利用が不便（路線がない、バスの便が少ない、乗降がむずかしいなど）」（22.6%）が最も多くなっています。知的障がい者では「介助者がいないと外出できない」（41.4%）が最も多く、4割以上の方が外出時には、必ず介助者が必要だと回答しています。精神障がい者では身体障がい者と同様に「公共交通機関の利用が不便（路線がない、バスの便が少ない、乗降がむずかしいなど）」（29.4%）が最も多くなっています。

図表 95 外出時に不便に感じること（障がい別／複数回答）



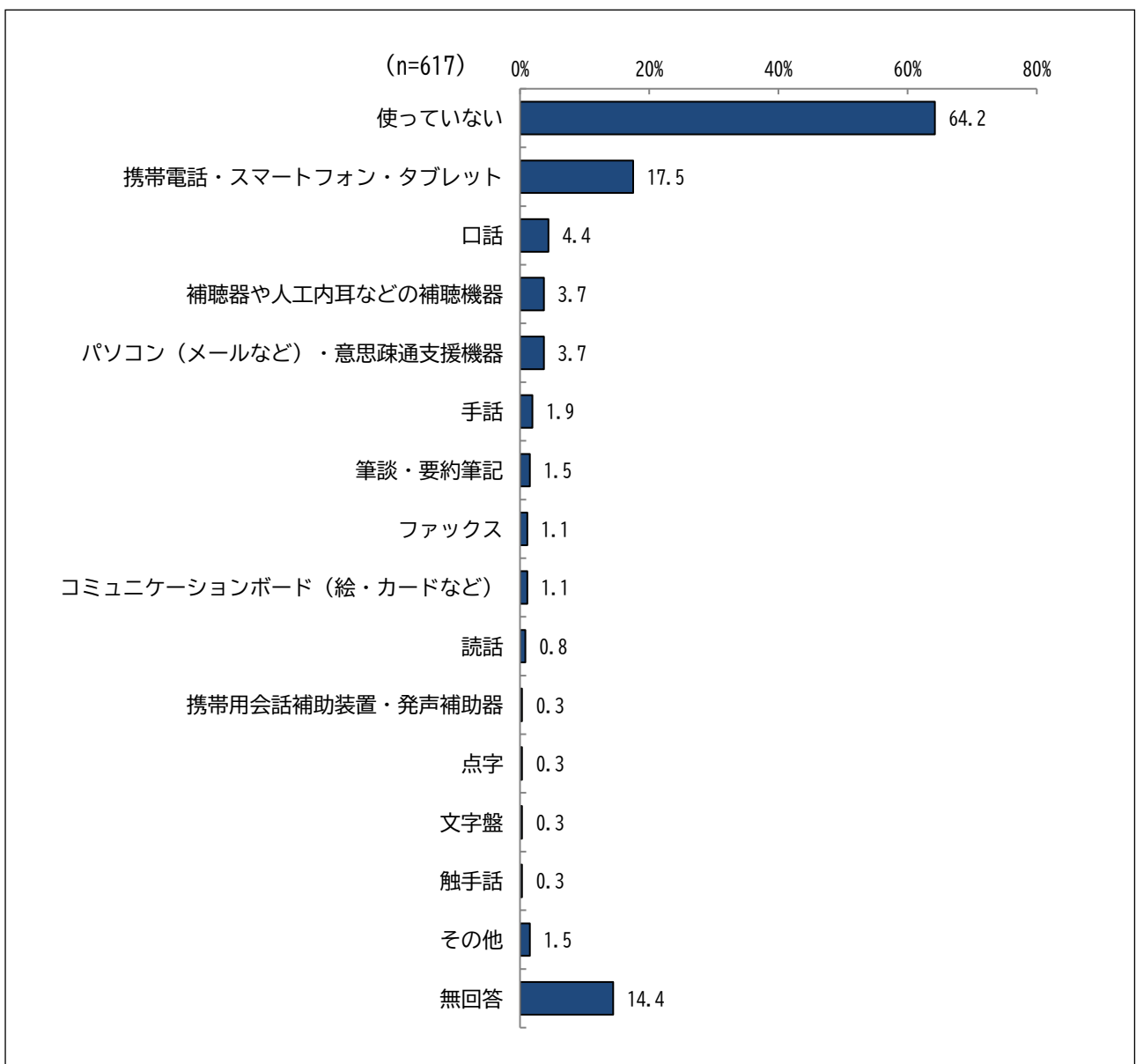
(3) コミュニケーションについて

問 38 あなたは、意志の伝達を図る場合、特別な技術や用具を使っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

意志の伝達に特別な技術や用具を使っているかについてみると、「使っていない」が 64.2%と最も多く、次いで「携帯電話・スマートフォン・タブレット」(17.5%)、「口話」(4.4%)、「補聴器や人工内耳などの補聴機器」「パソコン(メールなど)・意思疎通支援機器」(ともに 3.7%)と続いています。

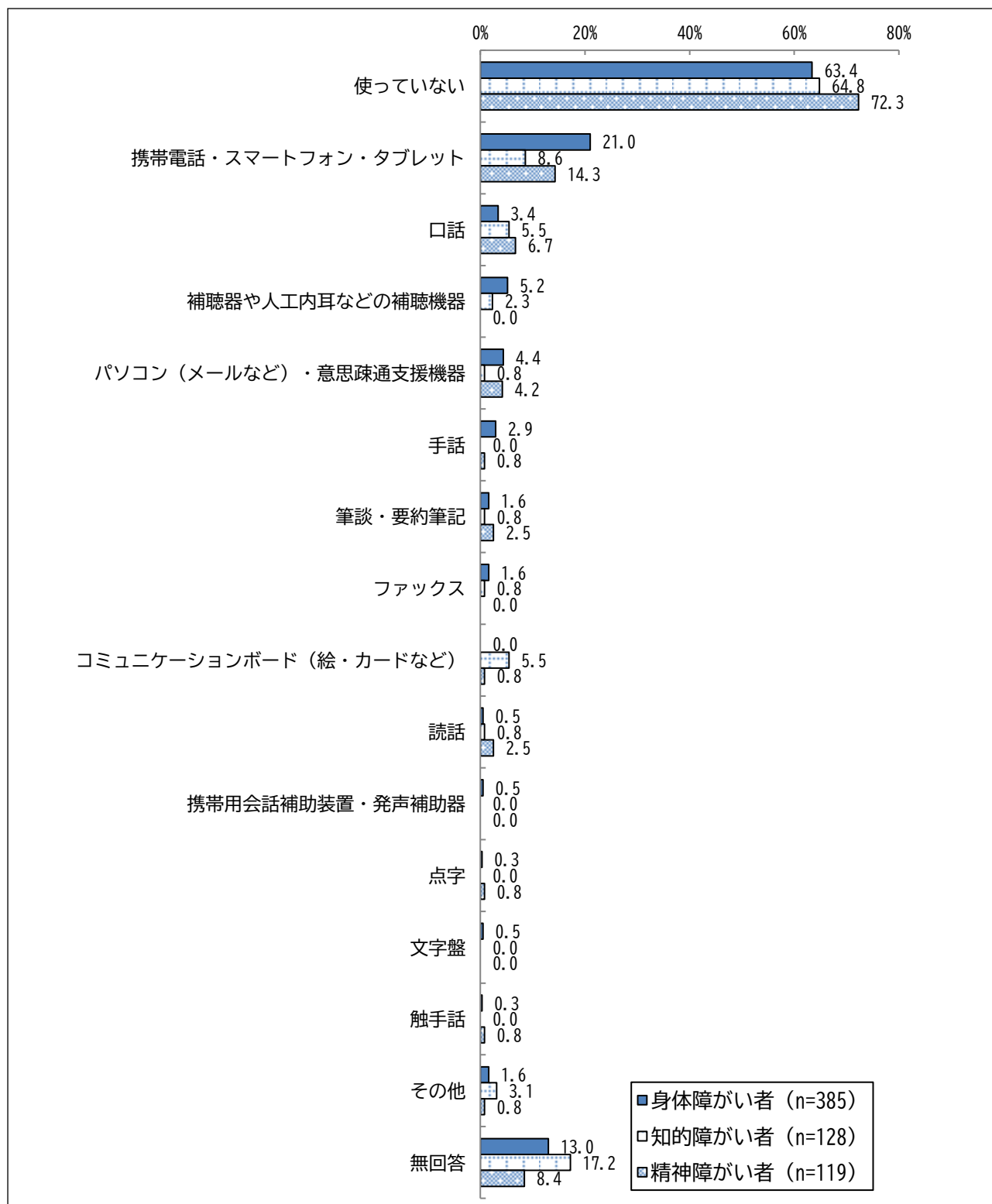
図表 96 意志の伝達に特別な技術を使用しているか(全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、いずれも「使っていない」（身体 63.4%、知的 64.8%、精神 72.3%）が第1位、第2位が「携帯電話・スマートフォン・タブレット」（身体 21.0%、知的 8.6%、精神 14.3%）となっていますが、第3位は身体障がい者が「補聴器や人工内耳などの補聴機器」（5.2%）、知的障がい者が「口話」「コミュニケーションボード（絵・カードなど）」（ともに 5.5%）、精神障がい者が「口話」（6.7%）となっています。

図表 97 意志の伝達に特別な技術を使用しているか（障がい別／複数回答）



問 39 あなたはコミュニケーションの手段として手話を使ってみたいと思いますか。(1つに○)

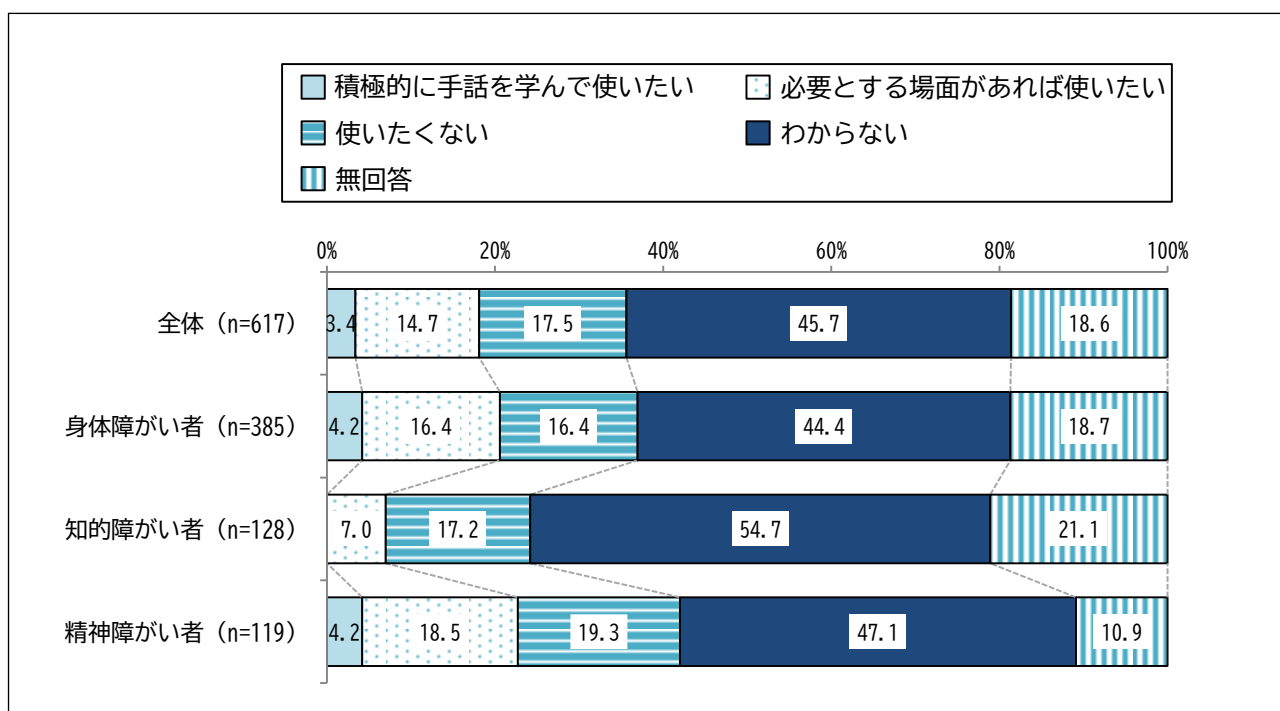
【全体の傾向】

コミュニケーションの手段として手話を使ってみたいかどうかをみると、「わからない」が45.7%で最も高く、次いで「使いたくない」(17.5%)、「必要とする場面があれば使いたい」(14.7%)となっています。また、「積極的に手話を学んで使いたい」と「必要とする場面があれば使いたい」を合わせた『使いたい』割合は18.1%となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、『使いたい』割合は、身体障がい者が20.6%、知的障がい者が7.0%、精神障がい者が22.7%となっており、知的障がい者が他と比べて低くなっています。

図表 98 手話を使ってみたいか(全体、障がい別)



(4) 障がい者差別について

問 40 あなたは「障害者差別解消法」について知っていますか。(1つに○)

【全体の傾向】

「障害者差別解消法」の認知状況についてみると、「名称も内容も知っている」は 5.3%にとどまり、「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」が 19.1%、「名称も内容も知らない」は 63.7%となっています。

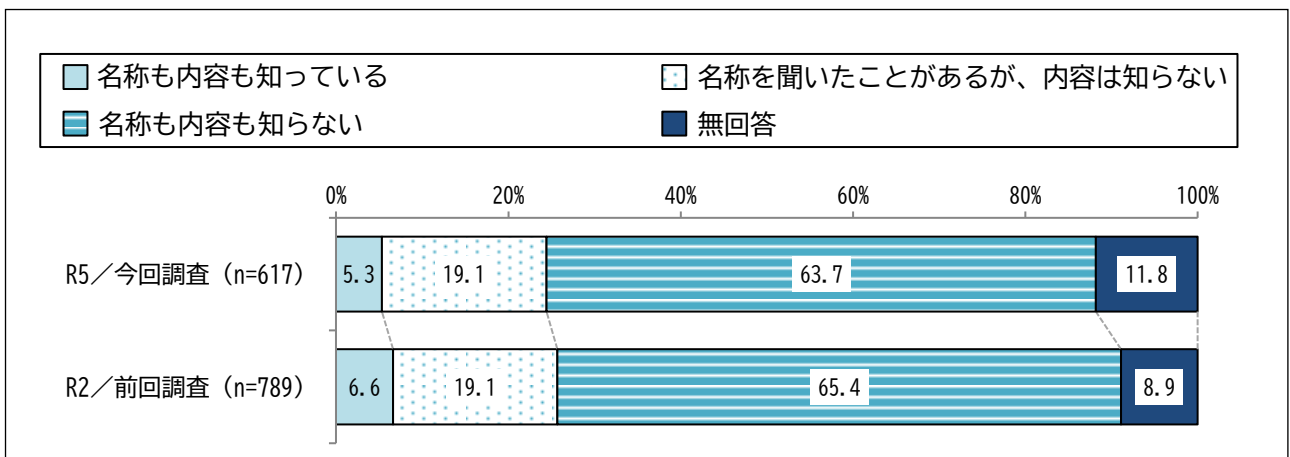
前回調査と比較すると、「名称も内容も知らない」が 1.7 ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

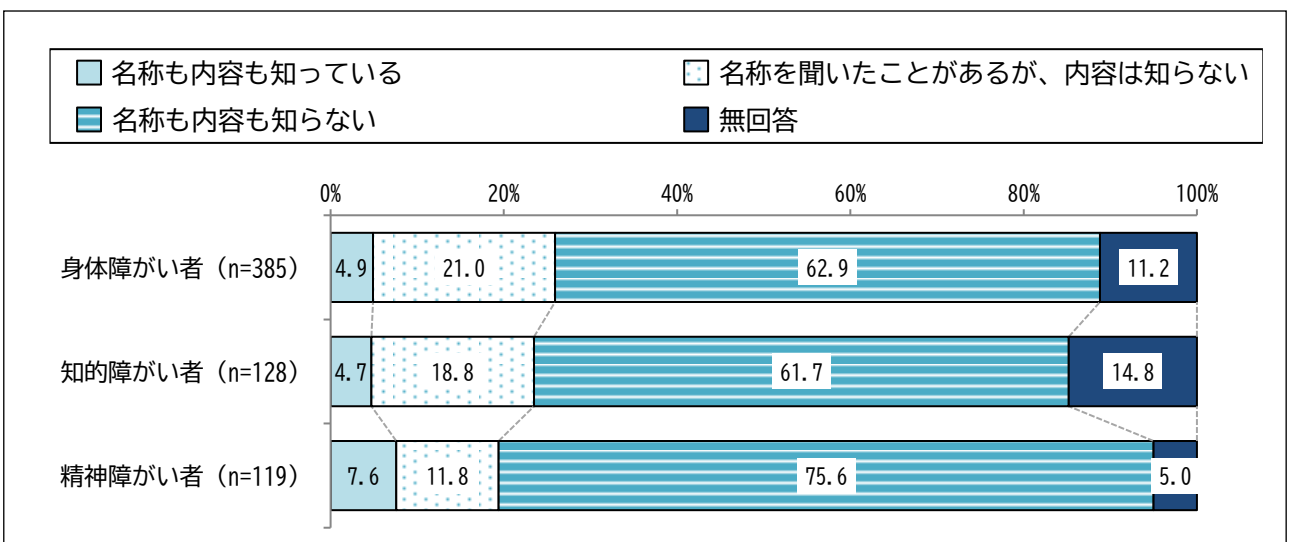
障がい別にみると、「名称も内容も知っている」の割合は、身体障がい者で 4.9%、知的障がい者で 4.7%、精神障がい者で 7.6%となっています。

また、「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合は、身体障がい者で最も高く、21.0%となっています。次いで知的障がい者で 18.8%、精神障がい者で 11.8%となっています。

図表 99 「障害者差別解消法」の認知状況（全体、前回比較）



図表 100 「障害者差別解消法」の認知状況（障がい別）



問 41 あなたは障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」について知っていますか。(1つに○)

【全体の傾向】

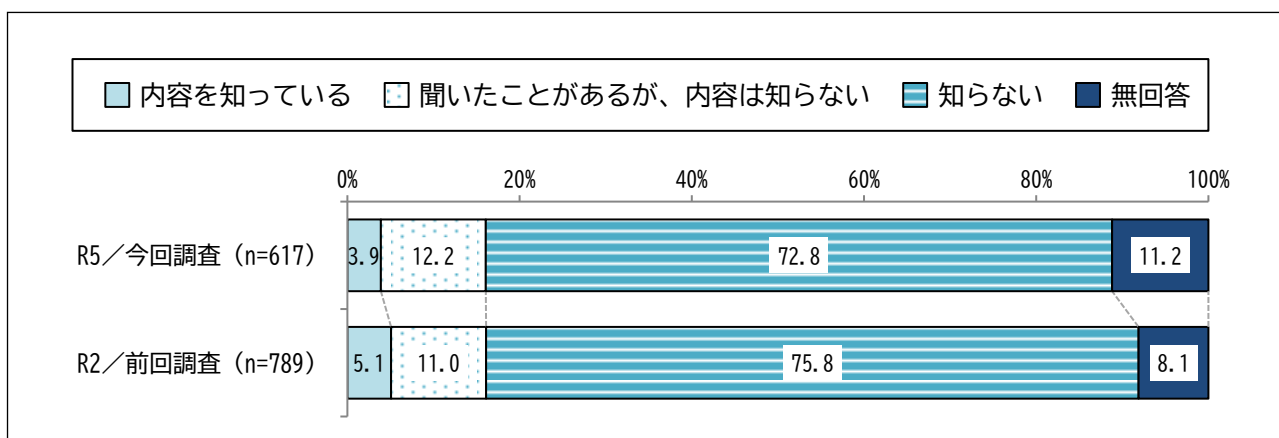
障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」の認知状況についてみると、「内容を知っている」は3.9%にとどまり、「聞いたことがあるが、内容は知らない」が12.2%、「知らない」は72.8%となっています。

前回調査と比較すると、「知らない」が3.0ポイント減少しています。

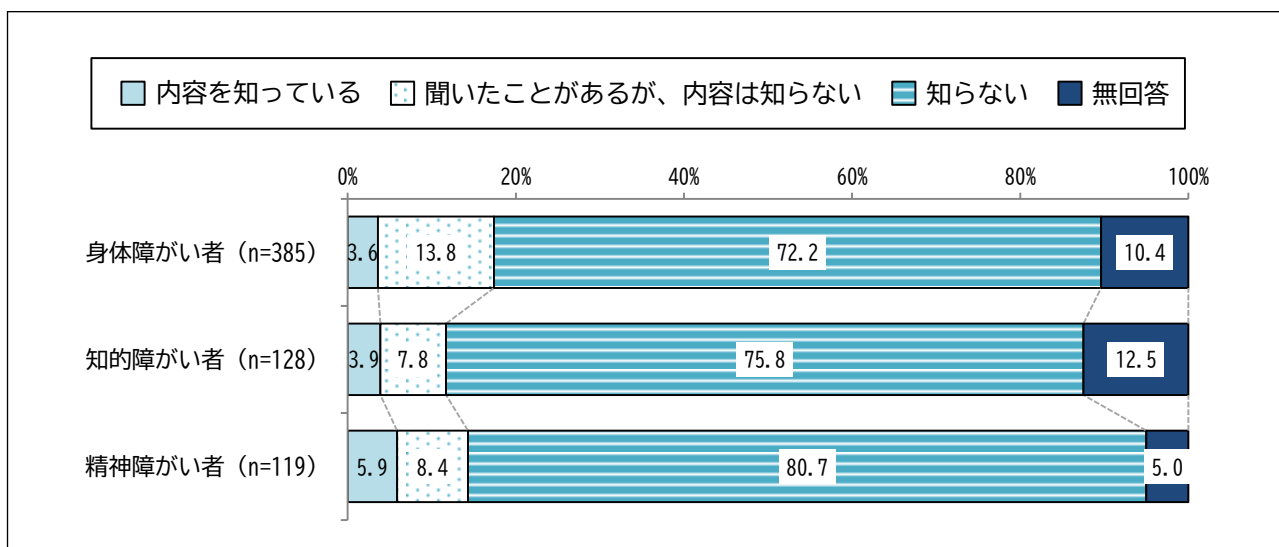
【属性別の傾向】

障がい別にみると、「内容を知っている」の割合は、身体障がい者で3.6%、知的障がい者で3.9%、精神障がい者で5.9%となっています。それぞれ「聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合を合わせると、身体障がい者では17.4%、知的障がい者では11.7%、精神障がい者では14.3%が「合理的配慮」について認知はしていると回答しています。

図表 101 「合理的配慮」の認知状況（全体、前回比較）



図表 102 「合理的配慮」の認知状況（障がい別）



問 42 あなたは、障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。（1つに○）

【全体の傾向】

障がいがあることで、差別や嫌な思いをする（した）ことがあるかについてみると、「よくある」が10.4%、「たまにある」が38.2%、「ない」が39.9%となっています。

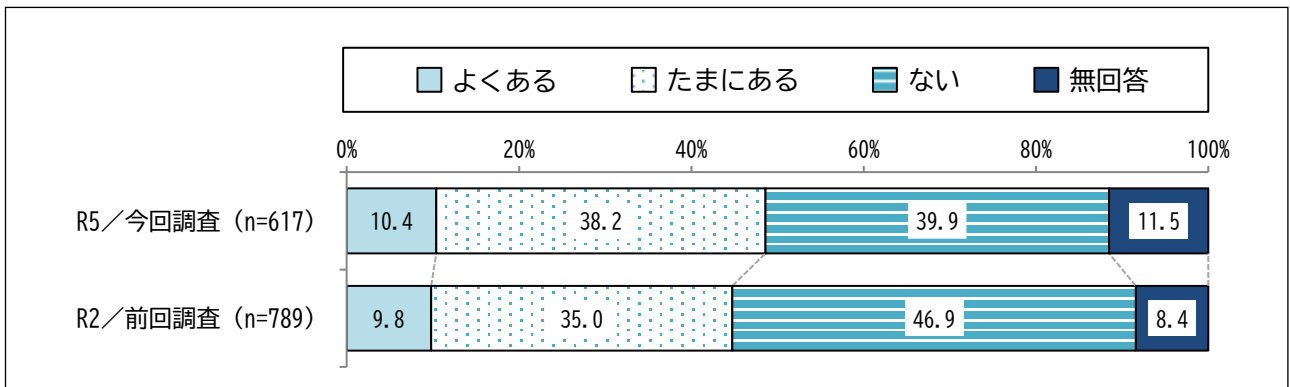
前回調査と比較すると、「ない」が7.0ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

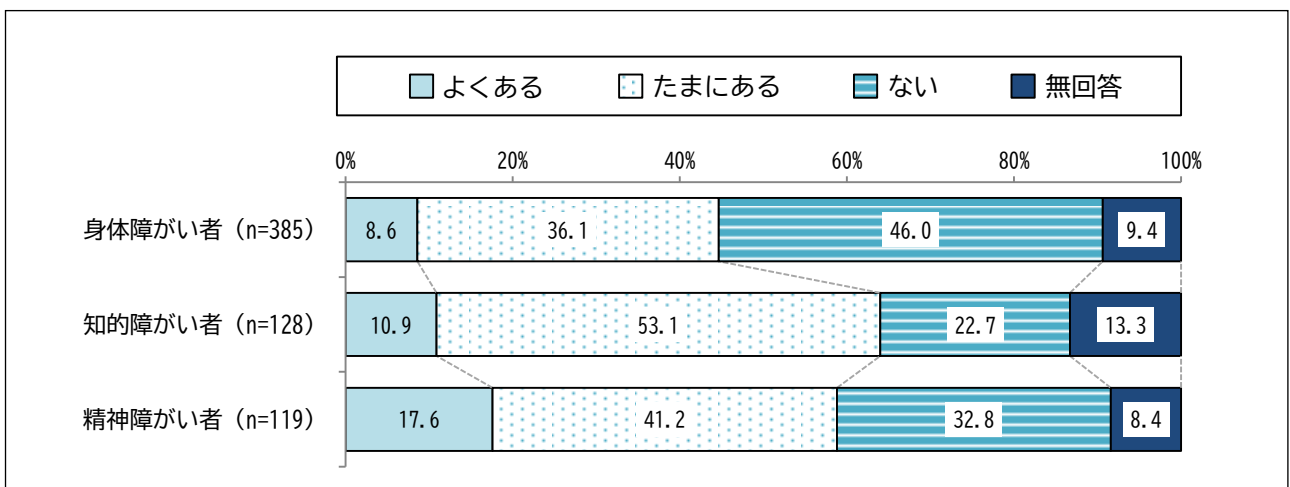
障がい別にみると、「よくある」の割合は、精神障がい者で最も高く、17.6%となっています。次いで知的障がい者で10.9%、身体障がい者で8.6%となっています。

また、「たまにある」を合わせると、知的障がい者では6割以上、精神障がい者では5割以上の人が、差別や嫌な思いをした経験があると回答しています。

図表 103 差別を受けた経験について（全体、前回比較）



図表 104 差別を受けた経験について（障がい別）



※問 42 で「よくある」または「たまにある」と回答した方

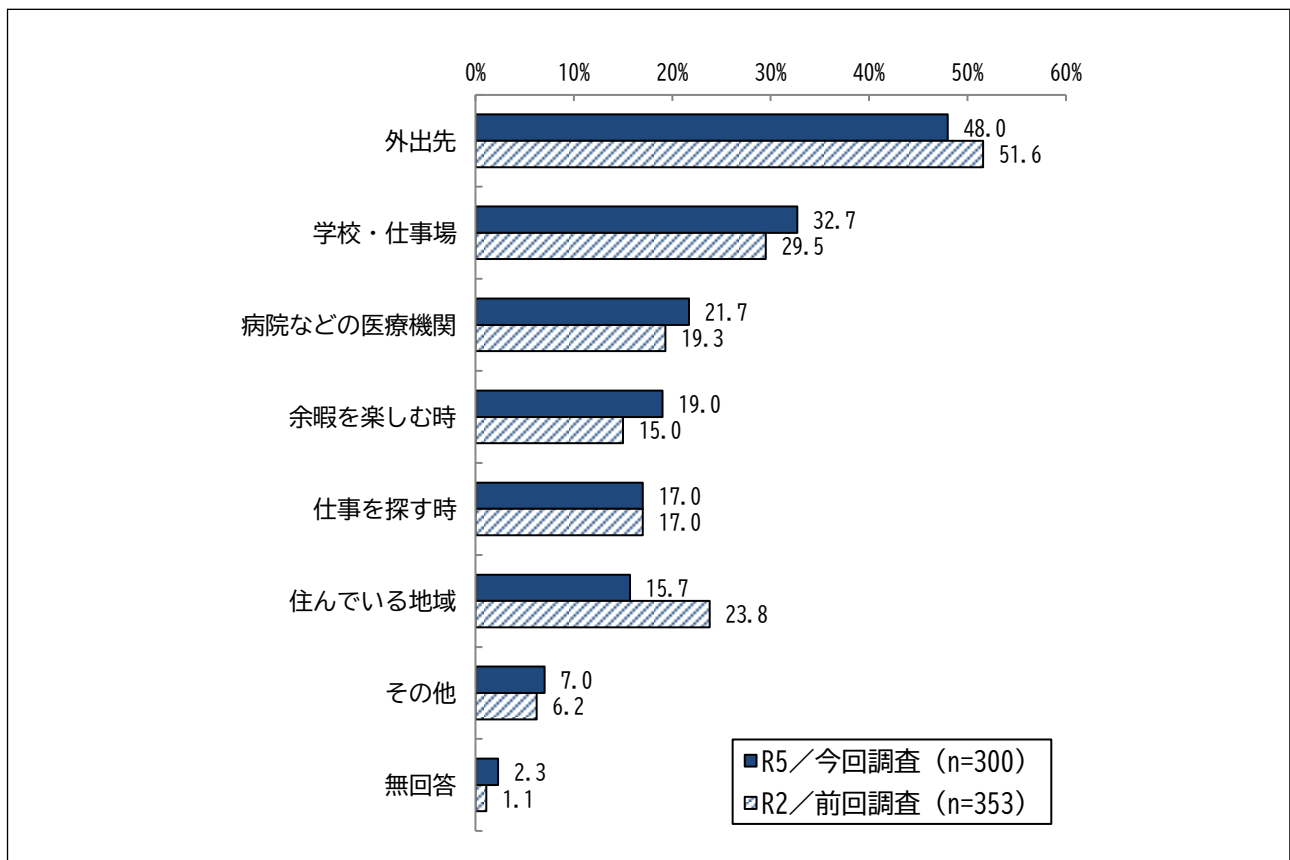
問 43 どのような場所で、差別や嫌な思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

どのような場所で、差別や嫌な思いをしたかについてみると、「外出先」が 48.0%と最も多く、次いで「学校・仕事場」(32.7%)、「病院などの医療機関」(21.7%)、「余暇を楽しむ時」(19.0%)、「仕事を探す時」(17.0%)、となっています。

前回調査と比較すると、「住んでいる地域」が 8.1 ポイント減少しています。

図表 105 差別を受けた場所 (全体、前回比較/複数回答)



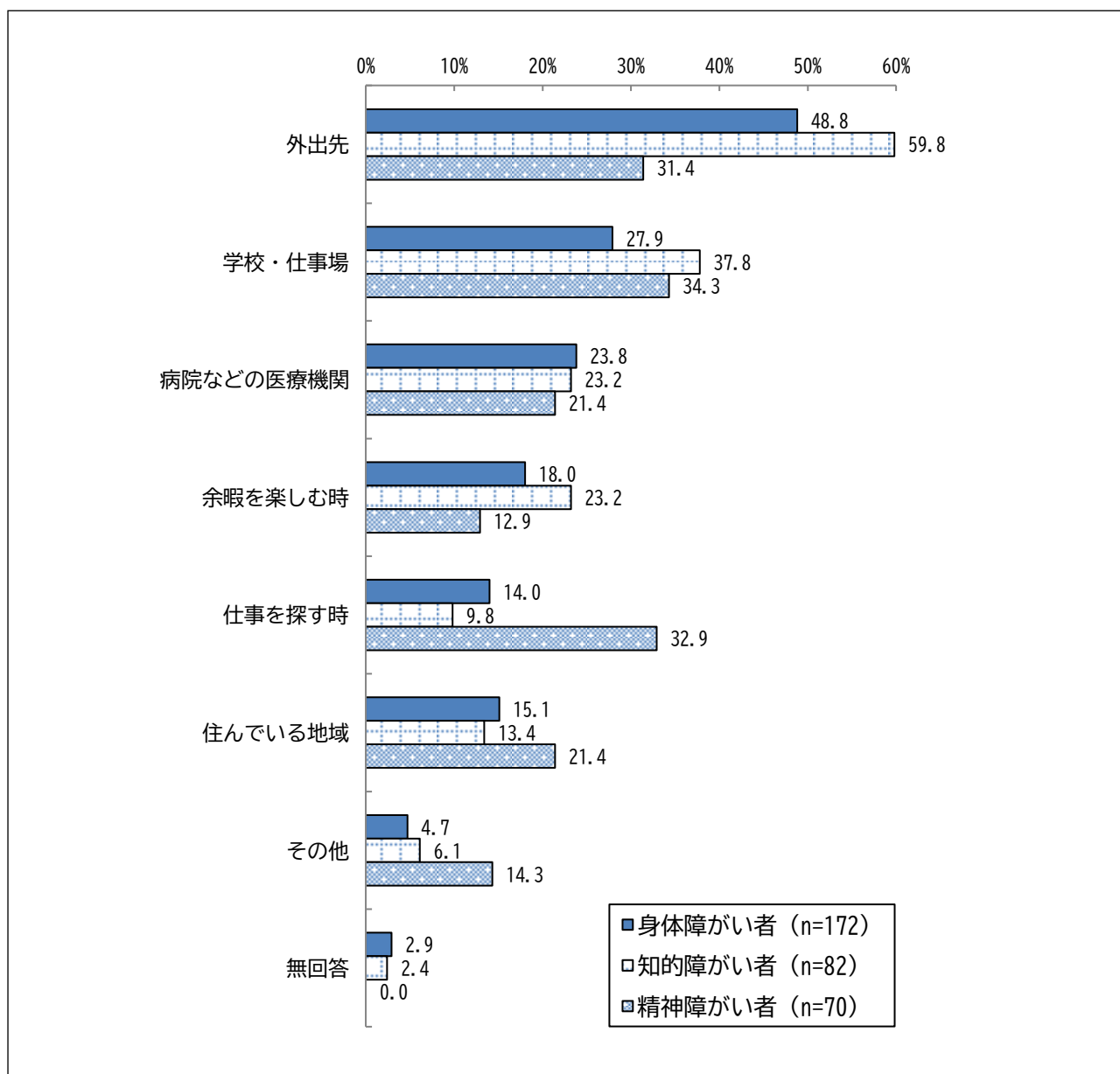
【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では、「外出先」(48.8%)が最も多く、次いで「学校・仕事場」(27.9%)、「病院などの医療機関」(23.8%)と続いています。

知的障がい者でも同様に「外出先」(59.8%)が最も多く、次いで、「学校・仕事場」(37.8%)、「病院などの医療機関」「余暇を楽しむ時」(ともに23.2%)と続いています。

精神障がい者では「学校・仕事場」(34.3%)が最も多く、次いで「仕事を探す時」(32.9%)、「外出先」(31.4%)と続いています。

図表 106 差別を受けた場所（障がい別／複数回答）

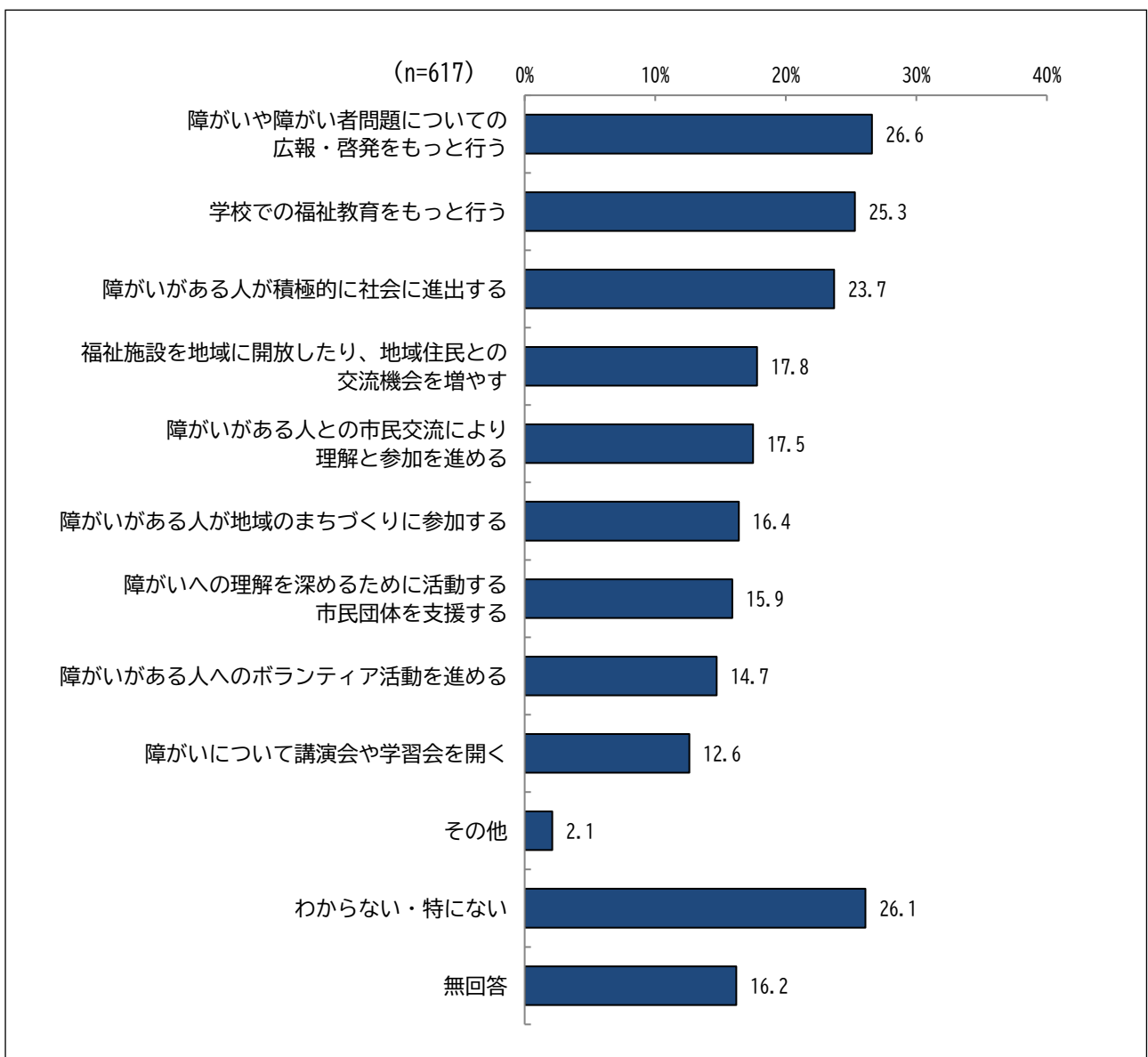


問 44 市民が障がいのある人への理解を深めるためには、何が必要だと考えますか。
 (あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

障がいのある人への理解を深めるために必要だと思うことについてみると、「障がいや障がい者問題についての広報・啓発をもっと行う」が 26.6%と最も多く、次いで「学校での福祉教育をもっと行う」(25.3%)、「障がいがある人が積極的に社会に進出する」(23.7%)、「福祉施設を地域に開放したり、地域住民との交流機会を増やす」(17.8%)、「障がいがある人との市民交流により理解と参加を進める」(17.5%)と続いています。

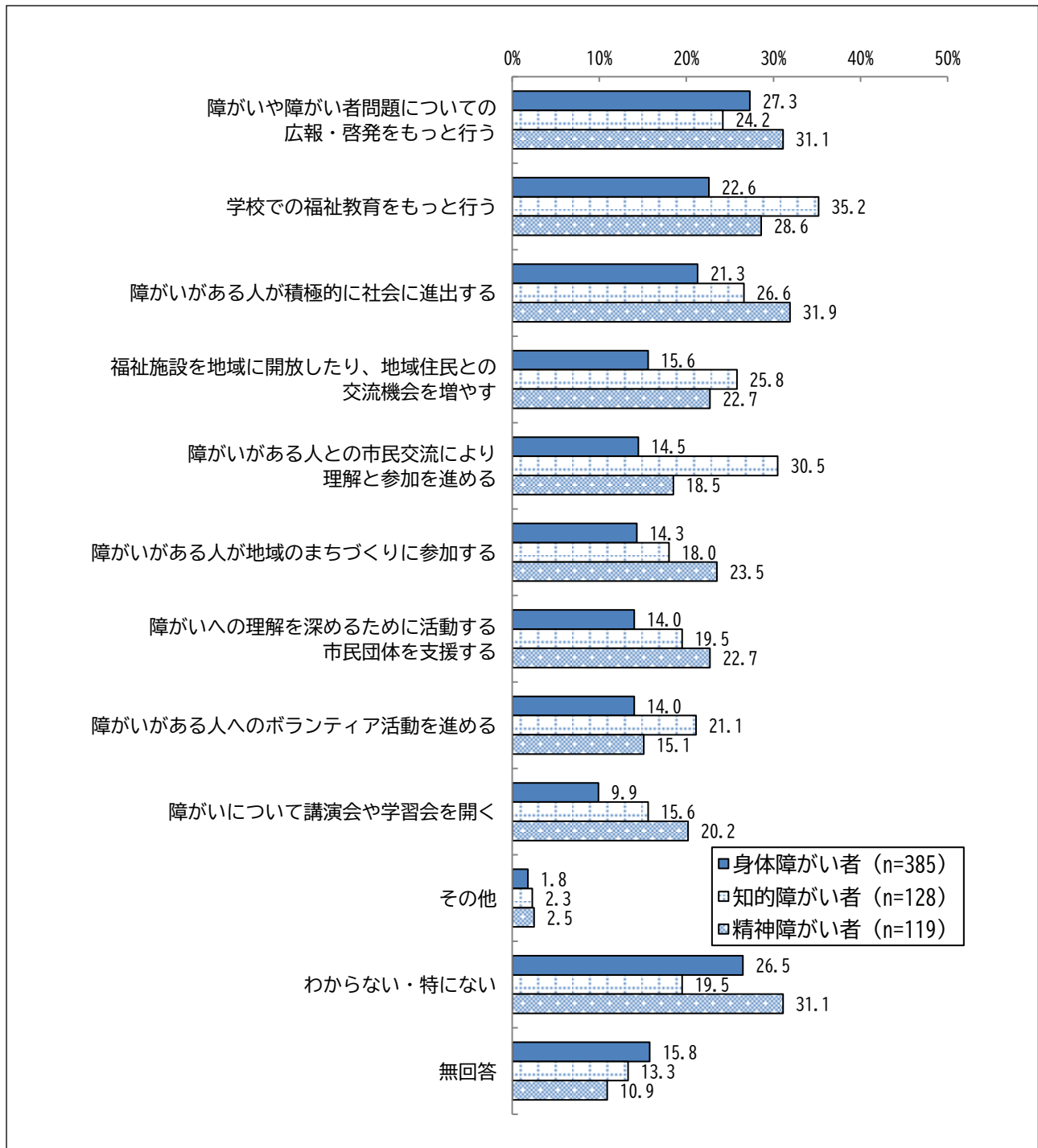
図表 107 障がい者への理解を深めるために必要だと思うこと (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「障がいや障がい者問題についての広報・啓発をもっと行う」(27.3%)、知的障がい者では「学校での福祉教育をもっと行う」(35.2%)、精神障がい者では「障がいがある人が積極的に社会に進出する」(31.9%) がそれぞれ最も多くなっています。

図表 108 障がい者への理解を深めるために必要だと思うこと (障がい別/複数回答)



問 45 あなたは、差別や偏見などを受けたときに、相談できる窓口（市役所、社会福祉協議会、相談支援事業所など）があることを知っていますか。（1つに○）

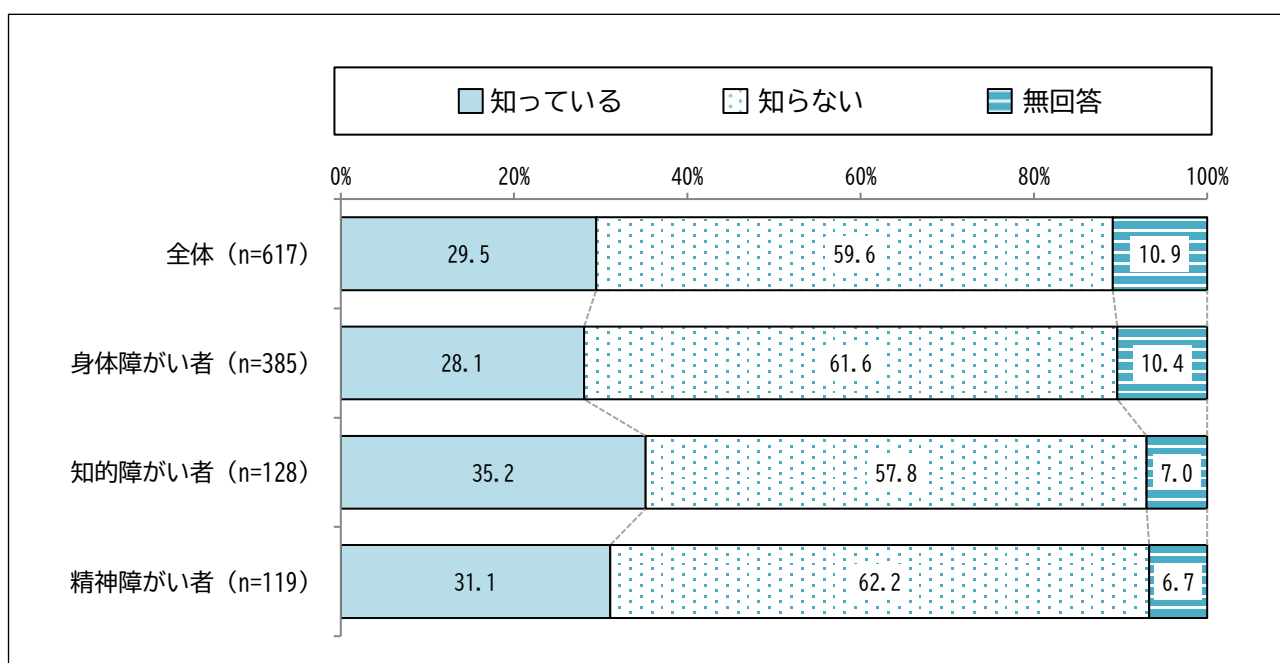
【全体の傾向】

相談窓口（市役所、社会福祉協議会、相談支援事業所など）の認知度についてみると、「知っている」が29.5%、「知らない」が59.6%となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、「知っている」が最も高いのは知的障がい者（35.2%）となっており、次いで精神障がい者（31.1%）、身体障がい者（28.1%）と続いています。また、いずれにおいても「知らない」が「知っている」を上回っています。

図表 109 相談窓口の認知度（全体、障がい別）



(5) 成年後見制度について

問 46 あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。(1つに○)

【全体の傾向】

成年後見制度の認知状況についてみると、「名称も内容も知っている」は26.9%、「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」が34.7%、「名称も内容も知らない」は30.0%となっています。

前回調査と比較すると、「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」が2.4ポイント増加しています。

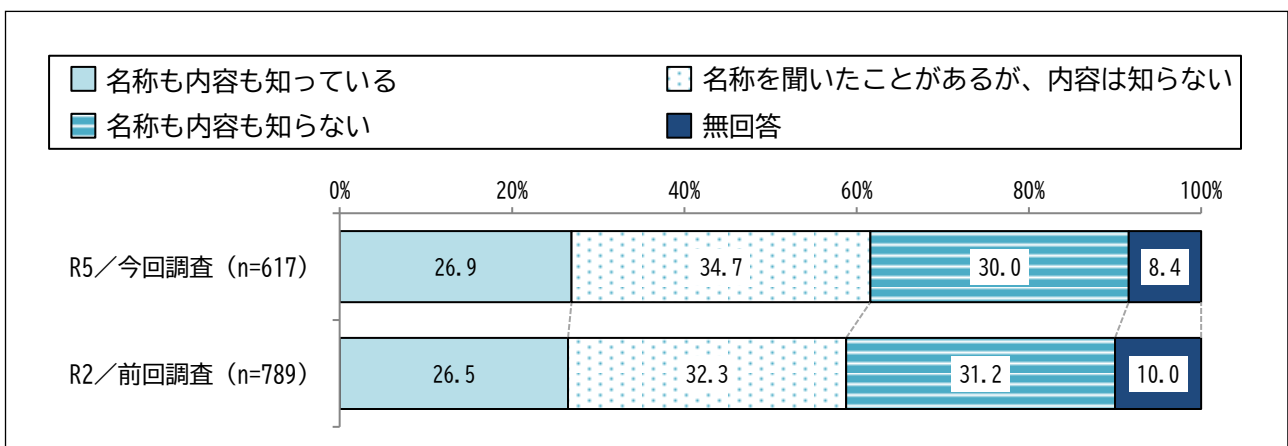
【属性別の傾向】

障がい別にみると、「名称も内容も知っている」は、身体障がい者で29.6%、知的障がい者で25.0%、精神障がい者で24.4%と身体障がい者で最も高くなっています。

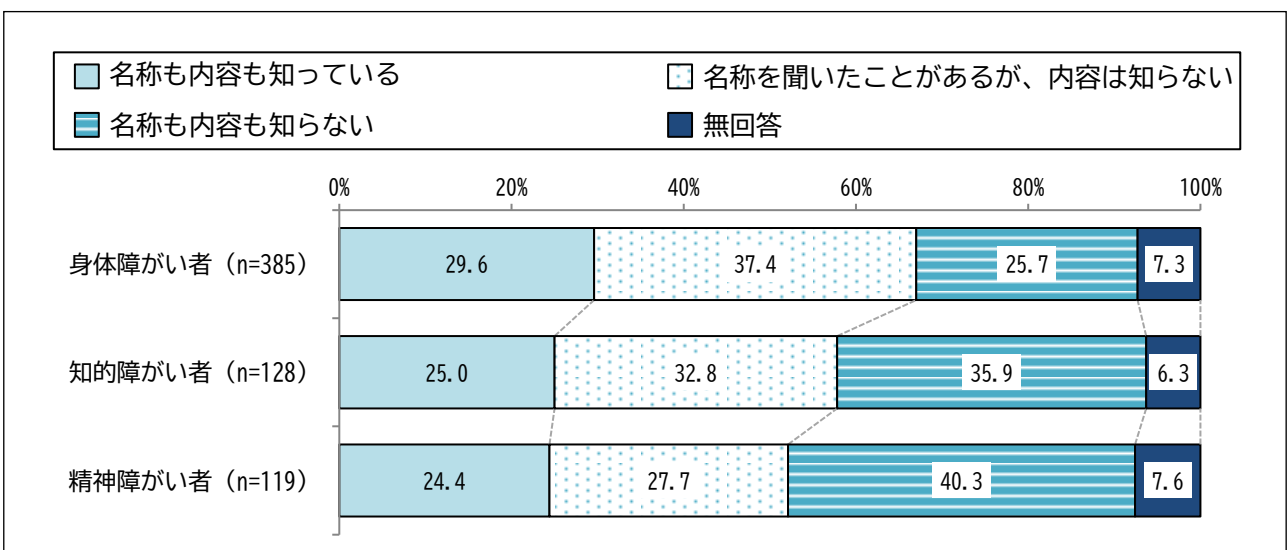
一方、「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」も身体障がい者で37.4%と最も高く、次いで知的障がい者で32.8%、精神障がい者で27.7%となっています。

名称を知っている、または聞いたことがある人の割合は、身体障がい者が最も高くなっています。

図表 110 成年後見制度の認知状況（全体、前回比較）



図表 111 成年後見制度の認知状況（障がい別）



※問 46 で「名称も内容も知っている」と回答した方

問 46-1 あなたは、「成年後見制度」を利用していますか。(1つに○)

【全体の傾向】

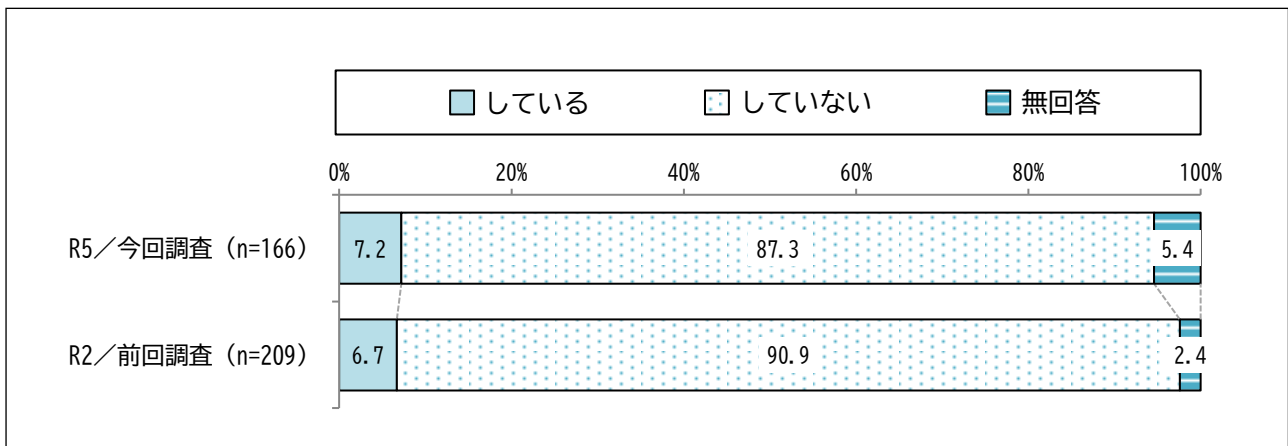
成年後見制度の名称も内容も知っている人の制度の利用状況についてみると、「利用している」は7.2%と1割未満となっています。

一方、「利用していない」が87.3%となっており、制度は知っているが、利用していない人が大半を占めています。

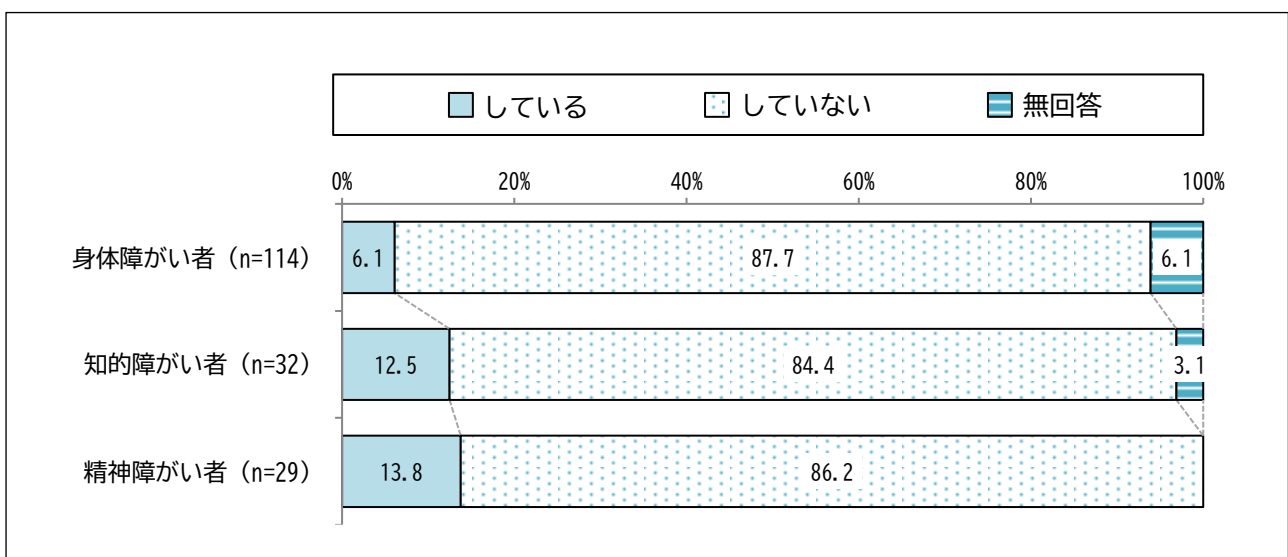
【属性別の傾向】

障がい別にみると「利用している」は、身体障がい者で6.1%、知的障がい者で12.5%、精神障がい者で13.8%となっており、利用者の割合は、精神障がい者で最も高くなっています。

図表 112 成年後見制度の利用状況（全体、前回比較）



図表 113 成年後見制度の利用状況（障がい別）



※問 46 で「名称も内容も知っている」と回答した方

問 46-2 あなたは、自分自身では判断ができなくなった場合、「成年後見制度」を利用し、後見人に財産管理などを任せることについて、どう思いますか。(1つに○)

【全体の傾向】

成年後見制度を利用し、後見人に財産管理などを任せることについてみると、「わからない」が34.3%と最も高く、次いで「任せてもよい」(33.1%)、「任せたくない」(20.5%)となっています。

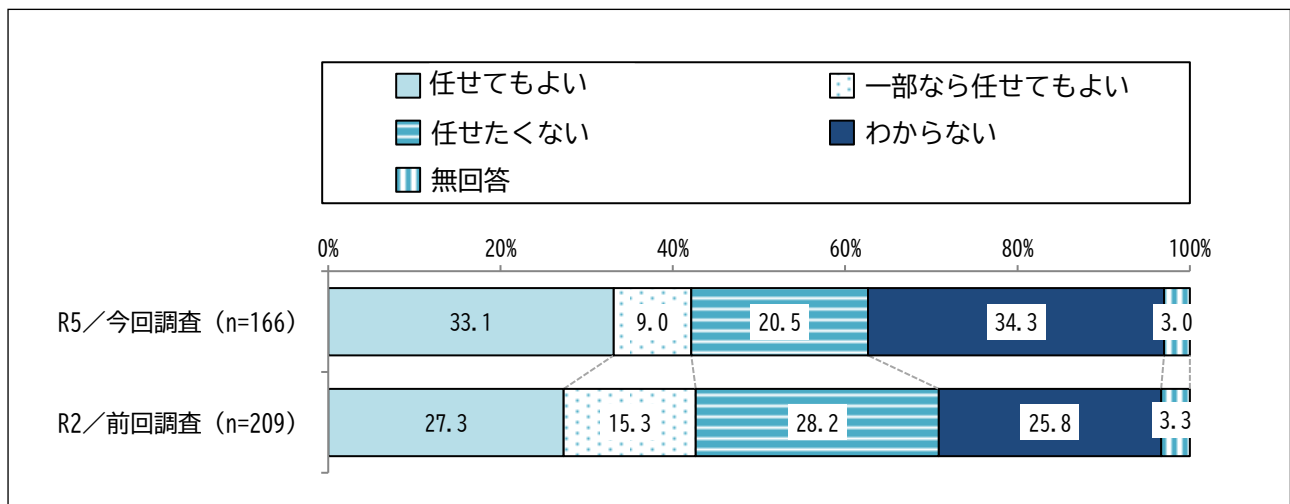
前回調査と比較すると、「わからない」が8.5ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

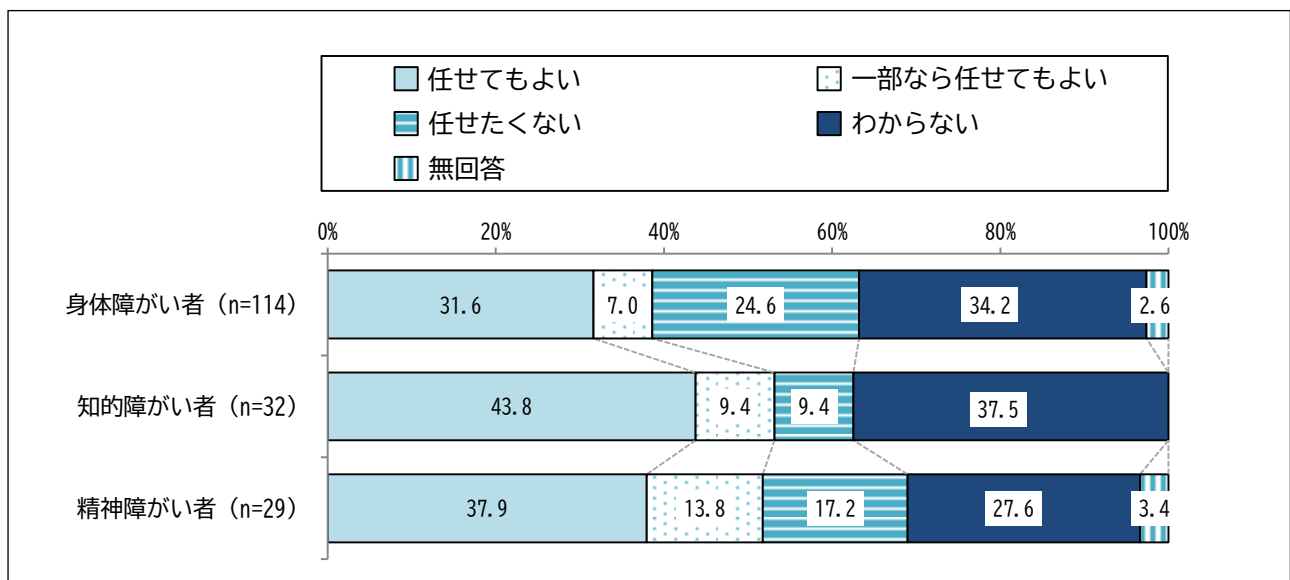
障がい別にみると、知的障がい者、精神障がい者では「任せてもよい」割合がそれぞれ最も高く、特に知的障がい者では4割を超えています。

一方、身体障がい者では「わからない」が「任せてもよい」を上回っています。

図表 114 後見人に財産管理を任せることについて（全体、前回比較）



図表 115 後見人に財産管理を任せることについて（障がい別）



(6) 災害時の行動について

問 47 火事や地震などの災害発生時に、あなたは自力で避難できますか。(1つに○)

【全体の傾向】

火事や地震などの災害発生時に、自力で避難できるかについてみると、「できる」が53.0%、「できない」は37.8%となっています。

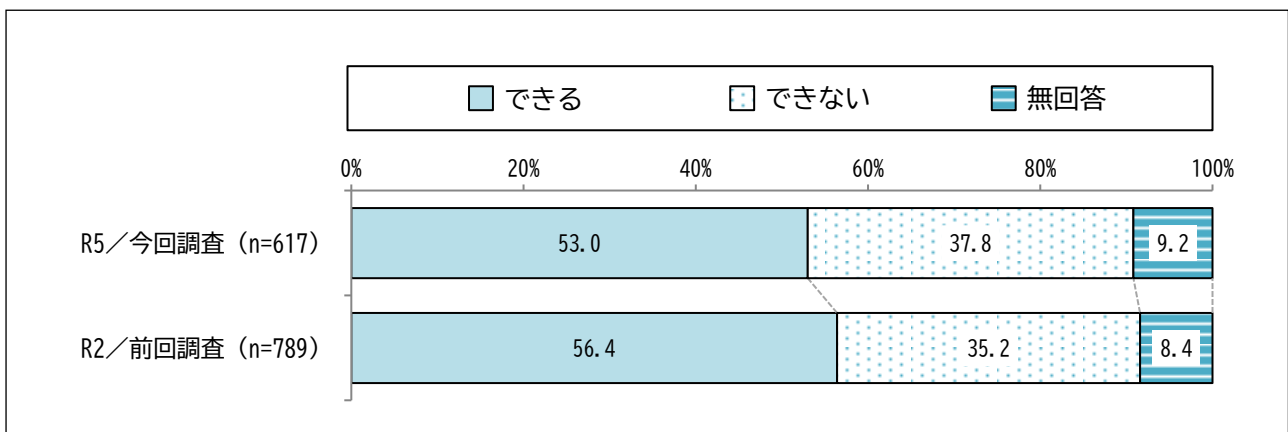
前回調査と比較すると、「できる」が3.4ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

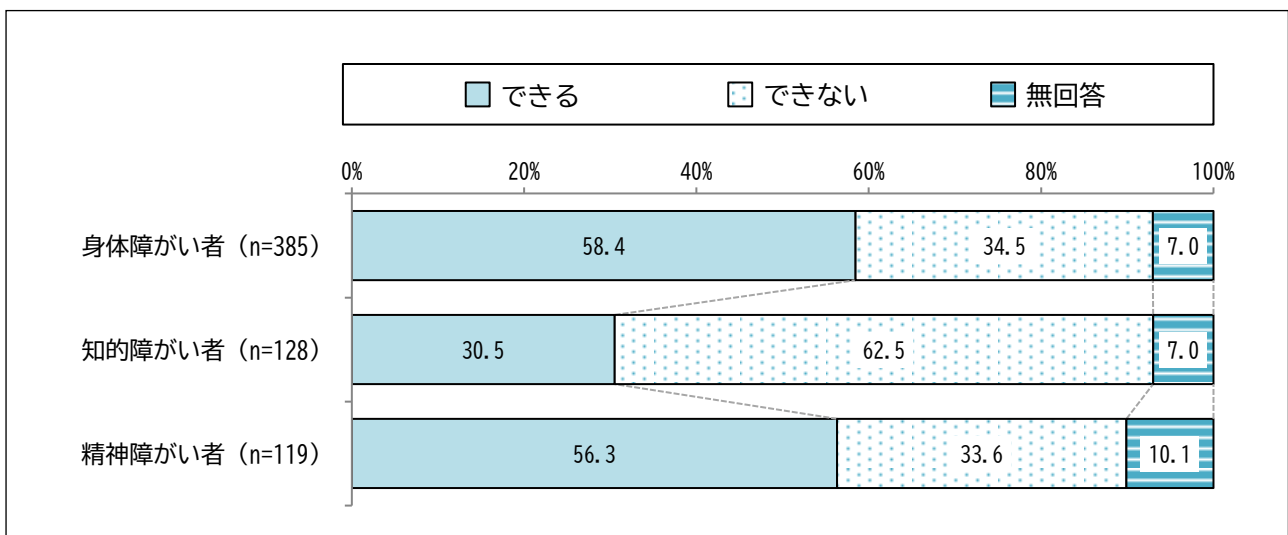
障がい別にみると、「できる」の割合は、身体障がい者では58.4%、精神障がい者では56.3%と半数以上を占めています。

一方、知的障がい者では「できる」の割合は30.5%と身体障がい者、精神障がい者に比べて低く、「できない」は6割を越えています。

図表 116 自力で避難できるか（全体、前回比較）



図表 117 自力で避難できるか（障がい別）



問 48 火事や地震などの災害発生時に、あなたは周囲の人に知らせることができますか。(1つに○)

【全体の傾向】

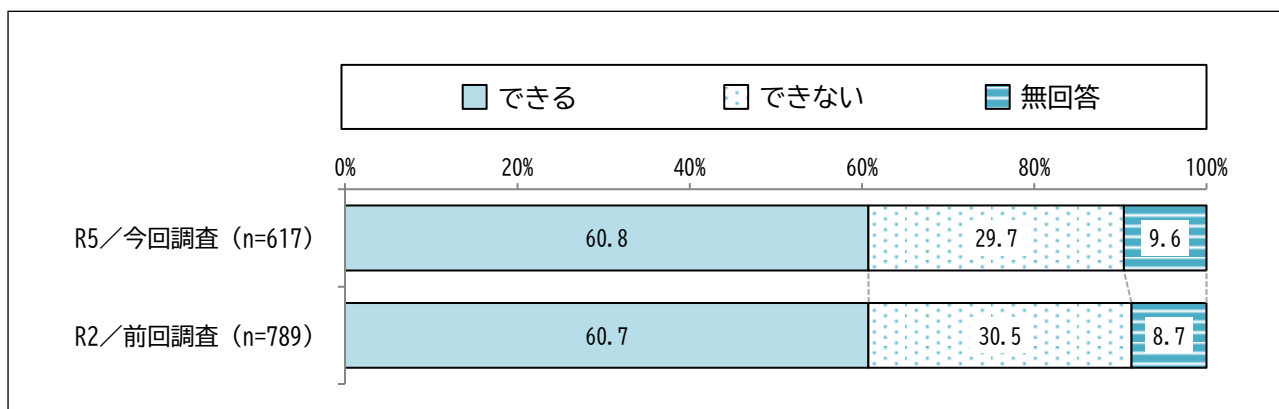
火事や地震などの災害発生時に、周囲の人に知らせることができるかについてみると、「できる」が60.8%、「できない」が29.7%となっています。

【属性別の傾向】

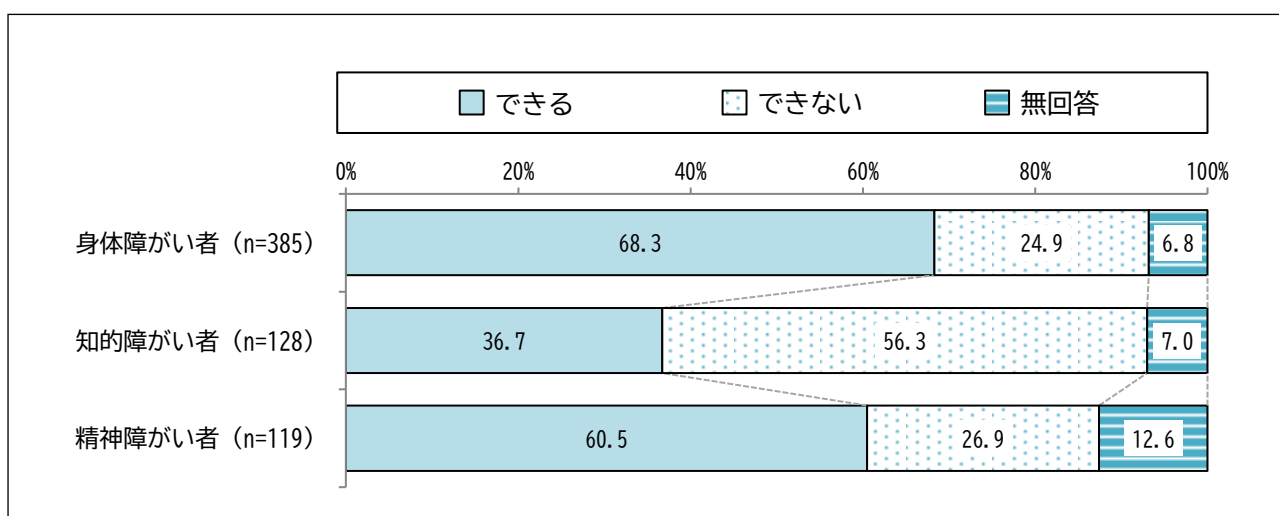
障がい別にみると、「できる」の割合は、身体障がい者では68.3%、精神障がい者では60.5%といずれも6割を超えています。

一方、知的障がい者では、「できる」の割合は36.7%にとどまっており、「できない」が56.3%と半数以上を占めています。

図表 118 災害時に周囲の人に知らせることができるか（全体、前回比較）



図表 119 災害時に周囲の人に知らせることができるか（障がい別）



問 49 火事や地震などの災害発生時に、家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(1つに○)

【全体の傾向】

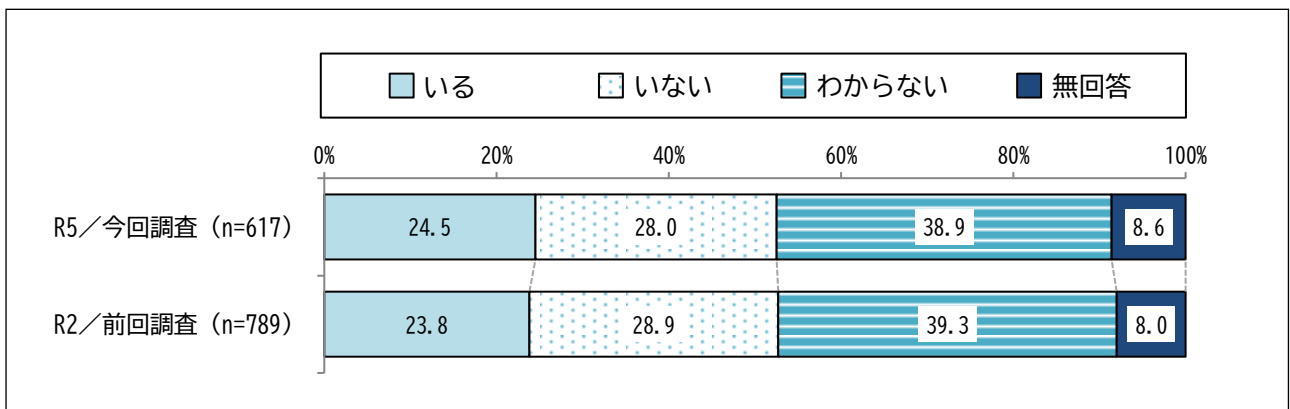
災害時に近所に助けてくれる人がいるかについてみると、「いる」は24.5%に対し、「いない」は28.0%と3.5ポイント上回っています。また、「わからない」は38.9%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、概ね同様の結果となっています。

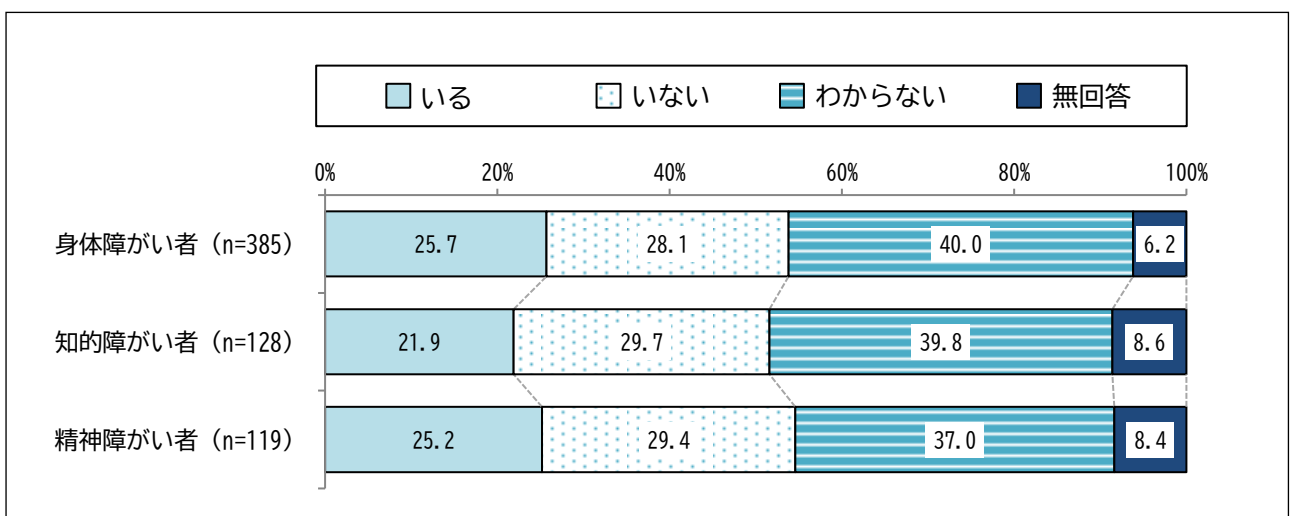
【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種別に関わらず概ね同様の傾向がみられ、「わからない」が最も高く、次いで「いない」、「いる」の順となっています。

図表 120 災害時に近所に助けてくれる人がいるかどうかについて（全体、前回比較）



図表 121 災害時に近所に助けてくれる人がいるかどうかについて（障がい別）



問 50 あなたは災害時に地域の方に避難を手伝ってもらいたいと思いますか。(1つに○)

【全体の傾向】

災害時に地域の方に避難を手伝ってもらいたいと思うかについてみると、「思う」が49.1%と最も高く、次いで「わからない」が32.7%、「思わない」が9.1%となっています

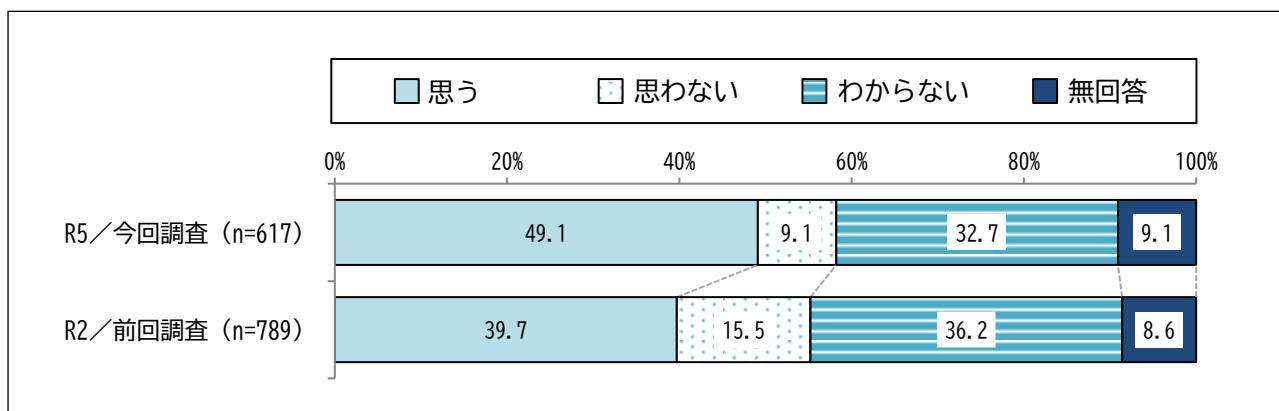
前回調査と比較すると、「思う」が9.4ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

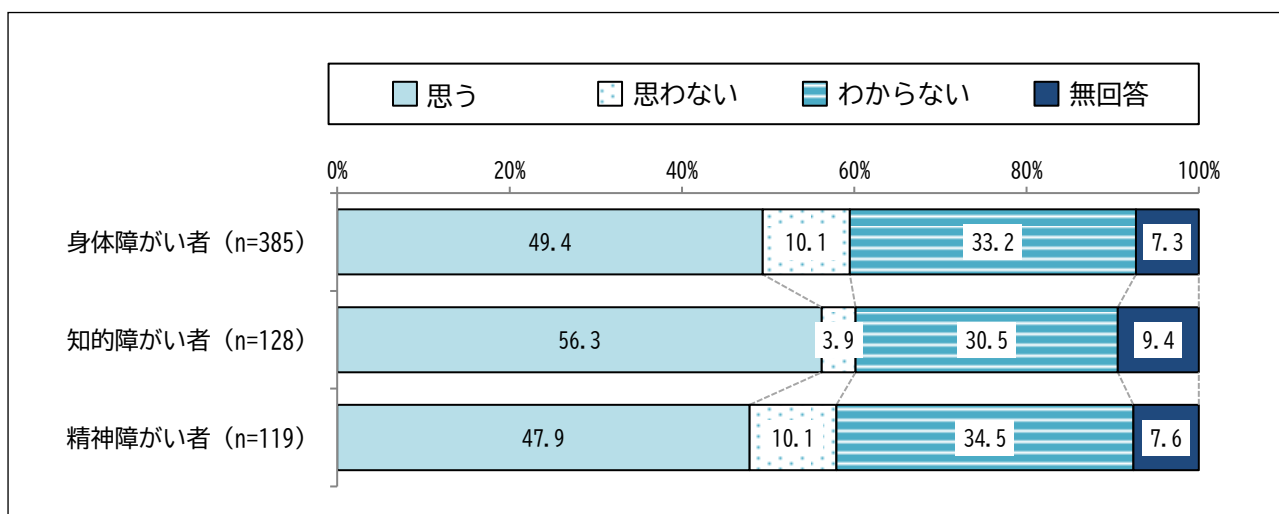
障がい別にみると、身体障がい者、精神障がい者では概ね同様の傾向がみられます。

一方、知的障がい者では、「思う」の割合が56.3%と身体障がい者、精神障がい者に比べて高くなっています。

図表 122 災害時に地域の人に避難を手伝ってほしいかどうかについて（全体、前回比較）



図表 123 災害時に地域の人に避難を手伝ってほしいかどうかについて（障がい別）



(7) 地域共生社会について

問 51 あなたは、世の中が地域共生社会に向けて前進していると感じますか。(1つに○)

【全体の傾向】

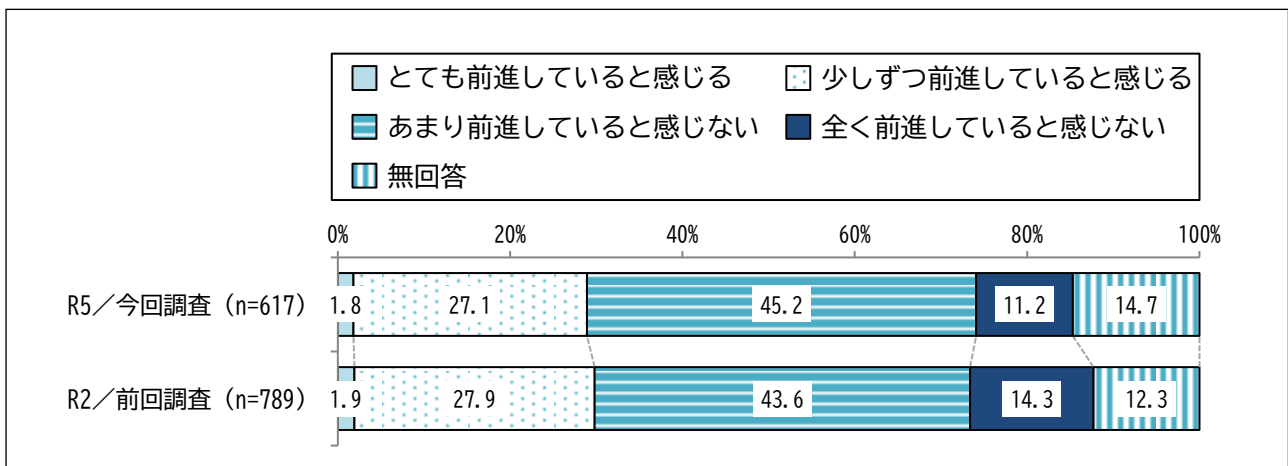
世の中が地域共生社会に向けて前進していると感じるかについてみると、「あまり前進していると感じない」が45.2%と最も高くなっています。一方、「とても前進していると感じる」と「少しずつ前進していると感じる」を合わせた『前進していると感じる』割合は28.9%となっています。

前回調査と比較すると、『前進していると感じる』の割合に大差はみられません。

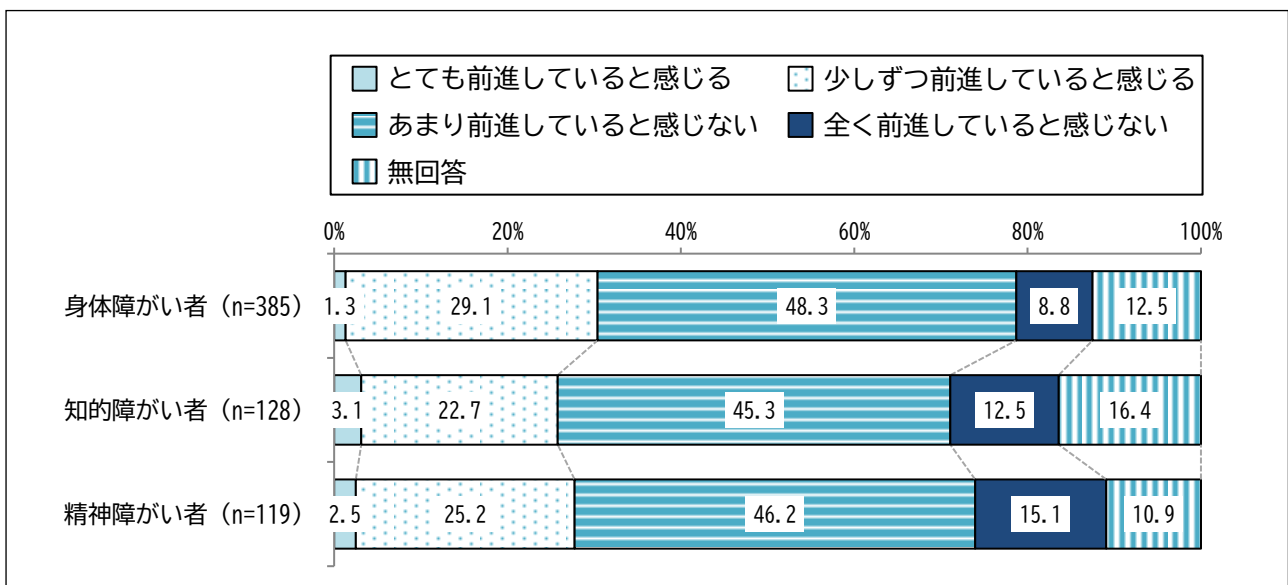
【属性別の傾向】

障がい別にみると、『前進していると感じる』割合は、身体障がい者(30.4%)、精神障がい者(27.7%)、知的障がい者(25.8)の順で高くなっています。

図表 124 地域共生社会について（全体、前回比較）



図表 125 地域共生社会について（障がい別）



(8) 障がい者にとって住みよいまちづくり

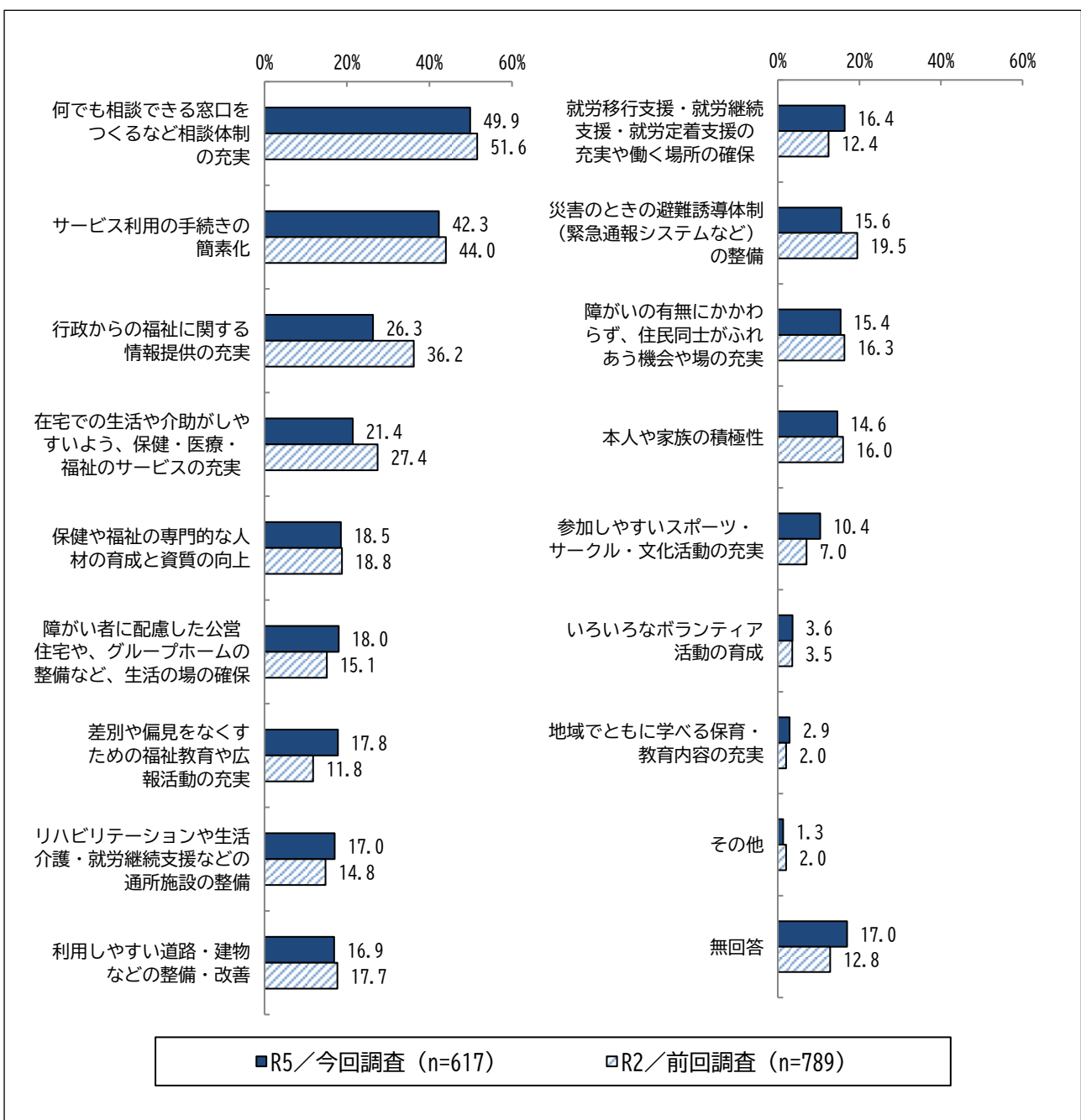
問 52 障がいのある人にとって住みよいまちをつくるために、どのようなことが必要だと考えますか。(〇は5つまで)

【全体の傾向】

障がい者が住みよいまちづくりに必要なことについては、「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」(49.9%)が最も多く、次いで「サービス利用の手続きの簡素化」(42.3%)となっています。

前回調査と比較すると、「行政からの福祉に関する情報提供の充実」が9.9ポイント減少しています。

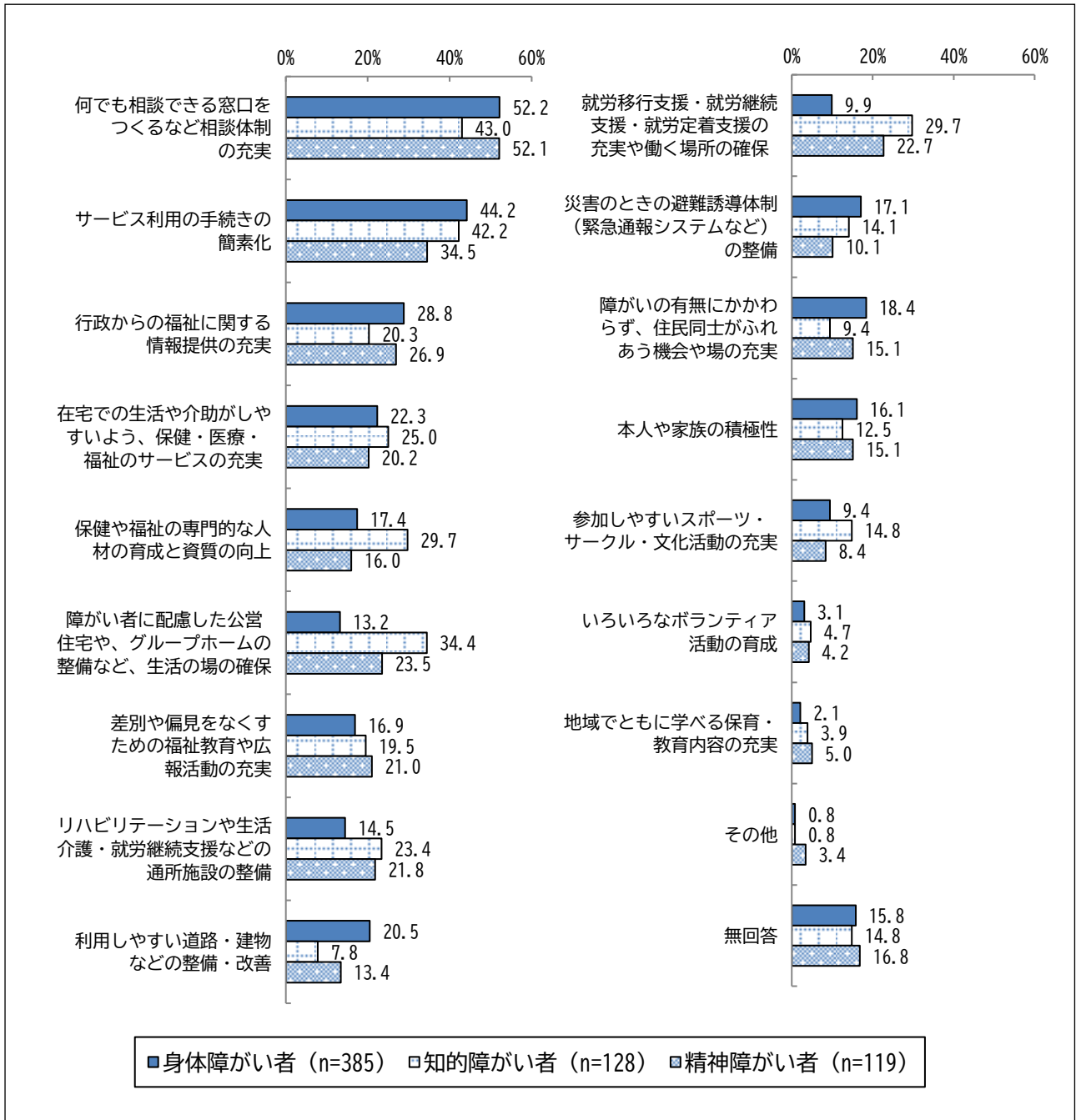
図表 126 障がい者が住みよいまちづくりに必要だと思うこと(全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者、精神障がい者では上位3位までが全体の傾向と概ね同様となっていますが、知的障がい者では第3位が「障がい者に配慮した公営住宅や、グループホームの整備など、生活の場の確保」となっています。

図表 127 障がい者が住みよいまちづくりに必要だと思うこと（障がい別／複数回答）



9 自由記述

自由記述については、合計 101 件の意見が寄せられました。「行政・アンケートについて」が 26 件、「福祉サービスについて」が 23 件、「相談、就労、教育等の支援について」が 20 件、「経済支援について」が 18 件、「施設、公共交通の整備について」が 14 件となっており、代表的な意見を抜粋して掲載しています。

・行政、アンケートについて 26 件

No.	意見	年齢
1	知的障がい者にこのアンケートは難しすぎる。	身体
2	障がい者が自分の障がいに前向きな気持ちで生活できるような地域作りをこれからもしてほしいと思います。	精神
3	質問内容（質問数）やや多く、アンケートに時間がかかる。改善してほしい。	知的
4	よくわからない間は何も答えてないところがあります	身体
5	氏名・住所は無記名でとのことですが、性別・年齢・居住地区・手帳の種類と等級を回答すれば、名前がわかると思うのですが？すごくモヤモヤします。それなら、名前を記入しても良いのでは？福祉サービスについての質問のところは、「今後」について、想像できない様子で、答えが出てきませんでした。もう少し、分かりやすくしてもらえたら聞き取りやすくて良かったかと思えます。最後の質問は全てに○を付けたかったです。	知的
6	質問がマクロすぎて理解しにくい。一般市民へのアンケートも必要なのではないか。	身体
7	障がい者が様々な面で香川県内で住みやすい生活しやすいと言われる坂出市になるよう、街づくりや生活支援、金銭的なサポート体制等、現状を改革する真の当局の意欲の有無が何よりも必要かと。市長さんも新しくなり、今後の住民サービス、とりわけ、障がい者の皆さんの安心できるゆとりのある、坂出市政を切に希望致します。	知的
8	設問が多すぎます。	精神
9	このようなアンケートもいいですが、障がい者を一同に集めて各年代障がいの部位の異なる人を集めて福祉課の方が司会で意見交換を開いてはどうでしょうか。	身体
10	質問項目が多すぎて回答するのが大変でした。アンケートは短くお願いします。	精神
11	市役所の方にいつもお世話になっています。自分としては、坂出は住みやすいと感じています。役所の方はいつもやさしく親切なので満足しています。	身体
12	ふくし課のご対応がいつも丁寧で感謝しております。	身体
13	もう少し対象（年齢など）を絞ってのアンケートをお願いします。	知的

・福祉サービスについて 23 件

No.	意見	年齢
1	入浴できる機会が少ない。通所では週 2 回入浴しているが、夏場などは 3 回は、身体を清潔にしたいところだ。介護用ベッドのマットは、意外に暑い。汗をかいていることが多い。訪問入浴で、1 回追加をしたいとも考えるが、訪問入浴の金額は高いので限度額を越えてしまい利用できていない。	精神
2	不自由になったけれど、毎日の生活に困難なことではなく、ありがたいと思っています。病気にならないように健康に気をつけます。同じような症状がある人と交流を持ちたいとは思っています。	身体
3	福祉行政の充実が大切	身体
4	知的・身体・精神の 3 障がいの方々や、健常者（子どもから高齢者）が集まって、それぞれの障がいの理解を深める為に月 1 回でも茶話会を開く。（ボランティアは必要）	身体

No.	意見	年齢
5	障がい者サービスを受けるにあたり、知らされていないことが多い。聞かれたら教えますがでは知らずに終る人も多いと思う。幸い自分はいろいろと調べて申請できているが行政側からの情報が無いと「なんでもっと早く言ってくれなかったの」と思うこともあるのではと思う。生涯的に回復の見込みがない障がいを毎年チェックされるのは不快に思う時がある。	身体
6	施設が休みの日（盆休みなどの日）他の施設を利用できるようにしてほしい。休みにになると家族が仕事など休まないといけない。	身体
7	一般的なアパートに住んでいて地震が来てもどこへ避難していいかわからないし、全然そういう事も教えてくれず、もっと市で障がい者を避難させる場所などを教えてほしいと思います。	身体
8	今、1番心配していることは、親が病気、入院しなければいけない時に、預ける所がないのが心配です。緊急時などの時が特に考えてほしいです。	知的
9	親が高齢化し、介護できなくなったりした時に、入所支援がある事も知ってはいるが、心身共に、親子共にハードルが高く、一日でも在宅で家族で過ごす環境ができるといいなどと思う。	身体・知的・精神
10	ショートステイを希望しても、受け入れ先がない。	知的
11	聴覚障害者にとっては緊急時の連絡法がありません。自身の問題ですが不安です。	身体
12	要約筆記者の養成に市が積極的に関わってほしい。今までに高松市、丸亀市、さぬき市、観音寺市では要約筆記者養成講座が開かれているが、坂出市では未だ行われていない。	身体

・相談、就労、教育等の支援について 20件

No.	意見	年齢
1	年齢がいつている為、就職が難しい。	精神
2	中途障がいの場合、まず経済的な不安が大きかったけれど、積極的に教えていただけることはなく、自分でいろいろな人に聞いたり調べたりしました。一番困っている時に、行政にもっとより添ってほしいと思う人はたくさんいると思います。事務的な対応ではなく。	精神
3	障がいのある人は多かれ少なかれ、つらい思いをしている人が多いです。特に言葉での暴力は人によればひどいものがあります。これから家庭、学校、社会で思いやりの教育をお願いします。	身体
4	相談窓口がある事をもっと発信すればどうかと思います。生活の事だけではなく、病気の不安を聞いてくれるだけでも相談になると思います。	身体
5	障がい者に対しての相談ごとや、障がい者に対しての講演会等を活発的に実施してほしい。又、実施日は坂出市広報に掲載を行い行政による社会福祉が先頭にたって活動をお願いしたい。	身体
6	障がい者と一言でいっても、範囲の多様性もあり、就労をみても難しい面が多々ある。私の友達に農福連携の仕事をしている人がいるが中々難しいとのこと。仕事を任しても成就するのが難しい面があるので、働き方を考える等範囲を広げられるように取り組むこと。	身体
7	障がいや障がい者問題について広報・啓発をしてほしい。何でも相談できる窓口を作ってほしい。	身体
8	本人の親が書いています。親なき後自治会活動ができません。自治会を脱退するとして、その場合、生ゴミや不燃ゴミはどこに出すとよいのでしょうか。気がかりです。	知的
9	幼児、小学生に比べて、中学生からの支援が不足しているように感じる。進学先として、特別支援学校以外にどのような選択肢があるのか、受け入れてくれる可能性のある学校名等具体的に知りたい。	知的
10	引きこもりの場合、本人が他の人と会う事ができないので、家族の負担が重く大変です。	精神

・経済支援について 18件

No.	意見	年齢
1	市外の作業所への移動に要する（JRなど）経費の補助をお願いしたい。	身体・知的
2	保証人になってくれる人がいないので、もし病気になって入院することになれば大変困っています。このことをわかってほしい。	身体・知的・精神
3	代筆した者ですが、いつまで介護できるかと思えます。介護施設にお世話にならなければいけなくなった時、金銭面や受入れができるかどうか心配です。ヘルパーさんやケアマネさんは良くしてくれていますが、安価で、近くでそうなった時早く入れる施設がほしいです。	身体
4	私のように等級が低いと税等であまり免除されず生活が大変だと思えます。（今秋で退職する為）	身体
5	せめて福祉用具の費用は無料にしてほしい。障害年金が、障がいの度合いについて安すぎるため、福祉用具の費用負担に消え、全く足りない。又それぞれ用具は違う、仕事柄外の仕事なので、用具の取替品度が多い。用具も高いが、交換しないといけない。実費負担が多く大変、障がい者の立場になってもっと考えてほしい。ストマ用品は、せめて自己負担がないようにしてほしい。この個人の声が、届くと信じたい。障がいを持ちながら一生懸命働き、税金を納め、用具を実費で支払っている補助が少なすぎるため、せめて、用具（ストマ）は無料にしてください。	身体
6	お金がありません。どうにか暮らしている状況です。	精神
7	障がい者のためのタクシー代 もっと援助して下さい。公道、市内のバリアフリー化、もっと進めて下さい。その他、市役所を憩いの場にしましょう。例えば、カフェ（スタバ）を作る、コンビニが入るなど。	身体
8	ゆとりのある資金があれば良いと思う。次世代電動車椅子が欲しいし、それを使用可能な為のスロープを付けたい。申請して資金面を支援してもらえたら良いと思う。	身体
9	今年、障がい者として認められたばかりでどの様なサービスがあるのかもよく分かりません。電気料金とかの公共料金も上がるので経済的に生活が苦しく不安です。	身体

・施設、公共交通の整備について 14件

No.	意見	年齢
1	道路で、でこぼこ等の所が多い。	身体
2	トイレは全て洋式にする。歩道に自転車、車の乗りあげなど歩行者の障害になるものは、排除する。階段には手すりを設ける。	身体
3	大きな（総合）病院内の売店の隅にでも医療売店に有るような商品（ストマ装具）などを置いてほしい。	身体
4	サービスを利用したくても事業所が少なく空きもないため利用できていない。一ヶ所で全てのサービスを行う場所がほしい。親が病気でも子どもの面倒をみないといけないため病院にも行きづらい（入院できない）何とかしてほしい。	知的・精神
5	多目的トイレを増やしてほしい。音興信号機を増やしてほしい。	身体
6	市内から、離れている町なので、高齢者の方が多く、外出、特に買物、病院通いが、困難しております。交通手段で、路線バスの本数が少なく、市内だけが便利みたいです。この様な離れている町にも、バスが運行して頂ければ、皆、何時までも、元気で長生きできると思っています。市長さんに私達の声を届けて、聞いて、実行して下さいれば、幸いと思ひまして一筆申し上げた次第です。宜しくお願い申し上げます。	身体
7	スーパー買い物時の駐車場に、一般の人が停めれない仕組み	身体

Ⅲ 調査結果（一般市民）

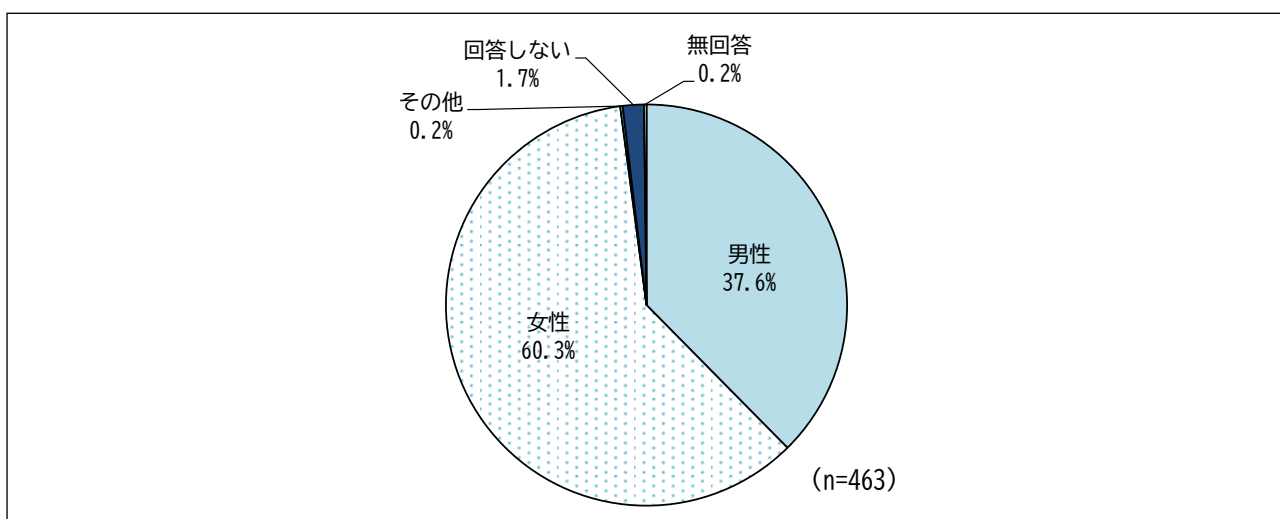
1 回答者について

（1）回答者の属性

問1 あなたの性別を、おうかがいします。（1つに○）

回答者の性別をみると、「男性」が37.6%、「女性」が60.3%、「その他」が0.2%、「回答しない」が1.7%となっています。

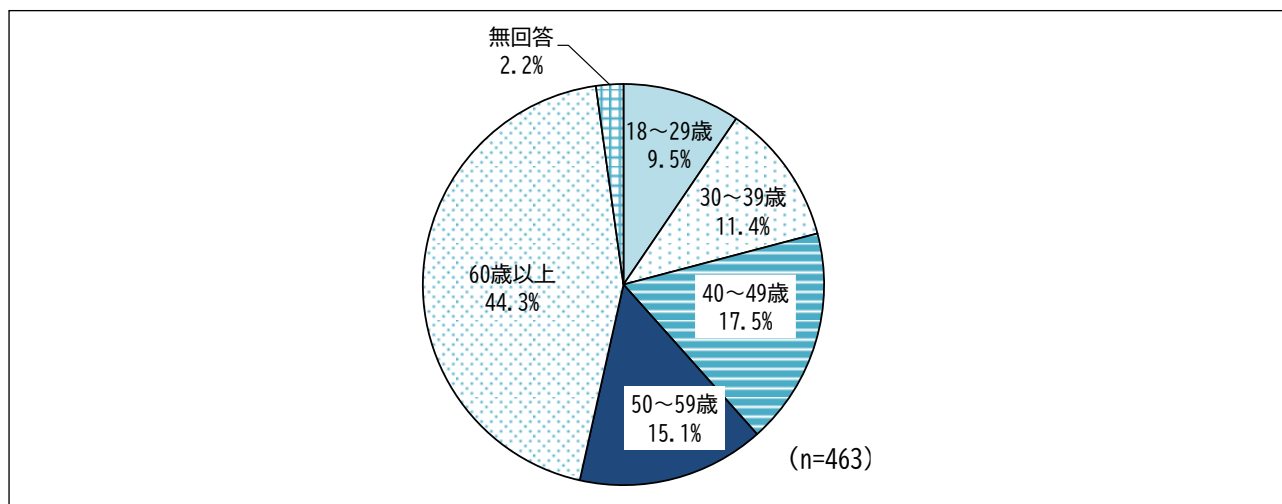
図表 128 性別（全体）



問2 あなたの年齢は6月1日現在、満何歳ですか。

年齢をみると、60歳以上が44.3%と最も高く、次いで「40～49歳」（17.5%）、「50～59歳」（15.1%）、「30～39歳」（11.4%）、「18～29歳」（9.5%）となっています。

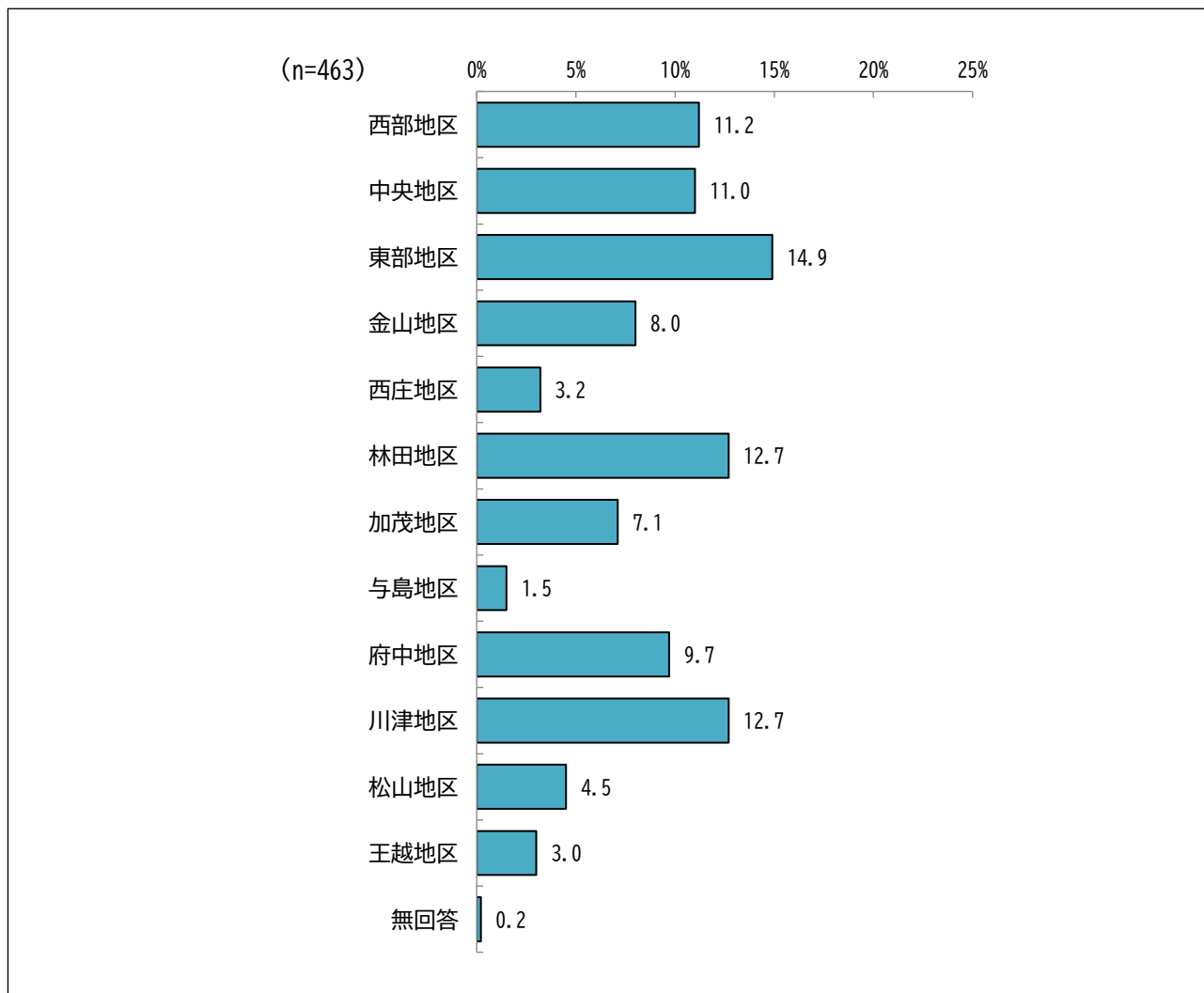
図表 129 年齢（全体）



問3 あなたのお住まいはどちらの地区ですか。(1つに○)

居住地区をみると、「東部地区」が14.9%と最も高く、次いで、「林田地区」、「川津地区」(ともに12.7%)、「西部地区」(11.2%)、「中央地区」(11.0%)、「府中地区」(9.7%)と続いています。

図表 130 居住地区 (全体)



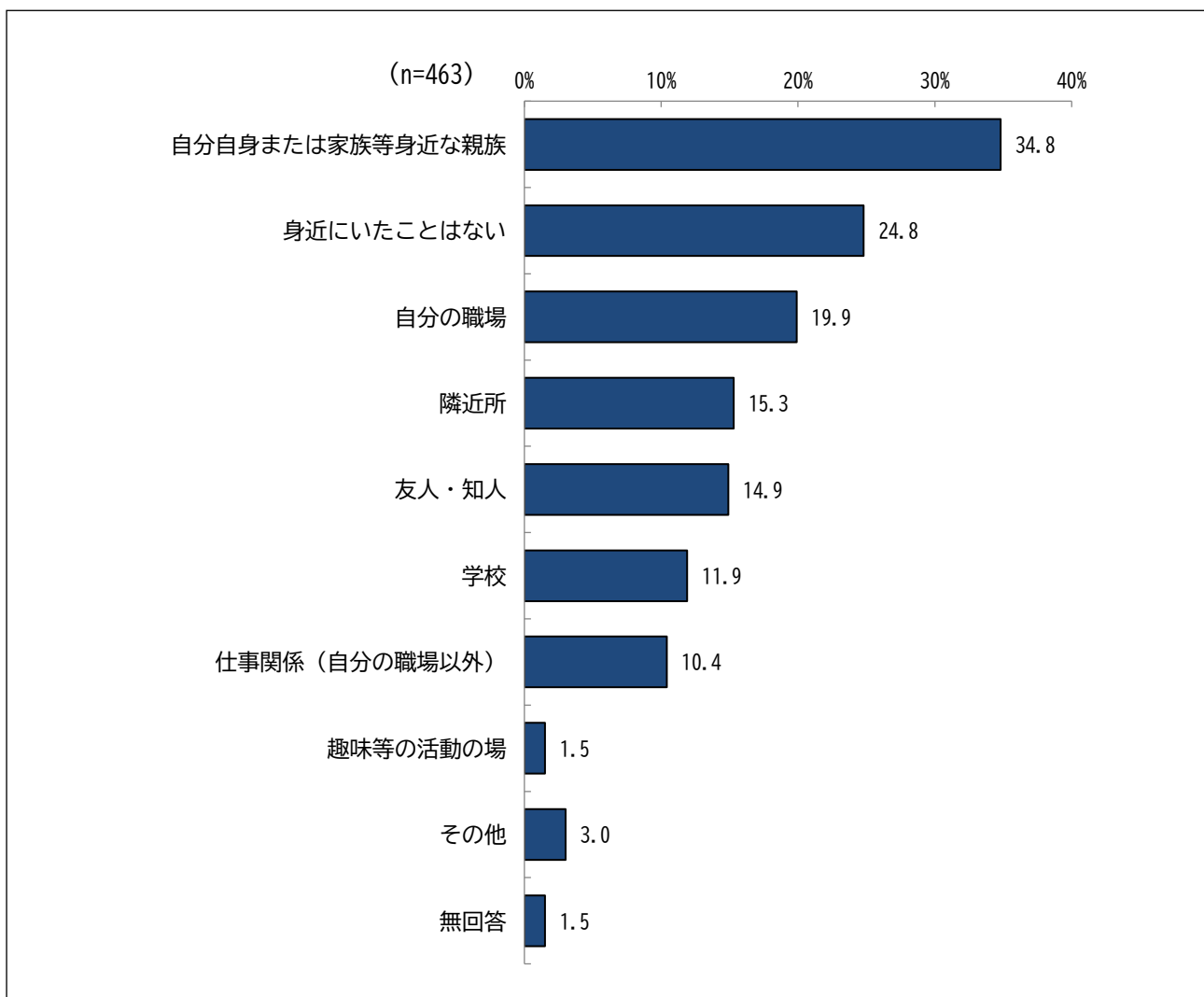
(2) 身近な障がい者について

問4 あなたの身近に、障がいがある人がいますか、または、これまでいたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

身近に、障がいのある人がいるかをみると、「自分自身または家族等身近な親族」が 34.8%と最も多く、次いで「身近にいたことはない」(24.8%)、「自分の職場」(19.9%)、「隣近所」(15.3%)、「友人・知人」(14.9%) などとなっています。

図表 131 身近に障がいのある人がいるか (全体/複数回答)

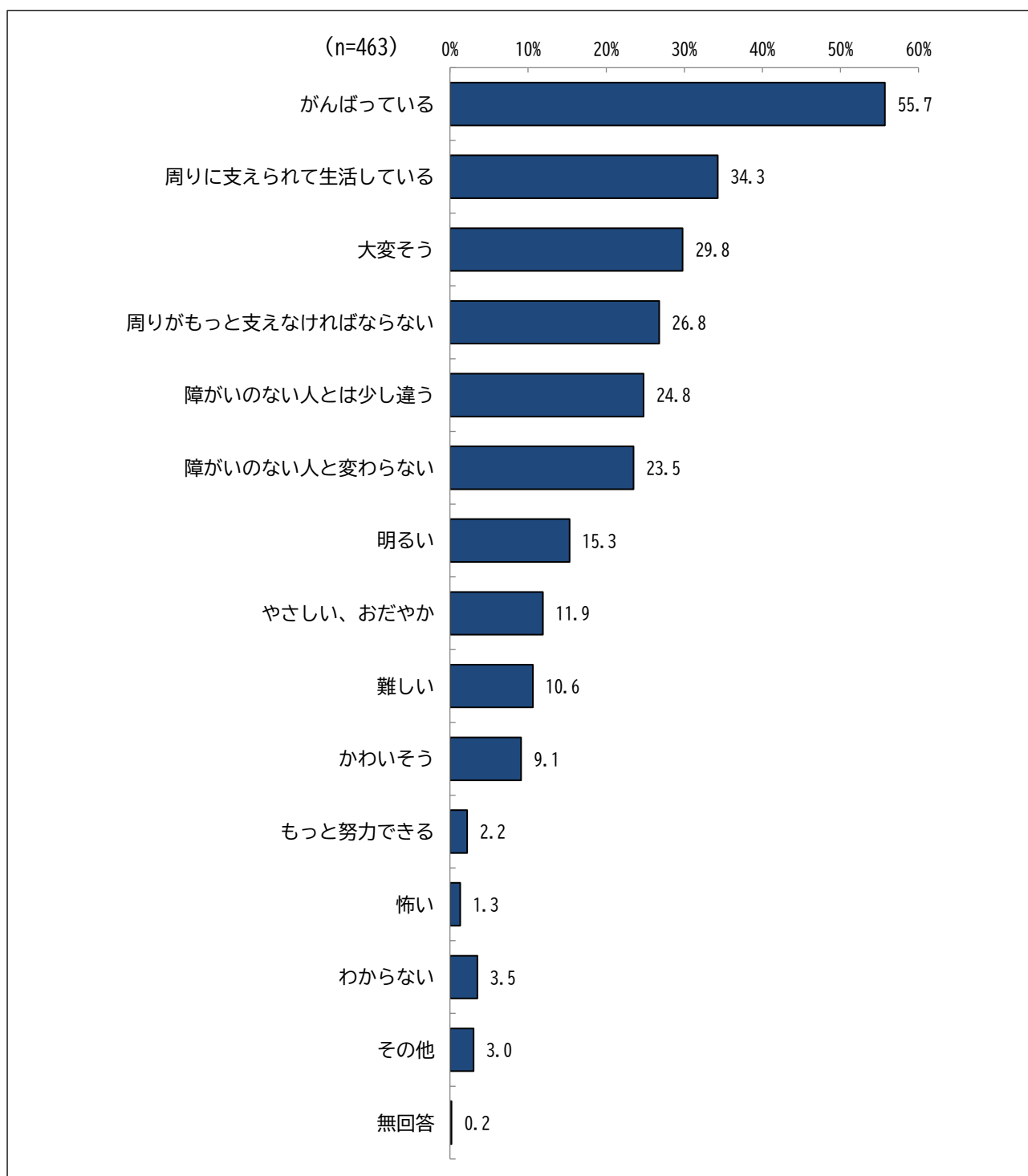


問5 あなたは、障がい者に対してどのようなイメージを持っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

障がい者に対するイメージについてみると、「がんばっている」が55.7%と最も多く、次いで「周りに支えられて生活している」(34.3%)、「大変そう」(29.8%)、「周りがもっと支えなければならない」(26.8%)、「障がいのない人とは少し違う」(24.8%) などとなっています。

図表 132 障がい者に対するイメージ (全体/複数回答)



(3) 障がいのある人との関わりについて

問6 あなたは、障がいのある人と気軽に話したり、障がいのある人の手助けをしたことがありますか。(1つに○)

【全体の傾向】

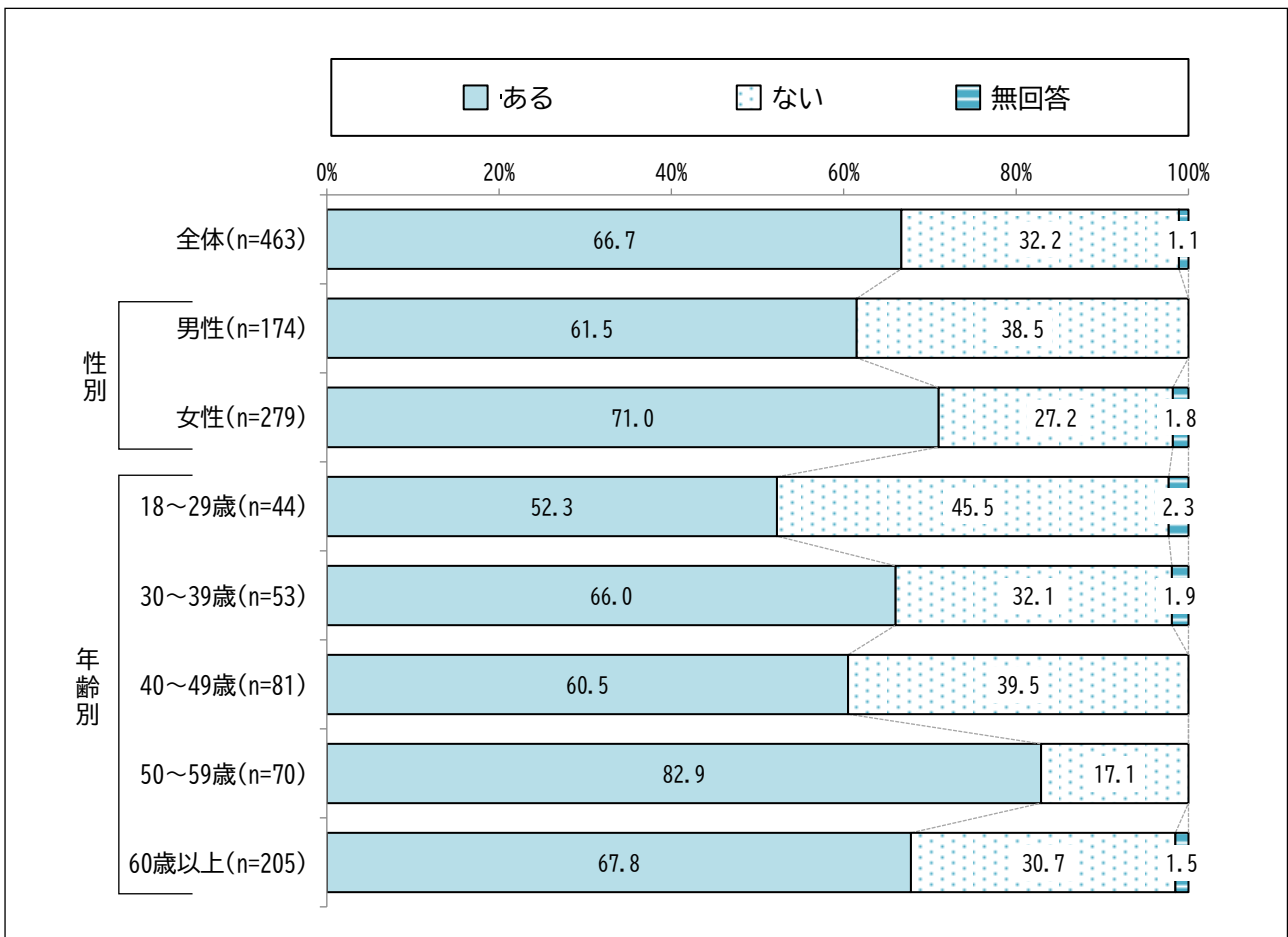
障がいのある人との交流についてみると、「ある」が66.7%、「ない」が32.2%となっており、障がいのある人との交流経験がある人は6割を超えています。

【属性別の傾向】

性別にみると、「ある」の割合は、男性(61.5%)に比べて女性(71.0%)の方が高くなっています。

年齢別にみると、「ある」の割合は、50～59歳で82.9%と最も高く、次いで60歳以上で67.8%、30～39歳で66.0%、40～49歳で60.5%、18～29歳で52.3%となっています。

図表 133 障がいのある人と交流したり手助けをしたことがあるか(全体、性別、年齢別)



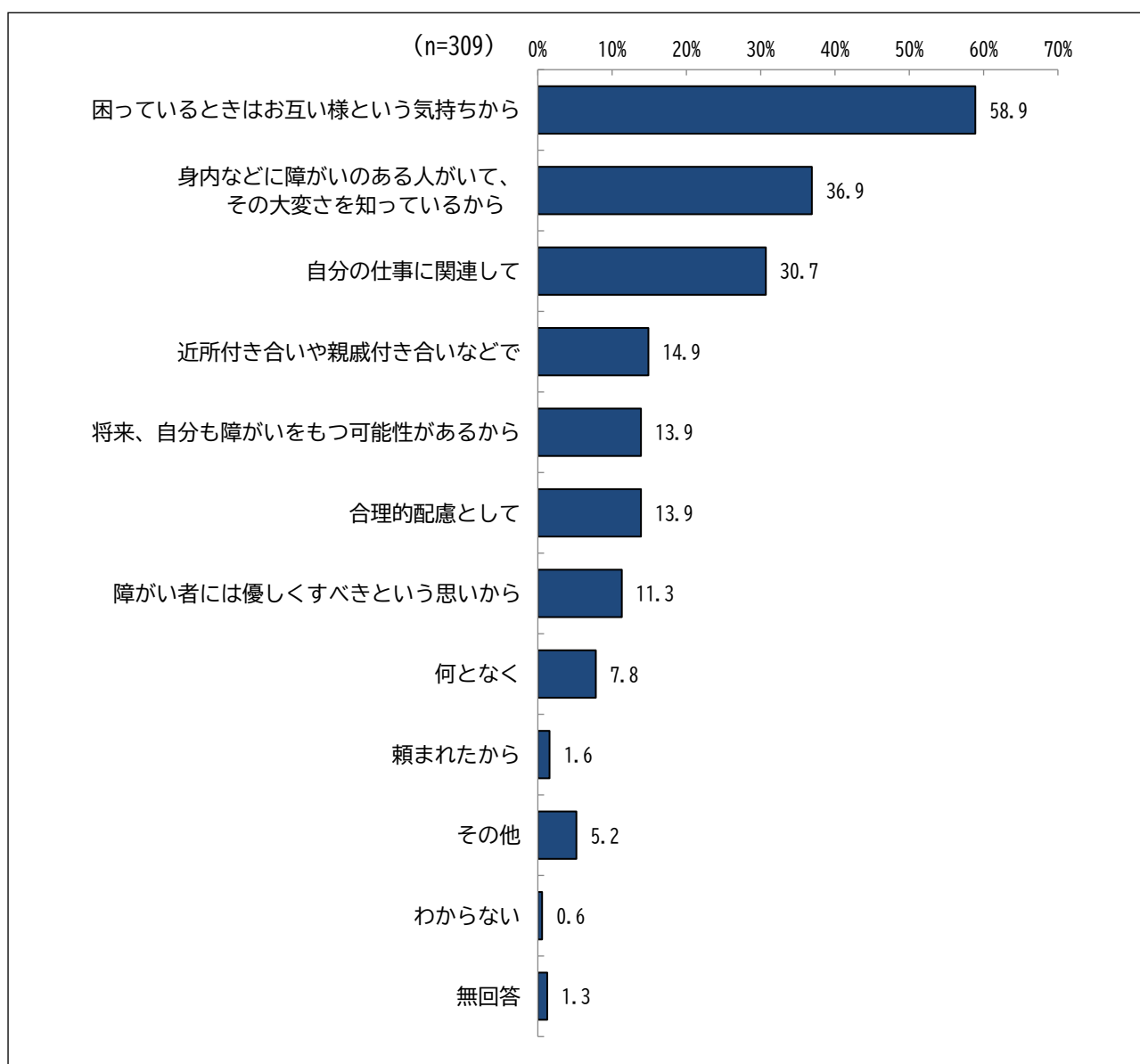
※問6で「ある」と回答した方

問6-1 それはどのような気持ちからでしょうか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

障がいのある人と交流したり手助けをした理由をみると、「困っているときはお互い様という気持ちから」が58.9%と最も多く、次いで「身内などに障がいのある人がいて、その大変さを知っているから」(36.9%)、「自分の仕事に関連して」(30.7%)、「近所付き合いや親戚付き合いなどで」(14.9%)、「将来、自分も障がいをもつ可能性があるから」「合理的配慮として」(ともに13.9%)などとなっています。

図表 134 障がいのある人と交流したり手助けをした理由 (全体/複数回答)



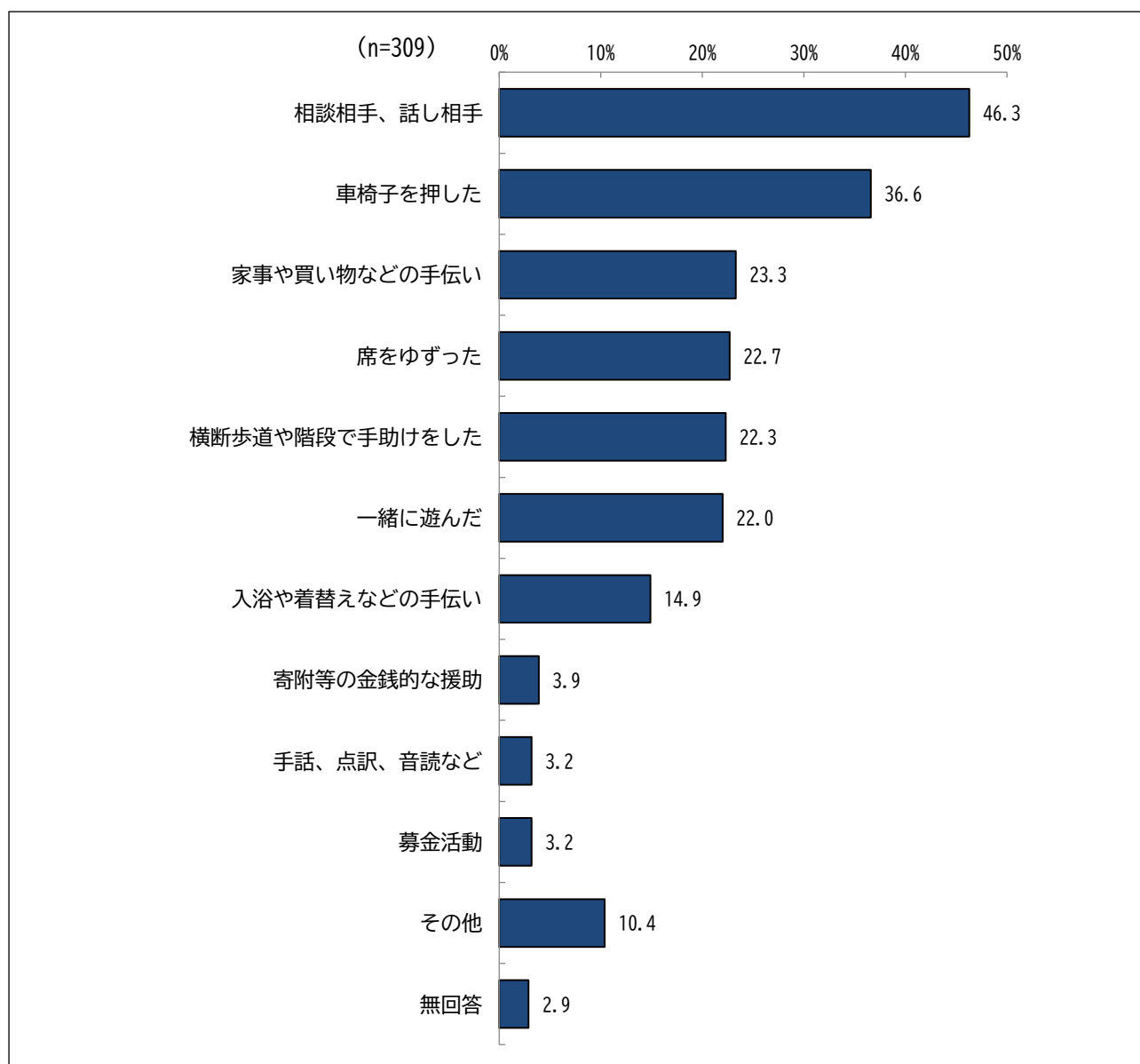
※問6で「ある」と回答した方

問6-2 それはどのような話や手助けでしたか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

障がいのある人と交流した際の話や、手助けの内容についてみると、「相談相手、話し相手」が46.3%と最も多く、次いで「車椅子を押した」(36.6%)、「家事や買い物などの手伝い」(23.3%)、「席をゆずった」(22.7%)、「横断歩道や階段で手助けをした」(22.3%)などとなっています。

図表 135 手助けや話の内容について (全体/複数回答)



※問6で「ない」と回答した方

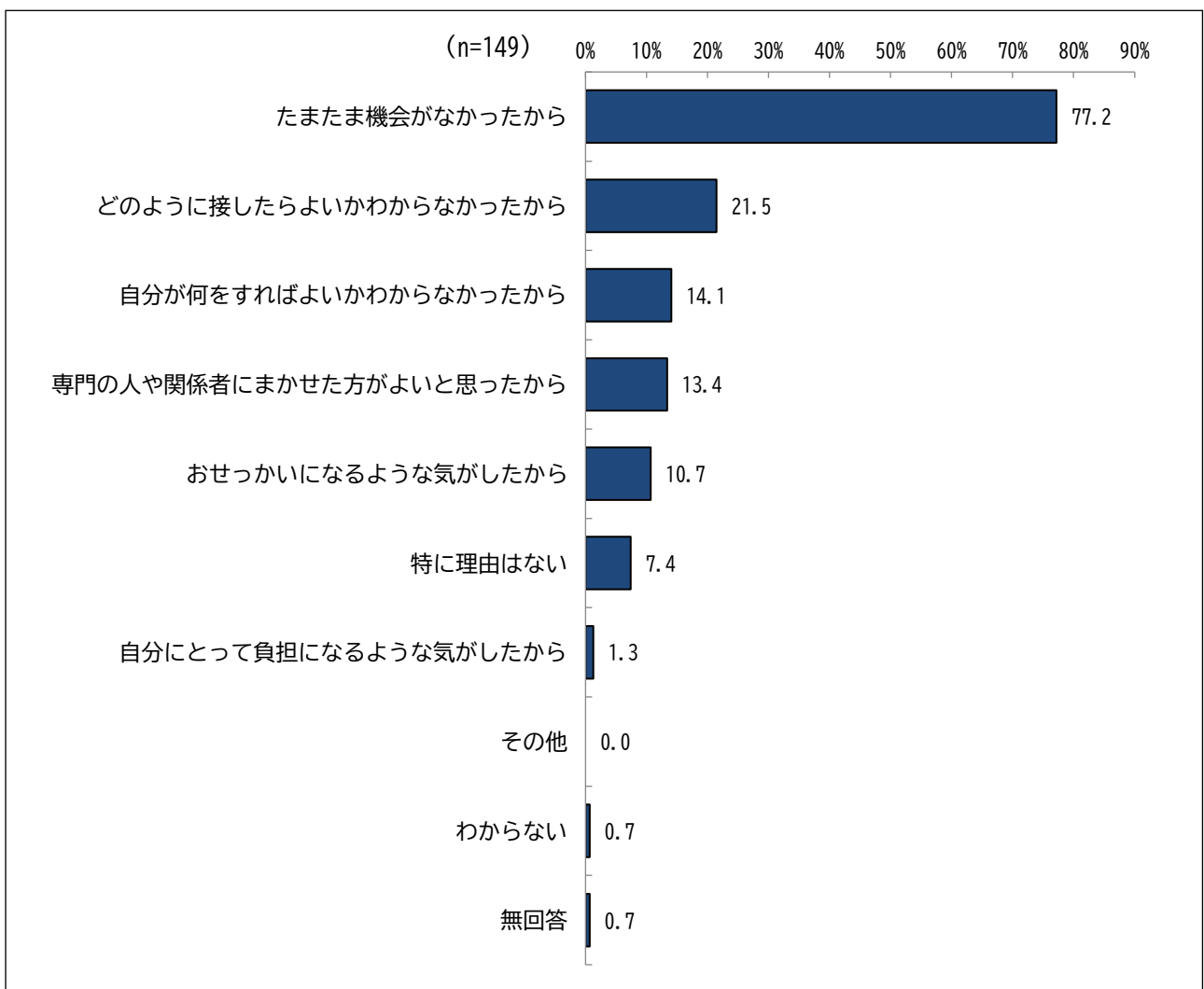
問6-3 なかったのはどうしてでしょうか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

障がいのある人との交流などがなかった理由についてみると、「たまたま機会がなかったから」が77.2%で最も多く、その割合は突出しています。

次いで「どのように接したらよいかわからなかったから」(21.5%)、「自分が何をすればよいかわからなかったから」(14.1%)、「専門の人や関係者にまかせた方がよいと思ったから」(13.4%)、「おせっかいになるような気がしたから」(10.7%)などとなっています。

図表 136 障がい者との交流がなかった理由（全体／複数回答）



2 障がいがある人の福祉への関心などについて

(1) 障がい福祉への関心度

問7 あなたは、障がいがある人への福祉について関心をお持ちですか。(1つに○)

【全体の傾向】

障がい福祉への関心度についてみると「ある程度関心がある」が45.1%と最も高くなっており、「とても関心がある」を合計した『関心がある』の割合は61.3%となっています。

【属性別の傾向】

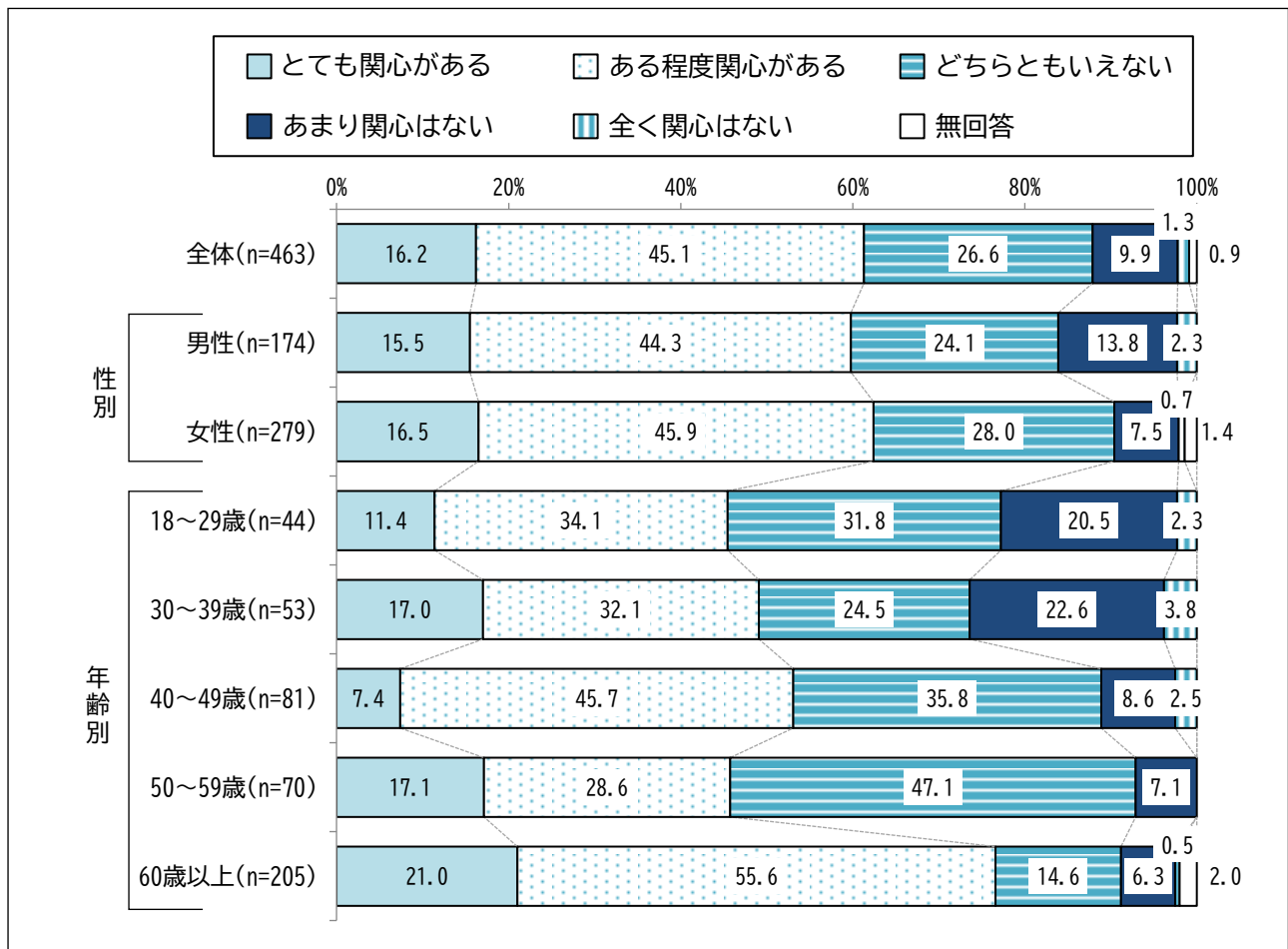
性別にみると、『関心がある』の割合は、男性(59.8%)に比べて女性(62.4%)が高くなっています。

年齢別にみると、『関心がある』の割合は、60歳以上で76.6%、40～49歳で53.1%となっており、これらの年代では関心がある人の割合が過半数を占めています。

一方、若年層の18～39歳では『関心がある』の割合は5割を下回っています。さらに、「あまり関心はない」の割合が2割を超えており、他の年齢層に比べて高くなっています。

また、50～59歳では「どちらともいえない」が47.1%を占め、最も高くなっています。

図表 137 障がい福祉への関心度について (全体、性別、年齢別)



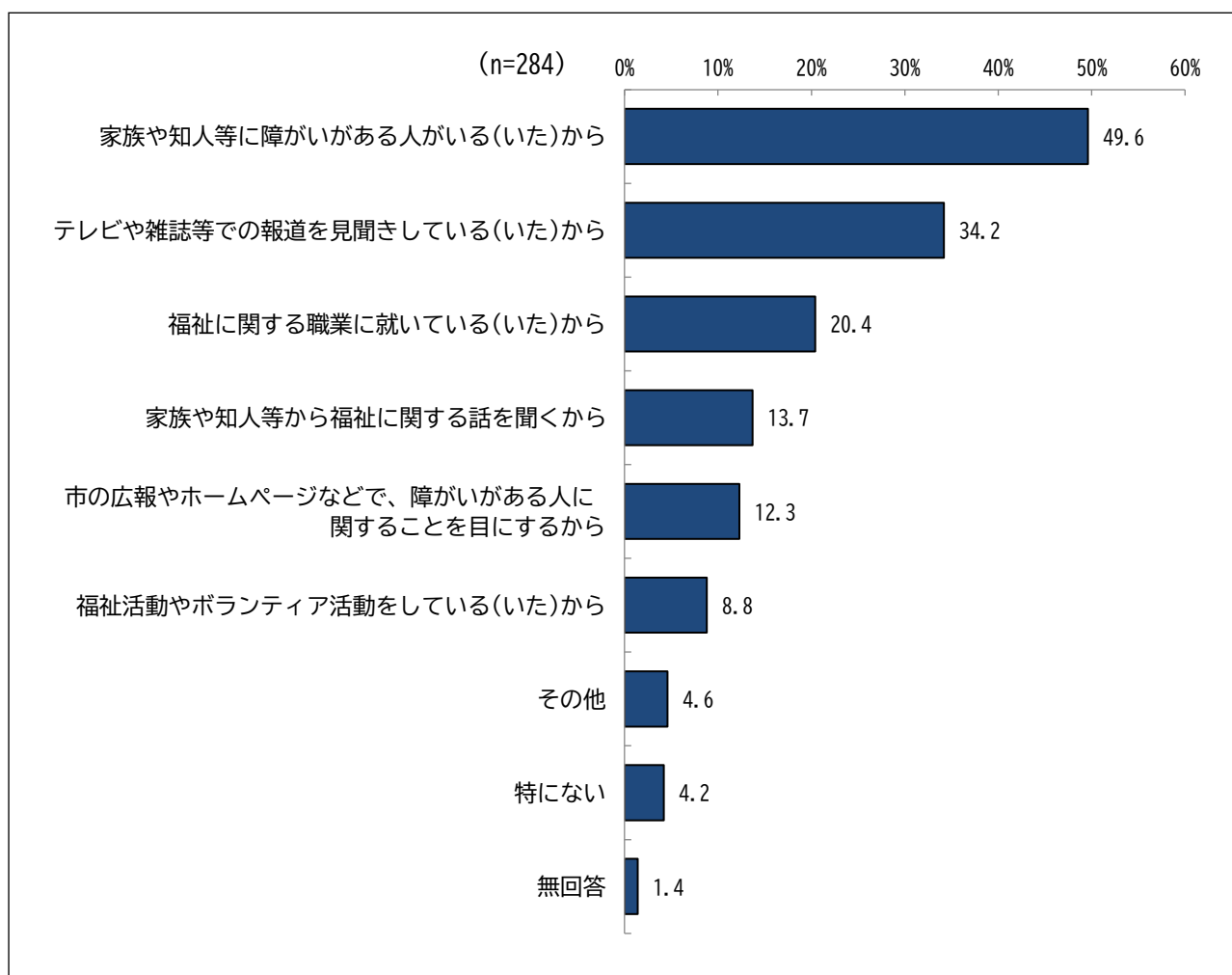
※問7で「とても関心がある」「ある程度関心がある」と回答した方

問8 障がいがある人への福祉に対して関心をお持ちなのは、どのような理由からですか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

障がい福祉に関心がある理由についてみると、「家族や知人等に障がいがある人がいる(いた)から」が49.6%と最も多く、次いで「テレビや雑誌等での報道を見聞きしている(いた)から」(34.2%)、「福祉に関する職業に就いている(いた)から」(20.4%)、「家族や知人等から福祉に関する話を聞くから」(13.7%)、「市の広報やホームページなどで、障がいがある人に関することを目にするから」(12.3%)などとなっています。

図表 138 障がい福祉に関心がある理由(全体/複数回答)



3 障がいがある人の雇用について

(1) 障がい者の就労について

問9 あなたは、障がいがある人の職についている状態は十分足りていると思いますか。
(1つに○)

【全体の傾向】

障がいのある人の就労状態は十分だと思うかについてみると、「わからない」が49.0%と最も高く、次いで「思わない」が46.9%、「思う」が3.9%となっています。

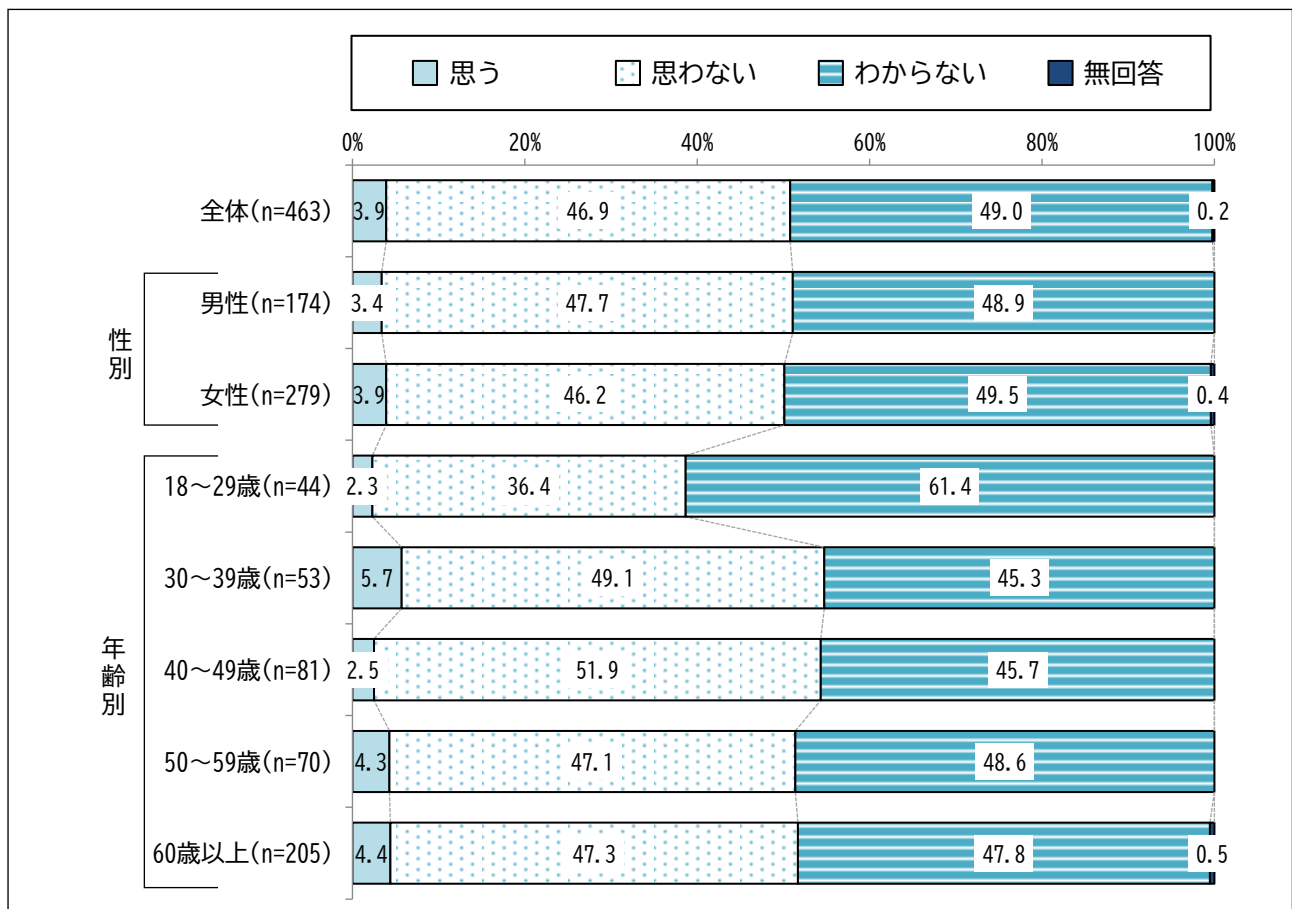
障がいのある人の就労状況は十分だと思う人は1割未満にとどまっています。

【属性別の傾向】

性別にみると、男女ともに「わからない」が最も高くなっており、概ね同様の結果となっています。

年齢別にみると、18～29歳、50歳以上の年齢層では、「わからない」が最も高くなっていますが、30～49歳の年齢層では「思わない」が最も高くなっていきます。

図表 139 障がいのある人の就労状況は十分だと思うか（全体、性別、年齢別）



※問9で「思わない」と回答した方

問10 あなたは、障がいがある人の就労機会は現状より増えるべきだと思いますか。(1つに○)

【全体の傾向】

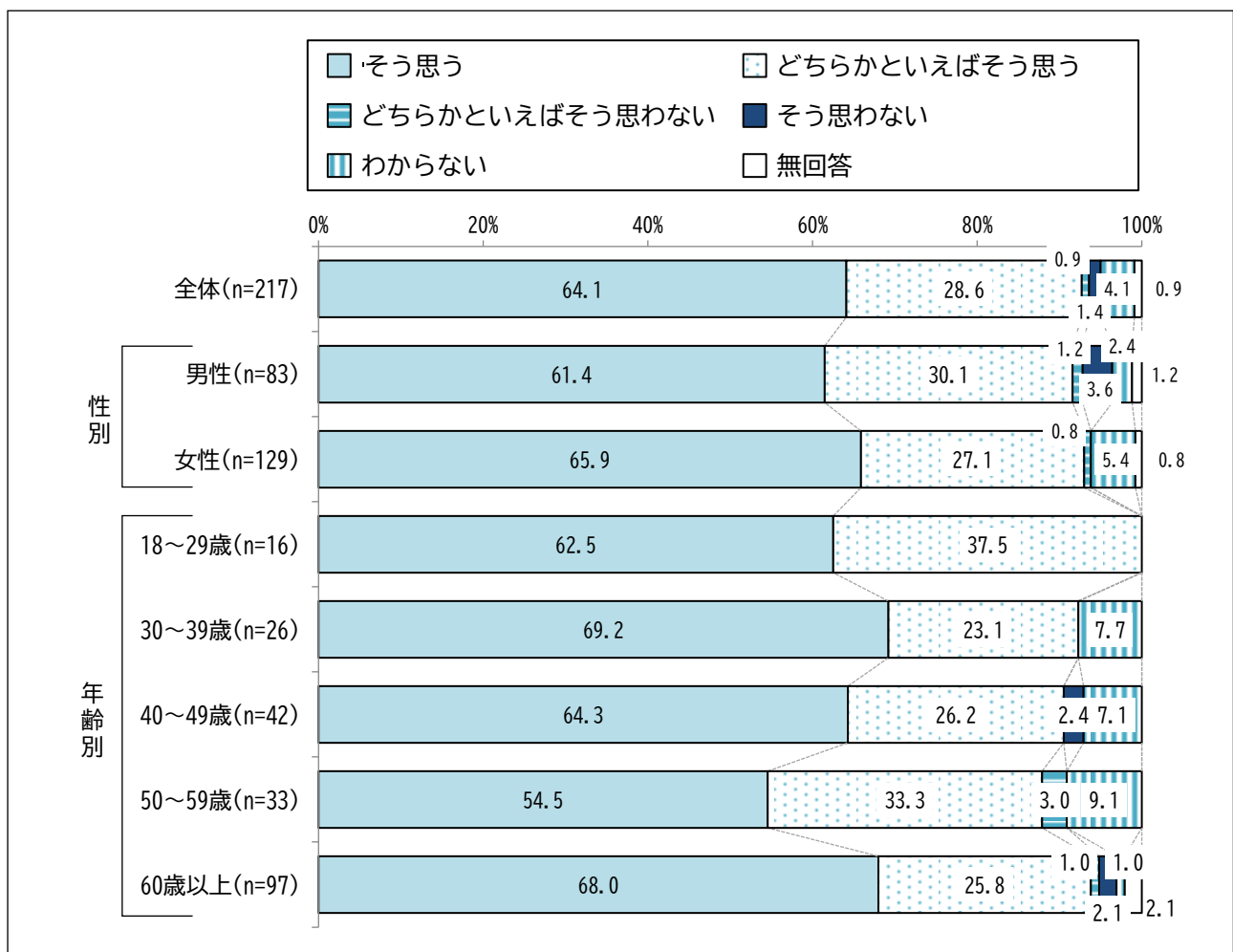
障がいのある人への就労機会は、現状より増えるべきだと思うかについてみると、「そう思う」が64.1%と最も高くなっており、「どちらかといえばそう思う」(28.6%)と合計した『そう思う』の割合は、92.7%と大半を占めています。

【属性別の傾向】

性別にみると、『そう思う』の割合は、男女ともに9割を超えています。女性(93.0%)が男性(91.5%)を上回っています。

年齢別にみると、『そう思う』の割合は、50～59歳では87.8%と9割を下回っていますが、それ以外の年齢層では9割を超えています。

図表 140 障がいのある人の就労機会を増やすべきだと思うか(全体、性別、年齢別)

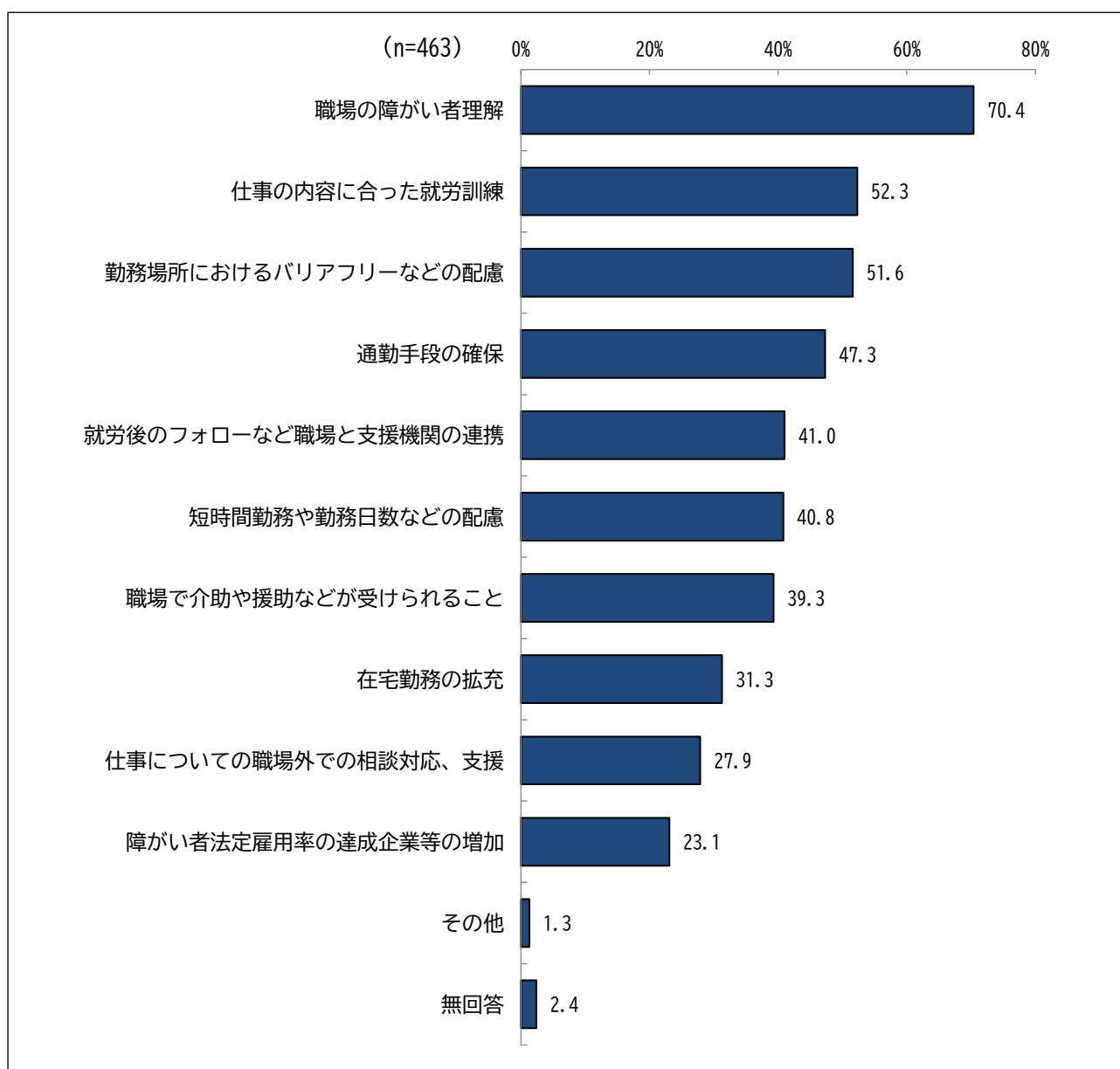


問 11 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

障がい者に必要だと思う就労支援についてみると、「職場の障がい者理解」が70.4%と最も多く、次いで「仕事の内容に合った就労訓練」(52.3%)、「勤務場所におけるバリアフリーなどの配慮」(51.6%)、「通勤手段の確保」(47.3%)、「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」(41.0%)などとなっています。

図表 141 障がい者に必要だと思う就労支援（全体／複数回答）



4 障がいがある子どもについて

(1) 障がい児の就学機会について

問 12 あなたは、障がいがある子どもの就学の機会は十分だと思いますか。(1つに○)

【全体の傾向】

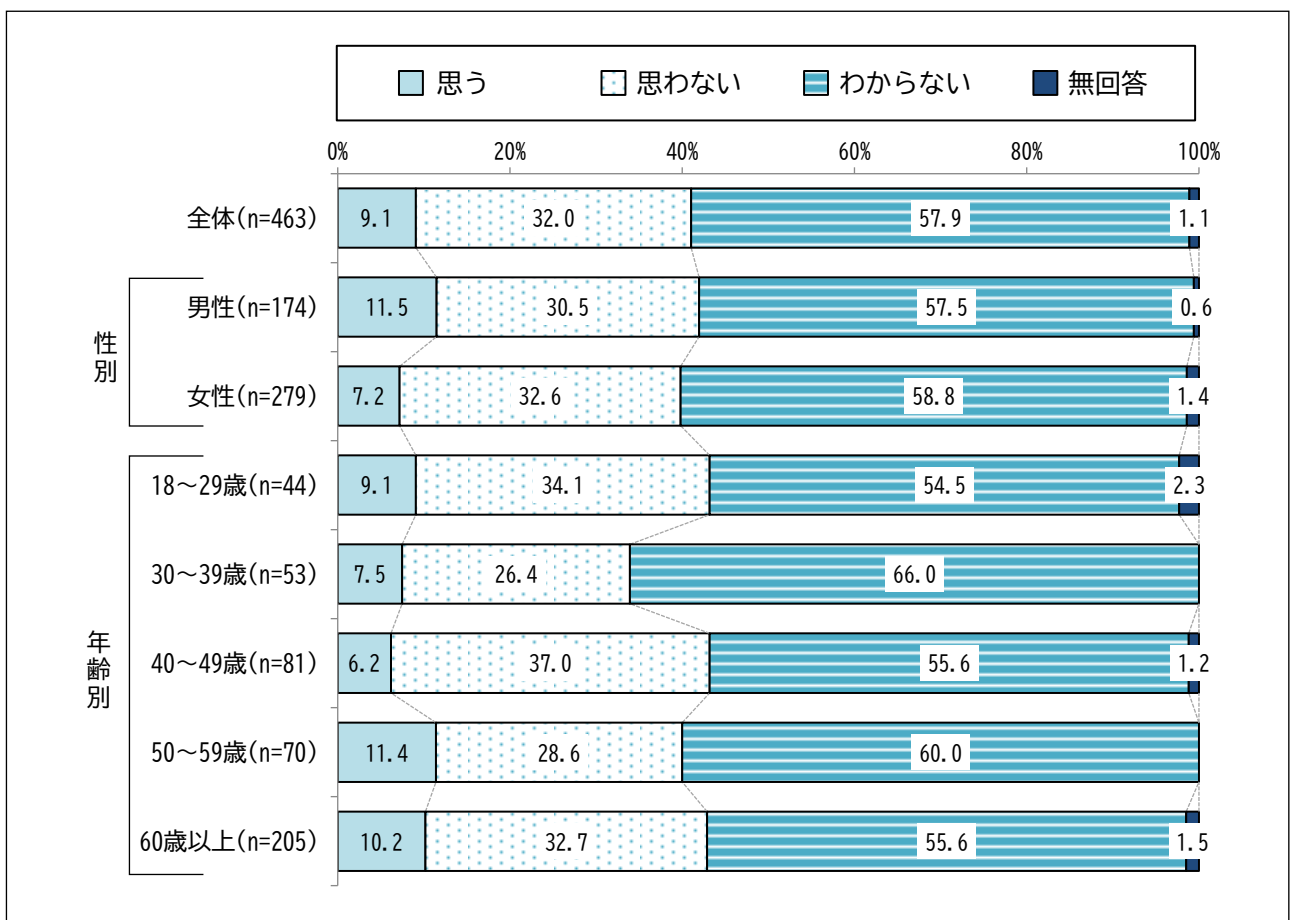
障がいがある子どもの就学機会は十分だと思うかについてみると、「わからない」が57.9%と最も高く、次いで「思わない」が32.0%、「思う」が9.1%となっています。

【属性別の傾向】

性別にみると、男女ともに「わからない」が最も高くなっています。また「思う」の割合は男性の方が高く、「思わない」の割合は女性の方が高くなっています。

年齢別にみると、いずれの年齢においても「わからない」が最も高くなっています。また、「思わない」の割合は、18～29歳、40～49歳、60歳以上では3割を超えています。

図表 142 障がいがある子どもの就学機会は十分だと思うか（全体、性別、年齢別）



(2) 障がい児の教育環境について

問 13 あなたは、障がいがある子どもが教育を受ける時、望ましい環境とはどのようなものだと思いますか（1つに○）

【全体の傾向】

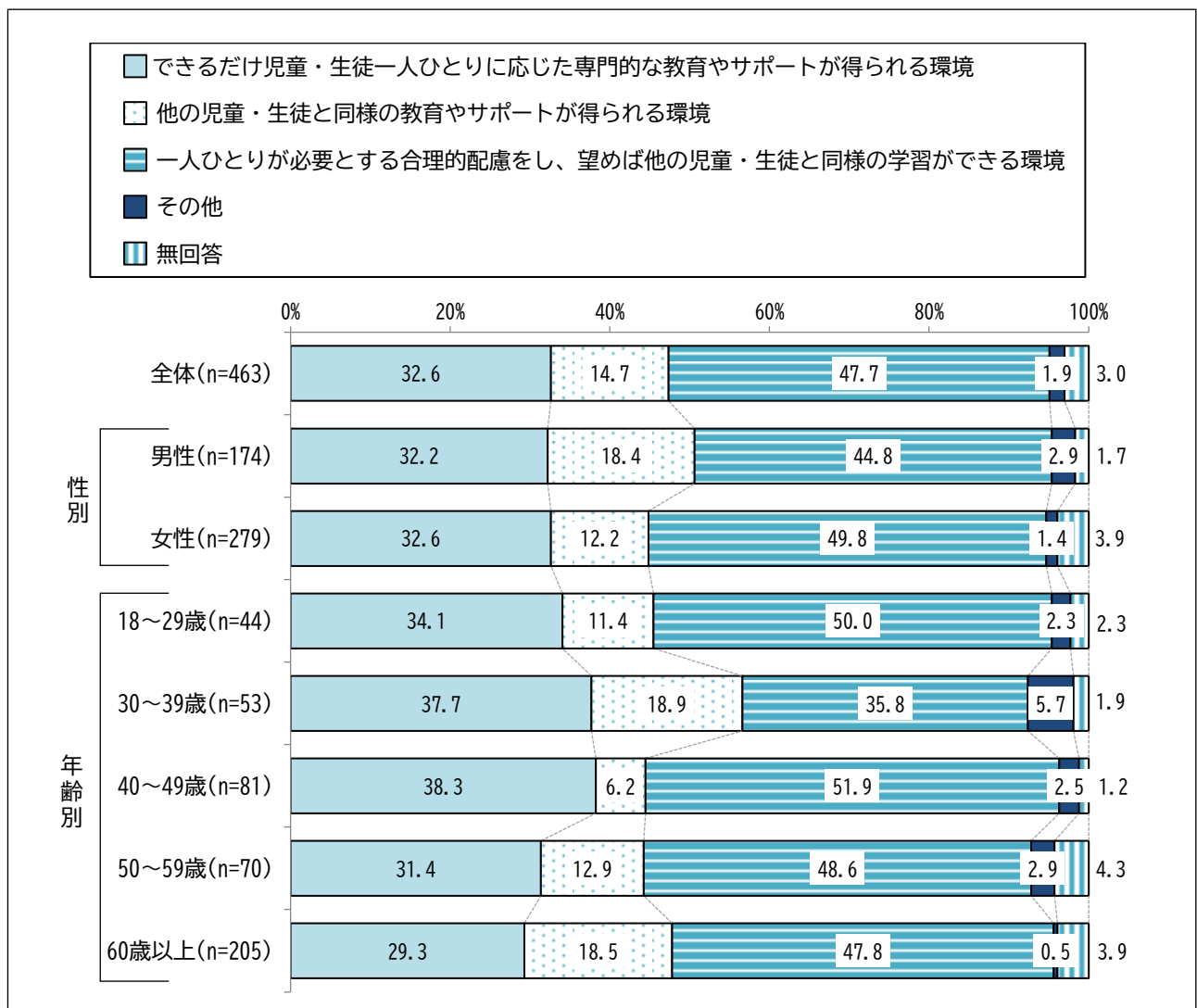
障がいのある子どもの望ましい教育環境についてみると、「一人ひとりが必要とする合理的配慮をし、望めば他の児童・生徒と同様の学習ができる環境」が47.7%と最も高く、次いで「できるだけ児童・生徒一人ひとりに応じた専門的な教育やサポートが得られる環境」（32.6%）、「他の児童・生徒と同様の教育やサポートが得られる環境」（14.7%）などとなっています。

【属性別の傾向】

性別にみると、男女ともに「一人ひとりが必要とする合理的配慮をし、望めば他の児童・生徒と同様の学習ができる環境」が最も高くなっています。

年齢別にみると、30～39歳では「できるだけ児童・生徒一人ひとりに応じた専門的な教育やサポートが得られる環境」が最も高くなっています。

図表 143 障がいのある子どもの望ましい教育環境について（全体、性別、年齢別）



5 障がいがある人に対する差別について

(1) 坂出市における差別や偏見の有無

問 14 あなたは、坂出市において障がいがある人に対し、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。(1つに○)

【全体の傾向】

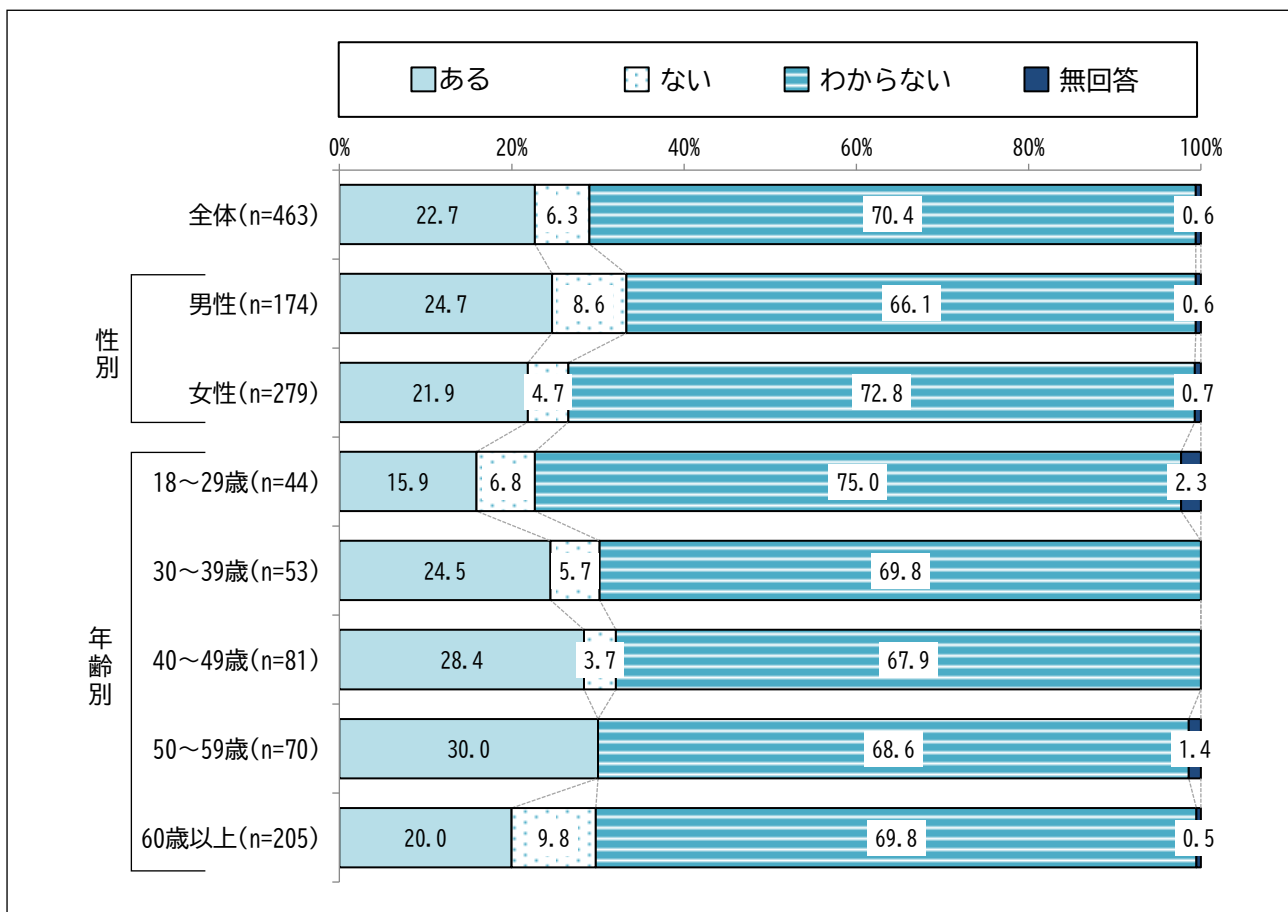
坂出市における障がいのある人に対する差別や偏見の有無についてみると、「わからない」が70.4%と最も高く、次いで「ある」が22.7%、「ない」が6.3%となっています。

【属性別の傾向】

性別にみると、男女ともに「わからない」が最も高くなっています。また、「ある」の割合は、男性(24.7%)が女性(21.9%)を上回っています。

年齢別にみると、「ある」の割合は、50～59歳で30.0%と最も高く、次いで40～49歳で28.4%、30～39歳で24.5%となっています。

図表 144 坂出市における障がいのある人に対する差別や偏見の有無（全体、性別、年齢別）



※問 14 で「ある」と回答した方

問 15 どのような場面で、障がいがある人に対する差別や偏見があると思いますか。

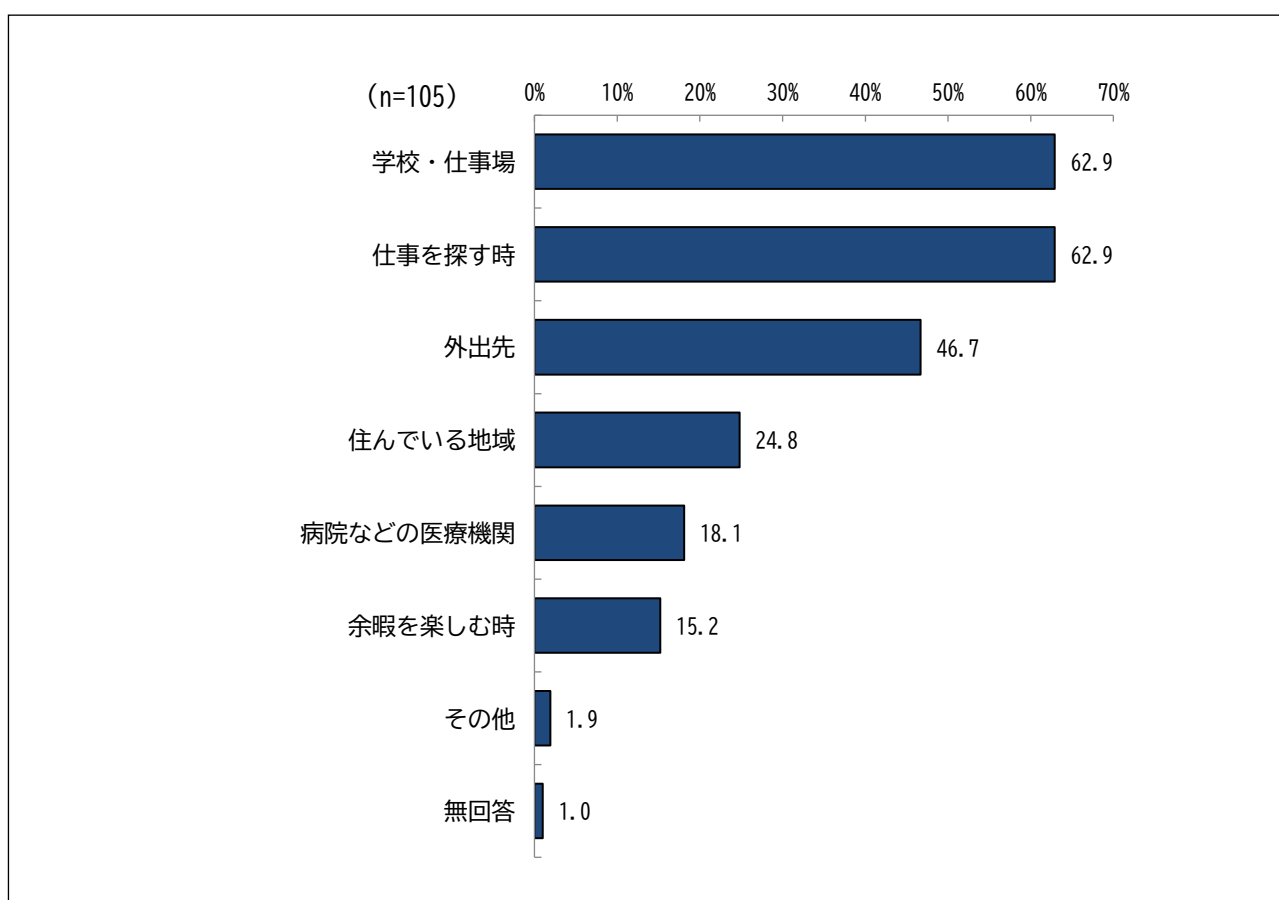
(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

差別や偏見を感じると思う場面についてみると、「学校・仕事場」「仕事を探す時」がともに 62.9%と最も多くなっています。

次いで、「外出先」(46.7%)、「住んでいる地域」(24.8%)、「病院などの医療機関」(18.1%)、「余暇を楽しむ時」(15.2%) などとなっています。

図表 145 差別や偏見を感じる場面について (全体/複数回答)



(2) 「障害者差別解消法」について

問 16 あなたは「障害者差別解消法」について知っていますか。(1つに○)

【全体の傾向】

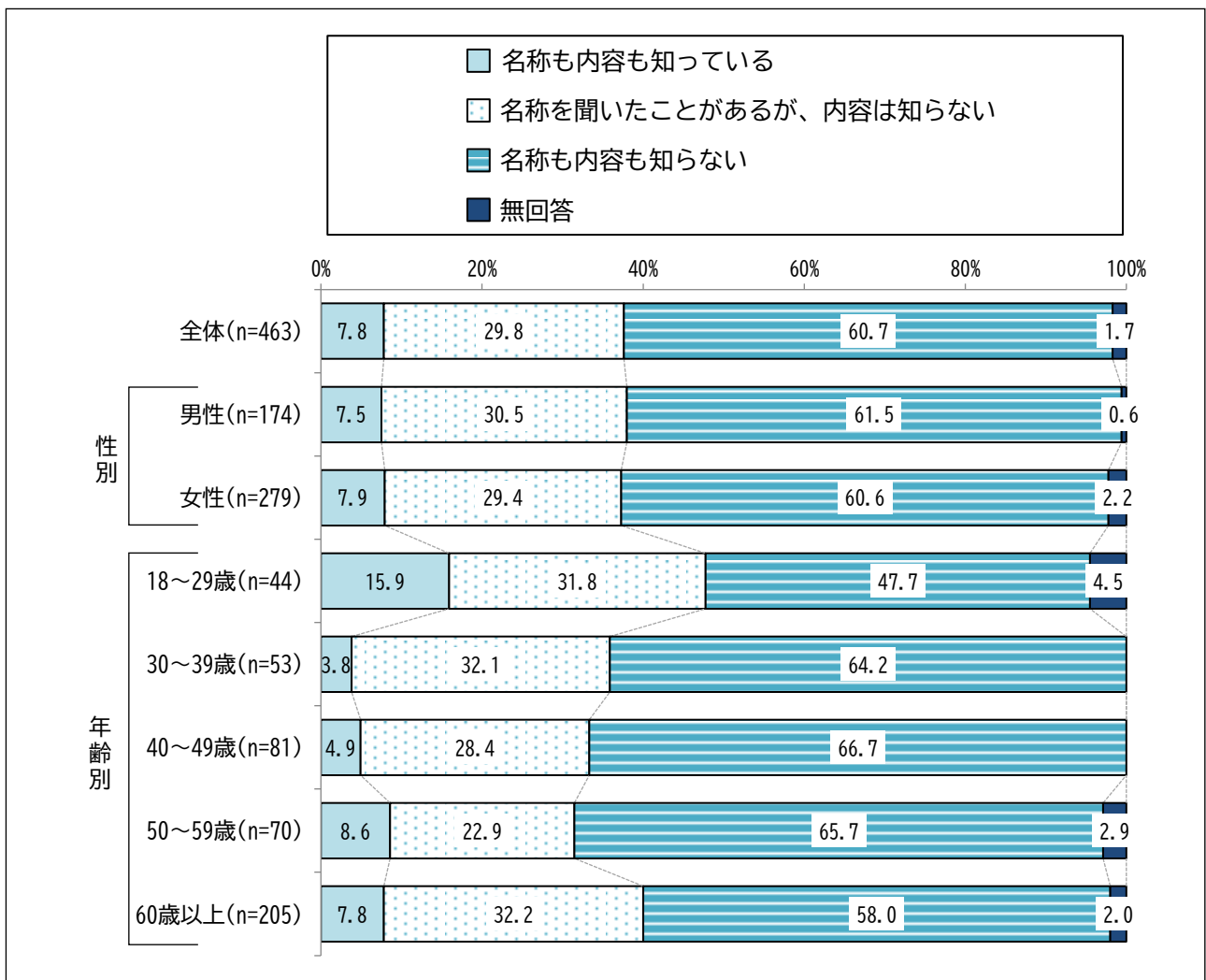
「障害者差別解消法」の認知度についてみると、「名称の内容も知らない」が60.7%と最も高く、次いで「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」(29.8%)、「名称も内容も知っている」(7.8%)となっています。

【属性別の傾向】

性別にみると、男女ともに「名称も内容も知らない」が最も高く、「名称も内容も知っている」の割合は男女で大差はみられません。

年齢別にみると、「名称も内容も知っている」の割合は、18～29歳で15.9%と最も高くなっており、次いで50～59歳(8.6%)、60歳以上(7.8%)となっています。

図表 146 「障害者差別解消法」の認知状況(全体、性別、年齢別)



問 17 あなたは障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」について知っていますか。(1つに○)

【全体の傾向】

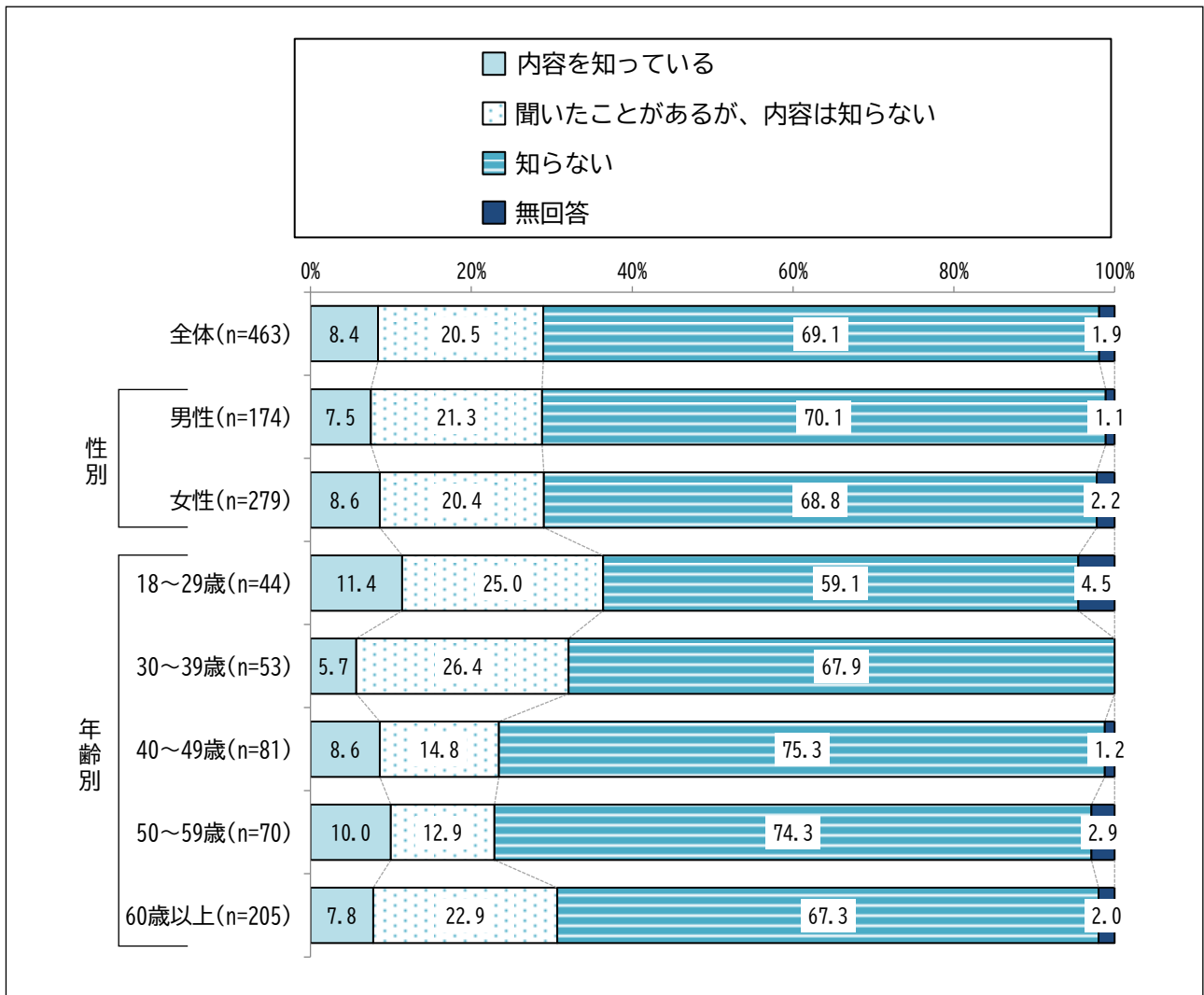
「合理的配慮」の認知度についてみると、「知らない」が69.1%と最も高く、次いで「聞いたことがあるが内容は知らない」(20.5%)、「内容を知っている」(8.4%)となっています。

【属性別の傾向】

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっていますが、「内容を知っている」の割合は、女性(8.6%)が男性(7.5%)を上回っています。

年齢別にみると、「内容を知っている」の割合は、18~29歳で11.4%と最も高く、次いで50~59歳で10.0%、40~49歳で8.6%となっています。

図表 147 「合理的配慮」の認知状況(全体、性別、年齢別)



6 まちづくりについて

(1) 地域共生社会について

問 18 あなたは、世の中が地域共生社会に向けて前進していると感じますか。(1つに○)

【全体の傾向】

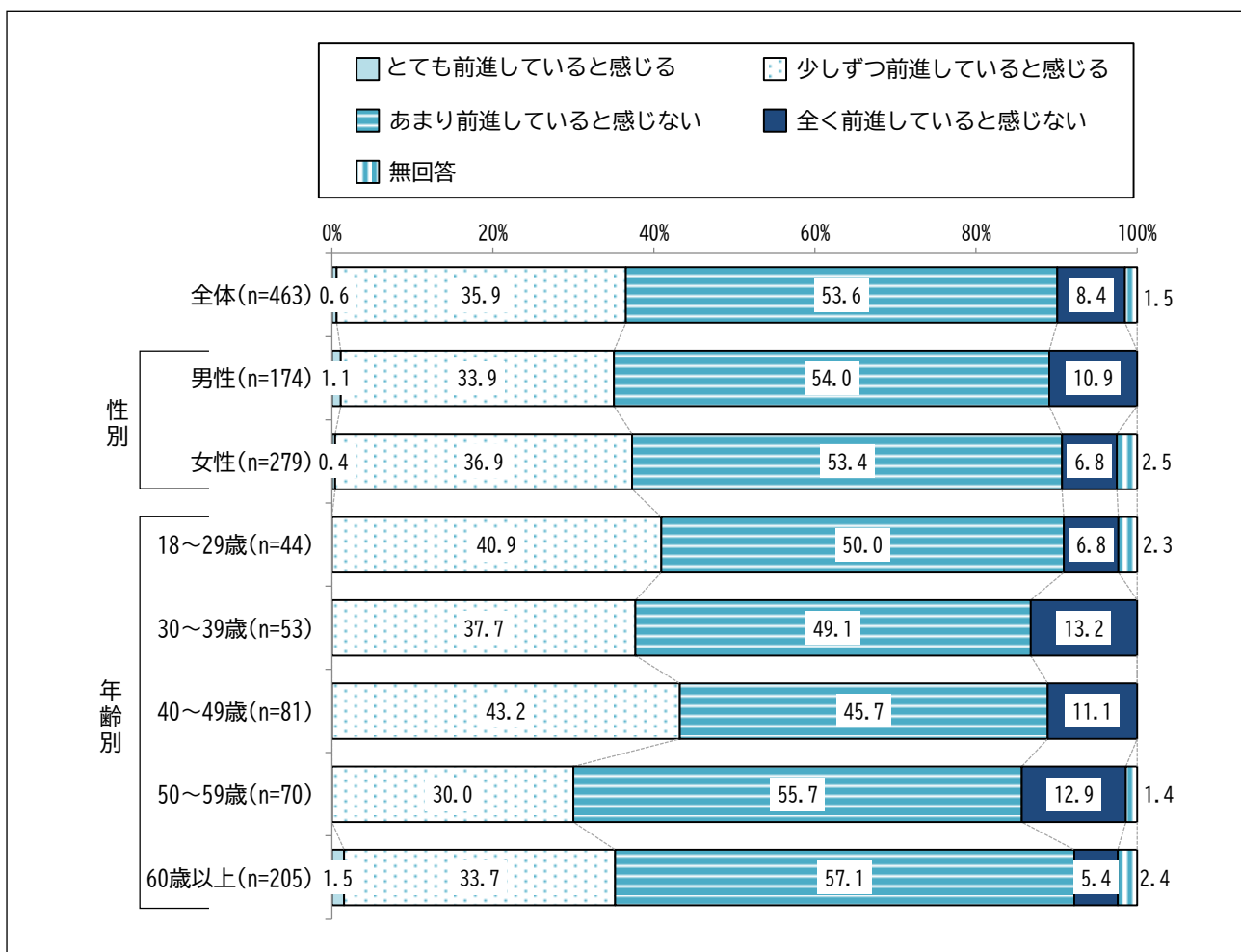
地域共生社会に向けて前進していると感じるかについてみると、「あまり前進していると感じない」が53.6%と最も高くなっています。また、「とても前進していると感じる」(0.6%)と「少しずつ前進していると感じる」(35.9%)を合計した『前進していると感じる』の割合は、36.5%にとどまっています。

【属性別の傾向】

性別にみると、『前進していると感じる』の割合は、女性(37.3%)が男性(35.0%)を上回っています。

年齢別にみると、『前進していると感じる』の割合は、40～49歳で43.2%と最も高く、次いで18～29歳(40.9%)、30～39歳(37.7%)となっています。

図表 148 地域共生社会について(全体、性別、年齢別)



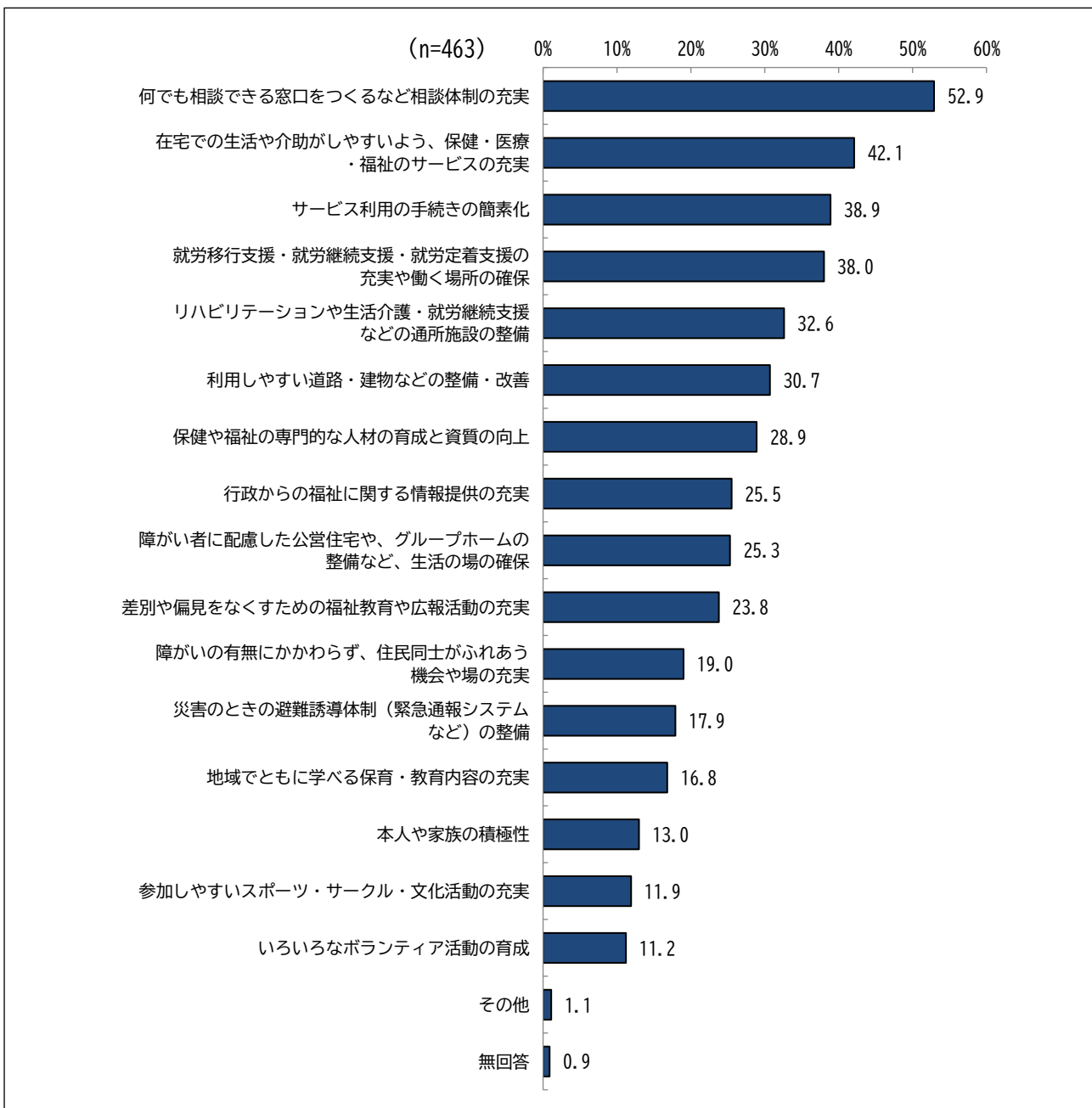
(2) 障がい者にとって住みよいまちづくりについて

問 19 障がいのある人にとって住みよいまちをつくるために、どのようなことが必要だと考えますか。(〇は5つまで)

【全体の傾向】

障がいのある人にとっての住みよいまちづくりに必要だと思うことについてみると、「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」が52.9%と最も多く、次いで「在宅での生活や介助がしやすいよう、保健・医療・福祉のサービスの充実」(42.1%)、「サービス利用の手続きの簡素化」(38.9%)、「就労移行支援・就労継続支援・就労定着支援の充実や働く場所の確保」(38.0%)、「リハビリテーションや生活介護・就労継続支援などの通所施設の整備」(32.6%) などとなっています。

図表 149 障がい者が住みよいまちづくりに必要だと思うこと (全体/複数回答)



7 自由記述

自由記述については、合計 67 件の意見が寄せられました。「住みよいまちづくりについて」が 29 件、「福祉の充実について」が 21 件、「アンケートについて」が 10 件、「環境・施設整備について」が 7 件となっています。代表的な意見を抜粋して掲載しています。

・住みよいまちづくりについて 29 件

No.	性別	年齢	意見
1	女性	40～49歳	自分自身の周りに障がいのある方がいなかったこともあり、どこか他人事のように思っている私があります。多様性を幼いころから知り、共に学んだり受け入れられる感性が必要かと思えます。皆で支え合える一人にしない（障がい者の方もそのご家族も）そんな社会にしたいです。
2	女性	50～59歳	このようなアンケートの機会をいただいたことで普段、何とも思っていなかったこととか気にかけてなかったことなどを、少しでも意識して生活してみようと思いました。具体的に何を？！と思いますが、誰もが住みよい世の中になればいいなと思います。
3	男性	60歳以上	大変、難しい問題ですので、一歩々前進してほしいです。
4	女性	30～39歳	障がいのある方も自分らしく生活できるよう整備支援をよろしくお願いします。その家族サポートも大切だと思います。
5	男性	60歳以上	気が付けば手を差し伸べる。
6	男性	60歳以上	障がい者も一般の人も同じ人間。自己の最大の特徴を生かして、同じように生活できる社会が必要。特別の人ではない。みんなで、1つです。助けられたり助けたり。
7	女性	40～49歳	身体的な障がいがある人だけでなく、発達障がいなど、見ためだけでは分からない人への理解や支援もした方がいいと思います。障がいがある人が特別なのではなく、みんなそれぞれ得意不得意があると思うので、他の人と違うと差別するのではなく、お互いを助け合っていける世の中になってほしいです。
8	女性	60歳以上	障がいを持つ人も、持たない人もつながりをもって生きていける坂出市になると、良いですね。
9	女性	30～39歳	差別や偏見のない社会になるのが理想だと思いますが、まずは誰もが住みやすく、気持ちよく生活できる坂出になってほしい。障がいの特性ゆえ“皆と一緒”が難しい方もおられますが、生活の場、教育の場、就労の場で誰もが自分で選択する自由を持ち、周囲が支援できるようになるといいなと思う。
10	女性	40～49歳	障がいのある方に限らず、LGBTQの方、外国人の方、生活保護を受けている方、などなど、差別はあまり減っているようには思えません。国が本来はもっと明確に差別を許さない、と打ち出してほしいと思いますが、坂出市独自にでも、差別を許さないこと、人権を守るための施策で、安心して平和に暮らせる街になればなと思います。
11	男性	50～59歳	個々の理解が必要かと思うが、まずは街づくりとしてどのようなビジョンを持ってやるかがない限り、個々の理解は進まないと思う。
12	女性	18～29歳	発達の遅れや多動など気になる子どもは、就学に向けてどう関わるかが大事になってくると思う。
13	女性	30～39歳	いつも住み良い街づくりをしてくださりありがとうございます。障がいや人種など、色々な人の価値観や違いがあって当たり前という事が認知され、皆が共生していける地域となつてほしいと願っています。障がいに関しては、小さい頃から合理的配慮や障がいへの知識を持つ事が大切なように思います。
14	女性	60歳以上	同じ人間として、偏見をなくすことが必要

・福祉の充実について 21件

No.	性別	年齢	意見
1	女性	50～59歳	障がい者の枠から外れるかもしれませんが、高齢者が歩行困難で車いす生活になったり、難聴になったりと生活が困難な状況になります。障がい者と同様に支えている市政をお願いします。
2	女性	30～39歳	より良い福祉環境になっていけたらいいと思います。
3	男性	50～59歳	障がい者に対して支援することはよいと思うが、それをどこから捻出するのか。
4	女性	60歳以上	スマホで色々調べてみました。身近に要介護者ができたので福祉のありがたさを感じています。外出しても多目的トイレや車椅子の貸し出し、みんな優しい人が多いです。障がいのある人も要介護の人も明るく楽しく暮らすべきです。
5	女性	18～29歳	障がい児のサービス（子どものサービス）は充実されてきているが、18歳以上（大人のサービス）については、あまり進んでいない。両親が共働きをする家庭が増え、福祉サービス特に生活介護を利用する場合。サービスを利用している人にとっての狭間の時間（8時～9時、16時～17時）のサービスの拡大が望ましい。そうできれば、健常者の家庭と同じ生活ができる。
6	女性	30～39歳	福祉職として働いています。福祉に関わる際、初期対応は特に大切と感じています。相談を受ける職員の技術や態度・対応により、その後の過程が、大きく変わってきます。福祉に関わる方への研修など、人材育成をぜひ、力を入れて取り組んでほしいと思います。
7	女性	50～59歳	障がい者の定義が不明。見た目で見分けないこともある。障がいがない人でも就業が大変。差別は反対だが、障がい者以外の人にも相談できる場所が必要。生きづらい人は障がい者だけではない。苦しい。
8	女性	40～49歳	障がい者が一人でも将来生活できる為のもっといい環境づくりの援助。
9	女性	40～49歳	働きたいのに働けない。就労支援機関と会社と本人（障がい者）との連携が大切。障がい者もやりがいのある仕事内容である事が理想なのだが、簡単な軽作業だったり、単調な作業だったり、モチベーションが上がらない内容の仕事が多いように感じます。
10	女性	60歳以上	両親が高齢になってきたため、介護が年々大変になって来ています。配慮あるグループホーム、施設の設定を願います。ヘルパーがすぐに辞める事で、なかなか運営していけない等、介護はものすごい重労働ですので、給料をもっと上げないと、これからの人達は就職はしてくれないと思います。よろしくお願い致します。
11	男性	60歳以上	企業における障がい者雇用の充実、拡張を更に進めていく必要があると思います。

・アンケートについて 10件

No.	性別	年齢	意見
1	男性	30～39歳	障がいと言っても色々あると思うので、質問の一つ一つがどのような障がい者に対する質問なのか分からず、答えにくかった。
2	女性	50～59歳	このようなアンケートは良いと思いますが、この返信用封筒が大きすぎるのでこのような経費を障がい者の方の支援にあててくれたらと思います。
3	女性	60歳以上	問19はすべて必要だと思います。5つまで○と書いてあるので5つ選びましたが、それぞれに関連があると思います。
4	女性	50～59歳	この質問は、なんだか、車いすや、杖をつく人を前提に作られている感じがします。視覚障がいや言語障がい、発達障がいの方に合った町づくりをしてほしいです。
5	男性	40～49歳	こういうアンケートでは無く、もっと市民の声を直接聞いてほしい。

・環境・施設整備について 7件

No.	性別	年齢	意見
1	女性	30～39歳	坂出府中には、公園がありません。なぜですか？公園あれば、子どもや年寄り、障がいのある人が関わる機会あると思います。子どもも、公園に行った時に、車いすの方や年よりを見かけたり、あいさつをする事で身近に感じるんじゃないでしょうか？府中町に公園がほしいです。
2	女性	40～49歳	バリアフリーだけでなく、車いす乗り降りで移動するスペースが狭いことが多い。車いすで利用できる場が少ない。障がい者用の駐車場に健常者の車が普通に停まっていることが多い。なので坂出市内であまり車いすの人を見ない。（市外に出る）
3	男性	60歳以上	障がい者を食べ物にする悪質な業者、まだいるかどうかはわからないが以前は多かったと思うが、それに対する行政の監視や、指導の徹底。